病院年報

令和４年度

福井赤十字病院
Japanese Red Cross Fukui Hospital
日本赤十字社

福井赤十字病院理念

『人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。』

基 本 方 針

1　患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。

2　安全と質を向上させ、優しい医療を行います。

3　人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。

4　急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。

5　保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

令和４年度 年報巻頭言

福井赤十字病院
院長　小松　和人

令和４年度（2022 年度）を振り返って

福井赤十字病院の年報第 33 巻（令和４年度版）の刊行に際し、編集関係者、執筆者のご尽力にまずはお礼を申し上げる。

令和４年度（2022 年度）は令和元年（2019 年）末に勃発し、収束の気配の乏しい新型コロナ感染症の世界的流行への対応に追われて始まった。院内のクラスター発生、職員の感染が相次ぎ病院の業務に大きな影響が出た。しかし本稿執筆の直前、令和５年（2023 年）５月８日には同疾患の感染症法の上の位置付けが２類相当から季節性インフルエンザなどと同じ５類に移行し、時代は大きく変わった。

とは言え、季節性インフルエンザとの比較で言うならば季節性に乏しく、感染力が強く、統計上死亡率が高いなど同列に扱っていいものかどうかの判断にはまだ時間がかかるものと思われる。過度に恐れずかつ安易に侮らない着実な感染対策の実施を継続していきたい。一方、診療の維持は当然のこととして、様々な院内行事の復活にも力を注いで行きたい。

令和４年度は髙木治樹院長（現名誉院長）の就任５年目、最終年度であった。コロナ禍の中、様々な経営指標は厳しいものもあったにせよ、最終的には経常収支での黒字化が達成される見込みである。就任期間の５年間に発揮された着実な経営手腕は職員に常に安定感と安心感を与えて来たものと思う。

病院の診療は従来通り急性期の高度な医療に中心が置かれた。例えば脳卒中に対する 24 時間体制の血栓回収術、消化管、肝臓・膵臓、泌尿生殖器に対する先進的なロボット支援手術は福井県内の医療の先頭に立っているもの言える。一方、この１年間、医師、看護師の確保には年度を通じて大変な苦労を強いられ、職員には大変な負荷をかけたことを重く受け止め、改善を図っていきたい。

約１年間をかけて様々な準備を行なって来た、病院機能評価（一般病院２、3rdG: Ver. 2.0）の最終的な面接受審が令和５年２月 16、17 の両日行われた。４月の中間的な報告は従来に増して高評価であった。安堵するとともに、病院経営課を中心とする担当チームを代表して、全職員に対して心からお礼を申し上げる。５年後の受審はまた違ったヴァージョン（Ver.3）からの評価が行われる予定であるが、当院は機能評価に代表される外部評価を活用しつつ着実な医療の質の改善活動を継続していく。

医療を巡り三位一体の改革が謳われている。すなわち令和７年（2025 年）を目途とした地域医療構想の実現、令和６年（2024 年）に始まる医師・医療従事者の働き方改革、そして医師偏在対策である。コロナ禍にて自治体を中心とした改革の議論の進捗は緩徐であったものの、当院は地域医療構想に対しては令和４年度も検討チームの活動を続けた。働き方改革には着実な対応を行なって来たので比較的スムーズに改革の波に乗れるものと思う。医師偏在対策については令和４年度に留まらず今後も継続的かつ積極的に努力を積み重ねたい。

病院機能評価の山場である面接を目前に控えた令和５年２月５日、14 年間にわたって当院を率いてきた野口正人名誉院長が当院において逝去された。偉大な足跡を残された野口先生のご冥福をお祈りしつつ稿を終える。

令和４年度勤務スローガン「安全・安心な医療」　　（令和５年５月記）

目　　次

１．沿　革 …… 1

２．病院の概要
　１．病院の現況 …… 5
　２．施設の概要 …… 8
　３．委員会 …… 10
　４．臨床研修実施状況 …… 11
　５．学会の指定状況 …… 12
　６．職員の院外役職調 …… 14
　７．年間行事 …… 24

３．患者数・経営状況 …… 35

４．委員会活動 …… 43

５．トピックス …… 45

６．診療業務
　１．内科部 …… 55
　２．精神科部（ストレス心療科） …… 57
　３．神経内科部 …… 59
　４．呼吸器内科部 …… 60
　５．消化器内科部 …… 63
　６．循環器内科部 …… 66
　７．血液内科部 …… 68
　８．小児科部 …… 72
　９．外科部 …… 75
　10．整形外科部 …… 78
　11．形成外科部 …… 81
　12．脳神経外科部 …… 82
　13．呼吸器外科部 …… 84
　14．皮膚科部 …… 86
　15．腎センター（腎臓・泌尿器科） …… 87
　16．産婦人科部 …… 95
　17．眼科部 …… 98
　18．耳鼻咽喉科部 …… 101
　19．放射線科部 …… 104
　20．麻酔科部 …… 109
　21．リハビリテーション科部 …… 111
　22．歯科部 …… 114
　23．総合診療科部 …… 116

24. 救急部 …… 118
25. 健診部 …… 122
26. 病理診断科部 …… 126
27. 脳神経センター …… 127
28. がん診療センター …… 128
29. 腎センター（透析センター） …… 131
30. 呼吸器センター …… 137
31. 消化器センター …… 138
32. 地域周産期母子医療センター …… 139
33. 集中治療室 …… 140
34. 中央手術室 …… 143
35. 中央滅菌室 …… 146
36. 薬剤部 …… 147
37. 栄養課 …… 150
38. 臨床工学技術課 …… 152
39. 検査部 …… 155
40. 放射線科部（技師） …… 157
41. 医療安全推進室 …… 160
42. 教育研修推進室 …… 165
43. 感染管理室 …… 168
44. 災害救護支援室 …… 173
45. 危機管理センター …… 178

７．医療社会事業部
１．医療社会事業課 …… 181
２．居宅介護支援事業所 …… 182
３．訪問看護ステーション …… 184
４．地域医療連携課 …… 186

８．看護部 …… 193

９．事務部
１．総務課 …… 213
２．人事課 …… 215
３．病院経営課 …… 217
４．管財課 …… 219
５．医事サービス課 …… 220
６．医療情報課 …… 221
７．医療支援課 …… 225
８．医療安全推進課 …… 227

10. 業績 …… 229

福井赤十字病院　沿革

明治初頭、福井市には藩政時代より引き継がれた福井医学校があり、これの附属病院が一般診療を行っていたが、明治１９年の医学校廃止後、県立福井病院として県の管理下に置かれていた同病院を、戦時傷病兵や貧困患者の救護、救護員養成等日赤としての事業を推進するため、県内各界からの要望に後押しされる形で日本赤十字社に移管することが大正７年に決定されました。日赤本社及び福井県の補助並びに県民有志の寄付をもって現在地に土地を取得し大正１２年１２月に着工、同１４年３月に完成し、４月１日に日本赤十字社福井支部病院として開院、以降地域の基幹病院として医療、福祉、保健、看護師の養成等の担ってきた流れを継承し現在に至っています。

大正１４年	４月	日本赤十字社福井支部病院として診療開始。内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、１３８床、薬剤科、事務科、救護員養成部、職員数６９人、併せて救護看護婦養成開始
大正１５年	８月	小児科設置
昭和　４年	４月	１５９床
	９月	日本赤十字社福井支部病院救護員養成部を指定
昭和　６年	４月	伝染病棟竣工
昭和　７年	４月	１６９床
昭和　９年	６月	北陸初のサナトリウム棟竣工　１８８床
昭和１０年	４月	１９２床
昭和１３年	６月	放射線科設置
昭和１６年	４月	１９４床
昭和１８年	６月	福井赤十字病院と改称
昭和２０年	７月	戦災により病棟の一部を焼失
昭和２３年	６月	福井大震災により全建物倒壊
昭和２４年	４月	福井赤十字看護学院設置（翌年１２月福井赤十字高等看護学院に改称）
昭和２５年	３月	建物復旧　２２１床
昭和２７年	８月	産婦人科、外科診療棟、本館復旧工事完了
	１１月	整形外科設置
昭和２８年	９月	結核病棟竣工　３００床（一般２００床、結核７６床、伝染２４床）
昭和３２年	９月	歯科設置、総合病院として承認
	１０月	福井県赤十字大会来賓　秩父宮勢津子妃殿下ご来院
昭和３３年	１２月	３４３床
昭和３４年	６月	３５０床
昭和３５年	５月	皮膚科、泌尿器科設置、未熟児センター開設　４００床
昭和３６年	５月	麻酔科設置
昭和３７年	８月	敷地内の県立産院を合併、福井赤十字病院産婦人科となる
	９月	４２０床
昭和３８年	４月	人間ドック実施病院に指定
	７月	５１０床（一般４１０床、結核７６床、伝染２４床）

昭和３９年	６月	救急告示病院に認定
	８月	呼吸器科設置
昭和４１年	７月	看護婦寄宿舎竣工
昭和４２年	４月	小中学校特殊学級開設
昭和４４年	６月	本館改築工事竣工
昭和４５年	１２月	市伝染病棟（２０床）改築工事竣工（一般 410 床、結核 80 床、伝染 20 床）
昭和４８年	４月	臨床研修指定病院に指定
	７月	看護専門学校棟改築工事竣工
昭和５０年	４月	脳神経外科設置
昭和５１年	４月	福井赤十字高等看護学院を福井赤十字看護専門学校に改称
昭和５２年	７月	日本赤十字社創立 100 周年記念福井県大会　三笠宮百合子妃殿下ご来院
昭和５３年	４月	第二次救急医療待機病院に指定
昭和５４年	４月	県立福井東養護学校月見分校開校
昭和５５年	１０月	結核病棟竣工
	１２月	診療棟竣工
昭和５６年	１１月	集中治療室（ＩＣＵ）６床開設　５１６床
	１２月	５病棟竣工　５７６床（一般５１６床、結核４０床、伝染２０床）
昭和５９年	９月	６０６床　（一般５４６床、結核４０床、伝染２０床）
昭和６３年	３月	３病棟、放射線棟竣工
	７月	消化器科設置
平成　２年	８月	福井県赤十字大会来賓　三笠宮信子妃殿下ご来院
	１０月	第２６回日本赤十字社医学会総会開催
	１２月	本館改修工事竣工
平成　４年	８月	呼吸器外科設置
平成　５年	７月	６１６床　（一般５５６床、結核４０床、伝染２０床）
平成　６年	７月	病理部設置
	１１月	病院駐車場整備工事竣工
平成　７年	３月	救急部設置
平成　８月	１２月	リハビリテーション科部設置
平成　９年	３月	栄養管理棟竣工
	５月	神経内科部設置
平成１０年	１月	災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定
	１０月	６４６床
平成１１年	４月	６３４床（一般５８６床、感染症８床、結核４０床）
		心臓血管外科設置
		訪問看護ステーション、在宅介護支援センター開設
		第二種感染症指定医療機関に指定
	６月	開放型病床設置（２０床）
	８月	歯科口腔外科設置
平成１３年	４月	エネルギー棟竣工
		６３０床（一般５８６床、感染症４床、結核４０床）

		循環器科部設置、地域医療連携室設置
平成１４年	８月	輸血センター設置
	１０月	精神科設置
平成１５年	４月	６２０床（一般５７６床、感染４床、結核４０床）
	４月	医療安全管理室設置
	５月	６２１床（一般５７７床、感染４床、結核４０床）
		（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（一般病院種別B）
	６月	回復期リハビリテーション病棟開設
	８月	地域がん診療拠点病院に指定
平成１６年	３月	形成外科部設置、新本館竣工
		６３０床（一般５８６床、感染４床、結核４０床）
	４月	精神科部設置
	５月	地域周産期母子医療センターに指定
	９月	３病棟改修工事竣工
平成１７年	２月	管理棟、研修棟改修工事竣工
		６２０床（一般５８６床、感染症４床、結核３０床）
	６月	健康・医療情報室スマイル設置
平成１８年	６月	脳卒中センター設置
	８月	６１６床（一般５８６床、感染症４床、結核２６床）
平成１９年	１月	地域がん診療連携拠点病院に指定
	６月	地域医療支援病院に認定
平成１９年	９月	４５床休床
平成２０年	１月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会　人間ドック健診施設機能評価認定
	５月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver.5.0）
平成２１年	４月	腎臓・泌尿器科部設置、泌尿器科部廃止、がん診療センター設置
		診断群分類包括評価（DPC）導入
	１１月	回復期リハビリテーション病棟廃止　在宅復帰支援病棟さいき設置
平成２３年	４月	６００床（一般５８６床、感染症４床、結核１０床）
		呼吸器センター、消化器センター設置
平成２４年	２月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会　人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver2.0）
平成２５年	６月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver.6.0）
平成２６年	８月	病理診断科標榜（病理部を病理診断科部と改正）
平成２７年	２月	先進中央棟竣工
	３月	先進中央棟稼働（3月30日）
	４月	緩和ケア病棟開設
		脳卒中センターを脳神経センター、腎臓・泌尿器透析センターを腎センターに改称
		休床を２１床追加　休床合計６６床（許可病床数変更なし）
		休床に伴い在宅復帰支援病棟さいき廃止
		輸血センターを検査部に統合（輸血課）

	６月	創立９０周年記念・先進中央棟落成記念式典開催
		３病棟２階健診センター改修工事竣工
	１１月	創立９０周年記念特別シンポジウム、結ぶきずな健康ラリー開催
		本館１・２階改修工事竣工
平成２８年	３月	原子力災害拠点病院に指定
平成２９年	３月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会　人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver3.0）
平成２９年	５月	総合診療科設置
平成３０年	５月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（3rdG:Ver.1.1）
平成３０年	７月	日本赤十字社福井県支部創立１３０周年記念大会　高円宮久子妃殿下ご来院
令和　元年	９月	（社）日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC）として認定
令和　元年	１１月	小児がん連携病院に指定
令和　２年	１１月	地域においてコアとなるPSC施設（PSCコア施設）としての活動を受嘱
令和　２年	１２月	脳卒中ケアユニット（SCU）を９床から１２床に増床
令和　３年	１月	５３４床（一般５２０床、感染４床、結核１０床）
令和　３年	４月	がんゲノム医療連携病院に指定
令和　３年	７月	血液内科部設置

1. 病 院 の 現 況

1　幹部職員（令和５年３月 31 日現在）

院　長	髙木　治樹
副院長	小松　和人
副院長	今村　信
副院長	髙野　誠一郎
看護部長	真鍋　照美
事務部長	吉田　啓介

2　診療科等

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、腎臓・泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科

〔計 25 科〕

3　許可病床数（令和５年３ 月 31 日現在）

一般病床	520 床
感染症病床	4 床
結核病床	10 床
計	534 床

4　組織図（別記参照）

5　職員数（令和５年３ 月 31 日現在）

				職種別	人数（人）
医師	151	言語聴覚士	5	電気工事士	1
歯科医師	4	歯科衛生士	4	電話交換手	2
薬剤師	32	歯科技工士	1	調理師	15
臨床検査技師	37	管理栄養士	13	看護助手	30
臨床工学技士	12	看護師	562	警備員	3
診療放射線技師	32	事務職員	117	業務員	3
公認心理士	1	社会福祉士	11	合　計	1,083
視能訓練士	8	介護支援専門員	2		
理学療法士	19	保育士	1		
作業療法士	13	ボイラー技師	4		

6　外来及び入院患者数（人）

	外来患者数		入院患者数	
	延　　数	1日当り	延　　数	1日当り
令和4年度	308,221	1,263	144,516	396

（令和5年3月31 日現在）

福井赤十字病院組織図
【令和4年4月1日現在】

【センター部門】	【室部門】
脳神経センター	集中治療室
呼吸器センター	中央手術室・滅菌室
消化器センター	中央内視鏡室
地域周産期母子医療センター	中央超音波室
腎センター	がん相談支援室
がん診療センター	外来化学療法室
危機管理センター	教育研修推進室
地域医療支援センター	病歴室
入退院支援センター	医療安全推進室
	感染管理室
	災害救護支援室

- 院　長
  - 副院長
    - 内科部（第１～第３）
    - 精神科部
    - 脳神経センター
      - 神経内科部
      - 脳神経外科部（第１～第２）
    - 呼吸器センター
      - 呼吸器内科部（第１～第３）
      - 呼吸器外科部
    - 消化器センター
      - 消化器内科部（第１～第３）
      - 外科部（第１～第６）
    - 循環器内科部（第１～第３）
    - 血液内科部
    - 地域周産期母子医療センター
      - 小児科部
      - 産婦人科部(第１～第３）
    - 整形外科部（第１～第３）
    - 形成外科部
    - 皮膚科部
    - 腎センター
      - 腎臓・泌尿器科部（第１～第４）
    - 眼科部（第１～第２）
    - 耳鼻咽喉科部
    - 放射線科部（第１～第２）
    - 麻酔科部（第１～第４）
    - リハビリテーション科部（第１～第２）
    - 歯科部
    - 救急部（第１～第２）
    - 総合診療科部（第１～第２）
    - 健診部（第１～第２）
    - 病理診断科部
    - がん診療センター
      - がん相談支援室
      - 外来化学療法室
    - 薬剤部
      - 調剤課
        - 調剤係
        - 薬品管理係
      - 製剤課
        - 製剤係
      - 医薬品情報課
        - 医薬品情報係
        - 病棟業務係
    - 医療技術部
      - 栄養課
        - 管理係
        - 栄養係
        - 第１調理係
        - 第２調理係
      - 臨床工学技術課
        - 第１臨床工学係
        - 第２臨床工学係
      - 検体検査課
        - 精度管理係
        - 情報管理係
        - 検査技術係
      - 生体検査課
        - 生体検査係
      - 輸血課
        - 輸血係
    - 検査部
    - 看護部
      - 外来
        - 外来係
      - 病棟
        - 病棟係
      - 手術室・滅菌室
        - 手術室・滅菌室係
      - 腎センター
        - 腎センター係
    - 医療社会事業部
      - 医療社会事業課
        - 医療社会事業係
      - 地域医療連携課（地域医療支援センター）（入退院支援センター）
        - 地域医療連携係
        - 相談支援係
        - 入院前支援係
        - 退院支援係
        - 訪問看護係
        - 居宅介護係
    - 事務部
      - 総務課
        - 総務係
      - 人事課
        - 人事・給与係
        - 労務係
        - 教育研修係
      - 病院経営課
        - 経理係
        - 出納係
        - 企画・広報係
      - 管財課
        - 用度係
        - 施設・管理係
        - 保安係
        - ボイラー係
        - 電気係
      - 医事サービス課
        - 第１医事係
        - 第２医事係
        - 入院係
        - 外来係
      - 医療情報課
        - 情報処理係
        - 画像処理係
        - 病歴係
        - 図書係
      - 医療支援課
        - 医療秘書係
        - 患者支援係
      - 医療安全推進課
        - 医療安全・感染管理係
  - 教育研修推進室
  - 病歴室
  - 危機管理センター
    - 医療安全推進室
    - 感染管理室
    - 災害救護支援室（災害救護支援センター）

- 心理支援係
- 視能訓練係
- 放射線理学診療課
  - 第１放射線理学診療係
  - 第２放射線理学診療係
- 画像情報課
  - 第１画像情報係
  - 第２画像情報係
- X線技術課
  - 第１X線技術係
  - 第２X線技術係
- 第１理学療法課
  - 第１理学療法係
- 第２理学療法課
  - 第２理学療法係
- 作業療法課
  - 第１作業療法係
  - 第２作業療法係
- 言語聴覚療法課
  - 言語聴覚療法係
- 健診業務課
  - 健診業務係
- 病理検査課
  - 病理検査係

併設施設：福井赤十字訪問看護ステーション
付帯施設：福井赤十字病院居宅介護支援事業所

2．施設の概要

敷地及び建物

1．所在地	福井市月見２丁目４番１号		
2．敷地	50,194.99㎡		
3．建物	57,028.78㎡		
（内訳）	本館	ＳＲＣ造８階建	29,527.23㎡
	３病棟	ＲＣ造５階建	6,066.15㎡
	管理棟	ＲＣ造５階建	5,269.85㎡
	先進中央棟	Ｓ造４階建	5,252.27㎡
	研修棟	ＲＣ造２階建	543.40㎡
	栄養管理棟	〃　３階建	3,591.54㎡
	エネルギー棟	〃　３階建	1,562.43㎡
	職員棟	〃　３階建	1,579.10㎡
	ＭＲＩ室（1）	〃　平屋建	105.81㎡
	ＭＲＩ室（2）	〃　平屋建	123.13㎡
	その他	ＲＣ造４階建他	3,407.87㎡
	合計		57,028.78㎡

※ＳＲＣ造（鉄骨鉄筋コンクリート造）
ＲＣ造（鉄筋コンクリート造）
Ｓ造（鉄骨造）

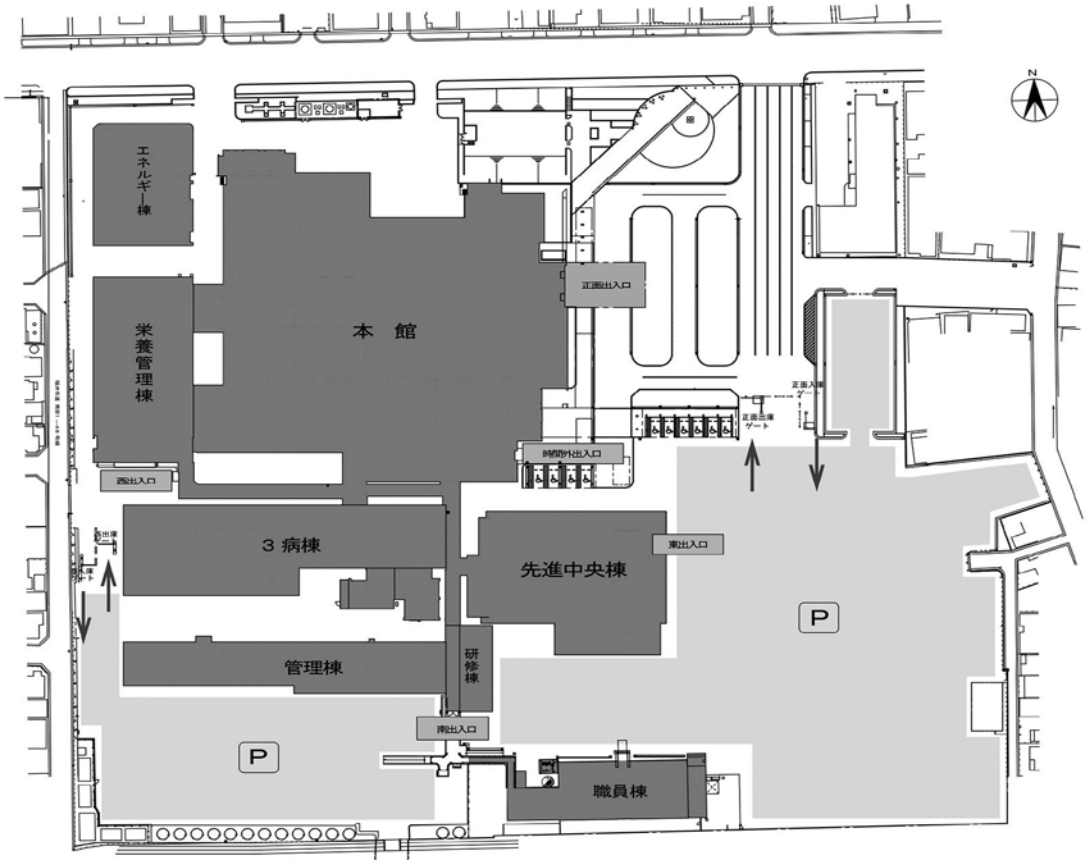
（令和５年３月31日現在）

付　近　見　取　図

交通案内

- JR 福井駅前より京福バス・福井鉄道バス
  赤十字病院バス停下車
- JR 福井駅前より福武線
  赤十字前駅下車　徒歩5分
- JR 福井駅からタクシー 10 分
- JR 越前花堂駅から徒歩 20 分
- 北陸自動車道福井 IC から 15 分

構　内　平　面　図



3．委　　員　　会

災害対策・防火・防災委員会
衛生委員会
情報システム管理委員会
倫理委員会
治験審査委員会
臨床試験審査委員会
臓器移植委員会
個人情報保護対策委員会
医療安全管理委員会
（医療安全推進室部会）
事故調査委員会
院内感染防止対策委員会
医療廃棄物処理対策委員会
医療ガス安全管理委員会
放射線安全委員会
ＴＱＭ推進委員会
　１．クリニカルパス推進部会
　２．ＱＣ活動推進部会
　３．患者満足度向上部会
　４．職員満足度向上部会
　５．ＮＳＴ部会
　６．ＲＳＴ部会
　７．糖尿病サポート部会
　８．認知症ケアチーム部会
　９．ＣＳＴ部会
栄養委員会
診療録管理委員会
（病歴業務検討会）
インフォームドコンセント推進委員会
診療情報提供委員会
保険診療検討委員会
(DPC/PDPS 傷病コーディング部会)
救急医療検討委員会
　１．救急作業部会
　２．虐待防止対策部会
褥瘡対策検討委員会
病床運営委員会
がん診療センター運営委員会
　１．がん化学療法部会
　２．緩和医療検討部会
　３．遺伝診療検討部会
血液浄化療法委員会
（透析センター（透析機器安全管理）運営委員会）
脳卒中センター運営委員会
輸血療法委員会
地域医療推進委員会
地域医療支援センター運営委員会
ボランティア委員会
薬事委員会
医療機械器具購入委員会
（医療機械器具購入小委員会）
診療材料購入審査委員会
図書委員会
病院施設利用検討委員会
中央放射線部運営委員会
リハビリテーション科部運営委員会
健診センター運営委員会
集中治療室運営委員会
中央手術室・滅菌室運営委員会
検査部運営委員会
臨床検査適正化委員会
病理診断科部業務運営委員会
臨床工学技術運営委員会
健康・医療情報室運営委員会
院内保育施設運営委員会
福井赤十字病院群研修管理委員会
（福井赤十字病院臨床研修推進部会）
歯科臨床研修管理委員会
教育・研修推進委員会
提案・顕彰審査委員会
広報委員会
就業管理委員会
（特定行為業務管理部会）

（令和５年３ 月 31 日現在）

4．臨床研修実施状況

1　研修医数（過去５年間）

平成30年度	19 名
令和元年度	21 名
令和 2年度	22 名
令和 3年度	17 名
令和 4年度	19 名

2　福井赤十字病院群研修管理委員会（令和４年度）

委　員　長	髙木　治樹	院長（整形外科部）
委　　員	髙野　誠一郎	副院長（神経内科部長）
（プログラム責任者）		
委　　員	小松　和人	副院長（腎臓・泌尿器科部長）
〃	今村　信	副院長（血液内科部長）
〃	真鍋　照美	看護部長
〃	道上　学	総合診療科部長
〃	吉田　博之	循環器科内科部長
〃	福岡　直	麻酔科部長
〃	嶋田　喜充	救急部長
〃	渡邉　康宏	小児科部長
〃	青竹　利治	外科部長
〃	田嶋　公久	産婦人科部長
〃	辻川　明孝	京都大学医学部附属病院医師 臨床教育研修部長
〃	吉田　幸彦	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院副院長
〃	安　炳文	京都第一赤十字病院第二救急科部長
〃	山田　淳二	松原病院管理者
〃	堤　泰史	福井循環器病院名誉院長兼医療総合マネージャー
〃	根本　朋幸	越前町国民健康保険織田病院長
〃	秋野　裕信	若狭高浜病院長
〃	中川　博幾	福仁会病院理事長兼院長
〃	杉坂　夏子	福井厚生病院ストレスケアセンター長
〃	小坂　浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科長・教授
〃	萩野　正樹	今庄診療所所長
〃	森　満穂	池田町診療所所長
〃	大西　良之	丹南健康福祉センター所長
〃	武藤　眞	福井県赤十字血液センター所長
〃	伊部　晃裕	福井県医師会理事
〃	吉田　啓介	事務部長
〃	小川　純也	薬剤部長
〃	川島　勇一	人事課長

（令和５年３月 31 日現在）

5．学会の指定状況

【内科領域】日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定
日本糖尿病学会教育関連施設
日本血液学会血液研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本認知症学会専門医制度教育施設
日本臨床神経生理学会認定教育施設
日本呼吸器学会認定施設
呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門研修連携施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
関連四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設Ｂ
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設（画像認定施設）
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設・インプラント実施施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本形成外科学会専門研修連携施設
日本脳神経外科学会専門研修連携施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC コア施設）認定施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）指定認定施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設

日本耳鼻咽喉科学会専門研修連携施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本核医学会専門医教育病院
日本麻酔科学会専門研修連携施設
日本病理学会専門研修連携施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設
認定輸血検査技師協議会認定輸血検査技師制度指定施設
日本人間ドック学会人間ドック健診専門医制度研修施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設
日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム稼働施設
日本口腔外科学会認定准研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
【総合診療領域】日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定
日本作業療法士協会臨床実習指導施設
日本女性医学学会認定研修施設
日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
日本頭痛協会認定施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設（連携施設）

（令和 5 年 3 月 31 日現在）

6．職員の院外役職調

地方自治体・大学法人・公的機関・各種団体

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
朝日大学	非常勤講師		歯科部長	山田　和人
			歯科医師	大嶋　莉加
金沢医科大学	非常勤講師		麻酔科部長	田邉　毅
金沢大学関連病院長会	理事		院長	髙木　治樹
京都大学	臨床教授		院長	髙木　治樹
			副院長	髙野誠一郎
			脳神経外科部長	西村　真樹
	非常勤講師		内科部長	夏井　耕之
			脳神経外科部長	西村　真樹
	芝蘭会理事		名誉院長	野口　正人
	京大関係病院長協議会評議員		院長	髙木　治樹
	京整会（京都大学整形外科教室同門会）幹事		整形外科部長	高塚　和孝
順天堂大学	非常勤助教		外科医師	平崎　憲範
全国健康保険協会福井支部	柔道整復師施術療養費審査委員会委員		整形外科部長	高塚　和孝
日本医療機能評価機構	産科医療補償制度診断協力医		小児科部長	渡邉　康宏
日本作業療法士協会	生涯教育部養成教育委員会臨床実習審査会		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科技師長	仲辻　良仁
	生涯教育部生涯教育制度推進担当		作業療法士	樋田　貴紀
日本赤十字社	災害医療コーディネーター		麻酔科部長	白塚　秀之
	原子力災害医療アドバイザー		救急部長	嶋田　喜充
	原子力災害医療アドバイザー		Ｘ線技術課長	西郡　克寛
福井県	医療審議会	委員	院長	髙木　治樹
		委員	麻酔科部長	白塚　秀之
	医療審議会専門部会	福井県周産期医療協議会委員	産婦人科部長	田嶋　公久
		小児医療体制検討部会委員	小児科部長	渡邉　康宏
		心筋梗塞等の心疾患　医療体制検討部会委員	循環器内科部長	吉田　博之
		脳卒中医療体制検討部会委員	脳神経外科部長	西村　真樹
		糖尿病医療体制検討部会委員	内科部長	夏井　耕之
	医療審議会在宅医療体制検討部会委員		看護師長	西向　秀代
	地域医療推進会議委員		院長	髙木　治樹
	難病対策協議会	委員	院長	髙木　治樹
		指定難病等認定審査部会委員	副院長	髙野誠一郎
		指定難病等認定審査部会委員	消化器内科部長	山崎　幸直
	がん委員会	委員	消化器内科部長	山崎　幸直
		検診部会部会長	消化器内科部長	山崎　幸直
		検診部会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		検診部会委員	外科部長	田中　文恵
		がん予防部会委員	消化器内科部長	山崎　幸直
		がん登録部会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		がん登録部会委員	外科部長	田中　文恵
	ドクターヘリ運航調整委員会	座長	麻酔科部長	田邉　毅
	感染症診査協議会（結核部会）委員長		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	感染症予防対策委員会委員		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	エイズ予防対策委員会委員		副院長	今村　信

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県	福井・坂井地区メディカルコントロール協議会委員		麻酔科部長	田邉　毅
	非常勤職員公務災害補償等診査委員会委員		外科部長	田中　文恵
	社会福祉審議会委員		耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
	臓器移植コーディネーター		看護師長	高島　恵
			看護師長	妹尾真理子
			看護係長	福田　清子
			看護係長	菅谷　佳子
			看護係長	長谷川淳子
			看護係長	中山　幸代
福井県アイバンク	理事		眼科部長	小堀　朗
福井県医師会	理事		副院長	髙野誠一郎
	ふくい医療情報連携システム運営協議会委員		院長	髙木　治樹
	システム適正ならびに利用促進検討部会委員		副院長	今村　信
	医療システム委員会委員		副院長	小松　和人
	女性医師支援委員会委員		副院長	小松　和人
	医療事故調査支援委員会委員		医療安全管理者	相模　朋恵
福井県医療ソーシャルワーカー協会	理事		社会福祉士	大越　二葉
福井県看護協会	理事		看護部長	真鍋　照美
	認定看護管理者教育運営委員会委員		看護部長	真鍋　照美
	認定看護管理者教育課程	セカンドレベル非常勤講師	看護部長	真鍋　照美
		ファーストレベル非常勤講師	看護副部長	西川　順子
				西向　秀代
	災害看護委員会委員		看護係長	朝田　和枝
	教育委員会委員		看護師長	西郡　知代
	救急看護委員		看護師	小川　佳代
	広報委員会委員		看護係長	徳橋　珠美
	学会委員会委員		看護係長	土橋　芳美
	助産師職能委員会委員		看護師（助産師）	井上めぐみ
	看護師職能委員		看護師長	広田　法子
	福井県母子保健相談担当者		看護師（助産師）	大久保　瞳
	第一地区委員		看護部長	真鍋　照美
			看護師長	福田　清美
福井県がん検診精度管理委員会	委員		消化器内科部長	山崎　幸直
	委員		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	胃がん専門部会	部会長	消化器内科部長	山崎　幸直
	肺がん専門部会	部会長	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	乳がん専門部会	委員	外科部長	田中　文恵
	大腸がん専門部会	委員	消化器内科部長	道上　学
	子宮頸がん専門部会	委員	産婦人科部長	田嶋　公久
福井県外科医会	副会長		外科部長	田中　文恵
福井県健康管理協会	理事		院長	髙木　治樹
福井県作業療法士会	教育部	理事	第１作業療法係長	山田　英二
		部長	作業療法士	樋田　貴紀
		会計	作業療法士	山本　和雅
		部員		齋門　聡子
	災害対策委員		作業療法士	山本　和雅
	生活行為向上マネジメント委員		作業療法士	黒田　圭太
福井県歯科医師会	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科・口腔外科部長	山田　和人
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科衛生士	高崎　裕美

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県市町村交通災害共済組合	委員		整形外科部長	高塚　和孝
福井県消防学校	講師		麻酔科部長	白塚　秀之
			麻酔科嘱託医師	田邉　毅
福井県腎臓バンク	理事		院長	髙木　治樹
福井県診療放射線技師会	理事		画像情報課長	上坂　大輔
	放射線管理委員		診療放射線技師	柑本　明美
	情報ネットワーク委員会委員		診療放射線技師	二口　亮
	学術研修委員		診療放射線技師	村中　舞
	福利厚生委員		診療放射線技師	野﨑　貫太
	人材育成委員		診療放射線技師	岩崎　凪彩
	地域医療対策委員		診療放射線技師	河邉　大知
福井県病院薬剤師会	副会長		薬剤部長	小川　純也
	理事		製剤課長	青柳　哲治
	業務委員会委員		薬剤師	細谷　拓史
	学術委員会委員		薬剤師	草富　翔太
	広報委員会委員		薬剤師	前田　太一
福井県訪問看護ステーション連絡協議会	教育委員		看護師長	山崎　雪代
福井県理学療法士会	理事		第１理学療法課長	豊田　泰美
	理事		第２理学療法課長	山岸　耕二
	職能局ワークライフバランス部	副部長	第１理学療法係長	梅田　美和
		委員	理学療法士	北村愛沙美
				山本　有里
	社会局広報部	委員	理学療法士	中山　泰博
				戸田　友行
	学術局学会部	委員	理学療法士	向嶋　啓介
	選挙管理委員会	委員長	理学療法士	岡崎　雅樹
	ブロック事業局福井西ブロック	施設代表	理学療法士	佐藤　祐一
	PT の未来を考える委員会	委員長	第２理学療法課長	山岸　耕二
	倫理委員会	委員長	第１理学療法課長	豊田　泰美
福井県立福井東養護学校月見分校	学校医		小児科部長	渡邉　康宏
福井県立福井南養護学校	学校医		小児科部長	渡邉　康宏
福井県臨床検査技師会	代表理事		技師長	加藤　幸久
	理事		輸血・検体課長	杉本　正雄
	常務理事		生体検査課長	猿木　邦之
	臨床検査総合部門長		臨床検査技師	見谷　敦司
	臨床生理部門長		生体検査係長	守部　司
	微生物検査委員		臨床検査技師	平井　英誉
	血液検査委員		臨床検査技師	松宮　翔太
	輸血細胞治療部門長		輸血検査係長	渡辺　純也
	病理細胞委員		臨床検査技師	藤田　幸宏
福井県臨床工学技士会	理事		臨床工学技術課長	重矢　直彦
	理事		第１臨床工学係長	山中　雅弘

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県臨床工学技士会	教育部	血液浄化委員	臨床工学技士	宮本　龍一
		呼吸器委員	臨床工学技士	平嶋　克次
		機器管理委員	臨床工学技士	北島　真樹
	人材活性化委員会福井県Ｙボード担当		臨床工学技士	松村　研斗
	選挙管理委員		第２臨床工学係長	谷口　貴洋
福井県栄養士会	理事		栄養課長	大久保祐子
福井県介護支援専門員協会	理事		居宅介護係長	山崎　奈満
福井工業大学附属福井高等学校	講師		麻酔科部長	福岡　直
	非常勤講師		麻酔科部長	福岡　直
福井市	介護認定審査会委員		副院長	髙野誠一郎
			脳神経外科部長	西村　真樹
			脳神経外科副部長	宮腰　明典
			整形外科部長	高塚　和孝
			整形外科副部長	相模　昭嘉
			第１理学療法課長	豊田　泰美
			第２作業療法係長	浜田　友紀
	感染症診査協議会委員長		呼吸器内科部長	赤井　雅也
	社会福祉協議会	障害者福祉専門分科学審査部会委員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
	障害者自立支援審査会審査員		第１作業療法係長	山田　英二
	在宅医療・介護検討協議会	委員	看護師長	山崎　雪代
		委員	居宅介護係長	山崎　奈満
福井市医師会	諮問会議委員		院長	高木　治樹
	理事		副院長	小松　和人
	看護専門学校	非常勤講師	看護師長	勝木美奈子
			看護係長	朝田　和枝
福井大学	福井大学医学部・関連病院長会議	理事	院長	髙木　治樹
		副会長	副院長	小松　和人
			産婦人科部長	田嶋　公久
			放射線科部長	左合　直
			麻酔科部長	田邉　毅
	臨床教授		副院長	今村　信
			内科部長	夏井　耕之
			副院長	髙野誠一郎
			脳神経外科部長	西村　真樹
			呼吸器内科部長	赤井　雅也
			呼吸器外科部長	松倉　規
			消化器内科部長	山崎　幸直
			外科部長	青竹　利治
			循環器内科部長	吉田　博之
			小児科部長	渡邉　康宏
			産婦人科部長	田嶋　公久
			整形外科部長	高塚　和孝
			副院長	小松　和人
			腎臓･泌尿器科部長	伊藤　正典
			眼科部長	小堀　朗
			耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
			放射線科部長	左合　直
			麻酔科医監	田邉　毅
			麻酔科部長	福岡　直

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井大学	臨床教授	麻酔科部長	白塚　秀之
		救急部長	嶋田　喜充
		看護部長	真鍋　照美
	臨床准教授	腎臓・泌尿器科副部長	髙田　昌幸
		小児科副部長	平野　聡子
	臨床講師	看護師長	増田　佳絵
		看護師長	井口　秀人
		看護師長（助産師）	深尾　郁子
		看護係長（助産師）	皿澤　和美
		看護係長	板岡　利恵
		看護係長	長谷川奈津子
	非常勤講師	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		眼科部長	小堀　朗
		産婦人科部長	田嶋　公久
		病理診断科部長	大越　忠和
		心理判定員	寺井　堅祐
		看護師長	山﨑　雪代
		看護師長	冨永知恵子
		看護係長	朝田　和枝
福井県立大学	非常勤講師	看護師長	冨永知恵子
武生看護専門学校	非常勤講師	看護係長	田中めぐみ
	非常勤講師	看護師	秋山奈津江
福井労働基準局	地方労災医員	副院長	髙野誠一郎
	地方じん肺診査医	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	健康管理医	内科副部長	中野　雅子
	労災診療費審査委員	外科部長	青竹　利治
	労災協力医	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
放送大学	非常勤講師	心理判定員	寺井　堅祐

保険関連

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県国民健康保険診療報酬審査委員会	委員	医監	廣瀬　由紀
		整形外科部長	高塚　和孝
		腎臓・泌尿器科副部長	髙田　昌幸
福井県社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	外科部長	青竹　利治
		脳神経外科部長	西村　真樹
		副院長	今村　信

学会・研究会（全国）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
JOSKAS	評議員	リハビリテーション科部長	淺野　太洋
PEG 在宅医療学会	学術評議員	健診部長	西川　邦寿
胃外科・術後障害研究会	幹事	外科部長	川上　義行
活動分析研究会	福井県代表	第１作業療法係長	山田　英二
消化器健康医療研究機構	上部消化管疾患研究会評価委員	消化器内科部長	山崎　幸直
単孔式内視鏡手術研究会	世話人	外科部長	川上　義行
日本眼科手術学会	理事	眼科部長	小堀　朗
日本肝胆膵外科学会	評議員	外科部長	土居　幸司

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	予防委員会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
日本呼吸器学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
日本呼吸器内視鏡学会	評議員	呼吸器内科部長	出村　芳樹
日本呼吸器外科学会	評議員	呼吸器外科部長	松倉　規
日本耳鼻咽喉科学会	代議員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
日本耳鼻咽喉科　免疫アレルギー感染症学会	評議員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
日本消化器内視鏡学会	評議員	健診部長	西川　邦寿
日本消化器病学会	評議員	消化器内科部長	山崎　幸直
日本女性骨盤底医学会	世話人	副院長	小松　和人
日本神経学会	代議員	副院長兼神経内科部長	髙野誠一郎
日本整形外科勤務医会	幹事	院長	髙木　治樹
日本赤十字社臨床検査技師会	常務理事	検査部課長	杉本　正雄
日本赤十字社診療放射線技師会	医療情報分科会世話人	放射線科技師長	西村　英明
	選挙管理委員会委員	放射線科技師長	西村　英明
日本内視鏡外科学会	評議員	外科部長	青竹　利治
		外科部長	川上　義行
日本乳癌学会	評議員	外科部長	田中　文恵
日本乳癌検診学会	評議員	外科部長	田中　文恵
日本乳房オンコプラステックサージャリー学会	評議員	外科部長	田中　文恵
日本脳神経外科学会	評議員	脳神経外科部長	西村　真樹
		脳神経外科部長	早瀬　睦
日本脳卒中学会	評議員	脳神経外科部長	西村　真樹
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	評議員	腎臓・泌尿器科部長	河野　眞範
日本病院会	福井県支部長	名誉院長	野口　正人
日本ボツリヌス治療学会	代議員	副院長兼神経内科部長	髙野誠一郎
日本臨床外科学会	評議員	医監	廣瀬　由紀
		外科部長	土居　幸司
腹腔鏡内視鏡合同手術研究会	世話人	外科部長	吉羽　秀麿
		消化器内科部長	山崎　幸直
日本小児腎臓病学会	代議員	小児科副部長	玉村　宗一
日本リウマチ学会	評議員	腎臓・泌尿器科副部長	鈴木　康倫
多発性付着部炎研究会	世話人	腎臓・泌尿器科副部長	鈴木　康倫

学会・研究会（地方会）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
Treatment& Discussion の会	世話人	眼科部長	小堀　朗
加越硝子体手術の会	世話人	眼科部長	小堀　朗
活動分析研修会	福井県代表	第１作業療法係長	山田　英二
京整会ＲＡ懇話会	世話人	院長	髙木　治樹
		整形外科医師	森瀬　博子
京都胸部腫瘍研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		呼吸器内科部長	出村　芳樹
中部労災年金支援センター	健康管理指導医	整形外科部長	高塚　和孝

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
日本医学放射線学会中部地方会	世話人	放射線科部長	左合　直
日本呼吸器学会・呼吸器内視鏡学会・結核病学会、サルコイドーシス学会合同北陸地方会	評議員，運営協議会委員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
	評議員	呼吸器内科部長	出村　芳樹
日本消化器内視鏡学会北陸支部	評議員	消化器内科部長	山崎　幸直
		健診部長	西川　邦寿
日本消化器病学会北陸地方会	評議員	健診部長	西川　邦寿
		消化器内科部長	山崎　幸直
日本小児科学会北陸地方会	暫定学術委員会委員	小児科部長	渡邉　康宏
日本耳鼻咽喉科学会中部地方部会連合会	運営委員	耳鼻咽喉科部長	大澤　陽子
日本循環器学会北陸地方会	評議員	循環器内科部長	吉田　博之
		循環器内科部長	坪川　明義
日本神経学会東海北陸地方会	世話人	副院長	髙野誠一郎
日本てんかん学会東海北陸地方会	運営委員	副院長	髙野誠一郎
日本肺癌学会　北陸支部会	評議員	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		呼吸器内科部長	出村　芳樹
		呼吸器外科部長	松倉　規
日本泌尿器学会北陸地方会	評議員	副院長	小松　和人
日本麻酔科学会北陸支部	代議員	麻酔科部長	田邉　毅
日本輸血・細胞治療学会北陸支部	評議員	内科部長	今村　信
日本手術看護学会北陸地区（福井）	副ブロック長	看護師長	川端　和代
日本手術看護学会北陸地区(福井)認定看護師会	役員	看護師長	常見いずみ
北陸HIV 臨床談話会	世話人	内科部長	今村　信
北陸 IVR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬　睦
北陸PEG在宅栄養研究会	世話人	健診部長	西川　邦寿
北陸胃癌談話会	幹事	消化器内科部長	山崎　幸直
		健診部長	西川　邦寿
北陸画像診断勉強会	幹事	放射線科部長	左合　直
北陸緩和医療研究会	世話人	外科部長	吉羽　秀麿
北陸クリスタルクラブ	世話人	眼科部長	小堀　朗
北陸骨折研究会	世話人	リハビリテーション科部長	淺野　太洋
北陸周産期・新生児研究会	幹事	小児科副部長	玉村　宗一
北陸循環器負荷研究会	幹事	循環器内科部長	吉田　博之
北陸小腸内視鏡研究会	世話人	健診部長	西川　邦寿
北陸心不全研究会	幹事	循環器内科部長	吉田　博之
北陸診療情報管理研究会	理事	副院長	今村　信
		医療情報課長	櫻井　慎二
北陸大腸癌研究会	幹事	外科部長	青竹　利治
北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究会	世話人	看護師長	井口　秀人
北陸糖尿病研究会	世話人	内科副部長	中野　雅子
北陸内視鏡外科研究会	幹事	外科部長	青竹　利治
		外科部長	吉羽　秀麿

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
北陸乳癌懇話会	幹事	外科部長	田中　文恵
北陸乳房画像研究会	世話人	診療放射線技師	吉岡　千絵
北陸脳腫瘍研究会	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
北陸脳腫瘍懇話会	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
北陸リウマチ関節研究会	世話人	整形外科部長	淺野　太洋
中部リウマチ学会	評議員	腎臓・泌尿器科副部長	鈴木 康倫
北陸ヘルニア研究会	幹事	外科部長	川上　義行

学会・研究会（福井県）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
ＦＡＲＭ研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋　公久
Fukui Circulation Forum	世話人	循環器内科部長	吉田　博之
Pitfall の会	代表世話人	眼科部長	小堀　朗
日本小児科学会福井地方会	委員	小児科部長	渡邉　康宏
福井 IVNR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬　睦
福井肝癌研究会	幹事	消化器内科部長	道上　学
		放射線科部長	左合　直
福井冠疾患治療を考える会	世話人	循環器内科部長	吉田　博之
			坪川　明義
福井関節外科懇話会	代表世話人	リハビリテーション科部長	淺野　太洋
福井感染制御ネットワーク	世話人	呼吸器内科部長	赤井　雅也
福井がんとチーム医療研究会	世話人	外科部長	青竹　利治
福井救急集中治療医学研究会	幹事	麻酔科部長	田邉　毅
福井血液腫瘍 Roundtable Conference	世話人	副院長	今村　信
福井県 CT.MR 研究会	世話人	画像情報課長	上坂　大輔
		診療放射線技師	勝木　宏輝
福井県 MRI 研究会	幹事	放射線科部長	左合　直
福井県 NST 研究会	幹事	外科部長	川上　義行
福井県胃腸疾患懇話会	幹事	消化器内科部長	道上　学
		消化器内科部長	山崎　幸直
福井県核医学研究会	幹事	循環器内科部長	吉田　博之
福井県肝胆膵勉強会	幹事	放射線科部長	左合　直
		外科部長	土居　幸司
福井県緩和医療研究会	幹事	外科部長	吉羽　秀麿
福井県外科医会	消化器部門幹事	外科部長	青竹　利治
	乳がん部門幹事	外科部長	田中　文恵
福井県産婦人科医師連合	理事	産婦人科部長	田嶋　公久
福井県消化管撮影研究会	世話人	診療放射線技師	柑本　明美
福井県小児科医会	理事	小児科部長	渡邉　康宏
	広報委員会委員	小児科部長	渡邉　康宏
福井県診療情報管理懇話会	幹事	副院長	今村　信
		医療情報課長	櫻井　慎二
福井県整形外科医会	理事	整形外科部長	高塚　和孝
福井県乳房画像研究会	世話人	診療放射線技師	吉岡　千絵
		診療放射線技師	村中　舞

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県診療放射線技師会	人材育成委員	第１画像情報係長	平木　美和
	広報委員	診療放射線技師	西端　美樹
	出版事業委員	診療放射線技師	西島　大貴
福井県糖尿病協会	理事	内科副部長	中野　雅子
		看護師	清水　雅代
福井県糖尿病懇話会	世話人	内科副部長	中野　雅子
		看護師	清水　雅代
福井県糖尿病療養指導研究会	理事	内科部長	夏井　耕之
		内科副部長	中野　雅子
		看護師	清水　雅代
		栄養課長	大久保祐子
福井県内科医会	幹事	副院長兼神経内科部長	髙野誠一郎
福井県脳・神経談話会	幹事	副院長兼神経内科部長	髙野誠一郎
	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
福井県脳機能画像カンファレンス	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
福井県脳梗塞セミナー	世話人	脳神経外科部長	西村　真樹
		神経内科副部長	今村　久司
福井県母性衛生学会	理事	産婦人科部長	田嶋　公久
福井県予防接種研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井　雅也
		小児科部長	渡邉　康宏
福井県リウマチケア研究会	顧問	院長	髙木　治樹
	実行委員	看護師長	石田　克子
		第１理学療法課長	豊田　泰美
		作業療法士	山本　和雅
福井県臨床細胞学会	幹事	産婦人科部長	田嶋　公久
		病理診断科副部長	大越　忠和
福井膠原病研究会	世話人	院長	髙木　治樹
福井骨粗鬆症フォーラム	代表世話人	院長	髙木　治樹
	世話人	整形外科部長	高塚　和孝
	世話人	産婦人科部長	田嶋　公久
福井周産期症例検討会	世話人	小児科部長	渡邉　康宏
福井循環器カンファレンス	世話人	循環器内科部長	吉田　博之
福井ショックと蘇生研究会	幹事	麻酔科部長	田邉　毅
福井神経疾患研究会	世話人	副院長兼神経内科部長	髙野誠一郎
福井大腸癌研究会	幹事	外科部長	青竹　利治
		消化器内科部長	道上　学
福井地区緊急被ばくネットワーク研究会	委員	放射線科技師長	西村　英明
福井認知症を考える会	世話人	副院長兼神経内科部長	髙野誠一郎
ふくいの在宅医療を支える会	世話人	看護師長	山﨑　雪代
		社会福祉士	奈須田　瞳
福井婦人科腫瘍研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋　公久
福井リウマチ研究会	顧問	院長	髙木　治樹
	世話人	整形外科医師	森瀬　博子
	世話人	腎臓・泌尿器科副部長	鈴木　康倫
FIT テクニカルカンファレンス	世話人	診療放射線技師	勝木　宏輝

学会・研究会（その他）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
A member of Big Data Sjögren Project EULAR-SS Task Force International Network	コーディネーター	腎臓・泌尿器科副部長	鈴木　康倫
International Coordinators of ImmunoCancer Registry	コーディネーター	腎臓・泌尿器科副部長	鈴木　康倫

7．年　間　行　事

日　　時	内　　容	場　　所
4月 1日	辞令交付（昇任・医師新規採用者）	院長室
	辞令交付（新規採用者）	講堂
	新規採用職員一般研修　～５日（火）	講堂
	新規採用研修医オリエンテーション　～８日（金）	研修室他
4月 4日	管理会議	応接室
4月 6日	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
4月 8日	衛生委員会	多目的室
4月12日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
4月20日	救護員としての赤十字看護師任命式	福井県支部
4月22日	ＲＳＴ連絡会	大会議室
	医療安全管理委員会	多目的室
	管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
	定例医局会	講堂
4月26日	輸血療法委員会	多目的室
	令和４年度ＱＣサークル活動全体研修会	研修室他
5月 2日	管理会議	応接室
5月 5日	職員会議	講堂
5月 6日	衛生委員会	多目的室
5月10日	クリニカルパス推進部会	大会議室
5月11日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
5月12日	ＡＳＴ勉強会	講堂
5月13日	定例管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
	臨床研修推進部会	大会議室
5月16日	広報委員会	大会議室
	永年勤続表彰の伝達式	講堂
5月17日	情報システム管理委員会	大会議室
5月18日	ＲＳＴ連絡会	大会議室
	医療安全管理委員会	多目的室
5月19日	ＤＰＣ／ＰＤＰＳ傷病コーディング部会	多目的室
5月20日	ＮＳＴ連絡会	大面談室
	令和４年度第１回接遇推進委員連絡会	研修室他
5月25日	教育研修推進委員会	大会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ①	講堂
5月26日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	令和４年度第１回災害時対応能力育成研修・救護班研修	講堂

日　　時	内　　容	場　　所
5月27日	R5.4採用者採用前ガイダンス	講堂、小会議室
	定例医局会	講堂
5月28日	医療コンフリクト・マネジメント研修会	講堂
5月29日	薬剤師採用試験	大会議室、小会議室
5月30日	管理会議	応接室
6月 1日	令和４年度上期評議員会の開催にかかる本監査	大会議室
	院内感染防止対策委員会	中会議室
6月 2日	臨床工学技士採用試験	大会議室、小会議室
6月 3日	衛生委員会	多目的室
6月 7日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	ＱＣ活動推進部会	多目的室
6月 9日	診療放射線技師採用試験	大会議室、小会議室
	日本赤十字社福井県支部令和４年度上期評議員会	福井パレスホテル３階
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅡ－①	講堂
6月10日	ＨＢワクチン接種	小会議室
6月11日	福井赤十字病院ＩＣＬＳコース	講堂
6月12日	看護職員採用試験　１回目	講堂
6月13日	広報委員会	多目的室
	医療安全研修会 「周術期肺塞栓の予防～弾性ストッキングの着用を中心に～」	講堂
6月15日	ＲＳＴ連絡会	大会議室
	医療安全管理委員会	多目的室
6月16日	臨床検査技師採用試験	大会議室、小会議室
6月17日	定例管理会議	応接室
	ＨＢワクチン接種	小会議室
	代表部長会議	大会議室
	がん看護セミナー シリーズ①「高齢者に対する緩和ケアの提供」 シリーズ②「認知症のあるがん患者の痛みの評価」	オンライン
6月19日	看護職員採用試験　２回目	研修室など
6月20日	病院機能評価コンサルタント部署訪問調査および ケアプロセス調査における報告会および研修会	講堂
6月21日	保険診療検討委員会	多目的室
	情報システム管理委員会	大会議室
6月22日	ＴＱＭ推進委員会	大会議室
6月23日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースＩ－②	講堂
6月24日	定例医局会	講堂
6月25日	令和４年度支部常備救護班要員等研修会	講堂
6月28日	輸血療法委員会	多目的室
6月29日	薬事委員会	大会議室
6月30日	キャリアラダー認定授与式（事務職・看護職・薬剤師・リハビリ）	院長室
	地域医療支援センター運営委員会	大会議室

日　　時	内　　容	場　　所
7月 1日	衛生委員会	多目的室
	ＮＳＴ連絡会	中会議室
	管理会議	応接室
7月 5日	リハビリテーション科部運営委員会	多目的室
7月 6日	ＩＳＯ１５１８９認定にかかる第１段階審査	研修室
	院内感染防止対策委員会	中会議室
	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	がん化学療法部会	大会議室
7月 7日	ＡＳＴ勉強会	講堂
7月 8日	ローテーション研修修了式	講堂
	新採用者３ヶ月振り返り研修	講堂
	ＨＢワクチン（２回目）	小会議室
7月11日	病院機能評価病棟選定プレゼンテーション　～7/14（木）	小会議室
7月12日	クリニカルパス推進部会	大会議室
7月14日	腎臓・泌尿器疾患学術講演会	福井商工会議所Ｂ１階 「国際ホール」
7月15日	がん患者会「スマイル会」	オンライン配信
	定例管理会議	応接室
	ＨＢワクチン（２回目）	小会議室
	代表部長会議	大会議室
	医療機械器具購入委員会	大会議室
7月19日	情報システム管理委員会	大会議室
7月20日	医療安全管理委員会	多目的室
7月21日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＤＰＣ／ＰＤＰＳ傷病コーディング部会	多目的室
	令和４年度（第２回）接遇推進委員連絡会	研修室
7月22日	広報委員会	大会議室
7月23日	ＢＬＳコース	講堂
7月24日	看護師採用試験　３回目	講堂他
	ＢＬＳコース	講堂
7月25日	集中治療室運営委員会	多目的室
7月26日	病院機能評価調整グループ会議	中会議室
	地域がん診療研修会　近年の放射線治療の進歩～ 限局癌から転移癌～前立腺癌の話題を中心に	メディカルサロン オンライン
7月27日	待ち時間対策会議	多目的室
	第１回患者満足度向上部会	多目的室
	2022 年度第 3 回災害時対応能力育成研修	講堂
7月28日	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ③	講堂
7月29日	管理会議	応接室
	定例医局会	講堂
8月 1日	病院機能評価（第１領域）領域別検討会	大会議室
8月 2日	医療安全リスクマネージャ―会議	講堂
8月 3日	院内感染防止対策委員会	中会議室

日　　時	内　　容	場　　所
8月 3日	がん化学療法部会	大会議室
8月 4日	病院機能評価（第３領域）領域別検討会	多目的室
	ＡＳＴ勉強会	講堂
8月 5日	病院機能評価（第２領域）領域別検討会	研修室
	衛生委員会	多目的室
8月 7日	初期臨床研修医師採用試験	大会議室
8月 8日	被剖検者追悼式	講堂
	接遇改善推進ＷＧ会議	小会議室
8月 9日	看護師インターンシップ	講堂
8月10日	看護師１日体験	講堂
8月14日	看護師採用試験	大会議室、小会議室
8月17日	ＭＲワクチン接種	小会議室
	医療安全管理委員会	多目的室
8月18日	初期臨床研修医師採用試験	大会議室
	保険診療検討委員会	多目的室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅡ②	講堂
8月19日	定例管理会議	応接室
	広報委員会	大会議室
	がん看護セミナー シリーズ③「嚥下障害患者さんへのサポート～当院での取り組み～」 シリーズ④「ＨＢＯＣ（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）診療における看護師の役割」	オンライン
8月22日	情報システム管理委員会	大会議室
8月23日	看護師インターンシップ	講堂
	輸血療法委員会	多目的室
8月24日	ＲＳＴ連絡会	中会議室
8月25日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ④	講堂
8月26日	赤十字概論研修	講堂
	ＮＳＴ研修会	研修室
8月28日	初期臨床研修医師採用試験	大会議室
8月29日	管理会議	応接室
8月30日	医療安全研修会（輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な取扱い）	講堂
8月31日	病歴業務検討会	多目的室
	初期臨床歯科研修医師採用試験	大会議室
	2022年度第４回災害時対応能力育成研修	講堂
9月 1日	ＡＳＴ勉強会	講堂
9月 2日	泌尿器疾患医療連携セミナー	福井商工会議所
9月 7日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
	ＩＢＤ 医療連携セミナー	オンライン
9月 9日	衛生委員会	多目的室

日　　時	内　　容	場　　所
9月12日	就業管理委員会	大会議室
9月13日	クリニカルパス推進部会	大会議室
9月15日	病院機能評価コンサルタント受審支援サポート訪問	大面談室他
	医療連携実務担当者情報交換会	講堂
9月16日	定例管理会議	応接室
	輸液ポンプ・シリンジポンプ認定試験（医療安全）	講堂
	代表部長会議	大会議室
9月19日	福井県緩和ケア研修会	大会議室
9月20日	情報システム管理委員会	大会議室
9月21日	ＲＳＴ連絡会	大会議室
	医療安全管理委員会	多目的室
9月22日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＤＰＣ／ＰＤＰＳ傷病コーディング部会	多目的室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ⑤	講堂
9月25日	総合事務職員採用試験	大会議室
9月26日	広報委員会	中会議室
9月27日	病院機能評価調整ＷＧ	中会議室
9月28日	図書委員会	中会議室
9月29日	地域医療推進委員会	大会議室
9月30日	管理会議	応接室
	ＭＲワクチン接種	小会議室
	定例医局会	講堂
	2022 年度第 5 回災害時対応能力育成研修（医師対象）	講堂
10月 1日	令和４年度大規模地震医療活動訓練ＤＭＡＴ訓練	愛知県内
10月 3日	薬事委員会	大会議室
10月 4日	検査部・病理診断部　ＩＳＯ１５１８９第二段階審査 ～ 10/6（木）	研修室
	災害対策・防火・防災委員会	多目的室
10月 5日	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
10月 6日	第 58 回日本赤十字社医学会総会　～ 10/7（金）	北海道旭川市
	ＡＳＴ勉強会	講堂
10月 7日	2022 年ＪＲ総合事故対応訓練（在来線）	南福井駅
	衛生委員会	多目的室
10月 8日	令和４年度福井県総合防災訓練	勝山市
10月11日	福井赤十字病院災害対応訓練説明会	講堂
10月12日	2022 年度　災害時対応能力育成研修・救護班研修	講堂
10月13日	ＩＣＴ感染管理研修コースⅡ③	講堂
10月17日	保険診療検討委員会	多目的室
	広報委員会	中会議室
	情報管理システム管理委員会	大会議室
10月19日	医療安全管理委員会	多目的室

日　　時	内　　容	場　　所
10月20日	教育研修推進委員会	中会議室
	第３回接遇推進委員連絡会	研修室
10月21日	定例管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
	栄養委員会	大面談室
	がん看護セミナー シリーズ⑤「癌患者さんの褥瘡予防」 シリーズ⑥「がん化学療法」～世代で考えるケア	オンライン
10月22日	福井赤十字病院災害対応訓練	エントランスホール他
10月24日	職員満足度向上部会	中会議室
10月25日	輸血療法委員会	多目的室
10月26日	ＲＳＴ連絡会	大会議室
10月27日	血液浄化療法委員会 透析センター（透析機器安全管理）運営委員会	多目的室
	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ⑥	講堂
10月28日	定例医局会	講堂
10月31日	管理会議	応接室
11月 1日	インフルエンザワクチン接種（集団接種）	講堂
	ＲＳＴ研修会	講堂
11月 2日	インフルエンザワクチン接種（集団接種）	講堂
	待ち時間対策会議	多目的室
	院内感染防止対策委員会	中会議室
	患者満足度向上部会	多目的室
	がん化学療法部会	大会議室
11月 3日	日本赤十字社第３ブロック支部災害救護訓練	長野県諏訪市
11月 4日	衛生委員会	多目的室
	ＮＳＴ連絡会	小会議室
	ＣＰＣ（臨床病理検討会）	講堂
11月 6日	令和４年度福井県原子力総合防災訓練（ＴＶ会議）	災害救護支援センター
11月 7日	キャリアラダー認定証授与式（事務職）	院長室等
	キャリアラダー認定証授与式（看護職）	院長室等
	代議員会議	講堂
11月 8日	クリニカルパス推進部会	大会議室
11月 9日	病院機能評価模擬面接（１・４領域）	大会議室
	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	ＴＱＭ推進委員会	多目的室
11月10日	ＡＳＴ勉強会	講堂
11月11日	管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
	臨床研修推進部会	大会議室
11月12日	福井赤十字病院ＩＣＬＳコース	大会議室他
11月14日	広報委員会	大会議室

日　　時	内　　容	場　　所
11月15日	情報システム管理委員会	大会議室
11月16日	医療安全管理委員会	多目的室
	令和４年度福井赤十字病院災害対応訓練検証会	講堂
	福井赤十字病院病診連携医会役員会・懇談会	ザ・グランユアーズフクイ
11月17日	福井赤十字病院内科専門プログラム管理委員会	大面談室
11月18日	がん患者会「スマイル会」	オンライン
	インフォームドコンセント推進委員会	大面談室
	地域がん診療研修会 「アドバンス・ケア・プランニング　患者の意向を尊重した医療を実践するために」	オンライン
11月21日	病院機能評価コンサルタント模擬審査（病棟） 模擬面接（1・4領域）等	１－５病棟・１－６病棟他
11月22日	病院機能評価調整ＷＧ	中会議室
11月24日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＤＰＣ／ＰＤＰＳ傷病コーディング部会	大会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ⑦	講堂
11月25日	定例医局会	講堂
11月26日	ＤＭＡＴ中部ブロック実動訓練　～27日（日）	石川県
	ＢＬＳコース	講堂
11月27日	ＢＬＳコース	講堂
11月28日	管理会議	応接室
11月30日	歯科研修管理委員会	中会議室
12月 1日	ＡＳＴ勉強会	講堂
	褥瘡対策研修会	研修室 オンライン
12月 2日	衛生委員会	多目的室
12月 5日	職員会議	講堂
12月 6日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	在宅症例検討会	オンライン
12月 7日	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
12月 8日	病院機能評価（第１領域）領域別検討会	多目的室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅡ④	講堂
12月12日	健康・医療情報室運営委員会	研修室Ｂ
12月13日	新型コロナワクチン追加接種	講堂
12月14日	新型コロナワクチン追加接種	講堂
	ＲＳＴ連絡会	大会議室
	検査部・病理診断科部　臨床検査適正化委員会	中会議室
12月15日	新型コロナワクチン追加接種	講堂
	保険診療検討委員会	多目的室
	地域医療推進委員会	大会議室
12月16日	定例管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
	医療機械器具購入委員会	大会議室

日　　時	内　　容	場　　所
12月17日	ＪＭＥＣＣコース	大会議室他
12月19日	情報システム管理委員会	大会議室
12月20日	新型コロナワクチン追加接種	講堂
12月21日	新型コロナワクチン追加接種	講堂
	医療安全管理委員会	多目的室
	第67回キャンドルサービス	各病棟
12月22日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅠ⑧	講堂
12月23日	定例医局会	講堂
12月26日	倫理委員会	中会議室
12月27日	リハビリテーション科キャリアラダー評価会	リハビリテーション科
	令和５年４月採用者　採用前ガイダンス	講堂、小会議室
	輸血療法委員会	多目的室
12月28日	仕事納め	
12月31日	外来診療	
1月 4日	令和５年仕事始め式	講堂
	院内感染防止対策委員会	中会議室
1月 5日	ＡＳＴ勉強会	講堂
1月 6日	衛生委員会	多目的室
1月10日	職員対象 頭痛勉強会	研修室
1月11日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
1月13日	定例管理会議	応接室
	ＨＢワクチン接種	小会議室
	職員対象 頭痛勉強会	研修室
	代表部長会議	大会議室
	臨床研修推進部会	大会議室
1月16日	広報委員会	中会議室
1月17日	情報システム管理委員会	大会議室
	医療安全管理委員会	多目的室
	初期臨床研修医症例発表会（1回目）	講堂
1月18日	地域医療支援センター運営委員会	中会議室
	がん化学療法部会	メディカルサロン
1月19日	病院選定病棟のケアプロセス調査　模擬審査	１―５病棟・1―６病棟 その他
1月20日	ＨＢワクチン接種	小会議室
	ＮＳＴ連絡会	小会議室
	１年目研修　「１年間の振り返り」	講堂
1月24日	病院機能評価調整ＷＧ	中会議室
	中央放射線部運営委員会／放射線安全委員会	研修室
	ＲＳＴ連絡会	大会議室
	初期臨床研修医症例発表会（2回目）	講堂
1月26日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅡ⑤	講堂

日　　時	内　　容	場　　所
1月26日	職員対象 頭痛勉強会	研修室
1月27日	定例医局会	講堂
1月30日	管理会議	応接室
2月 1日	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
2月 2日	ＡＳＴ勉強会	講堂
2月 3日	衛生委員会	多目的室
	職員対象頭痛勉強会	研修室
2月 8日	職員対象頭痛勉強会	研修室
2月 9日	炎症性腸疾患ＷＥＢイブニングセミナー	オンライン
2月10日	病院選定病棟ケアプロセス調査模擬審査	講堂他
	定例管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
2月16日	病院機能評価	講堂他
2月17日	病院機能評価	講堂他
2月20日	情報システム管理委員会	大会議室
2月21日	医療安全管理委員会	多目的室
	2年目職員研修　「2年間の振り返り」	講堂
2月22日	職員対象頭痛勉強会	中会議室
	福井赤十字病院群研修管理委員会	研修室
	ＮＳＴ研修会	研修室
2月24日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
	広報委員会	大会議室
	定例医局会	講堂
2月27日	院友会新旧役員会	講堂
	福井赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会	大面談室
2月28日	保険診療検討委員会	多目的室
	輸血療法委員会	多目的室
3月 1日	日本赤十字社福井県支部令和4年度下期評議員会	アオッサ８階県民ホール
	職員対象頭痛勉強会	小会議室
	管理会議	応接室
	院内感染防止対策委員会	中会議室
	がん化学療法部会	大会議室
3月 2日	医療廃棄物処理対策委員会	大会議室
	ＡＳＴ勉強会	講堂
3月 3日	衛生委員会	多目的室
	ＮＳＴ部会	研修室
	地域がん診療研修会 「膵癌の早期診断・術前治療ＵＰ－ＴＯ－ＤＡＴＥ ～膵癌診療ガイドラインの改定を踏まえて～」	オンライン
3月 6日	薬事委員会	大会議室
	職員対象頭痛勉強会	研修室

日　　時	内　　容	場　　所
3月 7日	臓器移植委員会	多目的室
	医療安全リスクマネージャー会議	講堂
3月 8日	検査部運営委員会	多目的室
3月 9日	病床運営委員会	小会議室
	地域医療推進委員会	大会議室
	3年目職員研修　「1年間の振り返り」	講堂
3月10日	栄養委員会	研修室Ｂ
	病理診断科部業務運営委員会	大会議室
3月11日	令和6年度採用看護師・就職説明会	講堂
	令和6年度採用看護師・就職説明会　ｗｅｂ開催	多目的室
3月13日	健診センター運営委員会	多目的室
	救急医療検討委員会	大会議室
	職員満足度向上部会	中会議室
3月14日	情報システム管理委員会	大会議室
3月15日	医療安全管理委員会	多目的室
	福井赤十字病院歯科研修管理委員会	中会議室
	片頭痛Ｗｅｂイブニングセミナー	オンライン
3月16日	初期臨床研修医修了証授与式	院長室
	院友会総会	講堂
	ＩＣＴ感染管理研修コースⅡ④	講堂
3月17日	がん患者会「スマイル会」	オンライン
	定例管理会議	応接室
	代表部長会議	大会議室
3月18日	令和6年度採用看護師・就職説明会	講堂
3月20日	総合事務職就職説明会	講堂
	治験審査委員会	中会議室
	臨床試験審査委員会	中会議室
	ＱＣ活動推進部会	多目的室
	クリニカルパス推進部会	大会議室
3月22日	ＲＳＴ部会（連絡会）	大会議室
	職員対象頭痛勉強会	研修室
	ＤＰＣ／ＰＤＰＳ傷病コーディング部会	多目的室
	歯科Ｗｅｂイブニングセミナー	オンライン
3月23日	褥瘡対策検討委員会	中会議室
3月24日	就業管理委員会	中会議室
	定例医局会	講堂
3月27日	広報委員会	大面談室
	院内保育施設運営委員会	中会議室
	慢性便秘症Ｗｅｂイブニングセミナー	オンライン

１．患者数統計

地区別入院患者数比較　（年 度 別 比 較）

入　院

	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%	令和４年	対前年度増減	%
福　井　市	99, 360	-4236	96%	94, 772	-4, 588	95%	85, 437	-9, 335	90%	93, 385	7, 948	109%	88, 574	-4, 811	95%
敦　賀　市	1, 983	768	163%	1, 741	-242	88%	1, 535	-206	88%	1, 912	377	125%	1, 539	-373	80%
越　前　市	17, 515	-558	97%	18, 183	668	104%	14, 154	-4, 029	78%	14, 682	528	104%	13, 134	-1, 548	89%
小　浜　市	157	52	150%	248	91	158%	74	-174	30%	150	76	203%	145	-5	97%
大　野　市	1, 784	162	110%	1, 873	89	105%	1, 314	-559	70%	1, 419	105	108%	1, 064	-355	75%
勝　山　市	730	116	119%	1, 256	526	172%	430	-826	34%	408	-22	95%	394	-14	97%
鯖　江　市	24, 309	-1693	93%	23, 706	-603	98%	20, 908	-2, 798	88%	22, 284	1, 376	107%	20, 742	-1, 542	93%
あわら市	1, 825	242	115%	1, 376	-449	75%	1, 217	-159	88%	1, 829	612	150%	1, 558	-271	85%
永平寺町	426	-224	66%	806	380	189%	694	-112	86%	803	109	116%	1, 018	215	127%
坂　井　市	3, 772	150	104%	3, 567	-205	95%	3, 409	-158	96%	4, 089	680	120%	3, 676	-413	90%
池　田　町	540	-1	100%	354	-186	66%	356	2	101%	338	-18	95%	335	-3	99%
美　浜　町	449	395	831%	365	-84	81%	55	-310	15%	350	295	636%	234	-116	67%
おおい町	46	-180	20%	7	-39	15%	7	0	100%	2	-5	29%	91	89	4550%
高　浜　町	231	188	100%	121	-110	100%	0	-121	100%	48	48	100%	59	11	123%
南越前町	2, 520	0	100%	2, 907	387	115%	1, 921	-986	66%	1, 801	-120	94%	1, 914	113	106%
越　前　町	12, 129	-731	94%	12, 264	135	101%	8, 663	-3, 601	71%	10, 047	1, 384	116%	9, 008	-1, 039	90%
若　狭　町	239	203	664%	315	76	132%	391	76	124%	193	-198	49%	146	-47	76%
県外その他	1, 492	-395	79%	1, 529	37	102%	1, 412	-117	92%	1, 455	43	103%	885	-570	61%
合　計	169, 507	-5742	97%	165, 390	-4, 117	98%	141, 977	-23, 413	86%	155, 195	13, 218	109%	144, 516	-10, 679	93%

地区別外来患者数比較　（年 度 別 比 較）

外　来

	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%	令和４年	対前年度増減	%
福　井　市	189, 599	3, 718	102%	186, 584	-3, 015	98%	169, 326	-17, 258	91%	187, 506	18, 180	111%	192, 767	5, 261	103%
敦　賀　市	2, 218	97	105%	2, 229	11	100%	1, 934	-295	87%	1, 982	48	102%	2, 192	210	111%
越　前　市	31, 061	425	101%	30, 243	-818	97%	27, 531	-2, 712	91%	29, 553	2, 022	107%	30, 412	859	103%
小　浜　市	236	33	116%	270	34	114%	164	-106	61%	187	23	114%	178	-9	95%
大　野　市	3, 664	-112	97%	3, 697	33	101%	3, 178	-519	86%	3, 274	96	103%	3, 096	-178	95%
勝　山　市	1, 045	-60	95%	1, 277	232	122%	914	-363	72%	1, 000	86	109%	856	-144	86%
鯖　江　市	38, 443	-415	99%	37, 929	-514	99%	34, 112	-3, 817	90%	36, 929	2, 817	108%	40, 277	3, 348	109%
あわら市	3, 344	219	107%	3, 368	24	101%	2, 906	-462	86%	3, 106	200	107%	3, 184	78	103%
永平寺町	1, 364	-184	88%	1, 403	39	103%	1, 239	-164	88%	1, 381	142	111%	1, 724	343	125%
坂　井　市	8, 333	130	102%	8, 189	-144	98%	7, 549	-640	92%	8, 299	750	110%	8, 684	385	105%
池　田　町	792	-184	81%	794	2	100%	711	-83	90%	760	49	107%	720	-40	95%
美　浜　町	352	48	116%	352	0	100%	219	-133	62%	289	70	132%	313	24	108%
おおい町	83	-17	83%	23	-60	28%	25	2	109%	22	-3	88%	27	5	123%
高　浜　町	74	29	164%	63	-11	85%	12	-51	19%	34	22	283%	51	17	150%
南越前町	3, 844	-145	96%	4, 327	483	113%	3, 627	-700	84%	3, 764	137	104%	4, 003	239	106%
越　前　町	17, 096	-443	97%	17, 585	489	103%	15, 253	-2, 332	87%	16, 806	1, 553	110%	17, 885	1, 079	106%
若　狭　町	269	69	135%	322	53	120%	282	-40	88%	262	-20	93%	248	-14	95%
県外その他	2, 196	-154	93%	2, 469	273	112%	1, 832	-637	74%	1, 956	124	107%	1, 604	-352	82%
合　計	304, 013	3, 054	101%	301, 124	-2, 889	99%	270, 814	-30, 310	90%	297, 110	26, 296	110%	308, 221	11, 111	104%

年齢別入外別　患者延べ数　（年度別比較）

入　院

	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%	令和４年	対前年度増減	%
0 － 5 才	4, 112	522	115%	4, 038	-74	98%	2, 840	-1, 198	70%	4, 618	1, 778	163%	4, 041	-577	88%
6 － 14 才	1, 653	87	106%	1, 980	327	120%	1, 628	-352	82%	2, 139	511	131%	1, 397	-742	65%
15 － 19 才	919	-130	88%	1, 227	308	134%	640	-587	52%	1, 193	553	186%	1, 063	-130	89%
20 － 24 才	1, 267	-236	84%	1, 176	-91	93%	1, 215	39	103%	1, 013	-202	83%	991	-22	98%
25 － 29 才	2, 310	-179	93%	2, 558	248	111%	1, 674	-884	65%	2, 281	607	136%	1, 749	-532	77%
30 － 34 才	2, 824	-211	93%	2, 337	-487	83%	2, 348	11	100%	2, 368	20	101%	2, 212	-156	93%
35 － 39 才	2, 833	-838	77%	2, 831	-2	100%	2, 044	-787	72%	2, 906	862	142%	2, 462	-444	85%
40 － 44 才	3, 985	-67	98%	3, 184	-801	80%	2, 848	-336	89%	2, 862	14	100%	2, 249	-613	79%
45 － 49 才	4, 469	-589	88%	4, 078	-391	91%	3, 784	-294	93%	3, 362	-422	89%	3, 840	478	114%
50 － 54 才	5, 119	-724	88%	5, 962	843	116%	5, 121	-841	86%	5, 663	542	111%	4, 903	-760	87%
55 － 59 才	7, 162	-1, 533	82%	7, 367	205	103%	6, 551	-816	89%	6, 438	-113	98%	6, 214	-224	97%
60 － 64 才	10, 259	62	101%	9, 747	-512	95%	8, 343	-1, 404	86%	9, 926	1, 583	119%	9, 311	-615	94%
65 － 69 才	20, 078	-2, 188	90%	18, 631	-1, 447	93%	13, 998	-4, 633	75%	14, 407	409	103%	12, 664	-1, 743	88%
70 － 74 才	22, 955	1, 317	106%	24, 053	1, 098	105%	21, 596	-2, 457	90%	23, 558	1, 962	109%	23, 028	-530	98%
75 － 79 才	26, 292	-9	100%	27, 974	1, 682	106%	23, 115	-4, 859	83%	21, 281	-1, 834	92%	20, 816	-465	98%
80 才 以 上	53, 270	-1, 026	98%	48, 247	-5, 023	91%	44, 232	-4, 015	92%	51, 180	6, 948	116%	47, 576	-3, 604	93%
合　　計	169, 507	-5, 742	97%	165, 390	-4, 117	98%	141, 977	-23, 413	86%	155, 195	13, 218	109%	144, 516	-10, 679	93%

年齢別入外別　患者延べ数　（年度別比較）

外　来

	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%	令和４年	対前年度増減	%
0 － 5 才	8, 364	265	103%	8, 705	341	104%	5, 674	-3, 031	65%	7, 061	1, 387	124%	6, 809	-252	96%
6 － 14 才	6, 326	424	107%	6, 189	-137	98%	4, 901	-1, 288	79%	5, 167	266	105%	5, 178	11	100%
15 － 19 才	3, 440	290	109%	3, 521	81	102%	2, 724	-797	77%	3, 068	344	113%	3, 493	425	114%
20 － 24 才	3, 828	-278	93%	3, 560	-268	93%	3, 068	-492	86%	3, 370	302	110%	4, 029	659	120%
25 － 29 才	6, 273	-55	99%	6, 298	25	100%	5, 377	-921	85%	5, 718	341	106%	5, 579	-139	98%
30 － 34 才	7, 637	-370	95%	7, 104	-533	93%	6, 893	-211	97%	6, 839	-54	99%	7, 107	268	104%
35 － 39 才	8, 818	-227	97%	8, 605	-213	98%	7, 213	-1, 392	84%	8, 348	1, 135	116%	7, 914	-434	95%
40 － 44 才	11, 228	-70	99%	10, 809	-419	96%	9, 220	-1, 589	85%	9, 448	228	102%	9, 890	442	105%
45 － 49 才	12, 994	-255	98%	13, 240	246	102%	12, 890	-350	97%	12, 993	103	101%	14, 050	1, 057	108%
50 － 54 才	14, 430	-150	99%	15, 045	615	104%	13, 574	-1, 471	90%	15, 647	2, 073	115%	16, 536	889	106%
55 － 59 才	17, 341	-534	97%	16, 731	-610	96%	16, 378	-353	98%	16, 956	578	104%	17, 982	1, 026	106%
60 － 64 才	22, 657	-1, 768	93%	22, 401	-256	99%	19, 874	-2, 527	89%	22, 177	2, 303	112%	23, 231	1, 054	105%
65 － 69 才	39, 274	-2, 361	94%	34, 619	-4, 655	88%	29, 123	-5, 496	84%	30, 318	1, 195	104%	30, 192	-126	100%
70 － 74 才	41, 467	3, 005	108%	45, 132	3, 665	109%	42, 722	-2, 410	95%	50, 727	8, 005	119%	51, 247	520	101%
75 － 79 才	41, 523	3, 196	108%	43, 323	1, 800	104%	39, 432	-3, 891	91%	40, 068	636	102%	42, 775	2, 707	107%
80 才 以 上	58, 413	1, 942	103%	55, 842	-2, 571	96%	51, 751	-4, 091	93%	59, 205	7, 454	114%	62, 209	3, 004	105%
合　　計	304, 013	3, 054	101%	301, 124	-2, 889	99%	270, 814	-30, 310	90%	297, 110	26, 296	110%	308, 221	11, 111	104%

月別入外別患者延数　（年度別比較）

入院患者数（年度別比較）

年 月	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%	令和４年	対前年度増減	%
４月	14,038	-163	98.9%	14,785	747	105.3%	10,263	-4,522	69.4%	12,976	2,713	126.4%	11,581	-1,395	89.2%
５月	14,155	-355	97.6%	14,581	426	103.0%	9,917	-4,664	68.0%	12,707	2,790	128.1%	12,462	-245	98.1%
６月	14,107	-252	98.2%	14,007	-100	99.3%	11,397	-2,610	81.4%	12,736	1,339	111.7%	12,243	-493	96.1%
７月	14,158	-447	96.9%	14,173	15	100.1%	12,470	-1,703	88.0%	12,569	99	100.8%	12,277	-292	97.7%
８月	14,375	-88	99.4%	13,695	-680	95.3%	12,261	-1,434	89.5%	13,021	760	106.2%	12,099	-922	92.9%
９月	13,642	-519	96.3%	12,741	-901	93.4%	11,897	-844	93.4%	13,259	1,362	111.4%	11,360	-1,899	85.7%
10月	13,930	-635	95.6%	13,378	-552	96.0%	12,108	-1,270	90.5%	12,635	527	104.4%	12,507	-128	99.0%
11月	13,713	-1,358	91.0%	13,277	-436	96.8%	12,293	-984	92.6%	13,164	871	107.1%	12,095	-1,069	91.9%
12月	14,619	-220	98.5%	14,276	-343	97.7%	12,166	-2,110	85.2%	12,747	581	104.8%	12,381	-366	97.1%
１月	14,295	-624	95.8%	13,848	-447	96.9%	12,421	-1,427	89.7%	13,172	751	106.0%	11,996	-1,176	91.1%
２月	13,748	-693	95.2%	13,206	-542	96.1%	11,896	-1,310	90.1%	12,592	696	105.9%	11,294	-1,298	89.7%
３月	14,727	-388	97.4%	13,423	-1,304	91.1%	12,888	-535	96.0%	13,617	729	105.7%	12,221	-1,396	89.7%
計	169,507	-5,742	96.7%	165,390	-4,117	97.6%	141,977	-23,413	85.8%	155,195	13,218	109.3%	144,516	-10,679	93.1%
１日平均	464	-	-	452	-	-	389	-	-	425	-	-	396	-	-

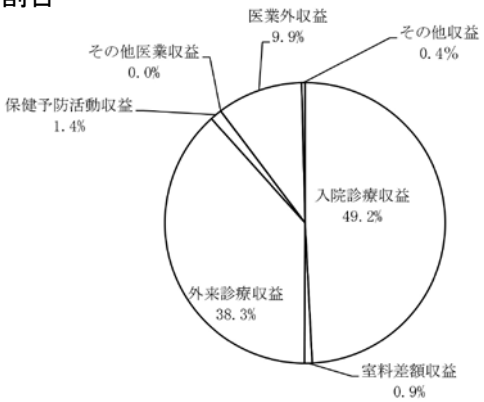
月別入外別患者延数　（年度別比較）

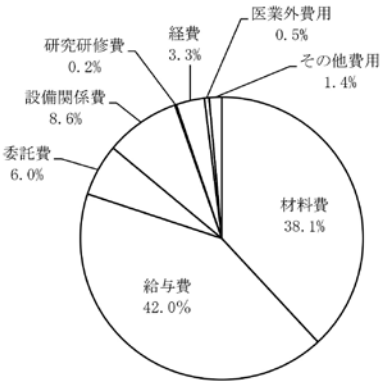
外来患者数（年度別比較）

年 / 月	平成30年	対前年度増減	%	令和元年	対前年度増減	%	令和２年	対前年度増減	%	令和３年	対前年度増減	%	令和４年	対前年度増減	%
４月	24,387	-103	99.6%	25,575	1,188	104.9%	18,368	-7,207	71.8%	24,060	5,692	131.0%	24,989	929	103.9%
５月	25,207	-18	99.9%	25,709	502	102.0%	17,455	-8,254	67.9%	22,275	4,820	127.6%	25,049	2,774	112.5%
６月	25,741	-635	97.6%	25,048	-693	97.3%	23,313	-1,735	93.1%	25,677	2,364	110.1%	26,752	1,075	104.2%
７月	26,099	549	102.1%	27,279	1,180	104.5%	24,165	-3,114	88.6%	24,917	752	103.1%	25,600	683	102.7%
８月	27,008	808	103.1%	25,707	-1,301	95.2%	22,630	-3,077	88.0%	24,752	2,122	109.4%	27,048	2,296	109.3%
９月	23,302	-2,146	91.6%	24,142	840	103.6%	23,463	-679	97.2%	25,420	1,957	108.3%	26,475	1,055	104.2%
10月	27,025	1,121	104.3%	26,346	-679	97.5%	25,017	-1,329	95.0%	25,713	696	102.8%	25,858	145	100.6%
11月	25,790	458	101.8%	24,720	-1,070	95.9%	22,987	-1,733	93.0%	25,458	2,471	110.7%	25,992	534	102.1%
12月	25,536	96	100.4%	25,582	46	100.2%	24,252	-1,330	94.8%	26,092	1,840	107.6%	26,170	78	100.3%
１月	24,747	1,519	106.5%	24,401	-346	98.6%	20,870	-3,531	85.5%	23,005	2,135	110.2%	23,186	181	100.8%
２月	22,921	1,808	108.6%	22,205	-716	96.9%	20,762	-1,443	93.5%	21,780	1,018	104.9%	22,764	984	104.5%
３月	26,250	-403	98.5%	24,410	-1,840	93.0%	27,532	3,122	112.8%	27,961	429	101.6%	28,338	377	101.3%
計	304,013	3,054	101.0%	301,124	-2,889	99.0%	270,814	-30,310	89.9%	297,110	26,296	109.7%	308,221	11,111	103.7%
１日平均	1,246	-	-	1,234	-	-	1,114	-	-	1,223	-	-	1,263	-	-

２．収支決算状況

収益的収入・支出の割合





収　入

	令和３年度		令和４年度		決算額対前年度比較	
	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	増減率 %
入院診療収益	11, 204, 350	56. 2	10, 649, 943	54. 8	△ 554, 407	△ 4. 9
室料差額収益	216, 411	1. 1	191, 024	1. 0	△ 25, 387	△ 11. 7
外来診療収益	8, 238, 941	41. 4	8, 284, 240	42. 7	45, 299	0. 5
保健予防活動収益	300, 431	1. 5	296, 837	1. 5	△ 3, 594	△ 1. 2
受託検査･施設利用収益	41	0. 0	35	0. 0	△ 6	△ 14. 6
その他の医業収益	70, 156	0. 4	51, 797	0. 3	△ 18, 359	△ 26. 2
保険等査定減	△ 106, 923	△ 0. 5	△ 51, 258	△ 0. 3	55, 665	△ 52. 1
医業収益合計	19, 923, 407	100. 0	19, 422, 618	100. 0	△ 500, 789	△ 2. 5
医業外収益	2, 171, 831		2, 140, 203		△ 31, 628	△ 1. 5
医療社会事業収益	12, 961		11, 622		△ 1, 339	△ 10. 3
付帯事業収益	78, 061		69, 206		△ 8, 855	△ 11. 3
特別利益	2, 583		2, 445		△ 138	△ 5. 3
収益的収入合計	22, 188, 843		21, 646, 094		△ 542, 749	△ 2. 4

支　出

	令和３年度		令和４年度		決算額対前年度比較	
	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	対医業収益比 %	金　額 千円	増減率 %
材料費	7, 748, 110	38. 9	7, 763, 787	40. 0	15, 677	0. 2
給与費	7, 777, 461	39. 0	8, 556, 499	44. 1	779, 038	10. 0
委託費	1, 189, 755	6. 0	1, 214, 514	6. 3	24, 759	2. 1
設備関係費	1, 897, 225	9. 5	1, 747, 106	9. 0	△ 150, 119	△ 7. 9
研究研修費	22, 659	0. 1	32, 751	0. 2	10, 092	44. 5
経費	622, 651	3. 1	662, 844	3. 4	40, 193	6. 5
医業費用合計	19, 257, 861	96. 7	19, 977, 501	102. 9	719, 640	3. 7
医業外費用	48, 208		109, 241		61, 033	126. 6
医療奉仕費用	178, 054		219, 408		41, 354	23. 2
付帯事業費用	65, 570		68, 022		2, 452	3. 7
特別損失	8, 743		3, 208		△ 5, 535	△ 63. 3
法人税等	1, 705		1, 242		△ 463	△ 27. 2
収益的支出合計	19, 560, 141		20, 378, 622		818, 481	4. 2
医業収支	665, 546		△ 554, 883		△ 1, 220, 429	
収益的収支	2, 628, 702		1, 267, 472		△ 1, 361, 230	

収支決算状況

（収入）

入院診療収益については、ＤＰＣ特定病院群の指定を受け診療単価は増加したが、第7･8波の中、感染症指定病院として県の受け入れ要請に迅速に対応し、多くの新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、手術や救急患者の制限、また一般病棟の稼働病床の制限等を行ったため、入院延べ患者数が10,679人減少（前年比△6.9％）したことにより、前年比554,407千円の減収（△4.9％）となった。

外来診療収益については、膠原病など新たな専門分野の医師の着任により、紹介患者等外来延べ患者数が11,111人増加（前年比+3.7％）したことにより、前年比45,299千円の増収（+0.5％）となった。

以上により、医業収益全体では対前年比△2.5％（△500,789千円）の19,422,618千円となった。

医業外収益では、新型コロナウイルス感染症対策事業補助金（病床確保料）など運営費補助金等収入は増加したが、令和2・3年度に新型コロナウイルス補助金等の施設設備補助金で整備した医療機器の定率法による減価償却費の減少に伴い、施設設備補助金等収益が減少したため、医業外収益全体として、前年比31,628千円の減収（△1.5％）となった。

訪問看護ステーションにおいては、育休等による専従看護師の減員により、施設収益全体として、前年比8,855千円の減収（△11.3％）となった。

収益的収入全体としては、前年比542,749千円の減収（△2.4％）の21,646,094千円となった。

（支出）

高額な医薬品費の使用により、医薬品費が増加したが、手術の制限等による手術料収入の減少に伴い、診療材料費が減少となり、材料費全体では前年比15,677千円の増加（+0.2％）となった。

給与費については、前年度に退職給付引当金の期末確定額との差額償却により、退職給付引当金繰入額で大幅な戻し入れが発生したことから、全体としては前年比779,038千円の増加（+10.0％）となった。

委託費については、コンピュータシステム委託の無償期間終了による保守料の発生、医療廃棄物処理費用、託児室委託費用の契約単価の増等により、全体としては前年比24,759千円の増加（+2.1％）となった。

設備関係費については、令和2・3年度に整備した医療機器の定率法による減価償却費の減等により、前年比150,119千円の減少（△7.9％）となった。

経費については、電気料金の上昇による水道光熱費の増等により、前年比40,193千円の増加（+6.5％）となった。

以上により、医業費用全体では前年比+3.7％（+719,640千円）の19,977,501千円となった。

収益的支出全体では、前年比+4.2％（+818,481千円）の20,378,622千円となった。

（収支）

以上のことから医業収支で、554,883千円の赤字、収益的収支で1,267,472千円の黒字となった。

委　員　会

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
法的に設置する委員会	災害対策・防火・防災委員会	白塚　秀之（麻酔科部長）	15	災害救護支援室 管財課	1
	衛生委員会	吉田　啓介（事務部長）	18	人事課	12
	倫理委員会	髙野　誠一郎（副院長）	9	総務課	2
	治験審査委員会	髙野　誠一郎（副院長）	12	薬剤部	開催なし
	臨床試験審査委員会	髙野　誠一郎（副院長）	12	薬剤部	1
	臓器移植委員会	髙野　誠一郎（副院長）	14	総務課	1
	個人情報保護対策委員会	髙野　誠一郎（副院長）	10	医療情報課	2
安全管理に関する委員会	医療安全管理委員会	山崎　幸直（消化器内科部長）	14	医療安全推進課	12
	医療安全推進室カンファレンス	山崎　幸直（消化器内科部長）	13	医療安全推進課	37
	医療安全リスクマネージャー会議	山崎　幸直（消化器内科部長）	56	医療安全推進課	12
	事故調査委員会	山崎　幸直（消化器内科部長）	7	医療安全推進課	3
	院内感染防止対策委員会	山崎　幸直（消化器内科部長）	9	医療安全推進課 感染管理室	12
	医療廃棄物処理対策委員会	今村　信（副院長）	9	管財課	1
	医療ガス安全管理委員会	今村　信（副院長）	11	管財課	1
	放射線安全委員会	左合　直（放射線科部長）	18	放射線科部	1
医療の質に関する委員会	ＴＱＭ推進委員会	吉田　啓介（事務部長）	17	病院経営課	3
	クリニカルパス推進部会	吉田　博之（循環器内科部長）	22	医事サービス課 医療情報課	5
	ＱＣ活動推進部会	小松　和人(副院長）	16	病院経営課	3
	患者満足度向上部会	田嶋　公久（産婦人科部長 ）	16	病院経営課	3
	職員満足度向上部会	田嶋　公久（産婦人科部長）	12	人事課	2
	ＮＳＴ部会	川上　義行（外科部長 ）	13	病院経営課	1
	ＲＳＴ部会	多田　利彦（呼吸器内科副部長）	14	病院経営課	1
	糖尿病サポート部会	夏井　耕之（内科部長）	16	医事サービス課	1
	認知症ケアチーム部会	髙野　誠一郎（副院長）	10	地域医療連携課	2
	ＣＳＴ部会	河野　眞範（腎臓・泌尿器科部長）	14	医事サービス課	1
診療に関する委員会	栄養委員会	吉田　博之（循環器内科部長）	8	栄養課	2
	診療録管理委員会	今村　信（副院長）	30	医療情報課	開催なし
	病歴業務検討会	吉田　博之（循環器内科部長）	14	医療情報課	1
	インフォームドコンセント推進委員会	左合　直（放射線科部長）	9	医療情報課	17(うち16回 書面決済)
	診療情報提供委員会	今村　信（副院長）	9	医療情報課	12(書面決済)
	保険診療検討委員会	今村　信（副院長）	18	医事サービス課	5
	DPC/PDPS 傷病コーディング部会	今村　信（副院長）	20	医事サービス課	5
	救急医療検討委員会	嶋田　喜充 (救急部長)	34	救急部総務課	1
	救急作業部会	嶋田　喜充 (救急部長)	11	救急部総務課	12
	虐待防止対策部会	嶋田　喜充 (救急部長)	13	救急部総務課	1
	褥瘡対策検討委員会	加畑　雄大（皮膚科副部長）	17	看護部	12
	病床運営委員会	真鍋　照美（看護部長）	10	看護部	1

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
診療に関する委員会	がん診療センター運営委員会	今村　信（副院長）	17	地域医療連携課	1
	がん化学療法部会	青竹　利治（外科部長）	20	地域医療連携課	10
	緩和医療検討部会	吉羽　秀麿（外科部長）	16	地域医療連携課	2
	遺伝診療検討部会	今村　信（副院長）	13	地域医療連携課	1
	血液浄化療法委員会	小松　和人（副院長）	12	医事サービス課	1
	透析センター（透析機器安全管理）運営委員会	小松　和人（副院長）	6	医事サービス課	1
	脳卒中センター運営委員会	西村　真樹（脳神経外科部長）	13	総務課	1
	輸血療法委員会	今村　信（副院長）	13	輸血課	6
地域医療支援に関する委員会	地域医療推進委員会	髙木　治樹（院長）	18	地域医療連携課	4(うち1回書面決裁)
	地域医療支援センター運営委員会	髙野　誠一郎（副院長）	13	地域医療連携課	2
	ボランティア委員会	髙野　誠一郎（副院長）	9	医療社会事業課	開催なし
経営・運営に関する委員会	薬事委員会	髙野　誠一郎（副院長）	22	薬剤部	3
	医療機械器具購入委員会	今村　信（副院長）	26	管財課	2
	医療機械器具購入小委員会	今村　信（副院長）	5	管財課	開催なし
	診療材料購入審査委員会	今村　信（副院長）	11	管財課	3
	図書委員会	田中　文恵（外科部長）	8	医療情報課	1
	病院施設利用検討委員会	今村　信（副院長）	9	管財課	1
	中央放射線部運営委員会	左合　直（放射線科部長）	18	放射線科部	1
	リハビリテーション科部運営委員会	淺野太洋(リハビリテーション科部長)	19	リハビリテーション科部	1
	健診センター運営委員会	西川　邦寿 (健診部長)	19	健診業務課	1
	集中治療室運営委員会	白塚　秀之（麻酔科部長）	23	総務課	1
	中央手術室・滅菌室運営委員会	小松　和人（副院長）	23	総務課	2
	検査部運営委員会	今村　信（副院長）	14	検査部	1
	臨床検査適正化委員会	今村　信（副院長）	12	検査部	3
	病理診断科部業務運営委員会	大越　忠和（病理診断科部長 ）	11 名	病理診断科部	1
	臨床工学技術運営委員会	吉田　博之（循環器内科部長）	4	臨床工学技術課	1
	健康・医療情報室運営委員会	道上　学（総合診療科部長）	6	医療情報課	1
	院内保育施設運営委員会	川島　勇一（人事課長）	12	人事課	1
	情報システム管理委員会	今村　信（副院長）	19	医療情報課	9
教育・研修に関する委員会	福井赤十字病院群研修管理委員会	髙木　治樹（院長）	30	人事課	1
	福井赤十字病院臨床研修推進部会	髙野　誠一郎（副院長）	16	人事課	3
	福井赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会	赤井　雅也（呼吸器内科部長）	16	人事課	2
	歯科臨床研修管理委員会	髙木　治樹（院長）	9	人事課	2
	教育・研修推進委員会	髙野　誠一郎（副院長）	13	人事課	2
	提案・顕彰審査委員会	髙野　誠一郎（副院長）	8	病院経営課	2(うち1回書面決裁)
	広報委員会	坪川　明義（循環器内科部長）	16	病院経営課	9
その他	就業管理委員会	高野　誠一郎（副院長）	18	人事課	2
	特定行為業務管理部会	髙野　誠一郎（副院長）	10	看護部	2

南越前町への救護班の派遣について

災害救護支援室　伊　藤　心　平

８月４日（木）からの大雨により南越前町において、土砂災害、床上、床下浸水の被害が多数発生した。福井赤十字病院では、日本赤十字社福井県支部を通じて、福井県から医療支援の要請があり、８月７日（日）から医療救護班を派遣することになった。

１　救護班派遣期間

令和４年８月７日（日）～８月 13 日（土）

※救護班は午前７時に日本赤十字社福井県支部を出発し、同日中に同支部に帰還する形で派遣した。

２　派遣職種および人数

職　　種	延べ人数	実人数
医師（研修医含む）	８名	８名
看護師長	７名	３名
看護師（助産師）	14 名	７名
薬剤師	７名	２名
主事（コメディカル含む）	14 名	９名
合計	50 名	29 名

※この他に日本赤十字社福井県支部から連絡調整員が毎日同行した。

３　活動場所

・南越前町今庄診療所、訪問診療（南越前町にて実施）

・旧今庄中学校（ボランティアセンター、避難所が設置）

４　引継ぎについて

８月 14 日（日）以降は、今庄診療所での救護活動は福井県医師会（ＪＭＡＴ）に引き継ぎ

５　活動内容

・今庄診療所での診察、処置および発熱外来（コロナ検査）への対応

・今庄診療所のスタッフと訪問診療への同行

・ボランティアセンター、避難所（旧今庄中学校）での体調不良者への対応

・関係機関（県、南越前町等）との連絡調整

６　取り扱い患者数

日	８月７日（日）	８月８日（月）	８月９日（火）	８月 10 日（水）	８月 11 日（木・祝）	８月 12 日（金）	８月 13 日（土）
患者数	５名	50 名	33 名	37 名	６名	35 名	７名

※８月７日（日）、11 日（木・祝）、13 日（土）は休診のため急患のみ対応

7　今回の救護活動について

・救護班医師の選出については、災害救護支援室長、各診療科代表部長の協力も有りスムーズに決定することができた。

・救護活動の情報共有に「ＬＩＮＥ」を使用し、スタッフ間の情報共有が円滑にできた。

今庄診療所支援業務　派遣救護班名簿

日付	班数	職名	氏名	所属
8/7（日）	第１班	医師	山本　優	(脳神経外科)
		看護師長	寺島　由美	(１－６)
		看護師	山田　智美	(１－８)
		看護師	井上　めぐみ	(２－４)
		薬剤師	谷山　幸信	(薬剤部)
		事務	山崎　悠平	(病院経営課)
		事務	竹内　凌	(管財課)
		調整員	山田　智也	(支部事業推進課長)
		調整員	高久　秀二	(支部企画監)
8/8（月）	第２班	医師	成山　美々	(救急部)
		看護師長	寺島　由美	(１－６)
		看護師	山田　智美	(１－８)
		看護師	井上　めぐみ	(２－４)
		薬剤師	谷山　幸信	(薬剤部)
		事務	山崎　悠平	(病院経営課)
		事務	竹内　凌	(管財課)
		調整員	山田　智也	(支部事業推進課長)
8/9（火）	第３班	医師	早瀬　史子	(神経内科)
		看護師長	寺島　由美	(１－６)
		看護師	山田　智美	(１－８)
		看護師	北野　貴之	(２－５)
		薬剤師	谷山　幸信	(薬剤部)
		事務	柳澤　彰吾	(医療情報課)
		事務	中山　泰博	(リハビリ PT)
		調整員	高久　秀二	(支部企画監)
8/10(水)	第４班	医師	川上　義行	(外科)
		看護師長	石田　克子	(２－７)
		看護師	斉藤　みか	(２－４)
		看護師	北野　貴之	(２－５)
		薬剤師	谷山　幸信	(薬剤部)
		事務	柳澤　彰吾	(医療情報課)
		事務	黒田　圭太	(リハビリ OT)
			高久　秀二	(支部企画監)

8/11（木）	第５班	医師	中野　雅子	（内科）
		看護師長	石田　克子	（２－７）
		助産師	斎藤　みか	（２－４）
		看護師	高田　瑛美	（１－７）
		薬剤師	谷山　幸信	（薬剤部）
		事務	田中　健	（管財課）
		事務	中谷　真悟	（医事サービス課）
		調整員	山田　智也	（支部事業推進課長）
8/12（金）	第６班	医師	森谷　哲士	（呼吸器外科）
		研修医	稲田　惇一郎	（初期臨床研修医２年）
		看護師長	福田　清美	（１－４）
		看護師	高田　瑛美	（１－７）
		看護師	上田　悠平	（２－７）
		薬剤師	細谷　拓史	（薬剤部）
		事務	田中　健	（管財課）
		事務	鈴木　敏弘	（医療社会事業課）
		調整員	高久　秀二	（支部事業推進課長）
8/13（土）	第７班	医師	黒川　紘輔	（呼吸器内科）
		看護師長	福田　清美	（１－４）
		看護師	上田　悠平	（２－７）
		看護師	真柄　昌代	（１－４）
		薬剤師	細谷　拓史	（薬剤部）
		事務	吉岡　見悟	（人事課）
		事務	鈴木　敏弘	（医療社会事業課）
			山田　智也	（支部事業推進課長）

（発熱外来での検査）

（県、南越前町等との Web 会議に参加）

（水害によって発生した廃棄物）

（今庄診療所での様子①）

（今庄診療所での様子②）

（発熱外来での検査）

病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）の審査を終えて

TQM 推進委員会

平成 30 年に 4 回目の更新審査（3rdG:Ver.1.1）を受審して以来、5 年ぶり 5 回目の病院機能評価の更新審査となった。

3rdG:Ver.2.0 では訪問審査を行う病棟や症例の一部が直前に指定されることが特徴的であり、全病院を挙げた受審準備がより一層重要性を増した。準備に際しては 1 領域（患者中心の医療の推進）、２・３領域（良質な医療の実践）、４領域（理念達成に向けた組織運営）のそれぞれに任命したコアメンバーを中心に、外部コンサルタントの助言も受けながら現状把握と改善策の検討を繰り返し行った。

訪問審査は令和 5 年 2 月 16 日（木）、2 月 17 日（金）の 2 日間にかけて、診療・看護・事務領域各 2 名、計 6 名のサーベイヤーにより実施された。

前回を超える高評価を受け、令和 5 年 6 月 2 日付けで認定 5 回目の認定証が交付された。

≪受審体制≫

総括	髙木院長、小松副院長、吉田 TQM 推進委員会委員長、真鍋看護部長、木戸病院経営課長
総括事務局	島野病院経営課係長、山﨑病院経営課主事、渡辺企画幹

領　　域	TQM 委員会委員および担当者	看護部	事務部
【1 領域】　患者中心の医療の推進 患者の視点に立った良質な医療を実践するうえで求められる病院組織の基本的な姿勢について評価 患者の安全確保や医療関連感染制御に向けた病院組織の検討内容、意思決定について評価 1.1 患者の意志を尊重した医療 1.2 地域への情報発信と連携 1.3 患者の安全確保に向けた取り組み 1.4 医療関連感染制御に向けた取り組み 1.5 継続的質改善のための取り組み 1.6 療養環境の整備と利便性	高野副院長 吉田クリニカルパス推進部会長 西村脳神経センター長	真鍋看護部長 西向看護副部長 勝木看護師長	青柳地域医療連携課長 櫻井医療情報課長 新河戸医療安全推進課係長 近藤総務課係長 大澤医事サービス課係長 山﨑人事課係長 西嶋医事サービス課主事 吉岡人事課主事

領　　域	TQM委員会委員および担当者	看護部	事務部
【2領域】　良質な医療の実践1 病院組織として決定された事項が、診療・ケアにおいて確実で安全に実践されていることを評価 2.1診療・ケアにおける質と安全の確保 2.2チーム医療による診療・ケアの実践	小松副院長 田嶋患者満足度向上部会長 坪川医局世話人 山崎消化器センター長 渋谷薬剤部課長 杉本検査部課長	西川看護副部長 西郡看護師長 寺島看護師長 濱野看護師長 相模看護師長 辻看護係長	杉田事務副部長兼医事サービス課長 齋藤医療安全推進課長 中野医療情報課係長 五十嵐管財課係長 坪田医事サービス課係長 伊藤医療社会事業課係長 枡谷医事サービス課主事 佐野人事課主事 佐藤総務課主事 小林管財課主事
【3領域】　良質な医療の実践2 確実で安全な診療・ケアを実践するうえで求められる機能が各部門において発揮されていることを評価 3.1良質な医療を構成する機能1 3.2良質な医療を構成する機能2	今村副院長 赤井呼吸器センター長 小川薬剤部長 西村放射線科部技師長 仲辻リハビリテーション科技師長	西向看護副部長 川端看護師長 高島看護師長 妹尾看護師長	荒井管財課長 酒井医療支援課長 宮下医事サービス課係長 堀江地域医療連携課係長 田中医療支援課係長 森岡人事課係長 小川医療情報課係長 山本医事サービス課主事 中谷医事サービス課主事
【4領域】　理念達成に向けた組織運営 良質な医療を実践するうえで基盤となる病院組織の運営・管理状況について評価 4.1病院組織の運営と管理者・幹部のリーダーシップ 4.2人事・労務管理 4.3教育・研修 4.4経営管理 4.5施設・設備管理 4.6病院の危機管理	吉田事務部長	松田看護師長 内田看護師長 井口看護師長	川瀬事務副部長兼総務課長兼医療社会事業課長 川島人事課長 上野人事課係長 山本医事サービス課係長 吉田病院経営課係長 松原管財課係長 西本医事サービス課主事 笠原医療安全推進課主事

≪訪問審査スケジュール：１日目≫

(A) 診療①・看護①・事務①　(B) 診療②・看護②・事務②　(C) 事務①・事務②

月　　日	時　　間	審査内容	場　　所	受　審　者
2月16日(木)	9：25 ～ 10：40	病院概要説明 書類確認	講堂	院長・医療安全、感染管理担当者・事務副部長・事務部課長・その他所属長
	10：50 ～ 11：55	1領域面接調査	講堂	院長・副院長・事務部長・看護部長・事務部課長　他
	12：00 ～ 12：20	4領域面接調査	講堂	院長・副院長・事務部長・看護部長・事務部課長　他
	13：30 ～ 14：10	(A)1-6病棟概要確認 (B)1-5病棟概要確認	1-6病棟 1-5病棟	診療科代表部長・主治医・看護師長・その他各職種関係者
	14：10 ～ 15：40	(A)1-6病棟ケアプロセス調査 (B)1-5病棟ケアプロセス調査	多目的室 大会議室	診療科代表部長・主治医・看護師長・その他各職種関係者
	15：10 ～ 16：10	(C) 事務領域面接調査	講堂	事務部長、事務部課長
	15：55 ～ 16：15	(A)2-8病棟概要確認 (B)1-8病棟概要確認	2-8病棟 1-8病棟	診療科代表部長・主治医・看護師長・その他各職種関係者
	16：15 ～ 17：30	(A)2-8病棟ケアプロセス調査 (B)1-8病棟ケアプロセス調査	多目的室 大会議室	診療科代表部長・主治医・看護師長・その他各職種関係者
	17：30 ～ 17：55	(A) 救急外来訪問 (B) 一般外来訪問 化学療法室訪問	救急外来 消化器センター 化学療法室	診療科代表部長・看護師長・薬剤部・総務課・医事サービス課・医療支援課　他
	16：10 ～ 17：55	(C) 部署訪問 病歴室 図書室 当直室 休憩室（リラクゼーションルーム）、職員食堂 災害救護支援センター 防災センター 救急外来 整形外科外来 医事サービス課 感染性廃棄物保管場所 栄養課	左記のとおり	各部門所属長・担当者

≪訪問審査スケジュール：２日目≫

(A) 診療①・看護①・事務①　(B) 診療②・看護②・事務②

月　日	時　間	審査内容	場　所	受　審　者
2月17日(金)	9：00 ～ 11：30	(A) 部署訪問 教育研修推進室 病理診断科部 相談窓口 入退院支援センター 中央内視鏡室 地域医療連携室 検査部、輸血センター	左記のとおり	各部門所属長・担当者
	12：30 ～ 13：30	(B) 部署訪問 医療安全推進室 感染管理室 透析センター 放射線治療センター 臨床工学技術課 中央放射線部 中央滅菌室 中央点滴室		
	12：30 ～ 13：30	(A) 部署訪問 中央手術室 集中治療室 脳卒中ケアユニット	左記のとおり	各部門所属長・担当者
		(B) 部署訪問 リハビリテーション科 薬剤部		
	13：30 ～ 15：30	合議会議（サーベイヤーミーティング）および再確認	講堂	
	15：30 ～ 16：30	講評および意見交換	講堂	院長・副院長・事務部長・看護部長・各部門所属長　他

（書類確認用の各種資料）

（面接調査を待つ職員）

（病棟概要確認）

（ケアプロセス調査）

1. 内　　科　　部

1．スタッフ

〈内科スタッフ〉

部長	夏井　耕之	日本内科学会総合内科専門医 日本糖尿病協会認定医
副部長	中野　雅子	日本内科学会総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医
医師	杉山　光寿	（令和４年４月１日着任、令和５年３月 31 日退職）
非常勤医師	古谷　真知	
非常勤医師	笠原　美沙子	

2．診　療

主に内分泌代謝疾患として、糖尿病全般、甲状腺・副腎・下垂体などを中心とする内分泌疾患、脂質異常症、肥満症、あるいは内分泌代謝疾患に起因する電解質異常、などの専門的診療にあたっている。これに付随・合併する各種疾患、および他科／他疾患に上記が合併している場合、あるいは他疾患治療に起因する高血糖ほか二次性糖尿病、そのほかの二次性内分泌疾患などについて、併診加療することで、病院全体の診療体制に深くかかわる。

3．実　績（令和４年度）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
A 総患者数　のべ人	15,309	16,642	18,550
B 他院からの紹介総数　のべ人	258	180	179
C 他科併診例を含む他院への逆紹介数（情報提供書数）　のべ人	533	553	346
D 外来新患総数　のべ人	1,074	1,071	699
E 入院患者総数　のべ人	276	188	183
F 他科よりの院内対診数　のべ人	1,340	1,567	4,452

昨年度より血液内科・当科が分離、さらに昨年度中に退職者もあって、患者統計は解釈困難である。人数減少の割に、入院患者数などあまり変化はなかったといえる。F, 他科よりの院内対診数は、総数からのべ人数へと算出方法が変わり、結果大幅増加とみえることになった。

・令和元年よりは、福井大学第三内科のご好意により、常勤医一名、はじめ非常勤医２名の赴任を得て、スタッフ常勤３名体制を維持し、週一回ずつの外来を非常勤医２名に受け持っていただいている。

・働き方改革の余波もあり、さらなる発展のみならず従来の勤務内容の維持に支障をきたしつつある。

4．次年度の目標

・　先記載のごとく、福井大学医学部との連携を深め、なんとか人員の確保を維持したい。他の大学・病院機関や公募などの手段も講じつつマンパワーの維持増進が喫緊の目標となる。

新型コロナの今後の動向にもよるが、このまま推移するなら、糖尿病教室・内分泌検査入院など

当科に特徴的な入院診療の実績も伸びていくと期待される。

５．新規設備・特殊検査などについて

一 CGMS 機器（リブレプロ）は、さらに継続して症例数をさらに拡大中。同時に家庭用・患者用の連続グルコースモニタ技術であるリブレプロも徐々に使用者が増えてきている。当科における医療技術向上のみならず、患者の高低血糖危険を避けてその QOL を向上させるとともに、病院収入にも貢献していると考える。スマートウォッチ連動の異侵襲的血糖モニタの一部機器がアメリカで承認されるといわれていわれ、近い将来使用可能となるといわれる。

６．治療法について

糖尿病治療については、従来の内服発展、適応病名の拡大、新規インスリン・インクレチン注射製剤、インスリンとインクレチンの混合注射製剤、さらには内服 GLP1 製剤や新規成分のイメグリミン製剤と、目覚ましい発展を遂げつつある。患者中心のメンタルケアを標榜しつつも、これらのうち効果が目覚ましい・確実である新規薬剤の積極的な採用をおこない、臨床経験を積むことで先進的治療の魁をめざす。

高齢者医療については、さらに高齢化社会・医療費の高騰と問題山積である。2023 年度に高齢者糖尿病診療の手引きが改定されるので、また体勢に遅れをとることなく遂行していく。

2．精神科部（ストレス心療科）

1．スタッフ

部長（兼）　　髙野　誠一郎
　　（本：神経内科部長）

非常勤医師　　松原　六郎（公益財団法人松原病院　代表理事）
　　高橋　哲也（医療法人社団信和会　魚津神経サナトリウム副院長）
　　佐藤　友香
　　堀内　真希（公益財団法人松原病院）
　　幅田　加以瑛（福井大学医学部附属病院神経科精神科　助教）

心理判定員
（常　勤）　　寺井　堅祐　　臨床心理士

2．診　療

当院のストレス診療科は、旧来の表現を借りて言うならば、いわゆる「総合病院における精神科」として、身体他科に入院中の患者をめぐってのリエゾン精神医療が中心です。有態に言えば、病棟において治療管理上困難を極めている患者についての加療、コンサルテーションが主で、その需要に答えるべく対応してきました。しかし、現時点で次のような問題があります。以下の２点です。

1)「医師力」が満たされておらず、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」状態のままであること。

身体他科に比べて問診に頼る部分が圧倒的に大きく、患者一人当たりに多大な時間を要すことは今さら言うまでもないことですが、問題は、それを満たすだけの「医師力」（中心となるのは医師稼動数）が充足されていないことです。つまり、常勤医師がおらず、非常勤医師の配置も、需要に応ずるに足る診療日の設定がなされていないこと。言い換えるなら、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」ということです。このような状態の解消がまず求められます。

2) 精神科診療に対する理解と協力の関係が看護者との間で十分に形成されていないこと。

精神科診療では、「患者を分かろう」とする場合には、すなわち、単なる「レッテル張り的な診断」ではなく、「『対応指針』を導き出すという意味での診断」を行おうとする場合には、病棟での、患者のさまざまな様子の記載が、その大きな手がかりを与えてくれます。ところが、病棟から精神科へ対診依頼が出されているにもかかわらず、診断上有力な材料となるはずの病棟看護記録上に所見の記載がないことが多く、あるいは様子を尋ねても十分把握されていないとか、答えられないとかということが多く見受けられ、診療がスムーズに行かないことが多々あります。これは、看護者は精神科診療に寄与しなければならないのに、していない、という趣旨からの指摘ではありません。むしろ、看護活動にとっても精神科診療にとっても共通して求められる「『患者を分かろう』とする姿勢」の「欠如」を物語るものとして問題視される必要があり、そして、精神科診療にとっても、看護者にとっても、両者の関係が、お互いの仕事が活かされあうような関係として成り立っていない、ということを意味するものであり、さらに別の角度から言うと、看護者の「看護的観察力・把握力」の「欠如」という事態であります。いずれにせよ、これらの問題の鍵は、看護者と精神科診

療との間の相互の協力関係の中にあることは間違いありません。それ故、当院の看護力と精神科診療力とのそれぞれの向上のために、今後、相互の協力関係を足掛りにした解決に向けての取り組みが求められます。

３．実　績（令和４年度　対診依頼　　実績）

総対診数	４８９件

４．目　標

＜令和４年度　精神科４大重点目標＞

1) 精神科医師空白曜日をできるだけ少なくして、可能な限り、「診て欲しい時に、いつも精神科医師がいてくれる」状態に近付けるよう努力します。
2) 「『患者を分かろうとする』という姿勢」を自分達のものにするという観点から、看護者と精神科診療とにおける理解が、お互いに活用され合えるようにするために、場合によっては、看護者（看護部）との勉強会を設けて、看護者との意思疎通の機会を作り出し、相互の協力関係を築き上げていきます。
3) リエゾン精神医学の一歩踏み込んだ形として、精神腫瘍学的アプローチに、今まで以上に積極的に取り組んでいきます。
4) 入院患者で精神疾患を併存しておられる方も多くおられます。救急入院された患者さんに対して、3日以内に入院精神療法を開始できるように体制を整えます。

3．神 経 内 科 部

１．スタッフ

副院長兼部長	髙野誠一郎	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医　指導医
		日本神経学会認定神経内科専門医、指導医
		日本脳卒中学会専門医
		日本臨床神経生理学会認定医（脳波）（筋電図・神経伝導）
		日本認知症学会認定専門医、指導医
		日本プライマリ・ケア連合学会認定医
副部長	今村　久司	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 指導医
		日本神経学会認定神経内科専門医、指導医
		日本てんかん学会　専門医 指導医
		日本臨床神経生理学会認定医（脳波）
副部長	早瀬　史子	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医　指導医
		日本神経学会認定神経内科専門医
		日本認知症学会認定専門医
		日本認知症予防学会専門医
		日本頭痛学会専門医
後期研修医	田中　大暉	令和５年３月 31 日退職
後期研修医	北村　算英	

２．診　療

令和４年度、当院神経内科診療体制は、高野副院長、今村副部長、早瀬副部長、田中医師、北村医師の５人で神経内科の診療を行いました。

３．実　績

入院数 327（323）人、脳卒中 162（166）人、DPCI+II 47.7（48.6）%, 紹介患者数 648（572）人、逆紹介患者数 1063（938）人、脳卒中入院は神経内科＋脳外科では 414（444）人、() 内は令和３年度。COVID19 の影響による病棟閉鎖、救急受け入れ制限を受け数は減少していますが、紹介や逆紹介患者数を上げることができました。早瀬副部長が頭痛学会専門医を取得し、専門外来を令和４年 11 月に開設しました。

４．目　標

平成 18 年６月に脳神経外科と共同で創設した、脳卒中センター（ Stroke Care Unit）を継続し、適切な脳卒中治療を行うことを第一の目標としました。当院の場合、神経内科と脳神経外科の医師で、24 時間診療体制を継続しています。医師、看護師、リハビリ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、ソーシャルワーカーが共同して、治療に当たっています。また、認知症、パーキンソン病、頭痛、てんかん、多発性硬化症、神経筋疾患など、神経内科領域で頻度の高い疾患について、適切な治療を全ての医師がおこなえるよう、研鑽を行っています。

4．呼吸器内科部

1．スタッフ

第１部長 兼	赤井雅也	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医
呼吸器ｾﾝﾀｰ長 兼		日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医
感染管理室長		日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医、指導医
		ICD 制度協議会認定ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾞｸﾀｰ
		日本医師会認定産業医
		医学博士（福井医科大学）
第２部長	出村芳樹	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医
		日本内科学会認定内科医、総合内科専門医
		日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医、指導医
		日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、指導医
		日本臨床腫瘍学会暫定指導医
		日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ連合学会ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ認定医、指導医
		医学博士（福井医科大学）
副部長	多田利彦	日本内科学会認定内科医
		日本呼吸器学会認定呼吸器専門医
		日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医
医師	大井昌寛	日本内科学会認定内科医
医師	軸屋紀宏	
医師	武田俊宏	
医師 （後期研修医）	黒川浩輔	
医師 （後期研修医）	佐々木圭	

（人事）

令和４年度は４月１日付で京都府立医科大学付属病院から佐々木医師が着任し、呼吸器内科としては８人体制となっています。

2．診　療

令和５年３月 31 日現在、当科は 2-6 病棟、3-3 病棟（休床中）、５病棟、PCU に定床を持ち、名目

上計63床（結核10床を含む）です。診療内容としては、超音波気管支鏡、特殊光気管支鏡、仮想気管支鏡システムなどの最新の呼吸器内視鏡が運用開始となって10年目に入り、肺癌をはじめとする各種疾患の低侵襲での早期診断や診断率向上に寄与、定着しています。

肺感染症は、各種疾患の最終的・末期的な病態として現れることが多く、従って致死的・難治性で難渋させられる症例が増えてきています。なかでも抗癌剤やステロイド剤・免疫抑制剤使用患者の日和見感染や、MRSAなどの多剤耐性菌対策が重要です。当科でも他科やICT、ASTと連携し、また各種ガイドラインに則って治療を行っています。

慢性感染症としての結核は、他施設の結核病棟が廃止・縮小される中、県内での当科の重要性が増してきています。病棟は結核の感染様式を考慮して陰圧個室の多い病棟です。初回の開放性結核はもちろんの事ですが、多剤耐性、老人、重症初感染例に加えて外国人の結核も多く見られるようになりました。集団発生例・若年発症例など貴重な症例も多く、治療に難渋する事もしばしばです。令和2年2月から新型コロナウイルス感染症入院対応に5病棟が転用されたため、以降当院の結核入院治療はできなくなっています。肺非結核性抗酸菌症は近年罹患率が上昇しており、中でも9割弱を占めるMAC症は中年の女性に多く、当科でも難治例が年々増加してきています。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は今後しばらく患者数が右肩上がりに増加すると見られています。当科ではCOPDに対して、包括的呼吸リハビリテーションや在宅酸素療法、在宅NPPV療法なども含めて積極的に取り組んでおります。特に前者はリハビリ科や栄養課にも御理解頂き、対象患者を増やしているところです。在宅酸素療法、在宅NPPV療法では60人を超える患者さんが治療を行っています。

気管支喘息治療も進歩しており、吸入ステロイド薬・長時間作用型β2刺激薬、長時間作用型抗コリン薬、IgEやIL-5等に対する抗体薬により喘息コントロール状態は飛躍的に改善しました。そのため救急入院の頻度は減りましたが、外来通院患者数は北陸でもトップクラスです。また、ここ10年以上、喘息死は当院では0です。平成28年度から立ち上げたBronchial Thermoplasty（気管支温熱療法）も順調に症例数が伸びています。気管支鏡で施行しますが、北陸ではまだ5施設のみでしか行っておらず、しかも局麻下で行っているのは当院のみです。喘息の病状の安定や薬の減量が長期に渡って期待できます。

肺癌はいまや当科入院患者の7割を占めるに至っています。気管支鏡検査数も平成24年年以降は200-300件前後で推移し増加傾向でしたが、ここ3年は新型コロナウイルス感染症の影響で件数は減っています。当科では肺癌に対して積極的に取り組み、呼吸器外科・放射線科と連携して手術・化学療法・放射線療法を組み合わせた集学的な治療を展開しています。また、近年個別化治療も進歩し、当科でも積極的にEGFR遺伝子変異やEML4-ALK融合遺伝子異常などのdriver mutationやPD-L1発現を検査し、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の適応を考慮しています。ステント挿入など内視鏡的インターベンションも、出村部長を中心に積極的に行っています。滲出性胸水症例に行う局麻下胸腔鏡検査も平成16年に導入以降、400例を越えて胸水の原因診断率が飛躍的にあがりました。胸腔鏡も含めて、冒頭に述べたように最新の呼吸器内視鏡も導入され、最近は「咳ゼロ気管支鏡」をモットーにして、患者に苦痛を与えない気管支鏡を目指しています。今後も県内では当科が先頭に立って肺癌治療に取り組みたいと考えています。

びまん性肺疾患では、特発性間質性肺炎や、好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎などアレルギーの関与した病態に対して今関心が集まっていますが、まだまだ新しい知見の多い部門で、これから診断・治療に大きな発展が期待されます。睡眠時無呼吸症候群は、専門外来を設け積極的に取り組んでいます。その結果、閉塞型に対する夜間の鼻マスク式陽圧呼吸（nasal CPAP）療法導入の患者が増加しています。

令和2年年1月からパンデミックを起こした新型コロナウイルス感染症ですが、同年3月下旬に当

院１例目を受け入れて以降、R3 年、R4 年と重症例も含めて断続的に入院治療を行っています。赤井は感染管理室長として入院診療の統括を行っており、呼吸器内科は全員が軽中等症～重症に至るまでの症例を主治医として他科より多く関わっています。

３．実　績

気管支鏡検査施行件数（病棟での処置内視鏡数は除く。TS は内数で局麻下胸腔鏡検査）

	令和４年 161 件（TS 13 件）
EBUS-GS	62
EBUS-TBNA	53
末梢 TBNA	3
BAL	6
Hot biopsy	5
異物除去	-
ｽﾃﾝﾄ留置	-
EWS	2
ｲﾝｼﾞｺﾞ噴霧	-
Thermoplasty	5
EUS-B-FNA	24
気管支拡張術	-
塞栓術	-
金ﾏｰｶｰ留置	-
ポリペク	1

5．消化器内科部

１．スタッフ

代表部長	山崎　幸直	日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本内科学会認定医・指導医 日本カプセル内視鏡学会指導医 福井大学臨床教授 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
第２部長	道上　　学	日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア指導医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
第３部長	松永　心祐	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	里見　聡子	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	三原　美香	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了 原子力災害対策基礎研修会終了

副部長　　西山　　悟　　日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医王
日本内科学会認定医・総合内科専門医
TNT 講習受講
緩和ケア研修会終了
ICLS インストラクター

医　師　　鳥居　志充　　日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本内科学会認定医
TNT 講習受講
緩和ケア研修会終了

医師　　保坂　亮介　　日本内科学会認定医
緩和ケア研修会終了

専攻医　　河合　信佳　　緩和ケア研修会終了

専攻医　　佐竹　裕暁　　緩和ケア研修会終了

非常勤医師　永井　将也　　緩和ケア研修会終了

非常勤講師　久津見　弘（滋賀医科大学臨床研究開発センター教授）

非常勤医師　畑　　正典（畑内科院長）

２．診　療

令和４年度は内科専攻医カリキュラムにて前年度上半期　福井大学救急部、下半期　福井厚生病院内科に勤務していた河合信佳専攻医が３年目の後期研修のために当院に復職し、代わって永井将也専攻医が同様に一時退職（上半期　福井大学救急部、下半期　福井厚生病院内科勤務）となった。しかしながら、京都第二赤十字病院消化器内科から専攻医２年目の派遣受け入れ依頼があり、８月１日付けで佐竹裕暁専攻医が着任したため、スタッフは増減なしの 10 名で診療を行った。永井医師は毎週木曜日に非常勤医師として内視鏡診療をサポートしてくれ、例年通りに久津見非常勤講師には月１回の ERCP 手技を中心とした技術指導､畑医師には毎週木曜日午後に下部消化管内視鏡検査を担当頂いた。

北海道置戸赤十字病院への医師派遣については前年に引き続き、派遣準備は整っていたが、派遣要請がなかったため実現しなかった。

令和４年度も外来初診患者の待ち時間削減を図るべく、前年度から継続して週３回の初診担当医２名体制での診療を行った。補助的役割を担う初診②担当医は 10 時までの時間限定でドック２次検診症例を優先として初診患者を診療し、初診①担当医のサポート的診療を行った。

毎月第１金曜日に開催している多職種参加（消化器内科医師、内視鏡室看護師、内視鏡検査技師、内視鏡洗浄員、外来看護師、外来事務補佐員）の内視鏡室カンファレンスでは検査待ち時間削減、時

間内検査終了、高水準かつ安全安楽な検査施行、外来業務とのスムーズな連携に必要な事項について継続的に話し合った。

コロナ陽性患者に対する内視鏡検査シミュレーションを継続的に行いつつ、数件の対象症例に対して５病棟出張検査ならびに内視鏡室、透視検査室での検査を施行した。

令和４年度の内視鏡検査件数では上部消化管内視鏡検査・下部消化管内視鏡検査は前年比較でやや減少したものの、ERCP は経年的に増加傾向が維持されていた。消化器特殊内視鏡手技においては、ERCP 関連手技である胆道ステント留置術や乳頭切開術は順調に増加した。また、胃および大腸粘膜下層切開剥離術（ESD）は伸び悩んだものの、食道 ESD は倍増した。

学術面では日本消化器内視鏡病学会総会には計４題、日本消化器病学会総会・大会に５題、日本消化器内視鏡学会および日本消化器病学会北陸支部例会には内視鏡学会パネルディスカッション１題を含む計５題、日本消化器がん検診学会東海北陸地方会にはシンポジウム１題の演題を発表した。

３．実　績

令和元年から令和４年度までの検査件数

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
上部消化管内視鏡検査	10713 回	8853 回	9627 回	8982 回
上部超音波内視鏡検査	64 回	54 回	52 回	40 回
EUS-FNA	35 回	26 回	27 回	28 回
内視鏡的消化管止血術	108 回	100 回	113 回	95 回
内視鏡的粘膜剥離術（胃 ESD）	87 回	79 回	100 回	80 回
内視鏡的粘膜剥離術（食道 ESD）	16 回	7 回	10 回	21 回
内視鏡的食道硬化療法	14 回	21 回	24 回	13 回
経皮内視鏡的胃瘻造設術	36 回	29 回	39 回	34 回
食道ステント留置	1 回	3 回	7 回	8 回
胃十二指腸ステント留置	4 回	9 回	10 回	14 回
カプセル内視鏡	19 回	17 回	32 回	21 回
下部消化管内視鏡検査	2427 回	2358 回	2490 回	2318 回
内視鏡的ポリペクトミー	433 回	451 回	551 回	495 回
内視鏡的粘膜剥離術（大腸 ESD）	16 回	23 回	28 回	25 回
内視鏡的粘膜切徐術	326 回	358 回	362 回	282 回
下部消化管ステント留置術	15 回	22 回	21 回	16 回
胆膵内視鏡検査（検査数重複あり）				
ERCP	309 回	344 回	403 回	431 回
胆道ステント留置	143 回	152 回	194 回	214 回
内視鏡的乳頭切開術	120 回	140 回	158 回	179 回
胆道結石除去術	90 回	101 回	121 回	122 回
小腸内視鏡	18 回	11 回	5 回	6 回

6．循環器内科部

1．スタッフ

循環器内科部長　兼　医療技術部長　兼　病歴室長

	吉田　博之	日本内科学会　総合内科専門医・指導医
		日本循環器学会　専門医

循環器内科部長　兼　救急部長

	坪川　明義	日本内科学会　総合内科専門医
		日本循環器学会　専門医
		日本心血管インターベンション学会指導医
循環器内科部長	皿澤　克彦	日本内科学会　総合内科専門医・指導医
		日本循環器学会　専門医
循環器内科副部長	榊原　圭一	日本内科学会　総合内科専門医
		日本循環器学会　専門医
		日本心臓リハビリテーション学会指導士
循環器内科医師	宮原　孝輔	
循環器内科医師	大嶋　美華	

2．診　療

急性心筋梗塞や急性心不全を中心とした循環器救急の診断と治療の他、連携医療機関からの入院依頼に対して24時間体制で対応しています。心不全患者には入院早期から心臓リハビリを導入し、心臓リハビリテーション指導士を中心とした多職種カンファレンスを行っています。入院患者にはクリニカルパスを適用し医療の安全と質の向上に努めています。心臓カテーテル検査・治療は橈骨動脈や遠位橈骨動脈穿刺による低侵襲を心掛けています。令和3年4月から新たに高度石灰化病変に対する治療器具としてロータブレーターやダイアモンドバックが使用可能となり治療範囲が拡大しました。深部静脈血栓症や慢性動脈閉塞症の診断を血管エコーで積極的に行っており、下肢虚血に対する経皮的動脈カテーテル治療にも積極的に取り組んでいます。冠動脈CTによる冠動脈の形態学的検査の他、心筋シンチによる血流や代謝の評価も行い、心臓MRIや心臓PET-CTによる心筋症検査にも対応しています。検知困難な不整脈には長期間心電図検査や植込型心電計が選択でき、ペースメーカー術後患者には遠隔モニタリングを導入し心房細動の早期発見に努めています。

３．実　績

	令和４年
ホルター	390
UCG	3,865
心筋シンチ	273
冠動脈 CT	284
心臓 MRI	34
PCI	155
緊急 PCI	49
待機 PCI	106
EVT	36
心不全患者	202
心不全入院中死亡	13
入院患者	572
平均在院日数	13.3

令和４年　急性心筋梗塞 PCI 患者数

AMI　43 件（救急車搬送　24 件）ST 上昇型 33 件　　非 ST 上昇型 10 件

院内死亡率　7.0％

ST 上昇患者の救急車到着から再灌流までの平均所要時間　84.5 分

４．目　標

循環器救急患者に 24 時間対応します。

高度医療機器を用いた診断と治療を提供します。

高齢化で増加する心不全患者に教育と治療を提供します。

7. 血液内科部

1. スタッフ

副院長 兼	今村　信	日本内科学会指導医・同認定医
血液内科部長 兼		日本血液学会血液専門医
第１内科部長 兼		日本輸血学会認定医
がん診療センター長 兼		
検査・病理部長 兼		
輸血責任医師		
副部長	多崎　俊樹	日本内科学会認定医 日本血液学会血液専門医
医師	塚崎　光	日本内科学会認定医 日本血液学会血液専門医
医師	山本　雄也	
非常勤医師	木下　圭一	日本内科学会専門医 日本血液学会血液専門医 日本感染症学会 Infection Control Doctor

2. 診　療

令和３年７月１日から新設され、外来および入院診療にあたっている。診療は血液疾患（造血器悪性腫瘍および非腫瘍性血液疾患）を主とし、血液疾患以外には感染症（HIV 感染症を含む）さらに地域医療に貢献するとの立場から広く疾患を受け入れて診療を行っている。外来は月曜日から金曜日まで毎日、再来ならびに紹介患者や院内他科からの紹介を含めた新患に対応している。

血液疾患の治療領域では特に造血器悪性腫瘍の治療において分子標的療法や新規抗腫瘍剤、サイトカイン製剤の発展により治療法の改善や変化がみられ外来治療患者は増加傾向にある。特に多発性骨髄腫の領域ではここ数年で新薬開発・臨床応用が相次ぎ、各患者さんの年齢や全身状態に則した治療の選択肢が広がってきている。また非腫瘍性疾患の領域においても特発性血小板減少性紫斑病ではリツキシマブが新たに適応追加となり、再生不良性貧血では特発性血小板減少性紫斑病で適応のあるエルトロンボパグおよびロミプラスチンも再生不良性貧血にも適応拡大となり各疾患で治療の選択肢は増えてきている。

入院治療は疾患の特殊性から専ら 1-7 病棟に集中させている。同病棟には造血器幹細胞移植を行う高度無菌室２室と個室無菌室８室の計 10 室に加え、多床型無菌室２室８床の合計 18 床を配置し高度の感染症対策を施した環境で治療を行っている。個室無菌室のうち１室は陰圧室への変更が可能であり、隔離が必要な感染症治療の際に利用している。近年の化学療法を受ける患者数の増加により無菌室は常時フル回転で稼働している。

治療内容に関しては「造血器腫瘍ガイドライン 2023 年度版」や「NCCN ガイドライン、造血器腫瘍」などに準拠して各疾患の標準療法を実施していくことを第一としていることに加え、個別化を図り各患者に最適となる治療となるように心がけている。この分野の疾患は難治性疾患も少なくなく、院内他部門とくに放射線部と協力し集学的治療を推し進めている。

入院患者は疾患別には造血器悪性腫瘍が大部分を占め、急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の化学療法を積極的に行っている。悪性リンパ腫の化学療法症例数は例年と変わらず多くかつ高齢者が多い状況は変わっていない。比較的若年で通院が可能な患者には外来化学療法も積極的に推進している。

また、細胞治療も積極的に進めており輸血課と共同して造血幹細胞移植（自家末しょう血幹細胞移植、同種骨髄移植など）を行っている。特に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法は標準治療となってきており、適応のある患者さんに説明を十分に行い積極的に取り入れている。なお、金曜日には医師による血液カンファレンスを行い、また、月に１回、病棟スタッフ・リハビリ部門・栄養課と共同での血液カンファレンスを行いスタッフは患者ごとに疾患の状況などを共有できるように指向している。さらに、月に１回、病理・血液カンファレンスを開催し症例検討を行っている。

３．実　績

【血液内科】

(1) 患者数

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
総患者数	10,489	11,640	8,249
他院からの紹介総数	239	212	69
他科併診例を含む他院への逆紹介数（情報提供書数）	357	378	286
外来新患総数	499	1,251	375
入院患者総数	530	596	366
在宅患者総数	11,673	12,371	8157
他科よりの院内対診数	485	565	362

(2) 病名別入院患者数

病　　名	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
ホジキンリンパ腫	5	7	5
非ホジキンリンパ腫	200	165	123
原発性マクログロブリン血症	7	7	6
多発性骨髄腫	54	103	63
形質細胞白血病	6	3	0
形質細胞腫	4	0	0
急性リンパ性白血病	7	8	0
慢性リンパ性白血病	0	0	0
成人Ｔ細胞性リンパ腫	17	14	0
芽球性形質細胞様樹状細胞腫	0	0	0

病　　名	令和２年度	令和３年度	令和４年度
急性骨髄性白血病	23	57	33
慢性骨髄性白血病	14	6	5
急性前骨髄球性白血病	0	0	0
慢性骨髄単球性白血病	0	1	0
急性白血病	0	1	2
骨髄異形成症候群	54	40	36
骨髄線維症	1	0	0
本態性血小板血症	0	1	2
移植後リンパ増殖性疾患	0	4	1
特発性多中心性キャッスルマン病	0	2	0
鉄欠乏性貧血	1	2	1
ビタミンB12欠乏性貧血（PA）	0	1	0
大球性貧血	1	0	0
巨赤芽球性貧血	2	0	2
自己免疫性溶血性貧血	2	0	0
発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	2	0
後天性赤芽球ろう	2	0	0
赤芽球ろう	3	2	0
再生不良性貧血	5	10	1
汎血球減少症	3	1	1
重症貧血	6	6	2
後天性血友病	0	0	0
後天性血友病Ａ	2	3	0
ループスアンチコアグラント	0	3	0
特発性血小板減少性紫斑病	11	19	8
血小板減少症	3	2	0
好中球減少症	1	1	1
白血球減少症	2	1	0
顆粒球減少症	0	0	0
発熱性好中球減少症	1	5	1
サルコイドーシス	0	1	0
ＴＡＦＲＯ症候群	0	0	0
ヘモクロマトーシス	1	0	0
アミロイドーシス	0	4	11
成人スチル病	0	0	0
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	1	0
混合性結合組織病	1	0	0
ベーチェット病	1	1	1
リウマチ性多発筋痛症	1	1	0

４．目　標

①地域医療の一翼を担うべく広く血液疾患および関連疾患を受け入れ、地域完結型医療を目指す。

②細胞治療の一層の充実を図るため特に造血幹細胞移植を輸血課の協力のもと推し進める。

③患者の高齢化に伴い新規分子標的薬や支持療法などを積極的に用いることにより治療強度を極端に落とすことなく ADL が保持され副作用の少ない治療選択を行う。

8．小　児　科　部

1．スタッフ

部長	渡邉　康宏	日本小児科学会専門医・指導医・臨床研修指導医
副部長	平野　聡子	日本小児科学会専門医 臨床遺伝専門医
副部長	玉村　宗一	日本小児科学会専門医・指導医・臨床研修指導医 日本腎臓病学会腎臓専門医 ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法「専門」ｺｰｽ（A ｺｰｽ） インストラクター 日本旅行医学会認定医
医師	野村　詠史	
医師	福岡　諒	
後期臨床研修医	田中　佳代	
非常勤医師	中田　庸平	
非常勤医師	安冨　素子	
非常勤医師	森　夕紀子	

2．診　療

人事面では臨床後期研修医を 1 名引き受け、外来医療も行える若手小児科医を養成するための、県内で数少ない研修病院の役割を担っている。

診療面では、小児腎臓に関しては、玉村医師が森医師や腎臓泌尿器科医師の協力を得つつ診療に当たり、高い専門性を発揮している。月 1 回、福井大学病院小児科の腎臓外来も行っており、また大学の後進の指導・育成や他院医師からの相談対応なども行っており、県内の中心的な役割を担っている。腎生検数は年 10-15 件で推移しており、一定数を保っている。渡邉は神経･発達を中心に診療し、難治性てんかんなどを含め広い分野の症例を担当している。近年多い慢性頭痛・腹痛、不登校など心身症への対応も、臨床心理士と連携をとり行っている。平野医師は幅広く一般小児科診療を行いつつ、専門の内分泌・代謝疾患患児を担当し、また遺伝性疾患のカウンセリングにも力を入れている。野村医師は一般小児科臨床の経験をつみながら、アレルギーをサブスペシャリティーとすべく専門分野の診療も行い、特に食物アレルギー児の食物負荷試験を積極的に行い診断・閾値判定に努めている。福岡医師、田中医師は入院症例の主治医を主に担当しながら、一般外来、予防接種、乳児健診などプライマリーケアができるように研鑽を積んだ。

良性疾患を中心とした血液・腫瘍性疾患は必要に応じ、大学等とも連携しながら診療に当たっている。予防接種も、アレルギーや基礎疾患のある児への接種や、渡航ワクチンなど積極的に専門外来で実施している。併存疾患を同時に治療するなど、患者中心の医療が行えることも当科の特色と言える。

新生児関連では、当院は地域周産期母子医療センターとして、人工呼吸管理が必要な児も含め対応している。新生児搬送や総合周産期母子医療センターからのバックトランスファーも積極的に受け入れ、福井県の周産期医療が円滑に進むべく努力している。産科とも定期的にカンファレンスを行い、合併症妊娠例への対応も行っている。他、院内活動として、当院スタッフ向けの病児保育の運営に参

加しており、よりよい職場環境がつくれることに役立っている。

他に外科系疾患の小児が入院した際、必要に応じ全身管理目的で小児科医も担当医となり、異常時の早期発見に努めている。

患者動向は予防接種を含めた予防医学の進歩や、医療内容の進歩による慢性疾患の外来管理の改善により、診療の外来シフトは小児科で着実に進行している。今年度はコロナ感染症はオミクロン株が流行するようになると小児の患者数が増え当科の入院数も増えた。

院小児科外来は今後、医学の進歩から予防・感染管理・慢性疾患管理が重要になると考えられるが、新規感染症の流行に対応できる体制づくりが望まれる。

小児救急体制に関しては、引き続き月・木曜日の週 2 日間、嶺北小児救急輪番病院を担当し、また紹介は 365 日受け入れるなど、地域医療に貢献できるように努力している。

1 次救急を担う福井県こども急患センターへの出務も行っている。

３．実　績

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
小児科入院患者総数	458	727	732
1. 一般病棟・ICU 入院患者数	354	587	595
呼吸器疾患			
気管支炎・細気管支炎・肺炎	29	176	100
上気道炎・扁桃炎・中耳炎・ｸﾙｰﾌﾟ症候群（Flu 含む）	20	23	42
その他（間質性肺炎など）	2	2	2
消化器疾患			
急性胃腸炎・脱水症	27	32	43
腸重積	1	1	3
その他（NASH、虫垂炎、GERD など）	8	10	19
神経筋疾患			
熱性痙攣	16	39	54
てんかん・無熱性痙攣	21	18	22
その他（痙攣重積、脱髄性疾患など）	18	20	13
腎疾患			
ネフローゼ症候群	11	12	12
慢性腎炎	1	0	0
腎生検	6	5	7
尿路感染症	21	16	14
免疫・アレルギー疾患			
気管支喘息	10	26	28
食物アレルギー（食物負荷試験）	56	55	43
アナフィラキシー	4	9	5
川崎病	6	17	9

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
IgA 血管炎	4	3	1
その他（菊池病など）	8	2	2
血液・腫瘍疾患			
免疫性血小板減少性紫斑病	5	1	0
その他（乳児血管腫など）	3	0	4
内分泌・代謝			
下垂体ホルモン分泌負荷試験	9	7	7
その他（糖尿病、ケトン性低血糖など）	5	10	25
その他の感染症(蜂窩織炎､手足口病､突発性発疹など)	18	8	14
Covid-19		37	84
心身症・精神疾患	7	12	4
MRI、シンチなど鎮静下の検査目的	21	16	26
その他（不明熱、薬物中毒など）	17	22	12
2. ベビーセンター入院患者数	104	140	137
早産児，低出生体重児	36	35	42
新生児呼吸障害（TTN、MAS など）	22	39	41
新生児黄疸	21	37	27
新生児低血糖（高インスリン血症を含む）	2	2	1
新生児感染症（疑いも含む）	1	3	2
哺乳不良・体重増加不良	11	11	7
先天性心疾患・不整脈	3	2	1
その他の先天奇形（口蓋裂など）	3	2	3
その他（仮死など）	7	9	13

9．外　　科　　部

１．スタッフ

令和４年 ３月３１日をもって前川展廣医師が退職した。４月１日に服部響子医師が着任し９月 31 日退職。10 月１日に池野嘉信医師と何佳曦医師が着任、令和５年３月 31 日小畑真介医師、何佳曦医師が退職した。

第１部長　青竹　利治　日本外科学会　専門医、指導医　日本消化器外科学会　専門医、指導医
日本内視鏡外科学会　技術認定医

第３部長　田中　文恵　日本外科学会　専門医　日本乳癌学会　専門医

第４部長　川上　義行　日本外科学会　専門医、指導医　日本消化器外科学会　専門医
日本消化器病学会　専門医

第５部長　土居　幸司　日本外科学会　専門医、指導医　日本消化器外科学会　専門医､指導医
日本消化器病学会　専門医、指導医　日本消化器内視鏡学会　専門医
日本乳癌学会　認定医　日本肝胆膵外科学会　高度技能指導医

第６部長　吉羽　秀麿　日本外科学会　専門医　日本消化器外科学会　専門医､指導医
日本消化器内視鏡学会　専門医、指導医
日本内視鏡外科学会　技術認定医

第１副部長　小畑　真介　日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会　専門医
日本消化器病学会　専門医、指導医　日本消化器内視鏡学会　専門医

第２副部長　加藤　成　日本外科学会　専門医　日本消化器外科学会専門医

第３副部長　平崎　憲範　日本外科学会　専門医　日本消化器外科学会　専門医
日本内視鏡外科学会　技術認定医

第４副部長　池野　嘉信　日本外科学会　専門医　日本消化器外科学会　専門医
日本内視鏡外科学会　技術認定医　日本肝胆膵外科学会高度技能専門医

医師　小林　純也　日本外科学会専門医

医師　伊藤　聖顕

医師（専攻医）服部　響子
何　佳曦

＊医監　　廣瀬　由紀　日本外科学会　専門医、指導医　　日本消化器外科学会　専門医、指導医
日本消化器病学会　専門医、指導医　日本乳癌学会専門医
日本肝胆膵外科学会　高度技能指導医

２．診　療

令和４年度の手術件数は合計で857件であり前年度（873件）より減少した。新型コロナ感染拡大による手術制限が主な原因と考えられる。

悪性疾患における手術の内訳としては、前年度と同じく大腸癌が最も多く、次に乳癌、そして胃癌の手術であった。令和３年度との比較では、大腸癌手術が13件増加（+10.4%）、乳癌手術が10件減少（-8.6%）、胃癌手術が２件増加（+4.8%）であった。特にロボット（ダビンチ）支援手術は、胃癌で19件、大腸で21件、肝臓で２件、膵臓で１件と種々の臓器の悪性疾患で、多く施行されるようになっている。

麻酔別の手術件数では全身麻酔が725件で27件減少（+3.6%）し、腰椎麻酔は前年と比較して12件減少（-28%）した。緊急手術は181 例であり、昨年度とほぼ同数で全体の手術の約 21.1%であった。

外科の診療以外ではチーム医療としての活動として、栄養管理 NST(Nutritional support team) として広瀬医師、川上医師が、また感染管理では ICT(Infection control team) に土居医師が活動している。

遺伝子パネル検査では廣瀬医師が中心となり、緩和医療では吉羽医師が、DMAT は平崎医師が活動を継続した。

３．実　績

手術別手術症例数	令和４年
食道切除術	4
乳房切除術	68
乳房温存術	38
胃全摘術	3
噴門側胃切除術	0
幽門側胃切除術	6
腹腔鏡下胃切除術	2
腹腔鏡下幽門側胃切除術	10
腹腔鏡下幽門側胃切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	12
腹腔鏡下噴門側胃切除術	4
腹腔鏡下噴門側胃切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	2
腹腔鏡下胃全摘術	0
腹腔鏡下胃全摘術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	5
結腸切除術	12
前方切除術	1
直腸切除術	4
腹腔鏡下結腸切除術	106
腹腔鏡下直腸切除術	14
腹腔鏡下直腸切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	18
腹腔鏡下大腸切除術	0

手術別手術症例数	令和４年
虫垂切除術	4
腹腔鏡下虫垂切除術	70
痔手術	10
肝部分切除術	6
肝亜区域切除術	4
肝区域切除術	4
肝葉切除術	6
胆嚢摘除術（開腹）	20
腹腔鏡下胆嚢切除術	11
腹腔鏡下肝切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	2
｜腹腔鏡下肝切除術	98
膵頭（十二指腸）切除術	14
膵尾側切除術	2
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	5
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術＜ﾛﾎﾞｯﾄ支援＞	1
鼡径大腿ヘルニア術	34
腹腔鏡下鼡径大腿ヘルニア手術	95
胆管悪性腫瘍手術	1
その他	419
合　　計	1115

疾患別手術症例数	令和４年
食道癌	8
乳癌	105
胃癌	44
結腸癌	107
直腸癌	31
虫垂炎	65
原発性肝癌	12
転移性肝癌	11
胆石胆嚢炎胆嚢ポリープ	79
胆嚢癌	7
胆管癌	5
膵癌	14
膵腫瘍	3
鼡径大腿ヘルニア	129
胃 GIST	3
小腸 GIST	0
十二指腸乳頭癌	4
直腸 GIST	0
肛門管癌	0
合　　計	627

麻酔別手術症例数	令和４年
全身麻酔	725
腰椎麻酔（含む、硬麻）	31
局所麻酔	101
合　　計	857

緊急度別手術症例数	令和４年
緊急手術	181
待期手術	676
合　　計	857

４．目　標

最新治療を取り入れながらも、個々の患者さんに応じて根治性と QOL を両立した過不足のない外科治療を追求していきたい。また緩和ケアは入院・外来ともに更に力を入れていく方針である。

ロボット支援手術は、胃癌と直腸癌においては今年度も引き続き継続し発展させていく。膵尾部切除、肝切除にも拡大していきたい。

10. 整 形 外 科 部

1．スタッフ

常勤医師 10 名（リハビリテーション医師を含む)、うち専門医 9 名

院長　高木　治樹
京都大学医学博士
京都大学医学部　臨床教授
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定スポーツ認定医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ財団登録医
日本リハビリテーション学会認定臨床医
日本骨粗鬆症学会認定医

整形外科代表部長　高塚　和孝
京都大学医学博士
福井大学医学部　臨床教授
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本整形外科学会認定スポーツ認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本リウマチ学会専門医

リハビリテーション科代表部長、整形外科部長
淺野　太洋
京都大学医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医

リハビリテーション科部長
高嶋　理
日本整形外科学会専門医

整形外科副部長　　小田　竜治
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本リハビリテーション学会認定臨床医

整形外科副部長　　相模　昭嘉
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医

整形外科副部長　　薗　隆（令和４年　３月 31 日退職）
京都大学医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医
日本整形外科学会認定スポーツ認定医

医師　　森瀬　博子
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ認定医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ学会登録ソノグラファー

医師　　仲谷　健次

医師　　岡江　優
日本整形外科学会専門医

２．診　療

・関節手術：膝関節は症例により骨切り術、人工膝全置換術、単顆置換術を使い分け良好な成績を得ている。
・脊椎手術：腰椎前方固定術、内視鏡手術、経皮的ｽｸﾘｭｰ固定術の導入により低侵襲な手術を目指している。
・関節鏡手術：膝関節では半月板手術、靭帯再建術を行い QOL 向上、スポーツ復帰に貢献している。
・関節リウマチ：他科と連携しながら生物学的製剤を含めた集学的治療を積極的に行っている。
・骨粗鬆症：新規治療薬、骨折リエゾンリハビリを導入し骨折予防を目指した治療に取り組んでいる。

３．実　績

末尾の手術統計表のとおり

４．目　標

他科との連携を図り、関節リウマチをはじめとする整形外科疾患の集学的治療をさらに推進する。

地域連携医との連携を密にし、地域基幹病院としての役割を果たす。
整形外科後期研修医、整形外科専門医の育成、研鑽に努める。

＜手術統計＞

			令和４年度
脊椎・脊髄外科	頸　椎		17
	胸・腰椎		102
	脊髄腫瘍		7
関節外科	股関節	人工関節	52
		人工関節再置換	5
		人工骨頭	60
		その他	3
	膝関節	人工関節	43
		人工関節再置換	5
		単顆置換	13
		靭帯再建	3
		半月板	22
		その他	10
	肩関節	人工関節・人工骨頭	3
		腱板修復	6
		その他	1
	肘関節	人工関節	1
		その他	1
	足関節・足部関節	人工関節	
		関節固定術	1
		関節形成術 （切除関節形成術を含む）	7
		その他	1
外傷外科	骨接合術	上　肢	96
		下　肢	139
	再接着術		
	その他		16
手外科	関節手術		8
	腱・靭帯手術		38
	その他		16
末梢神経手術			30
骨軟部腫瘍			10
その他			84
手術総数			788

11. 形成外科部

1．スタッフ

部長　　岡本　仁　　令和５年３月１日着任
日本形成外科学会専門医
日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医
乳房再建用エキスパンダー、インプラント責任医師

副部長　寺村　あずみ　　令和５年３月 31 日異動
日本形成外科学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医

医師　　藤土　光　　令和５年２月 28 日異動

医師　　松下　学　　令和４年４月１日着任、令和５年３月 31 日異動

2．診　療

現在、月・水・金曜日の午前中と木曜日の午後に外来診療を行っています。手術に関しては火・水・木曜日に主に全麻下手術を、月・水・金の午後に小手術、レーザー治療などを行っています。

3．実　績

	令和　４年度
外傷	131
先天異常	40
腫瘍	455
瘢痕・ケロイド	30
難治性潰瘍	57
眼瞼下垂	19
レーザー治療	109
炎症・変性疾患	22
その他	106

4．目　標

令和５年度は４月１日から２人体制で１人減となるが、現在のところ支障なく活動できている。乳房再建、眼瞼下垂、瘢痕形成、唇顎口蓋裂などの先天異常、顔面外傷、広範囲熱傷など地域の先生方と連携をとりながら治療していきたい。

12. 脳神経外科部

1．スタッフ

脳神経センター長　脳神経外科代表部長

西村　真樹　　日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脳卒中の外科学会技術指導医
京都大学臨床教授　福井大学臨床教授
日本脳卒中学会評議員

第２脳神経外科部長

早瀬　睦　　日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
日本神経内視鏡学会技術認定医
日本頭痛学会頭痛専門医

副部長

取越　貞治　　日本脳神経外科学会専門医　日本脳卒中学会専門医
日本脳血管内治療学会専門医

医師

北原　孝宏　　日本脳神経外科学会専門医　日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医

山本　優　　日本脳神経外科学会専門医　日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医

中島　悠介　　日本脳神経外科学会専門医（令和４年９月 30 日異動）

青山　慎平　　（令和４年 10 月１日着任）
長谷川　貴士　　（令和５年１月１日着任）
笠島　一洋　　（令和４年６月 30 日異動）
三谷　幸輝　　（令和４年７月１日着任 令和４年 12 月 31 日異動）

2．診　療

脳腫瘍　脳血管障害　脊椎・脊髄疾患　機能外科疾患の外科的治療

３．実　績

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
総手術件数	301	310	250	203	213	156
脳腫瘍手術	24	26	24	21	12	13
脳卒中開頭手術	45	47	22	31	18	22
血行再建術	16	16	18	8	5	2
脊椎脊髄手術	20	18	8	4	2	2
定位・機能外科手術	8	9	9	4	1	1
血管内治療手術	97	93	69	50	70	47

４．目　標

当院は県内に 2 病院のみの一次脳卒中センターのコア施設として超急性期脳梗塞の血栓溶解・血栓回収術を 24 時間行うことが求められており、今後も体制の維持を継続することが重要である。急性期画像はリアルタイムに情報共有アプリである JOIN を使用して脳神経センター全員が共有することにより正確に診断し、適切に治療を行う体制を確立している。同時にクモ膜下出血や脳出血や動静脈奇形に対して血管内治療、外科的治療をいずれも高いレベルで行うことができる脳血管障害における県内の中心的センターとしての役割を担っていく。予防的治療である未破裂脳動脈瘤や頚動脈狭窄 / 閉塞・もやもや病など慢性期病態における治療においても厳格な適応のもとに適切な治療を地域に提供していく。

脳腫瘍については最新の知見をもとに外科的治療、放射線治療、薬物治療、内視鏡などを組み合わせた総合的な治療を展開していく。以上の臨床活動の中で学会報告や論文発表を通じて学術活動を活発に行い京都大学脳神経外科の研修病院として若手医師の教育に積極的に取り組み、また地域中核研修病院として医学生や初期研修医の参加を積極的に受け入れる。

13. 呼吸器外科部

1．スタッフ

部長　松倉　規

呼吸器外科専門医
外科専門医
日本呼吸器外科学会　評議員
日本胸部外科学会　指導医・認定医
日本外科学会　指導医・認定医

医師　山岸　弘哉

呼吸器外科専門医
外科専門医

医師　南　紀久子

医師　森谷　哲士

2．診　療

自分の身内にも行いたい医療を心がけています。

科内でのカンファレンスや呼吸器内科、放射線科、病理部とのキャンサーボードを行いチームとして統一性のとれた診療を行っています。また看護部は当然のこと、薬剤部やリハビリ科など院内他科、地域医療連携課の社会福祉士、入退院支援センターなど多職種・多部門とのカンファレンスも行い情報伝達を密にしています。

治療方針は各種ガイドラインを参考にグローバルスタンダードであるよう努めています。

日本赤十字社の使命の一つである災害時医療にも参加します。

紹介患者さんは可能な限り受け入れ、病診連携を進めます。

周術期の呼吸リハビリテーションも当科の特徴の一つです。「術後経過良好」を目指し、術前からの呼吸リハビリで手術を無事に乗り越え、一日も早く日常生活を取り戻し、社会復帰を果たしていただくよう努めています。

３．実　績

手術実績	令和２年度	令和３年度	令和４年度
肺癌	54	63	59
転移性肺腫瘍	7	8	9
縦隔腫瘍	7	5	5
気胸	17	32	17
膿胸	15	7	8
外傷	0	1	1
手掌多汗症	9	2	7
その他	22	21	24
胸腔鏡手術	113	117	109
合計	131	139	130

４．目　標

我々呼吸器外科の目標は、呼吸器外科手術を通して地域の皆様の医療に貢献することです。

14. 皮　膚　科　部

1．スタッフ

副部長　　加畑　雄大
医師　　宗石　依子　　（令和４年４月１日付けで着任、令和５年３月 31 日付けで異勤）
医師　　辻　慶明　　（令和５年３月 31 日付けで異勤）

2．診　療

外来は午前診療が中心で３診体制です。月曜日、火曜日、金曜日の午前中の紹介患者は、副部長が診察をしています。午後は完全予約制で、火曜日に小手術やレーザー治療などを、木曜日は脱毛症外来を行っています。火曜日はデイサージャリー室で外来手術、金曜日は中央手術室で比較的大きな外来手術や入院手術を行っています。

＜特　徴＞

1）外来：皮膚悪性および良性腫瘍、円形脱毛症、アトピー性皮膚炎など湿疹群、乾癬、膠原病、水疱症、白癬症、陥入爪や疣贅などです。ほか、特殊な外来としては円形脱毛症の治療のために脱毛症専門外来を毎週木曜日午後に行っています。メイクアップケア外来も行っています（月１回）。男性型脱毛症に対しては自費にてプロペシア内服を行っています。また乾癬、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎の方に対して、生物学的製剤の投与も行っております。皮膚・皮下腫瘍に対してはデイサージャリー室で日帰り手術、中央手術室で入院手術を行っています。

2）入院：皮膚悪性腫瘍、水疱症や膿疱症、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、重症薬疹などを中心にみています。

3．実　績

入院症例	令和２年度	令和３年度	令和４年度	計
帯状疱疹	74	58	45	177
皮膚感染症	70	56	52	178
良性腫瘍	17	5	5	27
悪性腫瘍	39	9	12	60
その他入院	134	93	124	351
計	334	221	238	793

手術症例（入院・デイ）	令和２年度	令和３年度	令和４年度	計
良性腫瘍	170	48	47	265
悪性腫瘍	39	15	15	69
計	209	63	62	334

4．目　標

これまで通り地域に貢献し、地域・院内における福井赤十字病院皮膚科の役割を、しっかりと果たしていく。

15. 腎センター（腎臓・泌尿器科）

1．スタッフ

医監　塚原　健治　　日本泌尿器科学会指導医、専門医

副院長、腎センター長　小松　和人
日本泌尿器科学会指導医、専門医
福井大学医学部臨床教授
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

第１腎臓・泌尿器科部長　伊藤　正典
日本内科学会専門医（総合内科専門医）
日本腎臓学会腎臓専門医、指導医
日本透析医学会専門医
福井大学医学部臨床教授

第２腎臓・泌尿器科部長　河野　眞範
日本泌尿器科学会指導医、専門医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定
日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

第４腎臓・泌尿器科部長　髙田　昌幸
日本泌尿器科学会指導医、専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定
日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）
日本移植学会移植認定医

副部長　山内　寛喜
日本泌尿器科学会指導医、専門医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

副部長　鈴木康倫（令和４年４月１日入職）
日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医
日本リウマチ学会専門医、指導医
日本腎臓学会専門医、指導医

日本透析医学会専門医、指導医
日本臨床免疫学会免疫療法認定医
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
日本リウマチ財団登録医
ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター
ドライマウス研究会会員　認定医
腎代替療法専門指導士

副部長　松井　佑樹
日本内科学会認定医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医
日本移植学会移植認定医

医師　山岸　瑞希
日本内科学会認定内科医
日本腎臓学会専門医

医師　糸賀　明子（令和 5 年 3 月 31 日退職）
日本泌尿器科学会専門医

医師　石淵　絹人
日本内科学会認定内科医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会専門医

医師　吉田　美咲（令和 4 年 4 月 1 日入職～令和 5 年 3 月 31 日退職）
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医

医師　垣鍔　忠　（令和 4 年 6 月 30 日退職）

嘱託研修医　大久保　温　（令和 4 年 10 月 1 日入職）

非常勤医師　小林　麻美子
日本内科学会認定内科医
日本腎臓学会専門医

非常勤医師　西川　雄大

非常勤医師　島本　侑樹

令和４年度は腎臓・泌尿器科として腎臓内科は伊藤部長以下、合計６名で診療にあたることが可能となりました。泌尿器科は塚原医監（緩和ケア病棟）、小松副院長以下、合計７名（一時６名）のスタッフにて診療に従事しました。当科は、合計 13 名の陣容で、地方都市の基幹病院としては恵まれています。腎臓内科と泌尿器科が一つの標榜科を名乗るというユニークな組織ですが、診療科の設立以来、一貫して腎・泌尿器疾患のトータルケアを目指しています。これまで腎臓内科、泌尿器科については福井大学からの人材派遣を得ておりましたが、膠原病内科も扱うべく人事交渉を重ね、令和４年４月１日には、金沢大学リウマチ・膠原病内科から鈴木先生、吉田先生をお迎えしています。医師の確保は診療科の不沈を握るまさに生命線です。

２．診　療

患者ニーズに即した診療体制の維持を目標として掲げ、内科的腎疾患と泌尿器科的疾患を統合的に診療する戦略を維持継続しました。副腎、腎臓、尿路、前立腺、男性器等疾患を対象にした、高度専門的治療が基本方針です。内科的腎疾患に対する高度専門的治療、泌尿器科的疾患に対する低侵襲的外科治療、悪性腫瘍に対する集学的治療を行って参ります。

診療方針と診療科の労働環境整備を含み、具体的戦略は以下に掲げる通りです。

1. 中小病院ではやりにくい救急・急性疾患、高度で複雑な診療、高度先進的な外科手術を担当する
2. 安定した排尿障害などは逆紹介する
3. 外来患者数の抑制
4. 労働環境の整備
5. 若手医師に研修機会を与える

以下、稼働業績を略記いたします。
新型コロナ感染症第一波の影響を大きく受けたのが令和２年度でした。令和３年度業績はコロナ禍に何度も見舞われながら若干持ち直した感があり、令和４年度もその流れが継続していました。

１）稼働額（円）

	令和２年度	令和３年	令和４年度
腎・泌尿器科：入院	772,847,574	879,537,762	815,406,895
腎・泌尿器科：外来	1,134,964,521	1,240,598,808	1,185,799,607
腎・泌尿器科：総額	1,907,812,095	2,120,136570	2,001,206,502

２）腎臓内科領域

先述のごとく、鈴木先生、吉田先生に常勤医として加わっていただき、膠原病内科とのかけもちで御勤務いただきました。お二人の加入のおかげでこれまでふれることのなかった膠原病関連の腎臓疾患も診させていただく機会が増え、腎臓内科としてカンファレンスも充実して、症例発表も多くこなすことができました。その成果として主要検査である腎生検は、27 例実施することができました。原発性腎疾患のみならず、全身性疾患に伴う腎病変の腎生検も多く実施できました。特に年度初めにはコロナワクチン接種を契機に発症した抗基底膜抗体腎炎の１例を経験しました。難治症例でありましたが精力的に治療がなされ、大変勉強になりました。

慢性腎臓病（CKD）教育入院のほうはコロナ感染の影響が長期化する中ほとんど実施されませんでした。一方、外来のほうでは腎代替療法選択指導が透析センタースタッフを中心に熱心におこな

われました。当科では生体腎移植が実施可能であり、他院と比較して決定的な優位性を持っています。今後も積極的に腎移植導入をすすめていきたいと考えます。

腎臓内科領域の診療対象の大半はCKDあるいは透析患者となっていますが、とくに心血管合併症は循環器内科・脳神経外科、また感染症は呼吸器内科・消化器内科など、疾患ごとに多くの診療科のお世話になっているところです。今後とも院内連携をなにとぞよろしくお願いいたします。

なお、松井先生、山岸先生、石渕先生、吉田先生の4名の医師は総合診療科の一員として、昨年度同様、発熱スクリーニングを中心として、コロナ感染症の第一線で診療にあたりました。ほぼ一日業務に追われることもあり多忙であったと思います。謝意を表します。

また、膠原病内科の新領域が加わり、この領域で院内172例、院外75例のご紹介を、特に院内においては整形外科より40例、呼吸器内科より26例のご紹介をいただきました。いかに長年待望されていた領域であるかを物語る症例数かと思います。両先生に刺激をいただき、腎臓内科全体として診療の底上げができた一年でした。

3）透析センター

令和4年度も腎センターは、新型コロナ感染症の影響を大きく受けることになりました。とくにオミクロン株の大流行により他透析施設からの新型コロナ感染患者様の受け入れのみならず、当院通院中の患者様の感染あるいは濃厚接触も頻度が増加したため、スタッフにはおおきな肉体的精神的ストレスをかけることになってしまいました。この場を借りてその努力にお礼申し上げます。
さてセンターでは透析監視装置計35台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては22台で実施されており、長期合併症予防につながる血液浄化療法が重矢課長を先頭に優秀な臨床工学技士により管理され、満足いく治療成績が得られています。

腎代替療法のうち、血液透析において令和4年度は合計37名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数は、令和に入り血液透析、腹膜透析の両者をあわせ110名前後を維持しながら診療にあたっております。血液透析患者さんは合併症も多く、スタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。一見、透析導入をゴールと考えてしまいがちですが、実は導入後の家庭生活にまで介入せざるをえない症例も多くあります。公的介護との関係も含め、ますます困難な時代となりつつあるなか、いかに安心して透析がおこなえるように条件を整えるかは大きな課題です。

そのような中、社会的自立を目指す腹膜透析は令和4年度、新規導入がなく、さらに腹膜炎のため患者数が減少してしまい、年度末で1名となってしまいました。前述しましたとおり、腎代替療法選択指導は当科の大きな柱です。なんとか腹膜透析患者数の増加をはかりたいと思います。

シャント血管内治療（VAIVT）症例は院内、院外紹介あわせて合計173例となっています。石淵、吉田両先生の頑張りで患者さんが安心して透析が行える医療環境が維持されています。

腎代替療法以外の浄化療法では、例年どおり消化器内科より炎症性腸疾患に対する顆粒球除去療法を延べ28回、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮は延べ98回のご依頼をいただきました。さらに神経疾患・皮膚疾患の血漿交換療法もご紹介いただき診療する機会をいただきました。ご紹介いただきました各診療科に対して心よりお礼申し上げます。

4）泌尿器科領域

腎・泌尿器科領域の手術件数は北陸最多です。中央手術室での手術以外に、体外衝撃波結石破砕術、TV透視室での手技等を加えると外科的手術は 1200 件前後で推移しております。外科治療の最近の概要を別掲表に示します。

特徴的なのは、ロボット支援手術（河野、髙田、山内先生が中心です）に代表される高度で先進的な外科治療を行う一方、生体腎移植（外科領域は髙田先生、内科領域は松井先生が中心です）、シャント血管内治療（VAIVT）などの腎不全外科まで幅広く手術に取り組んでいる点であり、福井大学泌尿器科教室の関連病院として若手泌尿器科医師の良いトレーニングの場となっています。

外科治療以外で特筆すべきは平成29年10月から活動を開始している排尿ケアチーム（CST）であり、浅田看護師をリーダーとして院内ラウンドを毎週実施しています。排尿障害に悩む患者さんも数多く、各病棟から頼りにされる貴重な存在となっています。今後症例の増加が見込まれます。

5）働き方改革関連の報告

男女を問わず子育て中の医師が過半を占めます。山岸先生、糸賀先生は女性の医師として小さいお子さんの子育てと診療、勉強に活躍中です。

専門科の診療に加え、全科当直、救急診療、総合診療を担当していますが、令和4年度は令和2年度から始まる新型コロナ感染症に対する診療を担当（継続）し、検査、入院患者さんの主治医担当を行いました。

6）学術業績

別掲の通りです。内科を中心に、積極的に学術活動に参加しました。

3．実　績

腎臓・泌尿器科診療実績		令和２年度		令和３年度		令和４年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
副腎・後腹膜	腹腔鏡下副腎摘出術 <K7542>			1		2	
	そのほかの副腎・後腹膜手術						
	副腎悪性腫瘍手術						
	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術 <K756-2>			1			
	後腹膜悪性腫瘍手術						
	大綱、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術（腸切除を伴わない）						
	腹腔鏡下後腹膜腫瘍切除術					1	
副腎･後腹膜手術合計		0	0	2	2	3	3
腎、腎盂	腹腔鏡下生体腎採取術	2		1	1		
	生体腎移植術	2		2	1		
	経皮的尿路結石摘除術	4		4	5		
	経皮的上部尿管拡張術						
	体外衝撃波腎･尿管結石破砕術(一連につき)	48		38	14		
	腹腔鏡下腎部分切除術	3		1	2		
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援腎部分切除術（腎癌）	13		11	11		
	腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術						
	経皮的腎嚢胞穿刺術						
	腎(尿管)悪性腫瘍手術／腎摘出術(開放)						
	腹腔鏡下腎摘出術			2	4		
	腹腔鏡下根治術腎摘除術（腎癌）	5		10			

腎臓・泌尿器科診療実績		令和２年度		令和３年度		令和４年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
腎、腎盂	腎（尿管）悪性腫瘍手術（開放）			1		1	
	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術					10	
	腹腔鏡下腎（尿管）全摘除術（腎盂／尿管癌）	10		12		8	
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	5		6		7	
	腎瘻交換	50		13		21	
	腹腔鏡下腎盂形成術			1			
	そのほかの腎、腎盂手術	1				3	
腎、腎盂手術合計		143	143	102	102	88	88
尿管	経尿道的尿路結石摘出術	79		109		110	
	経尿道的尿管狭窄拡張術	1		2		55	
	経尿道的尿管ｽﾃﾝﾄ留置術・交換	343		369		210	
	経尿道的尿管ｽﾃﾝﾄ抜去術	108		125		113	
	尿管膀胱新吻合術						
	尿管膀胱新吻合（小児）					1	
	尿管膀胱吻合術			1			
	尿管鏡検査	6		6		5	
	そのほかの尿管手術	2		2		4	
尿管手術合計		539	539	614	614	498	498
膀胱	膀胱破裂閉鎖術			1	1		
	膀胱内凝血除去術	19		20	8		
	膀胱結石，異物摘出術（経尿道的手術）<K7981>	10		18	24		
	経尿道的電気凝固術	20		28	28		
	膀胱水圧拡張術	1		1	5		
	膀胱腫瘍摘出術 <K802>						
	腹腔鏡下膀胱部分切除術	3			1		
	膀胱脱、性器脱、直腸脱、メッシュを利用するもの			1			
	膀胱悪性腫瘍手術（開放手術）				1		
	膀胱悪性腫瘍手術２全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの）						
	膀胱悪性腫瘍手術４全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K8034>	1					
	膀胱悪性腫瘍手術５全摘（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）						
	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術				2		
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援膀胱悪性腫瘍手術１全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わない）<K80321>	4		2	2		
	ﾛﾎﾞｯﾄ支援膀胱悪性腫瘍手術２全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K80322>	7		6	3		

腎臓・泌尿器科診療実績		令和２年度		令和３年度		令和４年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
膀胱	ﾛﾎﾞｯﾄ支援膀胱悪性腫瘍手術全摘３（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）<K80323>						
	膀胱悪性腫瘍手術６経尿道的手術	93		100		101	
	膀胱瘻造設術	1		2		1	
	膀胱尿管逆流手術						
	腸管利用膀胱拡大術						
	回腸（結腸）導管造設術	1					
	膀胱生検	5		6		3	
	腹腔鏡下尿膜管切除術	1		1			
	そのほかの膀胱手術	2				1	
	膀胱鏡検査	1		2		3	
膀胱手術合計		169	169	188	188	184	184
尿道	尿道結石、異物摘出術（全部／後部尿道）					1	
	外尿道腫瘍切除術 <K816>						
	尿道悪性腫瘍摘出術	1		2		2	
	尿道形成手術						
	尿道下裂形成手術			2			
	尿道狭窄内視鏡手術	9		2		7	
	尿失禁手術			4		1	
	尿失禁又は膀胱尿管逆流現象コラーゲン注入手術						
	そのほかの尿道手術					2	
尿道手術合計		10	10	10	10	13	13
陰茎	陰茎尖圭コンジローム切除術						
	陰茎腫瘍切除術 <K826>						
	陰茎悪性腫瘍手術(陰茎切除術)<K8271>						
	陰茎悪性腫瘍手術(陰茎切除術)<K8272>						
	包茎手術	9		8		10	
	陰茎生検						
	そのほかの陰茎手術	1					
陰茎手術合計		10	10	8	8	10	10
陰嚢、精巣、精巣上体、精索	精管切断術	1				1	
	精巣（睾丸）摘出術	2		2		2	
	停留精巣（睾丸）摘出術						
	精巣上体摘出術						
	精巣悪性腫瘍手術	10		3		5	
	陰嚢水腫手術	1		3		1	
	停留精巣固定術			2			
	精索捻転手術	2					
	そのほかの陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術	2					
陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術合計		18	18	10	10	9	9

腎臓・泌尿器科診療実績		令和２年度		令和３年度		令和４年度	
対象臓器	術式名	件数	小計	件数	小計	件数	小計
精嚢、前立腺	前立腺膿瘍切開術						
	前立腺被膜下手術						
	経尿道的手術	12		15		17	
	前立腺悪性腫瘍手術（恥骨後式）						
	前立腺悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）						
	前立腺悪性腫瘍手術（ﾛﾎﾞｯﾄ補助下）	29		46		43	
	前立腺針生検	2		6		10	
	前立腺小線源療法						
	針生検（手術室）						
	そのほかの精嚢、前立腺手術						
精嚢、前立腺手術合計		43	43	67	67	70	70
腎不全に対する手術	内シャントまたは外シャント設置術	68		68		46	
	内ｼｬﾝﾄ血栓除去術			1		2	
	連携携行式腹膜還流用カテーテル腹腔内留置術／抜去術	1					
	CAPD カテーテル抜去	1		1		3	
	CAPD カテーテル体表化術	1					
	VAIVT	177		142		189	
	血管結紮術	5		1		7	
	そのほか	253	253			1	
腎不全に対する手術合計				213	213	248	248
そのほかの泌尿器科手術	上皮小体過形成手術						
	骨盤内臓全摘						
	腹腔鏡下仙骨膣固定術					17	
	そのほかの泌尿器科手術／処置	39		42		20	
そのほかの泌尿器科手術合計		39	39	42	42	37	37
総　　計		1,224	1,224	1,256	1,256	1,140	1,140

16. 産 婦 人 科 部

1．スタッフ（令和５年３月 31 日現在）

部長	田嶋　公久	日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（子宮鏡、腹腔鏡） 福井大学医学部臨床教授
部長	辻　隆博	日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
部長	福田　真	日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師 日本医師会認定産業医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 日本生殖医学会生殖医療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医師	山本　真	日本産婦人科学会専門医・指導医
医師	江坂　有希恵	日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医
医師	山田　しず佳	日本産婦人科学会専門医・指導医

2．診　療

令和４年度も前年度に引き続き、婦人科・産科領域ともに新型コロナ感染症の影響を大きく受けました。しかし、婦人科手術件数は令和３年度に比べて増加し 624 件となりました。手術内容では、腹腔鏡下手術･子宮鏡下手術が多く､福井県下で最多の件数です。腹腔鏡下手術の技術認定医の存在（田嶋・辻）とともに、当院での腹腔鏡下手術が地域に認められていることを示していると考えます。腹腔鏡手術では、妊孕性の温存に注力しており、生殖医療専門医である福田医師が、不妊患者の手術と不妊治療の橋渡しをしています。子宮鏡手術は年々増加しており、昨年度よりも 22 件多い 79 件でした。これは、細径子宮鏡が導入され日帰りのポリープ切除術が増加したことと、山本医師が積極的に子宮鏡手術を推進していることが大きいと考えます。

分娩については、新型コロナ感染妊婦の分娩を福井県立病院と協力しながら行いました。新型コロ

ナ陽性妊婦の帝王切開を 11 件行っています。分娩件数は令和 3 年度よりも減少し 264 件でした。高齢妊婦の割合が高くなっているのが近年の傾向です。令和 3 年度に分娩された初産婦 134 人中 33 人（24.6%）が、35 歳以上の高齢初産婦でした。また、全分娩の 19.3% が ART 妊娠でした。日本周産期・新生児医学会専門医である江坂医師が、小児科医師と協力しながらハイリスク分娩の管理に取り組みました。

なお、令和 4 年度はスタッフ構成に変化があり、佐藤久美子医師が令和 4 年 4 月から福井県済生会病院に異動となりました。代わりに同月より産婦人科悪性腫瘍の治療を専門とする山田しず佳医師が赴任し悪性腫瘍の診断・治療に取り組んでいます。

術式	症例	R4 年度
悪性腫瘍手術	円錐切除	36
	子宮頚癌	21
	子宮体癌	11
	卵巣癌	20
	外陰・膣癌	0
	その他	1
腹腔鏡良性疾患	子宮全摘	99
	子宮筋腫核出	35
	良性卵巣	99
	異所性妊娠	1
	性器脱	25
子宮鏡下	子宮筋腫切除	27
	ﾎﾟﾘｰﾌﾟ切除	52
	子宮鏡検査	1
開腹良性	子宮全摘	11
	筋腫核出	0
	良性卵巣	6
	その他	2
膣式良性	子宮全摘	0
	性器脱	6
	その他	1
産科手術	帝王切開	96
	子宮頚管縫縮	2
	人工中絶	36
	流産手術	26
	羊水穿刺	1
その他	その他	9
合　計		624

	R4 年度
分娩数	264
双胎、品胎	3
初産婦	134
正期産	225
早産	38
過期産	0
死産（22 週以降）	1
早期新生児死亡数	0
周産期死亡数	1
高齢初産(35歳以上40未満)	20
高齢初産（40 歳以上）	13
ＡＲＴ妊娠	51

３．次年度の目標

婦人科では、低侵襲手術によって、患者さんのQOL向上と日常生活へのいち早い復帰をサポートします。特に低侵襲である子宮鏡手術のさらなる増加を目指します。挙児を希望される女性においては、子宮内膜症に対するCO2 レーザー手術等の技術を用いて妊孕性の温存を心がけます。

産科に関しては、来年度も引き続き安全で安心な分娩環境を提供することを目標とします。新型コロナは令和５年５月より５類相当の感染症となりましたが、今後も感染防御を十分行いながら診療にあたります。

17. 眼　　科　　部

1．スタッフ（令和４年４月１日時点）

第一部長兼アイセンター長

	小堀　朗	日本眼科学会専門医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医 近視矯正手術認定医、ICL 手術認定医＆指導医（フェイキック IOL）、 福井大学臨床教授、日本眼科手術学会評議員／理事 Best Doctors in Japan：2016-2017、2018-2019、2020-2021、2022-2023
副部長	額田　和之	日本眼科学会専門医認定医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医、 近視矯正手術認定医、視覚障害者用補装具適合判定医師
医師	李　相沅	日本眼科学会専門医認定医
医師	許沢　尚弘	京都大学博士号所得
医師	吉村　昭人	
後期研修医	竹内　正興	
	鈴木　陽平	
非常勤医師	清水　悠介　佐々木　次壽　辻　隆宏　松村 健大　盛岡　正和　後沢　誠	
眼科医	常勤５名＋非常勤６名	
視能訓練士	西畑　吉田　横田　木原　高畑　杞根　土江　福田	
看護師	３名	
事務	４名	
外来クラーク	３名	

令和４年３月をもって額田和之先生は実家の額田眼科に転勤となりました。２年間当院で尽力してくれました。あらゆる手術をこなしていましたので院長として益々活躍されることと思います。代わりに４月より京都大学大学院から許沢尚弘先生が着任しています。神戸アイセンターにも３年間勤務されておりました。丁寧な診療と治療をしてくれる頼りになる２番手です。　李相沅先生も同時期に静岡市立病院へ転勤になりました。５年間当院で尽力してくれました。部長としての赴任になります。活躍を祈っています。代わりに福井大学から鈴木陽平先生が着任しています。外眼部手術を得意にしており当院でも担当してもらっています。

2．診　療

コロナの勢いが収まり、少しずつ元の治療に戻りつつあります。

手術関連についてです。眼内コンタクトレンズ ICL や多焦点眼内レンズは堅調に推移しています。特に ICL は明らかに増えてきています。緑内障や網膜硝子体手術は例年同様です。

若手の先生に対する指導を強化していきます。硝子体手術指導として週一回福井大学から盛岡先生、後沢先生にサポートしてもらいます。神経眼科外来として辻先生、角膜外来として松村先生に２ヶ月に一度来てもらいます。

医療機器関連についてです。新しい ERG を導入しました。RETeval といい、瞳孔反応とフルファンクションの ERG が測れます。無散瞳でも計測ができます。糖尿病網膜症の重症度や網膜静脈閉塞症の重症度を判定することができるため、レーザーのタイミングや新生血管緑内障の発症予測もできます。

３．次年度の目標

現在､若手眼科医の教育に特に力を入れております｡安全性を維持しつつスタッフ全員のレベルアップを行なっております。チームとして治療にあたりますのでよろしくお願いいたします。

当科は眼の外科治療を専門とし、北陸でも有数の眼科手術件数を行っております。今後も白内障・屈折矯正・緑内障・網膜硝子体手術を中心に治療して行きます。

最後にご紹介していただいている開業医の皆様には本当に感謝しております。できるだけ早くお帰りいただけるよう努力しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

中央手術部＆アイセンター手術統計

令和４年術式分類	当院
白内障手術	
PEA/ECCE/ICCE（+IOL 含む）	1884
眼内レンズ強膜内固定	41
その他、IOL2 次挿入など	9
緑内障手術	
線維柱帯切開術（iStent 含む）	134
ロングチューブ挿入術（アーメドなど）	11
線維柱帯切除術	10
隅角癒着解離術 / 毛様体レーザー / その他	2
網膜剥離手術 = 経強膜法	
経強膜裂孔閉鎖術	12
硝子体手術	302
斜視手術	8
翼状片	16
その他	
内反症手術	19
眼瞼下垂手術	20
涙道手術（涙嚢鼻腔吻合術含む）	3
腫瘍摘出	15
霰粒腫	7
眼球摘出	0
その他（外傷を含む）	23
ICL	46
合計	2,565

＊ IOL = 眼内レンズ挿入術

眼科外来ブースにおける軽手術	令和４年
角膜異物除去術	9
角膜潰瘍掻爬術	7
結膜異物除去	0
結膜結石除去術	0
涙点プラグ挿入術	22
虹彩光凝固術	1
後発切開術（レーザー）	195
網膜光凝固術（通常）	113
網膜光凝固術（特殊）	47
硝子体注射	1,285
合計	1,679

＊コストを算定した回数で調べました。

18. 耳鼻咽喉科部

1．スタッフ

部

部長　　大澤　陽子
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
日本アレルギー学会指導医、専門医
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医
補聴器適合判定医師

副部長　　扇　和弘
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医（令和４年４月１日赴任）
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医

医師　　堤内　俊喜
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医

後期研修医　　深田　靖人（令和４年４月１日赴任）

2．診　療

(1) 基本方針

目標は、地域医療をさらに充実させるために病診連携を今まで以上に強固にすることであり、そのためにはとにかく手術症例数を増加させ、さらに質の高い医療を目指すことが重要である。

(2) 診療責任体制

①主治医制

原則的には主治医制をとっている。しかし日頃からスタッフが患者同意の上、交代で診察しスタッフ全員の目でチェックする体制となっている。また、部長が担当医になって随時主治医の相談に応じている。

②研修医の指導

後期研修医：外来は、１年目で耳鼻咽喉科手技全般ができるようにする。手術は、１年目で 口蓋扁桃摘出術、鼻茸切除術、頚部リンパ節生検などの簡単な手術が、２年目で副鼻腔手術、良性腫瘍手術が指導医の下でできるようにする。年１回の学会発表をする。

③主治医不在時の対応

代診医を決め対応する。関連病棟にも連絡する。

④休日・夜間体制

当番を決めオンコール体制で対応している。主治医に連絡があれば主治医も対応する。

⑤救急体制

救急待機医を決めオンコールで 24 時間対応できる。緊急手術などバックアップ体制も常に心がけている。

⑥病棟回診

部長回診：週 2 回 火・木曜日 午前

医師回診：月・水・金・土（当番制）

(3) 院内症例検討会

毎週月曜日　耳鼻咽喉科外来　耳鼻咽喉科医師

毎週水曜日　嚥下摂食チーム（耳鼻咽喉科医師・言語聴覚士・認定看護師・栄養士・薬剤師）

毎月第一水曜日　２の５病棟 耳鼻咽喉科医師・病棟看護師・耳鼻咽喉科外来看護師

毎月第一月曜日　放射線科外来　放射線科部治療医師　耳鼻咽喉科医師

(4) 院内症例検討会の記録の保管形態・保管場所

患者の電子カルテに検討した内容を記載

３．実　績

手術実績

手術名	令和２年度	令和３年度	令和４年度
鼓膜形成術	3	0	0
鼓膜穿孔閉鎖術	0	5	4
鼓室形成術	4	4	3
顔面神経管開放術	0	1	1
乳突削開術	2	3	3
内視鏡下鼻中隔手術	28	30	22
内視鏡下鼻腔手術	38	22	22
翼突管（後鼻）神経切断術	40	24	18
内視鏡下鼻副鼻腔手術	58	52	54
鼻副鼻腔良性腫瘍手術	5	3	2
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	3	2	4
顎・顔面骨折整復手術	1	3	1
口蓋扁桃摘出術	60	62	52
舌・口腔良性腫瘍手術	9	9	11
舌・口腔悪性腫瘍手術	3	5	2
顕微鏡下喉頭微細手術	4	7	12
喉頭悪性腫瘍手術	0	2	3
喉頭形成術	0	1	2
気管切開術	19	12	17
頚部良性腫瘍手術	4	4	5
頸部郭清術	7	12	10

手術名	令和２年度	令和３年度	令和４年度
顎下腺摘出術	5	2	1
顎下腺良性腫瘍手術	0	1	4
耳下腺良性腫瘍手術	7	9	12
耳下腺悪性腫瘍手術	1	1	1
バセドウ病手術	4(内視鏡 0)	4(内視鏡 1)	3(内視鏡 0)
甲状腺良性腫瘍手術	16(内視鏡 3)	16(内視鏡 5)	15(内視鏡 8)
甲状腺悪性腫瘍手術	12(内視鏡 1)	15(内視鏡 1)	12(内視鏡 1)
上皮小体腺腫・過形成手術	2(内視鏡 1)	2(内視鏡 0)	8(内視鏡 6)
鼓膜チューブ留置術	9	17	4
鼻粘膜焼灼術	43	37	40
喉頭粘膜下遺物挿入術	16	10	10
頚部リンパ節生検	13	10	10
アデノイド切除術	4	3	2
耳瘻孔摘出術	2	1	5
外鼻形成術	3	2	1
唾石摘出術	5	6	4
その他	46	21	17
合　　計	476	420	397

４．目　標

急性期医療・がん診療を中心に展開していきます。手術支援機器や内視鏡を用いた高度な手術治療を実施し、良質な医療を提供します。また、地域の医療機関と連携して、早期社会復帰が可能な診療体制を充実させていきます。

19. 放射線科部

1．スタッフ

第１放射線科部長	左合　直	日本医学放射線学会専門医
第１放射線科部長代理	高橋　孝博	
放射線科部副部長	楢林　正流	放射線治療専門医（日本医学放射線学会認定） 研修指導者（日本医学放射線学会認定） がん治療認定医（日本がん治療医認定機構認定）
放射線科部副部長	松井　謙	日本医学放射線学会専門医
放射線科部副部長	都司　和伸	日本医学放射線学会専門医
医　師	北川　泰地	
医　師	金井 理美	（令和５年３月 31 日退職）
嘱託医師（名誉院長）	野口 正人	（令和５年２月５日退職）

2．診　療

＜診断部門＞

1. 稼働実績

各検査の稼働実績は昨年度とほぼ同等を維持している。細かく見ていくと、胸部腹部一般撮影やや減、パントモ・デンタルやや増、血管造影やや減、骨塩やや増、RI やや減であるが、大きな差はないと考える。必要な画像診断が従前通りに実施されていると思われる。

2. 頭部 MRA の AI の試用

エルピクセル社の MRA 動脈瘤検出 AI「EIRL」の試用経験を得た。人間の不注意による見落としの一部は適切にチェックされ一定の評価は得られたが、専門医レベルの読影なら指摘できる病変の偽陰性も多く、現時点では読影時間の短縮や精度の向上が確実に期待できる、というレベルではないと判断した。

一方で、画像診断 AI は読影量の増加に対するマンパワー（人力）不足という診断放射線科医のみならず医療現場の深刻な問題に対する唯一の解決法であり、その開発にはメーカーだけでなく医療側も協力する必要がある。特に AI の開発には適切な質と量の教師データが必須であり、今機会があれば教師データの提供はすべきと考える。

＜治療部門＞

放射線照射による悪性腫瘍（良性腫瘍も一部含む）の治療

令和４年の症例数は 265 件（のべ件数）で、前年（令和３年）の 239 件（のべ件数）からは１割程度の増加となった。コロナ禍の影響によって全国的に放射線治療患者数の顕著な減少が続いていたところであったが、ようやくその影響が薄れて増加傾向に転じてきたためかと推測される。

原発部位別の内訳で見ると、今年は泌尿器科腫瘍と肺・縦隔腫瘍がそれぞれ 58 件（のべ件数、以下同様）で全症例の 21.9% と最も多く、次いで乳腺腫瘍が 48 件（全症例の 18.1%）と続く形となった。これら３分野が上位となるのは例年通りであるが、３分野ともに前年より増加しており、特に乳腺腫瘍の伸びが +40% 弱と大きく、これもコロナ禍からの回復の影響が示唆される結果であった。

また部位別ではないが、転移性骨腫瘍への緩和照射の件数の増加率も高かった。特に骨転移合併症例の多い肺・縦隔腫瘍の件数増に随伴した変化と考えるが、院内には肺癌以外にも緩和照射を必要と

している症例は潜在的に多数あるものと思われる。例えば頭頸部、造血器・リンパ、婦人科腫瘍は前年より減少となってはいるが、このような分野でも緩和照射の症例の拾い上げは不十分な印象はあり、引き続き各科とより緊密に連携し、がん治療現場での様々なニーズに応えていきたいと考えている。

今年度の当科の新規取り組みとして、左乳房に対する深吸気息止め照射（DIBH）を開始することができた。左乳癌への放射線治療の際、心臓に当たる放射線量が多くなると、照射後数年～20年後の心血管疾患の発症リスクが高くなる可能性が指摘されており、乳癌診療ガイドラインでも心臓への照射線量を低くするような配慮が推奨されている。深吸気息止め照射は心臓への照射線量を低くする工夫の一つとなり、患者さんに息を大きく吸ってもらった状態で息を止めている間に照射することで、物理的に乳房と心臓の距離を離すことにより、心臓への線量を低減する照射技術のことである。以前から公的保険の適応にもなっている技術ではあるが、呼吸状態をモニタリングする方法や再現性の担保、治療時間の延長など、実施に当たってはいくつかのハードルがあった。今回それらを解決して臨床開始し、現在のところ大きな混乱なく運用できている。なお左乳癌の患者全員に適応となるわけではなく、呼吸再現性が安定している患者で、かつ治療計画上で自由呼吸と比べて明らかに心臓線量低減が確認できる患者に限られることを事前に説明し理解していただく必要がある。

自由呼吸との比較が必要となり治療計画等での手間は増えることにはなるが、適応のある患者へのメリットは大きいと思われるので、これからも左乳癌患者へのアピールポイントはなるかと期待される。広報誌等にも掲載して、積極的に症例を増やしていきたいと考えている。

３．実　績

末尾統計参照

４．次年度の目標

＜診断部門＞

長年代表部長を務められた左合医師が非常勤となり質的には戦力ダウンとなったが、ある意味マンパワーは微増といえる。この間に技師のUS参入を増強しておくことは必要と考える。

＜治療部門＞

スタッフの異動に伴い、今年度に引き続き診療体制への影響が予想されているところであるが、地域がん診療連携拠点病院としての責務を果たすべく、悪性腫瘍の治療に不可欠なモダリティである放射線治療を従来通りに維持し提供できるよう努力していく次第である。

＜診断部門＞

血管系 IVR

	令和２年	令和３年	令和４年
肝腫瘍 TAE	14	17	6
動注	0	0	0
止血 TAE	1	8	6
PTA（stent)	0	0	0
BRTO	3	0	0
動注リザーバー	0	0	0
AVS	4	3	1
その他	6	6	2
マッピング	0	1	0
計	28	35	15

非血管系 IVR

	令和２年	令和３年	令和４年
PTCD(stent)	3	1	2
胆嚢ドレナージ術	10	9	13
膿瘍ドレナージ術	14	4	9
RFA(ラジオ波凝固)	0	0	0
PEIT	0	0	0
エコー下生検	19	22	17
CT 下生検	0	0	0
他	2	2	11
計	48	38	52

超音波検査

部位 / 年（令和）	令和２年	令和３年	令和４年
腹部	11010(7 件)	11328(3 件)	10842(0 件)
（放科施行）	10, 997	11, 328	10, 841
ドック（腹部）	2, 887	3, 018	3, 015
乳腺	3, 061	3, 293	3, 347
ドック（乳腺）	585	635	664
頚部	3, 738	4, 018	3, 957
その他	693	728	670
総数	18, 502	19, 367	18, 815

・腹部下段は放射線科（放射線技師のドック例も含む）施行数
・腹部の件数はドックも含む
・腹部の（　）は造影件数
・ドックは診療放射線技師が施行
・頚部は放科医、その他は放科と他科医の合計
・乳腺は外科医が施行、件数にはドックを含む

放射線科部消化管造影検査

部位 / 年（令和）	令和２年	令和３年	令和４年
上部消化管	636（564）	346（276）	289（220）
小腸	13（0）	5（0）	9（0）
大腸	8（0）	7（0）	9（0）

（　　）：放射線科担当件数

＜治療部門＞

放射線治療　症例数内訳

	令和２年	令和３年	令和４年
総症例数	275	239	265
00 脳・脊髄	1	3	5
01 頭頸部	15	28	19
02 食道	13	3	4
03 肺・気管・縦隔	68	43	58
04 乳腺	56	35	48
05 肝胆膵	7	13	12
06 胃・小腸・結腸・直腸	16	17	20
07 婦人科	3	6	3
08 泌尿器系	56	49	58
09 造血器・リンパ	22	18	12
10 皮膚・骨・軟部	0	1	1
11 その他（悪性）	0	0	1
12 良性	18	23	24
（うち）			
転移性脳腫瘍	57	29	30
転移性骨腫瘍	42	35	51

放射線治療（特殊治療）　症例数内訳

治療法／年（令和）	令和２年	令和３年	令和４年
定位照射			
頭部	26	21	13
体幹部（肺腫瘍）	3	5	4
（内、動体追尾照射）	(1)	(0)	(0)
体幹部（肝腫瘍）	0	1	0
（内、動体追尾照射）	(-)	(-)	(-)
体幹部（脊椎）	3	6	3
その他	0	4	2
強度変調放射線治療（IMRT・VMAT）			
総　　数	61	81	76
脳	1	3	5
頭頸部	11	25	18
食道	7	3	3
肺	10	4	4
乳	0	0	0
肝・胆・膵	5	2	4
結腸・直腸	6	7	4
婦人科癌	2	3	0
前立腺	10	25	27
泌尿器癌（前立腺以外）	2	4	3
血液疾患	7	4	6
皮膚	-	-	1
その他	-	1	1
全身照射（TBI）	-	-	-

温熱治療　症例数内訳

疾患／年	令和２年	令和３年	令和４年
肺・縦隔腫瘍	0	0	0
乳癌	0	0	0
肝臓癌	0	0	0
胆道・膵癌	0	0	0
泌尿器系腫瘍	0	0	0
子宮癌	0	0	0
その他	2	0	0
温熱回数	2	0	0

20. 麻　酔　科　部

１．スタッフ

第１部長	福岡　直	日本専門医機構／日本麻酔科学会　専門医
		日本麻酔科学会　認定医
		厚生労働省麻酔科標榜医
		福井大学医学部臨床教授
第２部長	白塚　秀之	日本専門医機構／日本麻酔科学会　専門医
		日本麻酔科学会　認定医　指導医
		厚生労働省麻酔科標榜医
		抗菌化学療法認定医
		日本体育協会認定スポーツドクター
		福井大学医学部臨床教授
		統括日本ＤＭＡＴ隊員
		福井県災害医療コーディネーター
		日赤災害医療コーディネーター
第３部長	田中　弓子	日本麻酔科学会　認定医　専門医　指導医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		厚生労働省麻酔科標榜医
第４部長	斎藤　律子	日本麻酔科学会　認定医　指導医
		日本集中治療医学会専門医
		厚生労働省麻酔科標榜医
副部長	小柳　覚	厚生労働省麻酔科標榜医（令和５年３月 31 日退職）
医師	山岸　一也	日本麻酔科学会　認定医　専門医
		厚生労働省麻酔科標榜医
医師	藤岡　沙織	日本麻酔科学会　認定医　専門医
		厚生労働省麻酔科標榜医
医師	片岡　澪	日本麻酔科学会　認定医（令和５年３月 31 日退職）
		厚生労働省麻酔科標榜医

今年度を持ちまして小柳先生が定年を迎えられました、長年ご尽力をいただき、麻酔科一同感謝申し上げます。今後は嘱託職員として週５日勤務を継続していただくこととなりました。

残念ながら片岡先生は大学病院にもどられました、現状常勤スタッフ６名で全身麻酔（2351 件）、集中治療業務（24 時間、救急外来の応援、ペインクリニック外来、ドクタークロス対応（24 時間体制）、RRS(24 時間体制) 維持しております。

手術室業務に関しては嘱託医師２名と昨年同様福井大学から週 4 回、金沢医科大学より週１回の医師派遣を継続していただいております。

２．診　療

手術、麻酔部門）

令和４年度の総手術件数 5861 件、麻酔科依頼件数 2351 件、全身麻酔 2302 件。急性期充実体制加算にかかる全身麻酔の緊急手術件数は 358 件（必須要件は 350 件以上）でした。

昨年同様ロボット支援下手術は増加傾向にあり、低侵襲手術のトレンドは変わりなく、麻酔管理においても麻酔科医の知識のバージョンアップ、モニター機器の充実が不可欠であり、基幹病院の機能を果たすためにそれらの拡充に努めるとともに安心、安全、そして信頼される麻酔管理を目指し引き続き周術期管理チーム、手術室スタッフとの協力体制の充実を図っていきたいと考えております。

集中治療部門）

COVID-19 のパンデミックも ４年目を迎え、集中治療室では感染患者さんの入室も依然散見されますが、重症肺炎の症例はほとんどなく、高齢者における基礎疾患の増悪にコロナ感染が合併した状況の全身管理目的が主なものとなっております。

令和２年７月より導入された RRS(Rapid response system）は､令和４年度総起動件数 471 件（平日日中)、RRS 起動後の転機内訳（集中治療入室８件、現病棟管理 38 件、病棟転棟 11 件）となっております。これは今年度から 24 時間体制となり麻酔科、研修医等の負担増となりますが、引き続き院内重症、急変患者の情報共有がよりスムーズに行えるよう、各科においても情報共有におけるご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

ペインクリニック ． 緩和外来部門）

麻酔科ペインクリニック ／ 緩和外来として毎週水曜日に外来を開設しております。院内、外からの紹介を中心に、帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、CRPS、脊椎術後症候群（FBSS)、中枢痛等に対して薬物、ブロック療法を中心に月平均 80 名の治療を行っています。術後遷延疼痛、化学療法後神経障害性疼痛などは十分な治療が行われず潜在的な患者数は多い印象を持っております、また線維筋痛症など統計学的に患者数は多いものの周知されることなく診断、治療に至らない患者も多く存在すると思われます。これらお気付きのことがあれば一度ご相談ください。よろしくお願いいたします。

３．目　標

① 基幹病院として麻酔科医の知識と設備の充実を図る。(最大の目標はマンパワーの確保です)

② 引き続き COVID-19 患者の受け入れ体制の継続と今後新たに起こりうる感染症パンデミックへの対応に対する準備。

③ ①、②に必要不可欠なスタッフ、部門との連携強化と十分なコミュニュケーションを図る。

④ 急性期充実体制加算の維持（365 日毎日１件以上の緊急手術がないと達成できない数字です）
６名のスタッフで頑張っています。

21. リハビリテーション科部

１．スタッフ（令和４年４月１日現在）

第１リハビリテーション科部長　淺野　太洋　　第２リハビリテーション科部長　髙嶋　理
リハビリテーション科技師長　仲辻　良仁
第１理学療法課長　豊田　泰美　　第２理学療法課長　山岸　耕二
第１理学療法係長　梅田　美和　　第２理学療法係長　宮下　崇
第１作業療法係長　山田　英二　　第２作業療法係長　浜田　友紀
言語聴覚療法課長　岩佐　茂美　　言語聴覚療法係長　吉川　綾子
他、理学療法士 15 名、作業療法士 10 名、言語聴覚士３名、助手１名、事務 0.5 名

２．診　療

・疾患別リハビリテーション（以下リハ）である運動器、脳血管、呼吸、心大血管、がん、廃用症候群のすべての施設基準（Ⅰ）を満たし、摂食機能療法に対応している。
・術後や超急性期の患者については継続性を持たせるために休日リハを実施している。SCU においては入院時よりリハが介入し、365 日リハを実施している。
・ICU における早期離床・リハチームに、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名を専任として配置している。
・SCU における早期離床・リハチームに、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、言語聴覚療法士１名を専任として配置している。

３．実　績

1）稼動実績

表１　リハビリ科実施単位数（PCU 含む）およびスタッフ１日一人当たり単位数

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
理学療法	64,219	69,422	64,637
＊スタッフ一人当たりの単位数	16.0	16.7	17.1
作業療法	41,076	45,733	45,167
＊スタッフ一人当たりの単位数	17.4	17.0	17.8
言語聴覚療法	14,888	14,926	13,504
＊スタッフ一人当たりの単位数	12.7	13.1	12.6

表２　リハビリ科実施単位数（PCU 含む）および１件当たりの実施単位数

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
総単位数	120,183	130,081	123,308
延べ件数	72,542	79,450	74,120
１件当たり平均単位数	1.65	1.64	1.66

表3　診療科別リハビリ実施単位数（PCU含む）

診療科	単位数	診療科	単位数	診療科	単位数
整形外科	29,359	血液内科	6,828	産婦人科	1,251
脳神経外科	16,145	腎泌尿器科	4,936	内科	712
神経内科	16,899	呼吸器外科	2,018	その他	541
循環器科	9,936	総合診療科	3,108		
呼吸器科	8,938	形成外科	1,637		
外科	9,916	耳鼻咽喉科	1,277		
消化器科	8,434	皮膚科	1,373	合計	123,308

2）費用をかけずに収益改善する取り組み

表4　退院時リハビリテーション指導料（300点）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
指導料算定額合計（円）	5,811,000	6,900,000	6,705,000
延べ件数（件）	1,937	2,300	2,235
算定取得率（%）	85.8	91.2	88.9

表5　リハビリテーション総合計画評価料（300点）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
評価料算定額合計（円）	7,047,000	11,622,000	11,847,000
延べ件数（件）	2,349	3,874	3,949
算定取得率（%）	60.5	85.5	94.7

表6　専門分野資格者数

専門分野別資格	令和2年度	令和3年度	令和4年度
心臓リハビリテーション指導士	11名	10名（-1）	10名
呼吸療法認定士	13名	13名	13名
骨粗鬆症マネージャー	6名	6名	6名
糖尿病療養指導士	3名	3名	3名
NST専門療法士	2名	2名	3名（＋1）
日本摂食嚥下リハ学会認定士	2名	2名	2名
腎臓リハビリテーション指導士	1名	1名	1名
排泄機能指導士	1名	1名	1名
認知症ケア専門士	2名（＋1）	2名	2名
職種別資格	令和2年度	令和3年度	令和4年度
専門理学療法士	1名	1名	1名
認定理学療法士	7名	7名	7名
認定作業療法士	4名	4名	4名
認定言語聴覚士	1名	1名	1名

がんのリハビリテーション研修修了者：

医師10名、看護師10名、理学療法士19名、作業療法士13名、言語聴覚士5名（リハ科全スタッフ修了）

3）その他

［医療チーム］

・NST　・RST　・CST　・認知症ケア　・褥瘡対策検討委員会　・摂食嚥下支援

［パーキンソン病の教育入院］

・8月より1-5病棟、神経内科にてパーキンソン病の教育入院が開始された。リハ科ではパーキンソン病のリハビリテーション研修、LSVT BIG認定講習会（PT・OT各1名）、LSVT LOUD認定講習会（ST1名）を受講終了し、リハビリテーションの介入を行なっている。

［健康教室］

・糖尿病教室（月2回／内科）　中止

・心臓病教室（月1回／循環器科）　中止

・人工股関節教室（年1回／整形外科）　中止

［市民公開講座］

・がん市民公開講座「がん予防のためのリハビリテーション」　病院ホームページにてweb公開（9～10月）

［学生研修の受け入れ］

・臨床実習受け入れ

理学療法　：　若狭医療福祉専門学校　7/19-9/9

作業療法　：　福岡リハビリテーション専門学校　4/11-6/3、6/6-7/29

言語聴覚療法：　京都光華女子大学　2/28-3/25

＊令和4年度もCOVID-19の影響により、研修会、資格試験の中止、または延期、各健康教室の中止など、活動は大きく制限された。

4．次年度の目標

1）一人のリハスタッフが患者一人に行う単位数に着目し、稼働数、患者満足度向上を目指す。

2）リハビリテーション科人材育成キャリアラダー評価会を実施する。

3）専門領域資格、職種別認定資格取得を奨励しスキルを向上させる。

4）各医療チームへ積極的に参加する。市民公開講座、人工股関節教室の開催、健康教室の講師を行う。

5）臨床実習の受け入れを行う。

22. 歯　　科　　部

1．スタッフ

部長	山田　和人	日本口腔外科学会専門医・同指導医
		日本歯科麻酔学会認定医
		日本口腔科学会認定医、指導医
		歯科医師臨床研修指導医
歯科医師	木村　瞳	令和３年９月 25 日産休、令和４年 10 月３日復職
後期臨床研修歯科医師	島村　佳明	令和４年９月 30 日退職
	大嶋　莉加	
初期臨床研修歯科医師	青木　亮典	令和４年４月１日赴任
非常勤歯科医師	入江　道文	

木村　瞳先生が 10 月に復職され、産休の間赴任された島村先生が、９月に退職され、令和４年４月より初期研修歯科医師の青木先生が赴任されました。歯科医師２名、後期臨床研修歯科医師２名、初期臨床研修歯科医師１名、歯科衛生士４名（正規職員３名）、歯科技工士１名の診療体制です。

2．診　療

１）外来診療

外来患者数は延べ 13,024 人で、そのうち新患 2,668 人、紹介患者 1,370 人です。

昨年の外来患者数は延べ 13,063 人で、そのうち新患 2,590 人、紹介患者 1,196 人でしたので、これに比較して、外来患者数で 39 人減、新患で 78 人増、紹介患者は 174 人増となりました。また紹介率では昨年 47.1％が 52.6％と 5.5％増加しております。

２）入院

入院患者数は 206 人で、昨年の 218 人に比較して、12 人減少しております。

3．実　績

※別表　入院手術統計のとおり

4．次年度の目標

新年度の目標は、歯科衛生士の確保と口腔機能低下症への取り組みと睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置です。

周術期口腔機能管理を行うため、歯科衛生士が必要ですが、体調が悪く、休職されておられるため、現在、歯科衛生士が不足しております。

口腔機能低下症に対しては、本年度からパーキンソン病の教育入院患者さんに対して、検査やリハビリ指導を行っております。

睡眠無呼吸症候群に対する口腔内装置については以前より作成しておりますが、医科の先生方の認知度があまり浸透していないようで、もう少し周知出来たらよいと思います。

＜入院手術統計＞

分類	疾患	令和２年	令和３年	令和４年
形態異常	顎変形症	0	0	0
	小帯異常	0	2	0
	歯肉増殖症	0	0	0
	歯槽骨不正	0	3	3
外傷	裂傷	0	0	0
	上下顎骨骨折	0	0	0
	下顎骨骨折	0	1	5
	上顎骨骨折	0	0	0
	頬骨骨折	0	0	0
	術後プレート除去	0	0	1
炎症	下顎周囲膿瘍	0	0	0
	顎下膿瘍	0	0	0
	眼窩下膿瘍	0	0	0
	頬部膿瘍	6	0	0
	オトガイ下膿瘍	0	0	0
	翼突下顎膿瘍	0	0	0
	ろう孔形成	0	0	0
	歯性上顎洞炎	0	0	0
	唾石症	0	0	0
	骨髄炎	3	0	1
	抜歯後感染	0	0	0
	歯周炎	0	10	0
	唾液腺炎	0	0	0
	顎放線菌症	0	0	0
	その他	0	1	0
嚢胞	歯根嚢胞	3	3	3
	切歯管嚢胞	3	1	2
	含歯性嚢胞	9	21	12
	術後性上顎嚢胞	0	0	0
	ガマ腫	0	0	0
	その他	2	0	0
腫瘍	良性腫瘍	2	0	3
	悪性腫瘍	5	1	3
顎関節	顎関節症	0	0	0
抜歯	埋伏智歯抜歯	113	134	126
	歯科集中治療	0	0	3
その他	口腔内出血	0	0	0
計		146	177	162

23. 総合診療科部

1．スタッフ

消化器内科　第２部長 道上　学	日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 日本内科学会総合内科専門医　日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医　日本肝臓学会専門医
消化器内科　副部長 里見　聡子	日本内科学会認定総合内科専門医、日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、
腎臓泌尿器科　副部長 松井　佑樹	日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医、日本移植学会移植認定医
腎臓泌尿器科　医師 石淵　絹人	日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医
腎臓泌尿器科　医師 山岸　瑞希	日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医
腎臓泌尿器科　医師 吉田　美咲	日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医 日本リウマチ学会認定ソノグラファ

2．診　療

平成28年４月から振り分け内科外来を総合診療科に変更して診療を開始し、平成29年４月から令和３年３月までは内科系および総合診療科が総合診療科医師として外来診療を担当していた。

その後、令和３年４月には消化器内科の里見副部長が総合診療科第二部長として着任し、腎臓内科から４人の医師が診療に携わっていただけることになり、以後は順調に外来患者数は増えてきた。

入院加療も平成29年５月より入院５床で開始しているが順調に患者数は増えてきている。

また、令和２年から新型コロナウイルス感染の拡大により、発熱スクリーニングを設置・開始し、総合診療科扱いとして入院加療（ただし、主治医は病院から指定された各科医師）を行っている。

ただ、紹介患者数は令和４年度でわずかに減少しており、かかりつけ医への周知を行うよう働きかける予定。

３．実　績

外　来	外来患者数（人）	5,465	紹介患者数（人）)	160
	１日あたり患者数（人）	22.4	紹介率（%）	26.9
入　院	新入院患者数（ 人 ）	413	逆紹介患者数（人）	304
	患者延べ数（人）	5,419	逆紹介率（%）	51.2
	１日あたり患者数（人）	15.0	平均在院日数（日）	13.8

(新型コロナウイルス感染患者を含まない)

４．目　標

日本専門医機構による新専門医制度でのプログラムでは基幹病院として認可されたが現在までに専攻医の応募はない。現状ではまだ施設認定基準を満たす診療や指導はできていないが令和５年４月からは専任医師の着任が決まっており、初期研修医を中心に診療や指導の充実を目指していく。

24. 救　　急　　部

1．スタッフ

救急部第１部長	嶋田　喜充
救急部第２部長（循環器内科部長）	坪川　明義
救急部副部長（外科部長）	川上　義行
医師	成山　美々
集中治療室看護師長	高島　恵
集中治療室看護係長（救急担当）	朝田　和枝（救急看護認定看護師）

2．診　療

＜救急部の活動＞

1　救急部作業部会の定期開催（11 回開催）

2　救急医療検討委員会（年１回開催 ）

第１回　令和５年３月 13 日（月）16：00 ～ 17：00

議題　1）令和４年度（令和４年４月～令和５年２月）救急関連統計

2）救急車応需率

3）令和４年度救急外来受け入れ不可症例数

4）ドクターヘリ・防災ヘリの受け入れ件数報告

5）ドクタークロス件数報告

3　院内における講習会

1）ACLS 協会による BLS 開催

（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約６名）

BLS　第１回　　令和４年９月 23 日（金）８名参加

BLS　第２回　　令和４年 11 月 27 日（日）１名参加

2）日本救急医学会による ICLS コース開催

（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約 12 名）

ICLS 第１回　令和４年 ６月 11 日（土）12 名参加

ICLS 第２回　令和４年 11 月 12 日（土）　９名参加

3）日本内科学会　内科救急・ICLS 講習会

（対象：院内医師　募集定員約６名）

JMECC　第１回　令和４年 12 月 17 日（土）４名参加

4　院外における会議

1）令和４年度福井県ドクターヘリ運航調整委員会（Web）

令和５年３月 27 日（月）18：00 ～

嶋田医師出席

2）原子力災害医療に関する会議

令和４年度 全国 原子力災害医療連携推進協議会（Web）　令和５年２月 10 日

令和４年度 地域 原子力災害医療連携推進協議会（ 広島 ）　令和４年 11 月 14 日

嶋田医師出席

３．実　績

表 1 救急外来来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	541	975	945	1,138	1,284	1,095	1,093	1,103	1,001	1,050	902	1,036	12,163
令和3年度	1,057	1,278	1,177	1,280	1,227	1,141	1,080	1,090	1,148	1,095	1,013	1,058	13,644
令和4年度	974	1,232	1,034	1,344	1,345	1,241	1,184	1,108	1,235	1,173	1,060	1,054	13,984

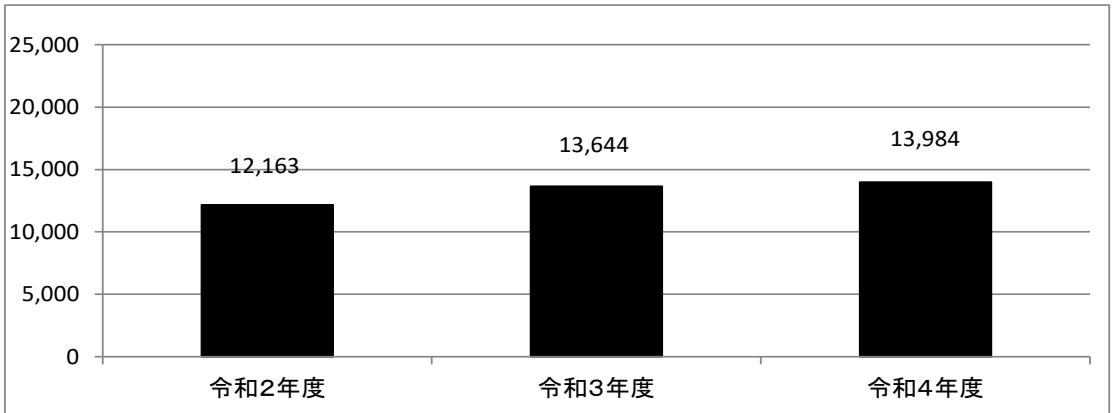


図1. 救急外来来院患者総数（年度別）

表 2 救急車における来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	122	208	218	249	275	212	249	261	262	349	232	285	2,922
令和3年度	286	288	264	305	304	287	269	284	305	334	304	326	3,556
令和4年度	183	293	257	313	391	309	327	288	404	323	297	293	3,678

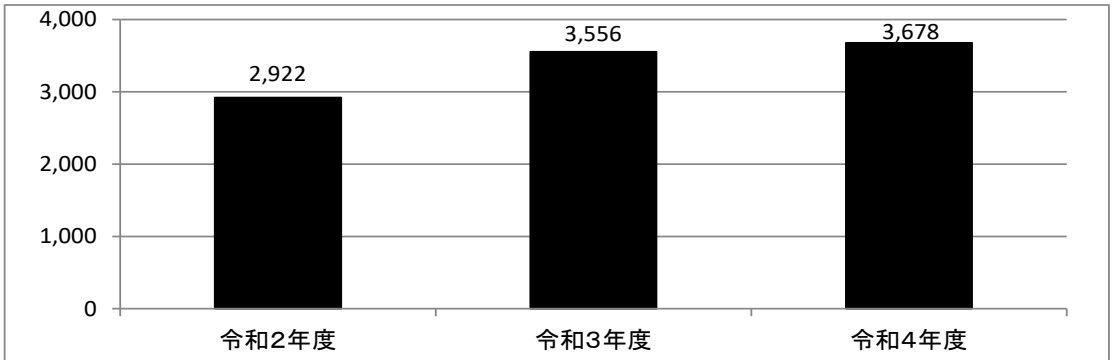


図2. 救急車での救急外来来院患者数（年度別）

表 3 救急外来から入院した患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	139	247	235	265	263	231	275	300	259	334	257	292	3,097
令和3年度	305	290	289	298	302	304	262	270	287	313	296	284	3,500
令和4年度	209	294	226	287	320	304	313	265	345	286	268	275	3,392

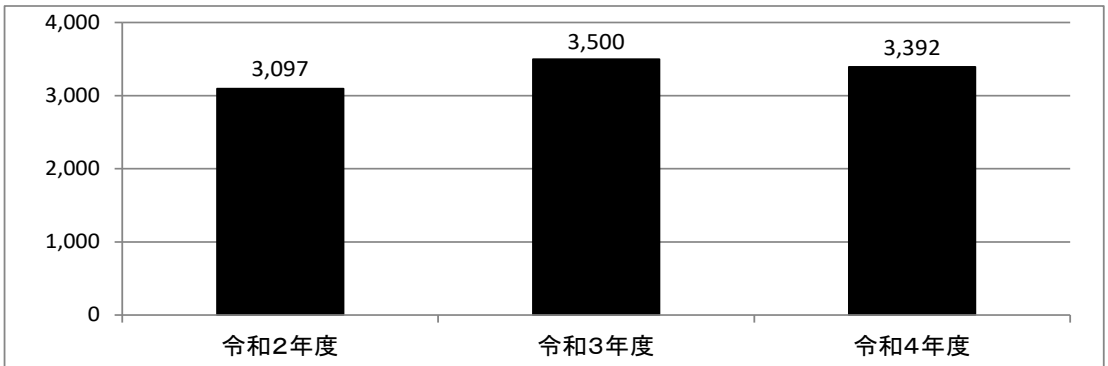


図3. 救急外来から入院した患者総数（年度別）

【 救急外来来院患者特性（年齢別） 】

年齢階級	0歳	1～4歳	5～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上	総計
令和2年度	217	641	590	776	957	945	1,096	1,120	1,905	3,916	12,163
令和3年度	327	940	768	946	1,080	967	1,139	1,094	2,078	4,305	13,644
令和4年度	311	894	829	907	1,136	956	1,171	1,229	2,158	4,393	13,984

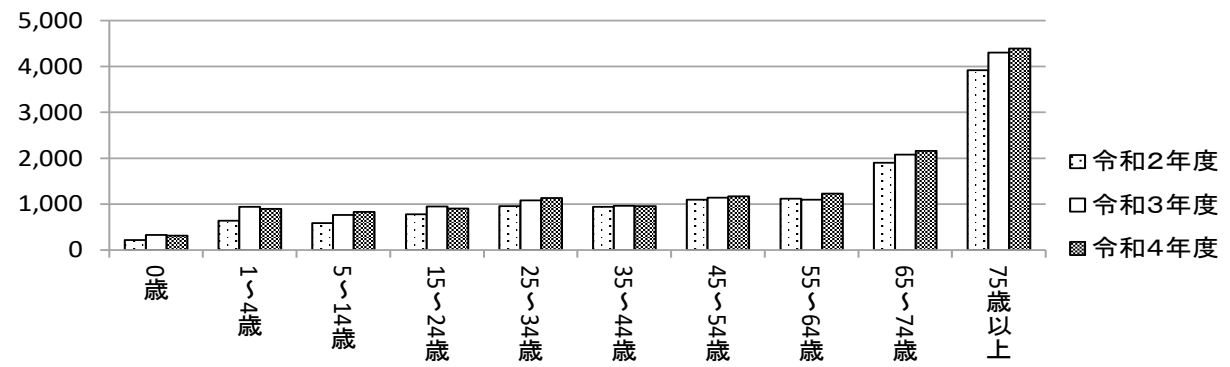


図4. 救急外来来院患者数（年齢別）

年齢階級	0歳	1～4歳	5～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上	総計
令和2年度	15	42	45	114	100	112	202	267	500	1,525	2,922
令和3年度	27	114	68	180	164	154	251	225	604	1,769	3,556
令和4年度	22	105	108	174	149	156	232	293	630	1,809	3,678

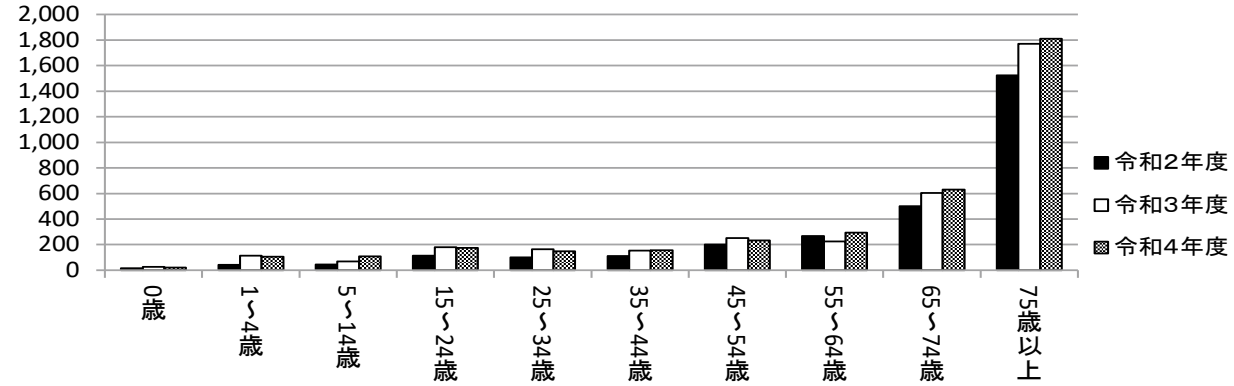


図5. 救急車での救急外来来院患者数（年齢別）

年齢階級	0歳	1～4歳	5～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上	総計
令和2年度	89	78	76	79	167	132	184	249	519	1,524	3,097
令和3年度	127	148	123	121	198	160	185	205	573	1,660	3,500
令和4年度	121	150	102	95	161	153	172	269	569	1,600	3,392

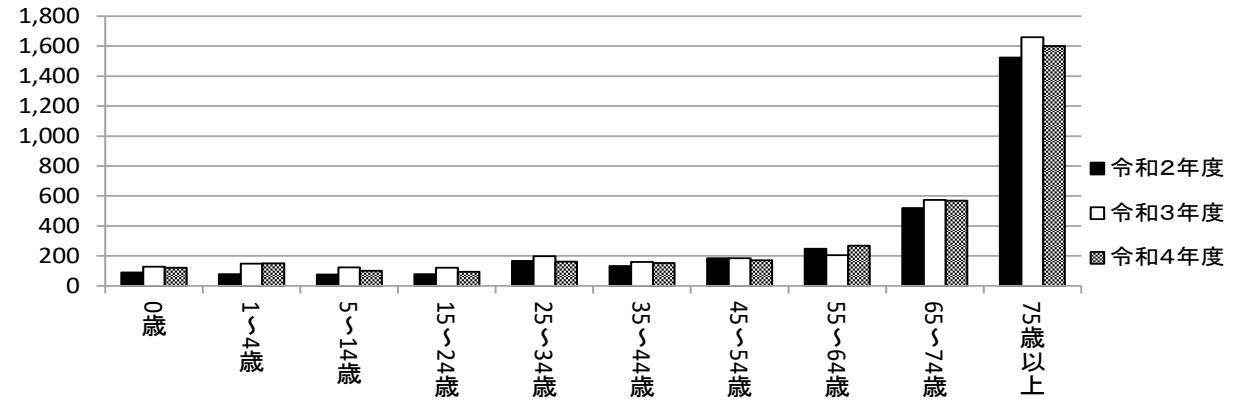


図6. 救急外来から入院した患者数（年齢別）

【 救急外来来院患者特性（最終診療科別） 】

救急患者数	内科	消内	呼内	小児	外科	整外	脳外	皮膚	腎・泌	循内	産婦	眼	耳鼻	放	呼外	神内	歯	形外	麻酔	総診	血内	総数
令和2年度	603	1426	409	753	502	1752	1165	715	735	676	393	382	728	8	106	647	161	406	2	594	0	12,163
令和3年度	296	1548	512	1160	612	1846	1214	706	750	764	425	428	776	12	144	635	227	534	2	944	109	13,644
令和4年度	152	1556	485	1257	514	1731	1248	600	736	697	436	564	779	0	102	612	186	653	2	1594	80	13,984

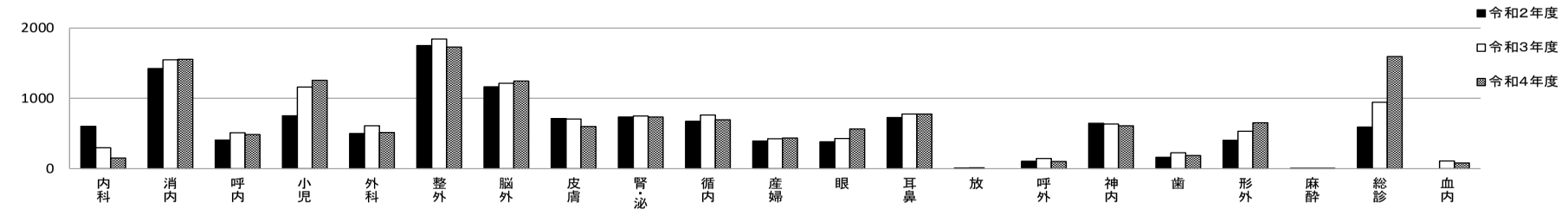


図7. 救急外来来院患者数（最終診療科別）

救急車搬送患者数	内科	消内	呼内	小児	外科	整外	脳外	皮膚	腎・泌	循内	産婦	眼	耳鼻	放	呼外	神内	歯	形外	麻酔	総診	血内	総数
令和2年度	155	332	114	74	101	515	481	53	150	275	41	8	104	0	40	270	3	50	0	156	0	2,922
令和3年度	93	385	181	130	149	575	510	44	169	323	46	7	136	0	66	277	8	75	0	342	40	3,556
令和4年度	59	418	192	190	124	548	481	39	169	279	53	9	138	0	44	280	4	117	0	496	38	3,678

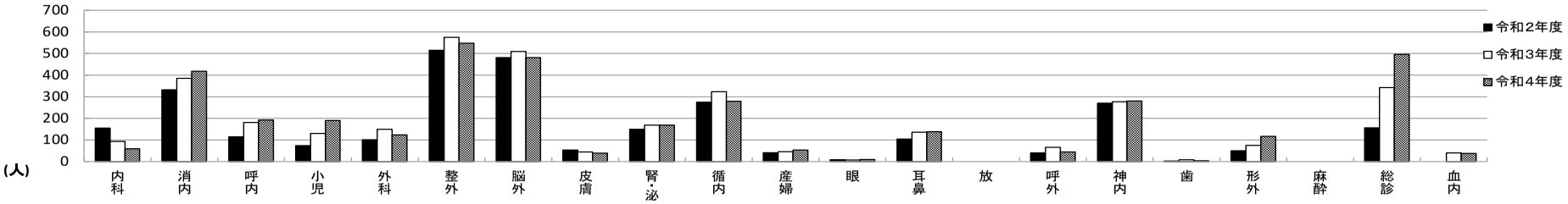


図8. 救急車で来院した患者数（最終診療科別）

入院患者数	内科	消内	呼内	小児	外科	整外	脳外	皮膚	腎・泌	循内	産婦	眼	耳鼻	放	呼外	神内	歯	形外	麻酔	総診	血内	総数
令和2年度	153	436	151	220	254	309	438	74	197	229	200	13	61	0	43	245	5	3	0	66	0	3,097
令和3年度	64	440	217	363	294	336	420	43	185	282	241	12	67	0	69	236	8	11	0	145	67	3,500
令和4年度	37	489	208	364	263	296	372	43	185	214	230	11	69	0	49	224	4	32	0	253	49	3,392

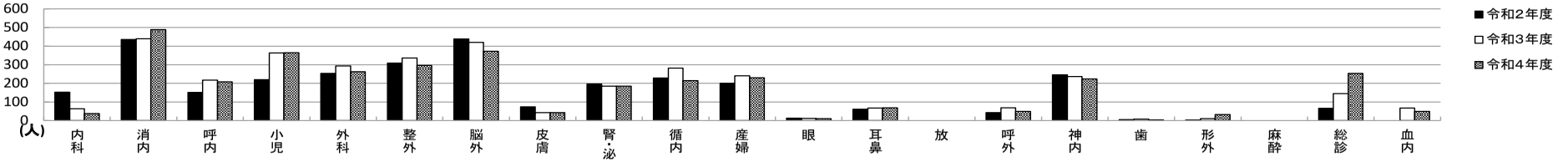


図9. 救急外来から入院した患者数（最終診療科別）

25. 健　　診　　部

１．スタッフ

部　長	西川　邦寿	日本内科学会認定医、指導医
		日本肝臓学会専門医
		日本消化器内視鏡学会専門医、指導医
		日本消化器病学会専門医、指導医
		日本大腸肛門病学会専門医、指導医
		日本人間ドック学会認定医、専門医 、指導医
		人間ドック健診情報管理指導士
		日本消化器がん検診学会総合認定医
		日本医師会認定健康スポーツ医
		日本医師会認定産業医
		ＰＥＧ・在宅医療研究会　専門胃瘻造設者
		日本ヘリコバクター学会　Ｈ.pylori（ピロリ菌）感染症認定医
		日本消化管学会専門医
		日本臨床内科医会専門医
副部長	吉田　誠	日本人間ドック学会認定医、専門医
		日本外科学会専門医
		日本乳癌学会認定医・乳腺専門医
		検診マンモグラフィ読影医師
嘱託医師	豊田　絵子	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
（令和４年５月１６日　着任）		日本医師会認定産業医
		日本超音波医学会専門医
		健診マンモグラフィ読影認定医
		日本人間ドック学会認定医
事務	課　　長　１名	係長　１名　　主事　２名　派遣事務員　６名（午前のみ２名）
看護師	看護師長　１名	看護師　２名　嘱託看護師　３名（午前中のみ２名）

２　実　績

令和４年から始まった当院の中期ビジョン「地域社会に貢献し、県民から選ばれる病院になる」のもと、健診部の目標を「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」とし、目標達成に向け、「がん検査受診率」「保健指導率」「二次検査受診率」などを評価指標に設定し取り組んだ。

令和４年度も新型コロナウイルス感染症の感染対策としてコロナ問診を実施、発熱や症状の確認を行った結果、健診者の感染や濃厚接触によるキャンセルや延期が多く発生した。

また、肺機能検査と特定健康診査は前年度に引き続き中止を継続することとなった。

その結果、令和４年度の受診者数は減少し稼働額も令和３年度を下回る結果となった。

業務実績としては、別表「人間ドック・健康診断受診者数」、「特定健康診査および特定保健指導実施者数」、「主な検査実施数」、「人間ドックの検査別がん発見数」のとおりである。

３　次年度の目標

「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」を引き続き令和５年度の目標に掲げ、早期発見のためのがん検査推奨・二次検査の受診勧奨、健診当日の保健指導実施など、安全と質の向上や健全経営に向けた取り組みを実践する。

人間ドック・健康診断受診者数

種別		性別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度増減
人間ドック	一日ドック	男	1,034	971	1,042	71
		女	685	704	783	79
		計	1,719	1,675	1,825	150
	福井市国保ドック	男	61	129	102	△ 27
		女	52	115	80	△ 35
		計	113	244	182	△ 62
	協会けんぽ	男	2,124	2,019	1,568	△ 451
		女	1,379	1,325	1,139	△ 186
		計	3,503	3,344	2,707	△ 637
	生活習慣病	男	322	308	325	17
		女	552	546	590	44
		計	874	854	915	61
	船員ドック	男	31	24	24	0
		女	5	3	1	△ 2
		計	36	27	25	△ 2
	脳ドック（単独）	男	25	20	29	9
		女	33	49	36	△ 13
		計	58	69	65	△ 4
	その他	男	7	10	17	7
		女	187	145	121	△ 24
		計	194	155	138	△ 17
	総計		6,497	6,368	5,857	△ 511
健康診断			3,576	3,700	3,820	120

特定健康診査および特定保健指導実施者数

種別		性別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度増減
特定健康診査	ドック併用	男	3,231	3,166	2,734	△ 432
		女	2,422	2,494	2,348	△ 146
		計	5,653	5,660	5,082	△ 578
	単　独	男	0	0	0	0
		女	0	0	0	0
		計	0	0	0	0
	総　計		5,653	5,660	5,082	△ 578
特定保健指導者数（初回）	動機付け支援	男	6	6	1	△ 5
		女	5	0	4	4
		計	11	6	5	△ 1
	積極的支援	男	5	8	7	△ 1
		女	0	5	0	△ 5
		計	5	13	7	△ 6
	総　計		16	19	12	△ 7

主な検査実施数

	令和２年度		令和３年度		令和４年度		前年度増減	
胃内視鏡	4,642		5,200		4,727		△ 473	
胃透視	496		218		174		△ 44	
脳ドック	362	(304)	428	(359)	446	(381)	18	(22)
腹部超音波	2,887	(750)	3,018	(808)	3,015	(713)	△ 3	(△ 95)
子宮がん	1,675	(858)	1,674	(913)	1,586	(931)	△ 88	(18)
マンモグラフィ	1,568	(897)	1,592	(915)	1,671	(912)	79	(△ 3)
乳房超音波	585	(552)	635	(609)	664	(645)	29	(36)
肺機能	10	(10)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
眼底	3,149	(392)	3,267	(412)	3,188	(371)	△ 79	(△ 41)
ＰＥＴ	23	(12)	22	(9)	43	(19)	21	(10)
卵巣検診（＊）	812		859		931		72	
肺ドック（＊）	148		126		121		△ 5	
喉頭がん（＊）	92		106		101		△ 5	
前立腺がん（＊）	1,117		1,251		1,307		56	
骨塩定量（＊）	130		147		138		△ 9	
ＨＰＶ（＊）	44		51		31		△ 20	
ＦＤＴ視野（＊）	83		85		92		7	
ピロリ菌（＊）	127		117		101		△ 16	
胃がんリスク（＊）	62		37		8		△ 29	
血管ドック（＊）	239		250		257		7	
甲状腺（＊）	141		143		139		△ 4	

＊印の項目および＊印以外の（　）内の数値は、オプション検査として実施した件数

人間ドックの検査別がん発見数

全コース（生活習慣病予防健診を含む）

検査名	病名	令和元年	令和２年	令和３年
診察	甲状腺がん	2		
	胆嚢がん			
血液検査	前立腺がん	7	3	9
	肺がん	1	1	
	大腸がん	1		1
	悪性リンパ腫			1
	膵臓がん	1		
尿検査	膀胱がん	2	1	
便検査	大腸がん	8	9	8
	悪性リンパ腫			1
胸部レントゲン	肺がん	4	1	2
	悪性リンパ腫			
	骨腫瘍			
胃内視鏡	胃がん	9	4	13
	悪性リンパ腫	1	3	1
	食道がん	2	1	2
	十二指腸がん		2	1
	声帯がん			
胃透視	胃がん			1
腹部超音波	膀胱がん	1	2	1
	腎臓がん	1	1	
	肝臓がん	1		
	胆嚢がん			1
	胆管がん	1		
	膵臓がん			2
	悪性リンパ腫	1		
乳がん検診	乳がん	7	6	10
子宮がん検診	子宮頸がん	6	1	2
	子宮体がん			
	卵巣がん		1	
脳ドック	髄膜腫	1	1	2
	甲状腺がん	1		
	海綿状血管腫	1		
肺ドック	肺がん	3	1	
喉頭がん検診	咽頭がん			1
	声門がん	1		
肺がん	肺機能検査		1	
計		63	39	59

（※）１月から 12 月の集計結果

26. 病理診断科部

1．スタッフ

部　　長	大越　忠和	日本病理学会病理専門医・病理専門医研修医指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医 厚生労働大臣認定死体解剖資格
臨床検査技師	塚田　ゆうき	細胞検査士
	國兼　結麻	細胞検査士
	清水　優仁	細胞検査士
	平井　英誉	
	大野　優希	
	藤田　幸宏（～ 令和４年４月 30 日在職、５月１日異動）	

2．診　療

組織診断：常勤医師１名と非常勤医師 11 名（福井大学）により診療業務を行っている。
高品質な標本の作製及び免疫染色や特殊染色の適切な併用により、正確かつ迅速な診断が可能である。

細胞診断：ほぼ全例において細胞検査士と細胞診専門医によるダブルチェックを実施することにより、精度の高い診断が可能である。

病理解剖：死体解剖資格保有者による適法な病理解剖を実施している。

3．実　績

	令和４年度
組織診断	6,024
術中迅速	235
借用標本	73
細胞診断	6,703
術中迅速	102
病理解剖	7

臨床病理検討会

令和４年度は下記の臨床病理検討会（CPC）を実施した。

臨床病理検討会　令和４年８月 31 日（水）剖検例 A20 － 008、A21 － 002

臨床病理検討会　令和４年 11 月４日（金）剖検例 A21 － 006、A21 － 007

4．次年度の目標

・院内実施可能な免疫染色および特殊染色の項目を拡充する。
・若手技師の育成に努める。
・院内外の研修会等へ積極的に参加する。

27. 脳神経センター

１．スタッフ

＜脳神経外科＞

センター長	西村　真樹	
	早瀬　睦	
	取越　貞治	
	北原　孝宏	
	山本　優	
	中島　悠介	
	青山　慎平	（令和４年10月１日着任）
	長谷川　貴士	（令和５年１月１日着任）
	笠島　一洋	（令和４年６月30日異動）
	三谷　幸輝	（令和４年７月１日着任 令和４年12月31日異動）

＜神経内科＞

	髙野　誠一郎	
	今村　久司	
	早瀬　史子	
	田中　大暉	（令和５年３月31日異動）
	北村　算英	

２．診　療

脳神経センターは脳神経外科と神経内科で構成されています。医師、看護師、リハビリのスタッフ、MSW との多職種で月曜から金曜まで毎日、脳卒中で入院した患者さんのカンファレンスを行っています。その上で急性期治療の方針、長期的な方針を決めています。

また、脳神経外科の医師、または神経内科の医師が毎日当直し、脳卒中患者さんの治療をより早く開始できるように努めています。日中も、脳卒中センターの医師が、神経系疾患の救急治療を担当しています。その結果、福井県随一の脳卒中診療施設として、歩み続けています。

28. がん診療センター

1．スタッフ

がん診療センター長：今村　信

がん診療センター副センター長：田中　文恵

事務局：地域医療連携課（がん診療センター）、医療情報課（がん登録）

2．業　務

相談支援部門　：がん相談員の看護師、社会福祉士、公認心理師らが協力し、がん患者の不安や悩みに対する傾聴、助言、情報提供などの適切な支援を行う。がん相談窓口での面談および電話相談、病状説明時におけるがん領域の専門・認定看護師の同席、がんケアニーズ評価の面談の他、ハローワークや産業保健支援センターとも連携し、就職支援にも対応している。またがん患者会「スマイル会」事務局として、世話人との連携や患者会開催準備、広報を担当する。
患者対象の集合イベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

化学療法部門　：がん化学療法に携わる専任医師、認定看護師、認定薬剤師を中心として、安全で能率的な化学療法の実施を推進する。外来化学療法室における治療管理、患者支援、ベッド管理等を行う。がん化学療法部会では、レジメンの妥当性、マニュアルの整備、外来化学療法室の運用、入院化学療法に関する様々な事項を審議する。

緩和ケア部門　：緩和ケアチームは、緩和ケアに関するスクリーニング（がんケアニーズ評価）に基づき、専門的な緩和ケアニーズを有する患者に対し、緩和ケア実施計画書を作成し介入する。又、緩和ケアを提供する場のひとつである緩和ケア病棟を後方支援する。
緩和ケア外来を開設し、外来通院患者が安心して在宅療養ができるよう支援する。
緩和医療検討部会では、院内の緩和医療に関する検討やマニュアルの整備などを行う。

放射線治療部門：放射線治療の専従医師、専従看護師、専従技師を中心として、安全で確実な放射線治療を実施する。症例に応じた治療計画、治療管理、経過観察と患者指導を行い、定期的な機器の精度管理も行う。

がん登録部門　：専従のがん登録実務者を配置し、国立がん研究センターが提示する「標準登録様式」に基づき、院内がん登録業務を実施する。また、生存状況の把握に務め、登録データは集計や分析のため、毎年国立がん研究センターや福井県がん登録部会に提供を行う。

遺伝診療検討部門：診療科医師、臨床遺伝専門医を中心に、遺伝診療について検討する。
また、がんゲノム医療連携病院（令和３年４月１日付）として、がんゲノム外来担当医、診療科医師、病理診断医、臨床遺伝専門医等と共にがんゲノム医療を推進する。

３．実　績

◆相談支援部門

がん相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和４年度	120	126	134	120	124	121	113	121	98	105	104	131	1,417

(1) スマイル会・・・７月15日（金）14時～　オンライン開催
11月18日（金）14時～
３月17日（金）14時～

◆化学療法部門

外来化学療法の件数（抗悪性腫瘍剤、生物学的製剤）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和４年度	434	443	481	430	475	447	434	422	390	394	403	439	5,192

◆緩和ケア部門

緩和ケアチーム依頼件数

	内	神	呼	消	循	血	小	外	整	形	脳	呼外	皮	腎･泌	婦	眼	耳	歯	合計
令和４年度	0	1	8	16	0	13	0	24	0	0	1	0	0	5	15	0	6	1	90

※ 2019 年度より非がん患者を含む

◆がん登録部門

がん登録数（Stage0 ～Ⅳ　その他）（※がん登録提出期間　１月～ 12 月に準じるため）

	口腔咽頭	食道	胃	結腸	直腸肛門	肝臓	胆嚢・胆管	脾臓	喉頭	肺・気管支
令和４年	23	40	164	158	66	33	32	50	7	151
	骨・軟部組織	皮膚	乳房	子宮頚部	子宮体部	卵巣	前立腺	腎	腎盂・尿管	膀胱
令和４年	3	39	135	58	13	24	128	36	14	57
	脳・神経	甲状腺	リンパ腫・骨髄腫	白血病	骨髄増殖性疾患	原発部位不明	その他	全部位（総計）		
令和４年	34	20	46	12	19	6	15	1,383		

◆遺伝診療検討部門

(1) 遺伝カウンセリング数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和４年度	0	3	2	0	0	1	2	0	3	1	3	2	17

(2) がん遺伝子パネル検査出検数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和４年度	0	4	1	1	3	2	4	1	3	1	1	4	25

◆研修会の開催状況

(1) 地域がん診療研修会：院外医師や当院の医師によるがんに関する研修

① 7/26（火）「放射線治療」　11/18（金）「緩和」　③ 3/3（金）「早期診断」　計 3 回

(2) がん看護セミナー：当院の認定看護師によるがん看護に関する研修

① 6/17（金）「緩和ケア」「がん性疼痛」 ② 8/19（金）「摂食・嚥下障害」「乳がん」

③ 10/21（金）「皮膚・排泄ケア」「がん化学療法」④ 12/16(金)「アピアランスケア」 計 4 回

(3) 9/19（月・祝）「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」

(4) 12/6（火）　「福井赤十字病院　在宅症例検討会」

※詳細に関しては、地域医療連携課「研修会開催の実績および参加人数」を参照

29. 腎センター（透析センター）

１．スタッフ

腎センター長　　小松　和人（再掲）
腎臓・泌尿器科部長　　伊藤　正典（再掲）
腎臓・泌尿器科副部長　　鈴木　康倫（再掲）
腎臓・泌尿器科副部長　　松井　佑樹（再掲）
医　　師　　山岸　瑞希（再掲）、石淵　絹人（再掲）、吉田　美咲（再掲）
看護師長　　妹尾　真理子（認定レシピエント移植コーディネーター、臓器移植院内コーディネーター）
看護係長　　織田　史江
看護師　　塚本　ひとみ、前田　裕子、村上　美佐江、猪島　靖子（透析技術認定士）、大庭　和枝、北島　幸絵、坂本　かずえ、市地　香理、吉川　香織、山本　ゆり子、坂上　唯、髙橋　裕子、髙嶋　美紀、田中　惇美、橋詰　薫、荒井　さをり（令和5年3月1日着任）
清水　冴美（令和４年９月 30 日退職）（透析担当）
浅田　幸江、佐々木　直子、松井　恵里、小野　悠子（外来担当）
看護助手　　堀内　佳子（透析担当）、塚本　恵子（外来担当）
臨床工学技術課長　重矢　直彦（透析技術認定士）（再掲）、　同係長　山中　雅弘（再掲）
臨床工学技士　　金田　博史（透析技術認定士）（再掲）、西野　彩華（再掲）、宮本　龍一（再掲）
平嶋　克次（再掲）、北島　真樹（再掲）、小田　泰嗣（透析技術認定士）（再掲）
（透析担当）

２．診　療

１）腎臓内科領域：

令和４年度は、あらたに金沢大学リウマチ膠原病内科より鈴木先生、吉田先生に常勤医として加わっていただき、膠原病内科とのかけもちで御勤務いただきました。お二人の加入のおかげでこれまでふれることのなかった膠原病関連の腎臓疾患も診させていただく機会が増え、腎臓内科としてカンファレンスも充実して、症例発表も多くこなすことができました。その成果として当科の主要検査である腎生検は、27 例実施することができました。原発性腎疾患のみならず、全身性疾患に伴う腎病変の腎生検も多く実施できました。特に年度初めにはコロナワクチン接種を契機に発症した抗基底膜抗体腎炎の１例を経験しました。難治症例でありましたが精力的に治療がなされ、大変勉強になりました。

慢性腎臓病（CKD）教育入院のほうはコロナ感染の影響が長期化する中ほとんど実施されませんでした。一方、外来のほうでは腎代替療法選択指導が透析センタースタッフを中心に熱心におこなわれました。当科では生体腎移植が実施可能であることは他院と比較して決定的な優位性を持っています。今後も積極的に腎移植導入をすすめていきたいと考えます。

当科の診療対象の大半は CKD あるいは透析患者となっていますが、とくに心血管合併症は循環器科・脳神経外科、また感染症は呼吸器内科・消化器内科など、疾患ごとに多くの診療科のお世話になっているところです。今後とも院内連携なにとぞよろしくお願いいたします。

なお、松井、山岸、石渕、吉田の４名の医師は総合診療科の一員として、昨年度同様、発熱スクリーニングを中心として、コロナ感染症の第一線で診療にあたりました。ほぼ一日業務に追われることもあり多忙であったと思います。謝意を表します。

2）透析領域

令和4年度も腎センターは、新型コロナ感染症の影響を大きく受けることになりました。とくにオミクロン株の大流行により他透析施設からの新型コロナ感染患者様の受け入れのみならず、当院通院中の患者様の感染あるいは濃厚接触も頻度が増加したため、スタッフにはおおきな肉体的精神的ストレスをかけることになってしまいました。この場を借りてその努力にお礼申し上げます。

さてセンターでは透析監視装置計35台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては22台で実施されており、長期合併症予防につながる血液浄化療法が重矢技士長を先頭に優秀な臨床工学技士により管理され、満足いく治療成績がえられています。

腎代替療法のうち、血液透析において令和4年度は合計37名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数は、令和にはいり血液透析、腹膜透析の両者をあわせ110名前後を維持しながら診療にあたっております。血液透析患者さんは合併症も多く、スタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。一見、透析導入をゴールと考えてしまいがちですが実は導入後の家庭生活にまで介入せざるをえない症例も多くあります。公的介護との関係も含め、ますます困難な時代となりつつあるなか、いかに安心して透析がおこなえるように条件を整えることは大きな課題です。

そんななか社会的自立を目指す腹膜透析は令和4年度、新規導入がなくさらに腹膜炎のため患者数が減少してしまい、年度末で1名となってしまいました。前述しましたとおり、腎代替療法選択指導は当科の大きな柱です。なんとか腹膜透析患者数の増加を図りたいと思います。

シャント血管内治療（VAIVT）症例は院内、院外紹介あわせて合計173例となっています。石淵、吉田両先生の頑張りで患者さんが安心して透析が行える医療環境が維持されています。

腎代替療法以外の浄化療法では、例年どおり消化器内科より炎症性腸疾患に対する顆粒球除去療法をのべ28回、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮はのべ98回のご依頼いただきました。さらに神経疾患・皮膚疾患の血漿交換療法もご紹介いただき診療する機会をいただきました。ご紹介いただきました各診療科に対して心よりお礼申し上げます。

3）膠原病内科領域

先にも述べましたが、今年度より鈴木・吉田両先生にご勤務いただくことになり、膠原病内科の新領域が当科に加わりました。以下は鈴木先生からの資料による記載となりますが院内172例、院外75例のご紹介をいただき、特に院内においては整形外科より40例、呼吸器内科より26例のご紹介をいただきました。いかに長年待望されていた診療科であるかを物語る症例数かと思います。両先生に刺激をいただき、腎臓内科全体として診療の底上げができた一年でした。

３．実　績

1. 2022 年度（2022. 4 ～ 2023. 3）稼働件数　　2021 年 9 月 2 床増床したため、10 月から 68 床で計算

事　　項	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
血液透析	932	898	945	898	999	902	932	910	961	900	857	886	11, 020
血液濾過透析（オフライン HDF）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液濾過透析（オンライン HDF）	637	632	605	632	572	605	599	616	630	599	550	609	7, 286
再診（血液透析関係）	14	21	20	21	27	16	25	13	32	19	26	27	261
ＣＡＰＤ（外来指導管理）	3	4	2	4	3	1	1	1	1	0	0	0	20
血漿交換	5	3	0	3	0	0	3	0	0	2	3	5	24
腹水濾過濃縮再静注法	9	5	6	5	11	10	6	7	10	9	8	8	94
吸着式血液浄化法（白血球除去療法）	0	0	3	0	5	9	8	3	0	0	0	0	28
その他血液浄化療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	1, 600	1, 563	1, 581	1, 563	1, 617	1, 543	1, 574	1, 550	1, 634	1, 529	1, 444	1, 535	18, 733
稼働日数	26	26	26	26	27	26	26	26	27	26	24	27	313
A　稼働日数による透析センター内のベッド数	1, 768	1, 768	1, 768	1, 768	1, 836	1, 768	1, 768	1, 768	1, 836	1, 768	1, 632	1, 836	21, 284
B　室外透析・CAPD・再診・を除く件数	1, 569	1, 530	1, 553	1, 530	1, 571	1, 508	1, 531	1, 526	1, 591	1, 499	1, 407	1, 495	18, 310
透析センター内の利用率（Ｂ÷Ａ）％	88. 7	86. 5	87. 8	86. 5	85. 6	85. 3	86. 6	86. 3	86. 7	84. 8	86. 2	81. 4	86. 0
外来	1, 387	1, 362	1, 342	1, 362	1, 392	1, 332	1, 387	1371	1, 446	1, 284	1, 232	1, 362	16, 259
入院	213	201	241	201	225	154	187	179	188	186	212	178	2, 365
室外透析（ＩＣＵ）	0	0	11	0	4	8	8	0	6	6	4	6	53
室外透析（病棟）	0	5	2	5	32	7	4	1	5	5	3	3	72
外来（COVID-19 感染）透析	0	0	0	0	16	0	0	5	14	8	0	0	43
ＶＡＩＶＴ件数（透視下）	8	8	11	8	18	6	9	11	12	9	13	10	123
ＶＡＩＶＴ件数（超音波下）	2	2	4	2	3	5	6	4	9	3	4	6	50

2. 年度毎稼動状況

事　　項	令和２年度	令和３年度	令和４年度
血液透析	11204	10572	11020
血液濾過透析 (オフライン HDF)	1157	193	0
血液濾過透析 (オンライン HDF)	5398	7411	7286
血液透析＋選択的β 2-MG 吸着器使用	0	0	0
ＣＡＰＤ (バッグ交換・チューブ交換を含む外来指導管理)	56	64	20
血漿交換	3	11	24
腹水濾過濃縮再静注	63	81	94
選択的血漿成分吸着法（免疫吸着）	0	7	0
選択的血漿成分吸着法（ビリルビン吸着）			
選択的血漿成分吸着法（ＬＤＬアフェレーシス）			
吸着式血液浄化法（薬物）			
吸着式血液浄化法（白血球除去療法）	55	56	28
再診（血液透析関係）	255	185	261
ＶＡＩＶＴ（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）	176	144	173
合計	18367	18724	18906
室外透析（ＩＣＵ）	101	75	53
室外透析（病棟）	29	36	72
外来	15578	16482	16259
入院	2592	2070	2365
稼働日数	313	308	313
A 稼働日数による透析センター内のベッド数	20032	20332	21284
B 室外透析 ･CAPD・再診・を除く件数	17733	17910	18310
透析センター内の利用率　(B ÷ A　)　%	88. 5	88. 1	86. 0

＊平成 27 年 3/30 より 30 床へ移転増床
＊平成 27 年 12/4 より 31 床へ増床
＊平成 28 年 12/16 より 32 床へ増床
＊令和 2 年 2/15 より 33 床へ増床
＊令和 3 年 10/1 より 35 床へ増床

3. 患者実数

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
患者実数	440	467	442
当院通院中の慢性維持透析患者数	105	123	105
血液透析	261	275	214
血液濾過透析	44	49	52
β 2-MG 吸着器使用	0	5	0
CAPD	5	5	4
その他の血液浄化	30	30	30
ＶＡＩＶＴ（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）	176	144	173
他施設からの治療患者	219	180	183
新規導入患者 (慢性)	35	48	37
新規導入患者 (急性含めた合計)	47	66	49
生体腎移植	2	2	1

（人）

4. 転 帰

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
新規導入（ＣＲＦ）	35	50	49
急性（ＡＲＦ）	12	18	16
死亡	17	21	14
離脱	11	12	6
転入	204	180	183
転出（転院含）	221	184	219
帰院	5	3	5
他（県外など）	0	0	0

（人）

転院依頼件数

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
細川泌尿器科	4	8	2
藤田記念病院	1	2	1
あすわクリニック	8	10	13
福井厚生病院	4	2	4
福井県済生会病院	1	1	1
福島泌尿器科	1	1	1
福井県立病院	2	2	3
越前外科内科病院			
林　病院（越前市）			1
広瀬病院（鯖江市）	5	5	6
公立丹南病院	1	1	
坂井市立三国病院			1
鈴木クリニック		1	
福井勝山総合病院	4	1	
福井総合病院			
福井循環器病院	3	3	1
はやしクリニック	2		2
中村病院	1		1
福井大学医学部付属病院			1
木村病院（あわら市）		1	
鯖江腎臓クリニック	4	6	6
大山クリニック		1	
はるそら内科クリニック			4
泉ヶ丘病院			1
県外・その他	2		
合　　計	43	45	49

他施設からの紹介患者数　　＊ VAIVT のみの紹介も含む

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
細川泌尿器科医院	26	33	19
藤田記念病院	7	6	11
あすわクリニック	32	30	21
福井厚生病院	1	4	11
福井県済生会病院		2	
福島泌尿器科医院	1		
福井県立病院			
越前外科内科病院	4	2	2
林　病院（越前市）	1	1	2
広瀬病院（鯖江市）	3	11	18
公立丹南病院	18	3	4
公立小浜病院			
鈴木クリニック	15	6	
福井勝山総合病院	23	15	13
福井循環器病院	4	1	
市立敦賀病院		2	1
はやしクリニック	27	26	32
中村病院		1	4
福井大学医学部付属病院	1	1	
福井総合クリニック	2	4	2
木村病院（あわら市）	3	3	10
鯖江腎臓クリニック	23	21	21
大山クリニック		1	
坂井市立三国病院	11	3	8
泉ヶ丘病院	2	3	3
はるそら内科クリニック			1
県外		1	
合　　計	204	180	183

30. 呼吸器センター

１．スタッフ

呼吸器センター長（第１呼吸器内科部長）	赤井　雅也
呼吸器外科部長	松倉　規
第２呼吸器内科部長	出村　芳樹
呼吸器内科副部長	多田　利彦
呼吸器外科副部長	山岸　弘哉
呼吸器内科医師	大井　昌寛
呼吸器内科医師	軸屋　紀宏
呼吸器内科医師	武田　俊宏
呼吸器外科後期研修医	南　紀久子
呼吸器内科後期研修医	黒川　浩輔
呼吸器外科後期研修医	森谷　哲士
慢性呼吸器疾患認定看護師	秋山　奈津江
看護師	藤本　えりか
看護師	東　真美
看護師	三田村　由聖

２．歴史・沿革・今後の展望

呼吸器科は京都大学胸部疾患研究所の内科第Ⅰ部門（現・京都大学呼吸器内科）と外科部門（現・京都大学呼吸器外科）からの人員派遣で、1964 年 8 月に設置されました。内科・外科混合体制は 1992 年 9 月まで続き、1992 年 10 月からは呼吸器外科が分離、独立しました。

呼吸器外科分離後も週２回のカンファレンス、病棟当番、人間ドックで胸部異常が指摘された患者の診療などを合同で行うなど、診療は密に協働して行ってきました。

今後更に呼吸器症状の患者さんが、今までよりわかりやすく安心して受診できるように、従来の呼吸器科と呼吸器外科のスタッフが協働して最良の医療を提供するために、2011 年 4 月に呼吸器センターを正式に開設しました。

2023 年 3 月 31 日現在のスタッフは上記の通りです。

31. 消化器センター

１．スタッフ

令和４年度の福井赤十字病院消化器センターは消化器内科医師 10 名、腹部外科医師　10 名と消化器センター / 中央内視鏡室看護師・技師・助手ならびにブースマネージャーの総勢 44 名編成で外来診療ならびに消化器内視鏡診療を行いました。

２．診　療

消化器センターは平成 23 年４月に消化器内科医および腹部外科医が同一ブース内で外来診療を行うことで、内科・外科の境界を取り払い、互いに協力して迅速かつ合理的な診療を行うことを目的に開設されました。

平成 27 年 11 月 16 日には外来診療ブース再編成による腹部外科の７番ブース全面移転参入により、両診療科による同一ブース内診療が完全実現しました。

腹痛や便通異常に代表される消化器症状に悩む患者さんは非常に多く、時には早急な手術治療が必要になるケースも少なくありません。当センターでは消化器症状を有する患者を内科と外科の両方の立場から同時にかつ適切に診療できる体制を整え、多種多様化する消化器疾患に対して最高の医療の提供を目標としています。

毎年２回開催している消化器センター運営会議では消化器内科および外科医師全員、消化器センター看護師、内視鏡室看護師、ブースマネージャーの各々の代表の参加を得て、消化器診療の改善に関わるあらゆる課題について継続的に話し合いました。

また、消化器領域における最新情報を連携医の先生方に提供する使命のもと、平成 24 年 12 月に発足した福井赤十字病院消化器カンファレンスは新型コロナ感染症アウトブレイクのため、令和元年の第７回開催を最後に以後は中止を余儀なくされていましたが、令和４年度は第８回を Web ではありましたが、無事に開催することが出来ました。特別講演には西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院 統括副院長 清水 誠治 先生からは「腸管感染症」、京都大学 京都大学医学部附属病院 消化管外科 病院講師 板谷 喜朗 先生からは、「直腸癌に対する集学的治療」についてご講演を頂きました。

当センターはこれからも消化器カンファレンスの継続開催を通じて、連携医の先生方に消化器領域における最先端の情報提供を行うとともに、今後も消化器疾患を専門とする内科医と外科医が互いに協力し、質の高い消化器診療を展開するとともに地域医療に貢献できるよう日々尽力致します。

３．目　標

令和５年度も外来診療における業務改善を通して、消化器センターのコンセプトである内科・外科の境界の越えた質の高い消化器外来診療の実現に向けて尽力致します。また、新規に“肝胆膵専門外来”の開設を目指し、同領域のがん診療の充実を図ります。

第９回消化器カンファレンスの企画・開催により、日常診療で協力頂いている連携医の先生方に最新の消化器診療情報を提供するとともに我々の診療レベルの更なる向上を目指します。

32. 地域周産期母子医療センター

1．スタッフ

＜産婦人科＞

センター長　田嶋　公久
辻　隆博
福田　真
山本　真
江坂　有希恵
山田　しず佳

＜小児科＞

渡邉　康宏
平野　聡子
玉村　宗一
野村　詠史（令和４年９月 30 日異動）
田中　佳代
福岡　諒（令和４年 10 月１日着任）

2．診　療

周産期母子医療センターは、分娩前後（周産期）の母児を対象として、産科と小児科が協力しながら診療を行っています。産科部門（2-4 病棟）と新生児部門（ベビーセンター）から構成されます。

・産科部門（2-4 病棟）

令和３年度の分娩数は 264 件と昨年度より 30 件減少しました。新型コロナや全国的な出生数減少の影響と考えます。帝王切開率は 36.4％で、昨年度（34.4%）より高くなりました。早産率は 14.4％で昨年度 9.5％より上昇しています。令和４年度に分娩を行った初産婦 134 人中 33 人（24.6％）が、35 歳以上の高齢初産婦でした。ART 妊娠の割合は、全出産の 19.3% でした。合併症妊娠の管理は、日本周産期・新生児医学会専門医の江坂医師が中心となって取り組んでいます。また､新型コロナ感染妊婦に対する帝王切開のシミュレーションを今年度も行いました。助産師･病棟､手術部看護師・産科医・小児科医・麻酔科医が連携して今後の症例発生に備えました。令和４年度には、新型コロナ陽性妊婦の帝王切開を 11 件行うことになり、シミュレーションによる訓練が生かされたと思います。さらに、超緊急帝王切開と母体心停止シミュレーションも行っています。

・新生児部門（1-4 病棟　ベビーセンター）

当院のベビーセンターは、院内で出生した新生児の預かり業務を行うとともに、院内外で出生した未熟児や病的新生児の治療を行っています。令和４ 年度にベビーセンターに入院となった病児は 137 人と昨年度とほぼ同数でした。うち、他院から搬送された病児は 20 人でした。患児の治療には、渡邉康宏部長をはじめ 5 人の常勤小児科医が当たっています。ベビーセンターは、10 床の病床数を持ち、感染症罹患児に対応するための陰圧式空調装置を設置した感染症室を備えています。また、レスピレーターと持続陽圧呼吸（ＣＰＡＰ）装置を設置し、人工呼吸管理が必要な児にも対応しています。

地域周産期母子医療センターの今後として、胎児・母体の異常をいち早く診断し、素早い治療が行えるように、さらなる整備が必要です。また、新型コロナは令和５年５月より５類相当の感染症となりますが、今後も感染防御を十分行いながら診療にあたります。

33. 集中治療室

1．スタッフ

室長　　白塚　秀之
麻酔科医師　（部長：福岡　正　他医師７名）
看護職員　　35 名（看護師長：高島　恵　看護係長：朝田和枝、原田幸枝、長谷川淳子
認定看護師：朝田和枝、原田幸枝、竹島静　　専門看護師：朝田和枝
看護師 34 名　看護助手１名）

2．業　務

General ICU として「内科系・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝その他の全身管理を強力、かつ集中的に行うことにより、治療効果を期待しうる急性期の患者を収容する」と共に、Intensive Observation Unit（集中観察室）の性格も加味して「Close Observation Heavy Duty Nursing（綿密な観察と強力な看護)」を要する患者も必要に応じて収容する

3．目　標

１）効果的な早期リハビリテーションの介入（SAT・SBT プロトコル導入）
２）RRS 稼働 24 時間体制の構築
３）RRS 起動アセスメントシートの入力率を上げる

4．稼働実績

【表１　稼働実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計もしくは平均
新規入室患者	42	47	49	45	39	44	45	47	47	50	48	47	550
退院患者総数	41	45	51	47	36	42	45	47	51	48	49	43	545
延入院患者数	125	130	121	99	102	123	116	110	145	131	111	148	1461
平均患者数	4.2	4.2	4	3.2	3.3	4.1	3.7	3.7	4.7	4.2	4	4.8	4
病床利用率	52.1%	52.4%	50.4%	39.9%	41.1%	51.3%	46.8%	45.8%	58.5%	52.8%	49.6%	59.7%	50.0%
病床稼働率	69.2%	70.6%	71.7%	58.9%	55.6%	68.8%	64.9%	65.4%	79.0%	72.2%	71.4%	77.0%	68.7%
(参考)COVID-19患者受け入れ時のICU一般病床利用率	66.9%	60.1%	58.1%	45.2%	43.8%	73.1%	53.5%	52.5%	70.0%	62.1%	57.8%	68.2%	59.3%
予定患者数	20	23	24	24	17	14	17	21	19	28	31	22	260
緊急患者数	22	24	25	21	22	30	28	26	28	22	17	25	290
救外入室患者数	11	12	13	11	14	17	19	15	17	6	8	14	157
術後予定外入室	7	8	5	5	6	10	8	7	8	5	5	2	76
平均在室日数	3	2.8	2.4	2.2	2.7	2.9	2.6	2.3	3	2.7	2.3	3.3	2.6
在室日数(8～14日)	0	4	2	4	2	3	2	2	5	5	3	5	37
在室日数(15日以上)	2	3	2	0	0	2	1	0	1	1	2	2	16
入室日数０日(死亡)	0	0	3	1	0	0	0	2	0	0	1	0	7
入室日数０日	3	0	2	1	3	1	1	0	2	2	0	2	17
押し出し患者数	2	0	2	0	0	1	0	0	1	1	0	1	8
死亡退院患者数	0	0	5	2	1	1	2	3	0	4	2	3	23
転院患者数	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	5

重症度、医療・看護必要度

必要度%	78.4%	80.8%	79.7%	73.0%	77.5%	85.5%	74.8%	72.2%	81.5%	73.5%	62.2%	89.3%	78.0%

【表２　治療実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
挿管	5	12	14	8	10	8	11	11	11	9	6	8	113
人工呼吸器	4	12	11	8	11	8	11	12	11	9	6	9	112
NPPV	1	3	2	1	2	5	6	3	5	5	1	0	34
NHF	4	1	3	3	5	4	5	2	4	0	3	0	34
気管切開	0	4	1	0	2	1	2	2	4	1	0	3	20
スワンガンツ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
IABP	0	1	2	0	1	2	0	0	1	1	0	1	9
PCPS	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
ECMO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PMX	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
CHDF	0	0	5	0	1	1	1	1	0	2	1	1	13
血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
低体温療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透析	1	0	6	4	1	3	3	0	2	2	1	2	25

【表３　ICU 満床報告状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
満床日数	7	1	4	0	4	8	3	0	7	9	0	7	50
満床報告時間	108:35	4:40	43:25	0	66:33	100:17	46:30	0	94:45	110:50	0	83:40	659:15
(満床報告回数)	(2回)	(1回)	(2回)	(0回)	(1回)	(4回)	(1回)	(0回)	(3回)	(4回)	(0回)	(4回)	(22回)
ICU 満床による救急車お断り症例数	0	0	4	0	0	4	0	0	3	5	0	2	18

【表４　退室科別状況】

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
神経内科	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	1	3	9
呼吸器内科	1	0	4	0	0	0	2	0	2	3	4	0	16
消化器内科	1	2	1	1	0	1	0	2	1	0	3	0	12
循環器内科	7	3	4	7	1	9	8	12	11	5	4	11	82
血液内科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
小児科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
外科	7	11	12	7	4	6	7	4	14	9	12	8	101
整形外科	2	1	0	1	2	1	5	2	2	1	1	3	21
形成外科	0	1	2	0	2	0	4	0	1	1	0	0	11
脳神経外科	8	6	4	6	7	6	5	6	5	3	4	4	64
呼吸器外科	5	7	6	6	2	3	5	7	2	9	5	4	61
皮膚科	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
腎臓泌尿器科	8	9	11	13	7	7	7	8	6	10	12	8	106
産婦人科	1	3	3	3	2	4	1	3	4	2	1	2	29
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
歯科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
総合診療科	0	1	3	2	6	3	1	0	1	4	2	0	23
総計	41	45	51	47	36	42	45	47	51	48	49	43	545

【表５　その他】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
早期リハビリ算定数	106	95	106	99	95	116	107	111	130	120	89	112	1286
RRS 起動件数	0	6	6	1	5	1	1	5	3	5	4	9	46
早期栄養件数(250点)	22	25	15	20	20	27	17	29	15	23	17	19	249
早期栄養件数(400点)	7	8	13	5	20	7	11	5	14	13	6	14	123

【表６　COVID-19 入室患者　実績】

稼働実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計もしくは平均
新規入室患者	1	1	1	1	7	2	1	1	4	5	1	0	25
退室患者数	0	1	1	1	6	3	1	1	3	4	1	0	22
延入院患者数	18	2	6	9	31	14	2	4	19	36	2	0	143
平均在室日数	18	2	6	9	5	6	2	4	5	8	2	0	6
死亡退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
治療実績													
挿管	1	1	1	0	1	1	0	0	2	3	0	0	10
人工呼吸器	1	1	1	0	1	1	0	0	2	3	0	0	10
NHF	0	0	0	1	3	0	1	0	1	0	0	0	6
透析	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
ECMO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管切開	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

34. 中 央 手 術 室

1．スタッフ

室長	小松　和人
麻酔科医	8 名
臨床工学技師	4 名：中央手術室・集中治療室兼任で配属
看護師	34 名：師長 1 名、係長 3 名（1 名は中央滅菌室）看護師 30 名
看護助手	3 名
クラーク	2 名

2．目　標

1）所定手術枠・全身麻酔枠を利用実績に基づき調整し、総手術件数 5,800 件以上を維持し、全身麻酔件数前年以上を目指す。
2）緊急手術を積極的に受け入れ、急性期充実体制加算における全身麻酔緊急手術を 350 件 / 年以上を目指す。
3）内視鏡手術、ロボット支援手術の拡大 (膵尾部切除、腎・副腎切除) に対応する。
4）稼働率が少ない手術部屋の有効活用し、手術台平均稼働率 60%以上を目指す。
5）手術部屋準備業務の充実により、術間 30 分以内を目標とし時間内稼働率を上げる。
6）新型コロナウィルス感染症患者への対応を、継続して実施できるよう整備していく。

3．業　務

1）手術室の効率的運用のために、所定手術枠・全身麻酔枠の調整を行う。
2）各診療科の術式にあった器械・器具類と薬剤の配備を行う。
3）手術における安全性の確保と、患者が安心して手術を受けられる医療・看護の提供を行う。

4．実　績

1）総手術件数は、5,861 件。昨年より 100 件増加した。
2）緊急手術は、544 件。昨年より 4 件減少した。外科が最も多く 183 件であった。
3）全身麻酔は、2,302 件で昨年より 100 件減少。全体の 39.3%にあたる。
4）手術台平均稼動率は、8 時台 39.7%、17 時台 38.6%である。午前平均稼動は 51.6%、午後平均稼動は 57.8%であった。
5）17 時以降の時間外延長手術件数は、727 件。総手術件数に対して約 12.4%が時間外延長していた。
6）内視鏡（腹腔・胸腔・膀胱・関節・子宮・鼻等）手術件数は、1,666 件で全体の 28.4%にあたる。そのうちロボット支援手術件数は 119 件 (泌尿器科・外科) であった。
7）新型コロナウィルス感染症患者の受け入れ体制を整備し、陽性患者や疑似症例患者の受け入れを実施した。
8）急性期充実体制加算における全身麻酔緊急手術は 358 件であった。

診療科別総手術件数の推移

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
外科	826	874	856
整形外科	751	806	754
脳外科	175	171	138
呼吸器外科	128	138	130
産婦人科	505	561	563
耳鼻科	214	226	228
泌尿器科	459	525	495
眼科	1, 390	1, 846	2, 065
皮膚科	182	63	62
形成外科	215	319	358
歯科	146	177	165
循環器科	37	53	44
その他	2	2	3
総数	5, 030	5, 761	5, 861

各診療科別緊急手術件数の推移

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
外科	189	180	183
整形外科	98	99	89
脳外科	88	102	77
呼吸器外科	5	14	15
産婦人科	63	51	50
耳鼻科	14	8	10
泌尿器科	26	35	33
眼科	43	40	52
皮膚科	8	1	0
形成外科	5	7	28
歯科	0	0	0
循環器科	6	11	7
その他	0	0	0
合計	545	548	544

令和４年度実績

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	令和４年度合計
手術内訳	総手術件数	462	465	527	469	483	483	495	510	532	439	424	572	5, 861
	総在室時間	77, 209	80, 330	89, 935	82, 782	74, 258	83, 962	79, 385	81, 805	86, 913	71, 292	72, 468	89, 982	970, 321
	予定手術件数	425	419	481	431	421	429	443	462	480	399	388	520	5298
	緊急手術件数	37	46	46	38	47	55	53	48	52	40	35	47	544
	時間外延長件数	63	66	68	81	46	62	61	55	60	46	54	65	727
	時間外延長％	13. 60%	14. 20%	12. 90%	17. 30%	9. 50%	12. 80%	12. 30%	10. 80%	11. 30%	10. 50%	12. 70%	11. 40%	12. 40%
	外来手術室件数	56	45	57	47	58	56	76	62	66	63	49	68	703
麻酔件数	全身麻酔件数	184	191	203	197	201	197	190	197	198	160	175	209	2302
	脊椎・硬膜外麻酔	3	4	2	3	2	5	4	1	2	2	2	2	32
	腰椎(硬)麻酔件数	48	42	49	45	48	39	59	49	58	43	38	56	574
	伝達麻酔件数	8	11	9	7	10	10	10	4	9	8	8	23	117
	局所麻酔件数	219	217	264	217	222	232	232	259	265	226	201	282	2836
診療科別手術件数	外科	70	79	84	71	85	70	70	73	67	48	68	71	856
	整形外科	60	64	64	59	58	62	58	58	78	53	52	88	754
	脳外科	11	11	10	11	13	11	12	11	16	12	8	12	138
	呼外科	7	10	13	11	8	12	10	12	11	12	11	13	130
	産婦人科	49	43	44	49	48	42	53	51	52	45	41	46	563
	耳鼻科	20	20	25	21	21	20	19	18	17	15	10	22	228
	泌尿器科	36	43	45	40	37	37	55	48	39	33	37	45	495
	眼科	165	149	191	146	156	166	161	188	198	172	151	222	2065
	皮膚科	5	7	2	6	6	5	8	5	5	3	6	4	62
	形成外科	21	26	31	34	34	35	33	21	30	33	28	32	358
	歯科	14	9	14	15	16	16	14	18	15	10	12	12	165
	内科・消化器科	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器	4	4	3	6	1	7	2	7	3	3	0	4	44
稼動	8時平均(8:50)	39. 4	41. 5	33. 8	43. 9	36. 9	39. 4	42. 8	44. 4	44. 4	35. 1	36. 3	38. 9	39. 7
	午前平均	52. 1	52	51. 3	53. 2	44. 4	53. 1	53. 9	54. 3	55. 4	48. 4	50. 6	51	51. 6
	12時平均(12:50)	51. 7	51. 5	58. 6	57. 2	43. 4	47. 8	49. 4	51. 1	46. 7	53. 8	55. 6	46. 5	51. 1
	午後平均	57. 7	60. 2	59. 3	63. 4	50. 9	57. 6	59. 9	59. 9	55. 8	55. 1	57. 3	56. 9	57. 8
	17時平均(16:50)	41. 7	42. 1	37. 9	43. 9	35. 4	32. 8	42. 8	35. 6	35. 6	35. 1	37. 4	42. 4	38. 6
	最大稼動	75	77. 2	75. 8	79. 4	64. 1	72. 2	76. 7	78. 3	73. 9	71. 9	76	75. 3	74. 7
	最大時間	14	15	14	13	14	14	14	13	14	14	14	14	13. 9

35. 中央滅菌室

1．スタッフ

看護師長１名（中央手術室兼任）、看護係長１名（中央手術室兼任）、委託業者 16 名

2．目　標

中央部門としての役割上関係各部門の協力のもとに、当院で使用される医療材料の消毒・洗浄・組み立て・滅菌・保管までの保障を管理する。またこれらに関わる作業者の作業環境の安全を確保する。

3．業　務

１）使用機材の回収・洗浄・検品・滅菌・払い出し業務

２）滅菌器材の在庫管理

4．実　績

１）洗浄滅菌処理件数は、251,034 件で、昨年より 5,883 件増加した。

２）洗浄機の使用回数は、18,258 件で、昨年より 2,781 件減少した。

３）滅菌機器の使用回数は、7,685 件で、昨年より 13 件増加した。

年度別滅菌処理件数及び洗浄・乾燥機使用回数

	令和４年度
セット物	4,040
交換トレー	3,108
単品類	188,377
洗浄・乾燥	55,509
合　　計	251,034

注：セット物＝生検、骨髄、縫合、PTCD、動脈撮影、気管切開など

：交換セット＝哺乳瓶・乳首カスト、クスコセット、歯科・耳鼻科カスト

年別洗浄機使用回数

	令和４年度
超音波洗浄機	864
減圧沸騰洗浄機	1,216
ウオッシャーディスインフェクター洗浄機	12,360
カート洗浄機	3,313
チューブ洗浄機	505
合　　計	18,258

年別滅菌機使用回数

	令和４年度
高圧蒸気滅菌機	3,931
ステラッド滅菌機	3,754
合　計	7,685

36. 薬　　剤　　部

１．スタッフ

薬剤部長	小　川　純　也
調剤課長	笠　川　益　夫
製剤課長	青　柳　哲　治
医薬品情報課長	渋　谷　貞　一
課長	寺　本　敏　清
技監	斉　藤　孝　次

以下係長４名　薬剤師 22 名

２．業　務

病院機能評価に向けて、薬剤部マニュアルを見直し、実際に即した内容に改定を行った。

入院診療計画書に薬剤師欄を設け、薬剤師計画の記載を開始した。褥瘡発生患者と褥瘡ハイリスク患者に作成する褥瘡診療計画書についても薬剤師欄を設け、薬剤師計画の記載を開始した。また、計画に沿った評価の実践を開始した。

抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022 の公開に合わせ、AUC をガイドとした投与設計を行うバンコマイシン TDM ソフトウェア PAT での解析・投与設計の運用を開始した。

向精神薬の注射剤の払い出しの運用を整備した。向精神薬を薬剤部に請求する際に、患者名、患者ＩＤ、主治医名を薬品請求伝票に記入することとし、薬剤部では電子カルテで医師の指示内容を確認することで投薬のインシデント･アクシデントを未然に防ぎ､同時にオーダ忘れを無くす体制を整えた。

がん化学療法レジメン部会においては不要なレジメンの検討を行い、レジメンの整備を行った。病院のホームページでレジメンの公開を行い、地域医療連携の強化に努めた。

南越前町の豪雨災害では当院から災害救護班が派遣された。帯同した薬剤師は調剤業務の他、抗菌薬の供給不足への対応やコロナワクチンの調製などを行った。

３．実　績

○処方箋枚数（1 日平均枚数）

年度	外来	入院	院外
令和４年度	585	262	33

○注射箋枚数（1 日平均枚数）

年度	外来	入院
令和４年度	269	256

○薬剤管理指導業務件数（延べ件数）

年　度	薬剤管理指導料１	薬剤管理指導料２	総件数	月平均
令和４年度	5642	3963	9605	800

○ TDM 解析件数（延べ件数）

年　度	件数	月平均
令和４年度	455	38

○持参薬鑑別件数（延べ件数）

年　度	件数	月平均
令和４年度	4937	411

○ TPN 調製件数（延べ件数）

年　度	件数	月平均
令和４年度	1941	162

○抗がん剤ミキシング件数（延べ件数）

年　度	外来	入院	総件数	月平均
令和４年度	6164	3386	9550	796

○治験・臨床試験実施件数

年　度	臨床試験件数
令和４年度	3

○製造販売後調査契約件数

年　度	総件数
令和４年度	30

○院内製剤調製数量

1）外用液剤

品　　名	規格／単位	令和４年度製剤数量	使用診療科
アロプリノール含嗽水	500mL/ 本	257	多数診療科
塩化アルミニウム液	1000mL/ 本	10	皮膚科
滅菌墨汁液	2mL/ 本	98	外科
1%フルオレセイン液	10mL/ 本	86	眼科
ｔ -PA 製剤（眼科用）	４万単位／本	41	眼科
0.025% BBG 染色液	5mL/ 本	261	眼科
1%トリパンブルー	1mL/ 本	139	眼科

2）坐薬

品　　名	規格／単位	令和４年度製剤数量	使用診療科
チラージン S 坐薬	50 μ g/ 個	30	多数診療科
	100 μ g/ 個	210	多数診療科

3) 軟膏

品　　名	規　格	令和４年度製剤数量	使用診療科
0.075%カプサイシン軟膏	kg	7	麻酔科
メントール・レスタミン軟膏	kg	24	多数診療科

37. 栄　養　課

1．スタッフ

医療技術部長　　吉田　博之（第１循環器内科部長）
栄養課長　　大久保　祐子
管理係長　　青山　涼一　　以下　管理栄養士　　11 名
第１調理係長　　重矢　悟
第２調理係長　　今田　滋之　　以下　調理師　　14 名

2．目　標

安全で美味しい治療食を提供する
他職種と連携をとり適切な栄養管理を推進する
地域医療連携の強化を図るために他施設と栄養管理を共有できるようにする

3．業　務

1）給食管理
行事食、郷土料理、季節料理などを取り入れ、メッセージカードを添えて提供した。
検食、嗜好調査、残食調査の結果をもとに献立作成、調理の改善を図った。
食欲不振食、口内炎対応食の献立内容を変更、サイクルを一週間から二週間に改定した。
嚥下訓練食対応の非常用備蓄食を確保した。

2）栄養管理
栄養指導、入院患者の栄養管理、チーム医療参加、栄養管理の症例報告を実施した。

3）衛生管理
「衛生管理マニュアル」の改訂を行った。
毎月の課内衛生管理勉強会、手洗いチェックを継続した。

4）厨房機器の入れ替え
厨房機器の老朽化に伴い、食器消毒保管庫、かゆ炊飯器、フライヤー、コンベクションオーブンの入れ替えを行った。

4．実　績

1）給食数

1）給食数（食）

項　目	一般食	特別食	１日平均食数	特別食加算比
令和４年度	218,672	120,709	938	35.7%

2）個人栄養指導件数

項　目	外　来	入　院	総件数	月平均
令和４年度	1,398	546	1,944	162

3）栄養管理計画書作成

項　目	総件数	月平均	計画書作成割合
令和４年度	5,772	481	43.6%

4）入退院支援センター 入院前栄養スクリーニング

項　目	総件数	月平均
令和４年度	4,131	344

38. 臨床工学技術課

1．スタッフ

医療技術部長　　吉田　博之（第１循環器科部長）
課長　　重矢　直彦
第一係長　　山中　雅弘
第二係長　　谷口　貴洋
臨床工学技士　　他９名

2．目　標

安全な医療機器を提供するための技術と知識を身につけるとともに医療機器を取り扱う職員への支援に努める

3．業　務

① 医療機器の中央管理

中央管理可能な医療機器を選定し、臨床工学技術課にて保管し必要に応じて各部署に貸し出しをしています。現在、中央管理している医療機器は輸液ポンプ、シリンジポンプ、携帯型シリンジポンプ、人工呼吸器、生体情報監視装置、経腸栄養ポンプ、ネーザルハイフロー、フットポンプの８機種です。

貸し出し状況等を機器管理システムで管理し返却された医療機器は、点検、必要時修理を行い次回の貸し出しに備えています。中央管理している医療機器の廃棄、更新を検討しています。

② 医療機器の保守

院内点検可能な医療機器に対して、点検の実施に努めています。

また各部署からの点検・修理依頼に対して出来る限り迅速に対応する様に心がけています。人工呼吸器、病棟の心電図モニタや心電計、除細動器などラウンド点検も行っています。

③ 医療機器の教育

メーカーが開催する機器のトレーニングや講習会に積極的に参加し、技術、知識を身に付けるよう努めています。

また、各部署への機器取り扱い説明、指導・勉強会等のサポートも行っています。

④ 血液浄化業務

透析センター及び集中治療室での血液浄化業務を行っています。

また、VAIVT に対するサポート業務もおこなっております。その他に、血液透析関連機器の保守、点検、整備をおこなっています。

⑤ 中央手術室・集中治療室業務

医療機器の術前点検や機器のトラブルに対する対応を行っています。中央手術室、集中治療室における臨床業務も行っています。

⑥ 心臓カテーテル業務

心血管造影室で行われるカテーテル検査や治療のサポート業務を行うと共にカテーテル検査や治療で使用される機器の操作や保守、点検を行っています。

４．実　績

	令和４年度
臨床工学技術課業務総件数	**45,118**
血液浄化業務（件）	**19,032**
血液透析	17,911
室外透析	72
白血球吸着	26
血漿交換	16
血漿吸着	0
二重濾過	0
DHP	0
腹水濾過濃縮	87
修理・メンテナンス	703
シャント造影	2
シャントＰＴＡ	154
モニター点検	61
ＯＰＥ室業務（件）	**5,631**
（1）点検業務	**4,987**
全身麻酔器	2,141
内視鏡	1,311
ナビゲーション	44
NIM	37
モニタ	1,050
オーソパット	0
除細動器	1
電気メス	0
輸液ポンプ	36
シリンジポンプ	79
経腸栄養ポンプ	66
レーザー	96
BIS	
マイクロ	100
フットポンプ	3
ダ・ヴィンチ（da Vinci）	225
その他	0
（2）操作業務	**1,150**
ナビゲーション（脳）	17
ナビゲーション（耳）	29
ナビゲーション（整形）	1

	令和４年度
NIM（脳）	2
NIM（耳）	42
オーソパット	0
内視鏡（外）	411
内視鏡（泌）	76
内視鏡（婦）	265
内視鏡（呼外）	114
内視鏡（耳鼻科）	48
内視鏡（整外）	22
内視鏡（脳）	0
RFA	1
ダ・ヴィンチ（da Vinci）（泌）	65
ダ・ヴィンチ（da Vinci）（外）	55
その他	2
（3）修理・メンテナンス	**0**
ＩＣＵ業務（件）	**2,756**
（1）点検業務	**2,584**
人工呼吸器	146
全身麻酔器	0
除細動器	0
輸液ポンプ	1,634
シリンジポンプ	801
モニタ	3
その他	0
（2）操作業務	**172**
血液透析	37
血液濾過	0
ECUM	10
CRRT	78
PMX	3
血漿交換	17
血漿吸着	0
二重濾過	0
DHP	0
IABP	23
PCPS(VA)	4
ECMO(VV)	0

	令和４年度
その他	0
（3）修理・メンテナンス	**0**
ペースメーカー業務（件）	**705**
PM 埋め込み	36
PM 電池交換	8
PM 動作チェック	533
PM リード再固定	1
PM 設定変更	106
ICD 動作チェック	3
ICD 設定変更	9
CRT-D 動作チェック	4
CRT-D 設定変更	2
ループレコーダー 埋め込み	4
ループレコーダー 動作チェック	5
その他	18
心カテ業務（件）	**1,290**
（1）治療	**191**
PCI	141
PTA	39
下大静脈フィルター	11
（2）検査	**99**
CAG	90
スワンガンツ	4
Ach 負荷試験	4
EPS	1
点検	423
DC	141
ポリグラフ	141
IVUS	141
その他	0
（３）操作	**577**
IVUS	173
FFR	22
血管エコー	53
IABP	12
PCPS	3
ポリグラフ	277
体外式ペースメーカー	24

	令和４年度
人工呼吸器	9
OFDI	4
ロータブレータ	6
ME 業務（件）	**15,704**
（1）点検業務	**7,962**
輸液ポンプ	4,247
シリンジポンプ	1,391
携帯型シリンジポンプ	169
経腸栄養ポンプ	312
心電図モニタ	131
人工呼吸器	92
Airvo	58
フットポンプ	1,514
その他	48
（2）貸し出し業務	**7,568**
輸液ポンプ	4,012
シリンジポンプ	1,317
携帯型シリンジポンプ	166
経腸栄養ポンプ	296
心電図モニタ	138
人工呼吸器	91
Airvo	57
フットポンプ	1,491
その他	0
（3）修理・メンテナンス	**174**
輸液ポンプ	9
シリンジポンプ	2
携帯型シリンジポンプ	1
経腸栄養ポンプ	9
心電図モニタ	66
人工呼吸器	3
パルスオキシメーター	18
血圧計	28
携帯型電子血圧計	24
吸引器	0
フットポンプ	6
その他	8

39. 検　　査　　部

１．スタッフ

検査部長　　今村　信
検査医監　　豊岡　重剛
技師長　　加藤　幸久
課長　　杉本　正雄、猿木　邦之
以下係長　４名　臨床検査技師　25 名（内視鏡３名含む）
臨床検査技師パート１名（午前のみ）　看護師パート２名（午前のみ）
事務派遣職員　2.5 名

２．目　標

1.　質の高い臨床検査サービス提供のため、検査機器・機材、検査試薬の適切な使用及び管理に努めます。
2.　安心・安全な医療の提供のため、利用者への的確な検査情報の発信とアドバイスサービス及びわかりやすい患者さんへの検査説明（接遇）に努めます。

３．業　務

ISO15189 の認証取得に伴い、検査値基準範囲を一部改訂した。検体検査部門ではドライケム（NX-600）及び血液ガス分析装置、便潜血測定装置（OC-SENSOR PLEDIA）を更新した。また、CD トキシン B 遺伝子検出の PCR 検査を開始、細菌（一般細菌・抗酸菌）の薬剤感受性試験で適応菌種の拡大を行った。生体検査部門では肺機能検査機器（FUDAC-7）を更新した。外来採血での待ち時間短縮化のため、事前採血を開始した。内視鏡検査では処置を必要とする内視鏡検査に対し全症例炭酸ガス送気を使用することとなり、必要な物品・機材を整え対応できるようにした。

４．実　績

資料１）　令和４年度検査件数

	127,012
血液検査	245,249
生化学検査	2,438,830
免疫関連検査	147,963
微生物検査	44,471
生体検査	46,897
合　　計	3,050,422

資料 2)　令和 4 年度外来、入院別検査件数

入院	院内	783, 307
	SRL	6, 124
	MCM	6, 499
	入院合計	795, 930
外来	院内	2, 239, 673
	SRL	17, 748
	MCM	17, 373
	外来合計	2, 274, 794
	外来／入院比	2. 86

資料 3)　令和 4 年度検査判断料件数と検査加算件数

尿・糞便検査判断料	23, 156
血液検査判断料	68, 851
生化学検査判断料（ Ⅰ ）	69, 250
生化学検査判断料（ Ⅱ ）	21, 270
免疫学的検査判断料	51, 583
微生物学的検査判断料	15, 998
呼吸循環検査判断料	5, 157
脳波図判断料	1, 073
神経筋検査判断料	524
時間外緊急院内検査加算	4, 308
検査検査管理加算（ Ⅰ ）	66, 673
検査検査管理加算（ Ⅲ ）	-
検査検査管理加算（ Ⅳ ）	9, 168
外来迅速加算	242, 630
合　　計	579, 641

資料 4)　令和 4 年度輸血製剤別輸血単位数

赤血球製剤（RBC）	3, 654
血小板製剤（PC）	6, 520
新鮮凍結血漿（FFP）	622
アルブミン製剤	6, 925

40. 放射線科部（技師）

１．スタッフ数

放射線科部長	左合　直	以下　医　師 8名（うち１名 嘱託）
技　師　長	西村　英明	以下　診療放射線技師　32名（うち1名 嘱託　午前のみ）
看　護　師	4名　（うち１名 嘱託）	
事　　務	2名　（午後１名）	

２．目　標

1.「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない、幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する
2.「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるような組織を目指す

診療放射線技師においては、様々な検査において画像診断機器を操作するだけではなく、診断・治療の流れを理解し、次の医療行為を予測できる力や、緊急検査への対応力も強化（時間外）していかねばならない。

診療以外にも、医療安全管理、放射線安全管理、放射線機器管理、放射線被ばく管理、医療情報管理など、更に精度管理の実践／充実を図らなければならず、「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する必要がある。

また、「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるよう、先ずは医療安全から見た、部門や個人で失敗しない質の確保とばらつかない質の確保を目指した段階的な教育／管理を行い、個人と組織がともに成長できる環境を整備することを目標とする。

３．業　務

最新の画像診断機器、放射線治療機器を駆使し、より安全でより精度の高い検査・診断・治療が行えるよう、診療放射線技師、看護師、事務員、放射線診断医、放射線治療医との協働にて、患者さんが求める最善な検査・治療を提供している。

診断においては、撮影されたCT、MR、核医学等の画像を中心に、検査画像の画像診断報告書の作成と配信が行われており、画像診断専門医が常勤し画像診断管理加算２の施設基準を取得している。検査業務では、一般撮影、Ｘ線透視、CT、MRI、血管撮影、ラジオアイソトープ(RI)、骨塩定量検査、超音波検査が行われ、各分野には先端の機器を整備し、装置能力を十二分に発揮し、診療に有用な情報を提供するために、医師、看護師、技師がチームを構成し業務に従事している。

治療においては、治療計画はコンピューター化され、治療専門医による照射領域の決定／ほぼ全ての悪性疾患に高精度の治療を行っている。放射線治療医、医学物理士、治療専門技師や専任技師、看護師と協働し、高精度放射線治療として、画像誘導放射線治療（IGRT)、強度変調放射線治療（IMRT/VMAT)、定位放射線治療、呼吸によって動く患部を追尾する動体追尾照射を実施し、充実したがん診療に寄与できるよう心がけている。

また診療以外にも、医療安全管理（感染防止対策含む)、放射線機器管理（品質保証（QA）／品質管理（QC))、放射線被ばく管理、医療情報管理(PACS/部門システム）などに取り組んでいる。

４．実　績

1）放射線科部統計（年度比較）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
一般撮影・透視部門			
撮影検査件数	80,433	83,037	79,898
単純撮影			
胸部 腹部	50,555	54,454	51,659
骨部	21,808	20,600	20,405
マンモ	3,753	3,875	3,780
パントモ・デンタル	1,820	1,840	1,911
その他(H18以降LG含)	273	271	254
造影剤使用撮影			
消化器系	1,354	1,109	1,077
泌尿器系	426	358	341
小児・婦人科系	18	17	16
関節・脊髄	212	268	219
その他	214	245	236
ＣＴ部門			
ＣＴ検査件数	19,433	21,058	20,692
頭頚部	5,982	6,583	6,411
胸腹部他	13,451	14,475	14,281
ＭＲ部門			
ＭＲ検査件数	8,576	9,219	9,124
頭頚部	5,193	5,555	5,601
躯幹	2,874	3,120	2,961
その他	509	544	562
骨塩定量検査			
検査件数	2,198	2,049	2,158
血管撮影部門			
血管撮影件数	645	712	607
頭部	166	174	156
腹部他	30	37	18
心臓、下肢、シャント	449	501	433
核医学部門			
ＲＩ検査件数	1,692	1,740	1,606
頭部	159	182	117
内分泌	30	41	56
心臓	268	301	273
呼吸器	10	14	7
腹部泌尿器	52	40	43
骨・軟部	296	320	266
血管	0	5	0
ＰＥＴ	867	828	841
治療	10	9	3
放射線治療部門			
治療件数	4,041	3,970	3,707
ＬＩＮＡＣ	4,037	3,970	3,707
IMRT	2,274	1,963	1,840
動態追尾	5	0	0
頭部定位照射	126	76	86
体幹部定位照射	67	128	51
全身照射	0	0	0
温熱治療	4	0	0
小線源治療	0	0	0
総　計	117,018	121,785	117,792

2）放射線検査（詳細）

総件数	総人数
117,776	107,736

MRI	単純		造影		小計
	外来	入院	外来	入院	
(MRI) 頭頚部	3,789	906	679	227	5,601
脊椎	873	216	50	41	1,180
胸部	8	2	169	13	192
骨盤腹部	683	124	672	110	1,589
上肢	148	6	29	1	184
下肢	292	57	24	5	378
照射録小計	5,793	1,311	1,623	397	9,124

MRI	患者数		
	外来	入院	合計
(MRI) 単純	5,793	1,311	7,104
造影	1,623	397	2,020
小計	7,416	1,708	9,124
他院読影	0	0	0

CT	単純		造影		小計
	外来	入院	外来	入院	
(CT) 頭部	3,419	1,492	76	59	5,046
顔面頚部	677	110	495	83	1,365
胸部	4,418	1,216	1,956	393	7,983
腹部	1,685	297	2,580	405	4,967
脊椎	221	146	0	3	370
四肢	526	100	41	28	695
その他	255	4	7	0	266
照射録小計	11,201	3,365	5,155	971	20,692

CT	患者数		
	外来	入院	合計
(CT) 単純	11,201	3,365	14,566
造影	5,155	971	6,126
小計	16,356	4,336	20,692
他院読影	0	0	0

血管造影					合計
	外来	入院	小計	科別	
(血管造影)頭頚部	0	156	156	放科	15
循環器	1	272	273	脳外科	158
胸部	0	3	3	循環器	309
腹部・骨盤	0	15	15	腎泌尿器	125
四肢	0	35	35	計	607
シャント	1	124	125		
照射録小計	2	605	607		

血管造影	患者数		
	外来	入院	合計
(血管造影)ＩＡ造影	0	552	552
ＩＶ造影	1	54	55
小計	1	606	607
他院読影	0	0	0

透視	単純		造影		小計
	外来	入院	外来	入院	
循環・呼吸器	1	149	0	0	150
消化器	26	14	309	630	979
肝・胆道	0	2	4	92	98
尿路	34	7	207	90	338
関節・脊髄	66	6	113	34	219
頭頚部咽頭	0	0	0	1	1
小児・婦人科	1	0	15	0	16
血管･シャント	0	0	0	0	0
IVH・単純	55	28	0	2	85
件数小計	183	206	648	849	1,886

透視	患者数		
	外来	入院	合計
透視	817	1050	1,867
他院読影	0	0	0

治療	治療件数		
	外来	入院	合計
(治療) LINAC	2,189	1,518	3,707

頭部定位(86)，体幹部定位(51)，IMRT(1840)，全身照射(0)，追尾照射(0)，電子線(118)を含む

治療 RIS (Mosaiq)による集計：終了	照射部位数（新患数）		
	外来	入院	合計
	138	110	248

一般撮影	撮影区分			患者数	
	外来	入院	小計		
(一般撮影)頭頚部	2,163	331	2,494	外来	52,403
胸腹部	33,520	18,139	51,659	入院	17,726
脊椎骨盤	3,300	649	3,949	合計	70,129
胸郭	2,969	218	3,187	ドック	
上肢	3,156	291	3,447	胸部	5,580
下肢	7,290	1,918	9,208	胃	171
全身骨	31	0	31	脳	443
治療用	126	128	254	肺	121
乳房	3,780	0	3,780	乳房	1,540
骨塩定量	1,986	172	2,158	合計	7,855
泌尿器系造影	3	0	3		
件数小計	58,324	21,846	80,170	歯科系	1,911

核医学	患者数		
	外来	入院	小計
(核医学) 頭部	84	33	117
内分泌	54	2	56
心臓	153	120	273
呼吸器	4	3	7
腹部泌尿器	41	2	43
骨・軟部	173	93	266
血管	0	0	0
ＰＥＴ	788	53	841
治療	3	0	3
小計	1,300	306	1,606
他院読影	1	0	1

41. 医療安全推進室

1．スタッフ

医師２名　看護師１名　薬剤師１名　診療放射線技師１名　臨床検査技師１名
臨床工学技士１名　理学療法士１名　管理栄養士１名　事務３名

2．目　標

1）転倒転落防止活動
2）病院機能評価受審対応　マニュアル整備等
3）新医療安全管理体制・院長ラウンドの整備
4）患者誤認防止活動の継続
5）診療科合併症報告システムの推進
6）HBV 再活性化予防システムの検証

3．業　務

1）各部門における医療安全対策の実施状況を評価するため、カンファレンスを週１回開催し、その評価結果を記録する。
2）各部門の業務改善計画書を各部門と共同で作成し、それに基づく対策の実施状況を評価し、記録する。
3）カンファレンスにおいて評価した結果を医療安全管理委員会に定期的に報告する。
4）医療に係る安全管理に対する意識の向上を主な目的として、医療安全管理者と協力して職員研修を開催し、その評価を行い、実績を記録する。
5）患者や家族からの医療の安全に関する相談に対応するため、医療安全相談窓口を設置し、相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いについて記録する。
6）院内に於いて医療事故が発生した場合は、「医療事故･紛争対応マニュアル」に沿って対応する。
7）その他必要時は室長の判断に基づき、臨時にカンファレンスを開催する。

4．実　績

1）MSM ニュース、MSM だよりの発行、発信
（1）MSM ニュース（代表部長会議、看護師長会議にて配布、電子カルテニュースにて配信）No. 222 ～ 232
（2）MSM だより（電子カルテニュースにて配信）No. 185 ～ 196

2）医療安全推進室主催の主な研修会

日付	研修名	講師	対象	参加者数
令和4年 6月13日	医療安全研修会 「深部静脈血栓症予防～弾性ストッキング着用を中心に～」	アルケア株式会社	全職員	63名
令和4年 8月15日 ～9月9日	医療安全研修 「インシデント・アクシデントレポートの分析方法」	院内講師 相模　朋恵看護師長 （医療安全管理者）	全職員	1,060名
令和4年 8月30日	医療安全研修会 「輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な取り扱い」	テルモ株式会社	看護師	35名
令和4年 9月30日	医療安全研修会 「消化器科関連訴訟からみる診療上の注意点」	院外講師 国立大学法人浜松医科大学 医学部医療法学 教授　大磯　義一郎　先生	医師	99名
令和4年 7月27日	輸液ポンプ・シリンジポンプ 認定試験	テルモ株式会社 臨床工学技術課 看護部	看護師	37名
令和4年 11月4日～ 11月25日	医療安全研修 「麻薬の取り扱いとハイリスク薬について」 「薬の飲み合わせ」	院内講師 金森　紀幸薬剤師 谷山　幸信薬剤師	全職員	945名
令和5年 1月24日～ 2月22日	医療安全研修 「院内緊急事態対応手順」	院内講師 相模　朋恵看護師長 （医療安全管理者）	全職員	1,027名

3）医療安全対策地域連携相互チェック

実施日	訪問先	当院参加者数
令和4年9月6日	福井赤十字病院 → 林病院（越前市）	4名
令和5年1月10日	福井県立病院 → 福井赤十字病院	5名
令和5年1月24日	福井赤十字病院 → 福井県立病院	3名

4）福井医療安全研究会参加状況

開催日	内　　容	当院参加者数
令和5年3月9日 （Web開催）	・コードホワイト体制について、暴言・暴力対策の実際	3名

5）院長ラウンド実施状況

実施日	対応部署
令和4年8月24日	デイサージャリー室、中央手術室、1-5病棟（SCU）
令和4年11月30日	臨床工学技術課、集中治療室、管財課
令和5年3月22日	検査部、中央手術室、集中治療室

6）再発防止対策

（1）令和４年度事例検討会・事故調査委員会件数

事例検討会　6 件

事故調査委員会　2 件

（2）令和４年度医療支援課と連携した事案数　7 件

（3）令和４年度ドクタークロス発動件数　46 件

（4）令和４年度 RRS 起動件数　47 件

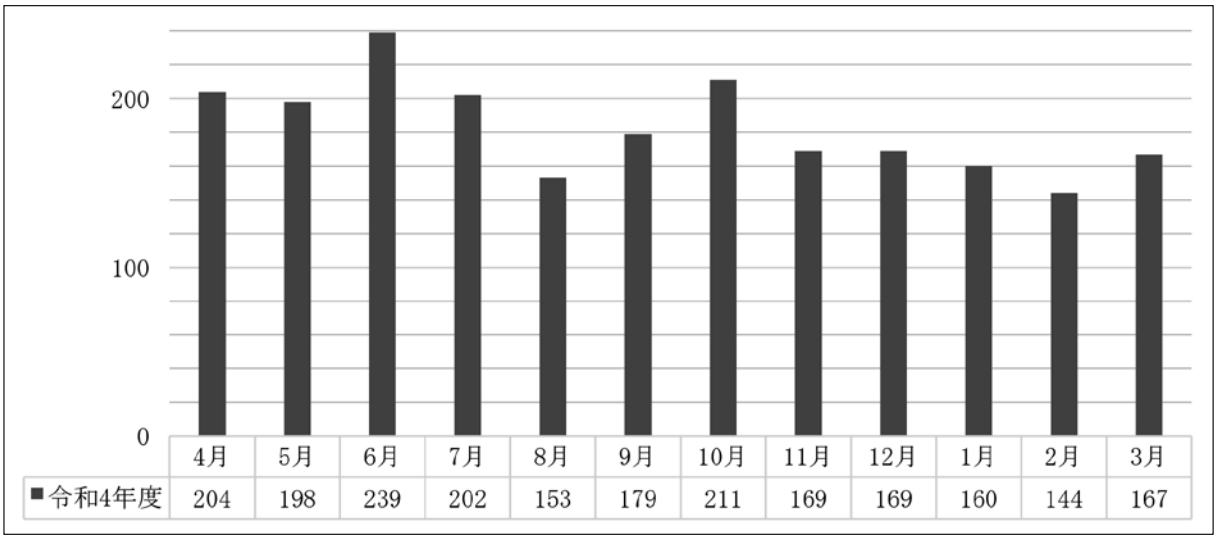
（5）令和４年度ワーキング実績

① RRS ワーキング

グループ長	小松副院長
活動内容	令和２年７月平日時間内の RRS 稼働開始。令和４年４月、11 月に定例ワーキンググループ会議を開催し、RRS 活動状況、RRS の看護師教育等について報告し、RRT 活動時の問題点・課題について検討した。また、24 時間稼働に向け、検討した。

（6）令和４年度インシデント＆アクシデントレポート総報告件数　2,195 件

①月別レポート件数



②分類別件数

分　類	件　数
処方・与薬	867
療養	349
チューブ	208
検査	244
給食・栄養	67
医療機器・医療用具	53
調剤	18
診察・手術・処置	104
情報伝達	2
輸血	4
オカレンス	29
その他	164
合計	2, 109

③インシデント・アクシデントレベル別件数

レベル	件　数
レベル 0	653
レベル 1	632
レベル 2	621
レベル 3a	134
レベル 3b	51
レベル 4a	1
レベル 4b	3
レベル 5	1
その他	13
合計	2, 109

④インシデント・アクシデント職種別報告件数

職　種	件　数
医師	149
歯科医師	1
研修医	6
薬剤師	510
看護師・助産師	1,228
診療放射線技師	78
臨床検査技師	34
臨床工学技士	9
管理栄養士	14
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	17
視能訓練士	1
歯科衛生士・歯科技工士	5
調理師	50
看護助手	7
社会福祉士	3
事務職員	80
その他	3
合　　計	2,195

⑤当院入院患者の転倒転落数・転倒転落率

（入院患者の転倒転落率（‰）＝入院患者の転倒転落数／入院述べ数× 1000 人）

転倒転落数　294 件

転倒転落率　2.0 件

42. 教育研修推進室

1．スタッフ

教育研修推進室長（兼）　副院長　　高野　誠一郎
教育研修推進室（兼）　循環器内科部長　　皿澤　克彦
教育研修推進室（兼）　外科部長　　吉羽　秀麿
教育研修推進室（兼）　人事課長　　川島　勇一
教育研修推進室（兼）　看護師長　　内田　一美
教育研修推進室（兼）　教育研修係長　　森岡　恵代
教育研修推進室（兼）　主事　　佐野　智美

2．目　標

1）効果的な人材育成を行う。
2）赤十字についての基礎知識を持ち、災害時に対応できる職員を育成する。
3）良い人材を確保する。

3．業務と実績

1）医師の臨床研修に関わること

(1) 令和４年度当院在籍の初期臨床研修医数
①１年目 11 名(当院Ａプログラム８名･当院Ｂプログラム２名･福井大学病院Ｃプログラム１名)
②２年目 ８名（当院Ａプログラム６名・当院Ｃプログラム２名）

(2) 令和５年度採用試験応募者数と採用研修医数
【初期臨床研修医】応募者数：医科 21 名　歯科１名　　採用者数：医科 10 名　歯科１名
【専攻医】　　内科専門研修プログラム応募者数：３名　採用者数：３名

(3) 募集活動の実績

月　日	開　催　名	会　　場
5月14日（土） 7月 2日（土）	京都大学医学部研修医募集オンライン説明会	オンライン
5月29日（日）	レジナビ金沢	石川産業展示館
6月25日（土）	福井県専門研修合同説明会	福井大学
7月 3日（日）	レジナビ大阪	インテック大阪
10月22日（土）	福井県合同レジナビオンライン説明会	オンライン
11月1日（火） 11月2日（水）	マイナビオンライン説明会	オンライン
2月26日（日）	レジナビ金沢	石川産業展示館
3月 5日（日）	福井県臨床研修病院合同説明会	福井大学
5月～2月	福井大学医学部実習生向けミニ合同説明会　計４回	院内

(4) 研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーとの面接
研修が適切に行われるように、また心理的サポートのために、研修医とプログラム責任者、研

修医養成プロジェクトメンバーの面接を調整し、年2回（プログラム責任者との個人面接）、年1回（メンターとの面接）を実施。グループ面接は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み中止とした。

(5) 院内医師による講義および研修医症例発表会の企画・実施

救急部嶋田医師の1回／月の講義を計8回、救急部成山医師の講義1回／月を計10回、および他の院内医師による講義を11回実施。1月には症例発表会を2回実施。

2) 職員教育研修に関わること

(1) 赤十字についての基本知識を持ち、災害時に対応できる職員を育成。

基礎講習（4回実施）：123名　　救急員養成講習（3回実施）：90名

患者急変時の対応研修（eラーニング）：926名　　赤十字概論研修：57名

(2) 階層別職員研修の計画・実施

実施月日	対象者	研　修　名	参加者数
4月1日～5日	新採用者	新採用者研修（全職種）	68名
4月6日～8日	新採用者	初期臨床研修医オリエンテーション	13名
6月1日～30日	全職員	赤十字この1年（eラーニング）	674名
7月8日	新採用者	3ヶ月の振り返り宿泊研修 →院内研修へ変更	62名
7月～8月	全職員	レジリエンス研修（eラーニング）	703名
1月～2月	全職員	アサーティブ研修（eラーニング）	692名
11月4日・12月22日	希望者	Excel 入門研修	46名
1月20日	1年目	1年間の振り返り	55名
2月21日	2年目	1年間の振り返り	43名
3月9日	3年目	1年間の振り返り	16名

(3) 管理職研修

1)「日本赤十字社eーラーニング学習コンテンツ全136コース」を利用した研修を実施。（受講者44名）

2) 日本病院会主催の中堅職員育成研修会に派遣。

医療技術部門管理コース2名、人事・労務管理コース1名、薬剤部門管理コース1名

(4) キャリア開発ラダー

下記のとおり各部職員から申請があり、評価会、監査を経て教育研修推進委員会にて承認された。

看護部　実践者ラダーⅠ・Ⅱ・Ⅲ（16名・16名・11名）、管理者ラダーⅠ・Ⅱ（4名・0名）

事務部　ラダーⅡ：事務職員1名、社会福祉士2名、　ラダーⅠ：3名

薬剤部　ラダーⅣ：1名、ラダーⅠ：1名

リハビリテーション科　ラダーⅤ：1名 ラダーⅣ：1名、ラダーⅢ：1名、ラダーⅡ：3名、ラダーⅠ：1名

(5) 事務職員教育

到達目標にそった研修の計画・実施、1年目～3年目の目標達成状況評価（中間・最終）の実施。

(6) 学会参加への支援：人事課の項参照

４．次年度の目標

1）効果的な人材育成を行う。

2）赤十字についての基礎知識を持ち、災害時に対応できる職員を育成する。

3）良い人材を確保する。

43. 感染管理室

1．スタッフ

室　　長（兼）	赤井　雅也	ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター
副　室　長（兼）	渡邉　康宏	
薬　剤　師（兼）	寺本　敏清	日本病院薬剤師会認定　感染制御認定薬剤師
臨床検査技師（兼）	平井　舞	
看護係長	田本　聡子	日本看護協会認定　感染管理認定看護師
看　護　師	井上　和子	
課　　長（兼）	齋藤　裕一	
係　　長（兼）	新河戸　由紀子	
主　　事（兼）	笠原　亜紀	

2．実　績

1）感染対策向上加算地域連携

相互チェック

令和４年６月 28 日（火）福井大学医学部附属病院（審査）福井赤十字病院（受審）

令和４年７月５日（火）　福井赤十字病院（審査）福井大学医学部附属病院（受審）

院内感染対策に関するカンファレンス

日程	参加医療機関	内　　容
令和4年 5月31日	木村病院、つくし野病院、福井リハビリテーション病院、広瀬病院、光陽生協病院、やしろファミリークリニック、往診クリニック、光陽生協クリニック、福井市医師会、	・感染の発生状況報告 ・抗菌薬の使用状況報告 ・新興感染症発生時の体制(ゾーニング)について ・J-SIPHE 連携について ・今後のスケジュール、その他、意見交換
令和4年 6月24日	福井感染制御ネットワーク（FICNet）県内の感染対策向上加算 1、2、3、外来加算を算定している医療機関、行政機関、医師会等連携団体	・感染対策向上加算届出状況について ・各職種サーベイランス報告および活用方法について ・COVID-19 の対応について ・診療報酬改定に伴う感染対策向上加算について ・意見交換 ・福井感染制御ネットワーク相談事業について
令和4年 11月12日	福井感染制御ネットワーク（FICNet）県内の感染対策向上加算 1、2、3、外来加算を算定している医療機関、行政機関、医師会等連携団体	・感染対策向上加算届出状況について ・感染対策向上加算１相互チェック組合せについて ・各職種サーベイランス報告および活用方法について ・COVID-19 のクラスター対応について ・今後の福井感染制御ネットワーク開催方法について ・意見交換 ・福井感染制御ネットワーク相談事業について
令和4年 11月29日	木村病院、つくし野病院、福井リハビリテーション病院、広瀬病院、光陽生協病院、今立中央病院、往診クリニック、光陽生協クリニック、福井市保健所、福井市医師会、	・感染の発生状況報告 ・抗菌薬の使用状況報告 ・新興感染症発生等を想定した訓練 　～手指衛生と防護具の着脱～ ・小児尿路感染症への初期抗菌薬の選択について ・環境ラウンド改善報告について 　（医療法人寿人会木村病院） ・今後のスケジュール、その他、意見交換

令和5年 3月7日	木村病院、つくし野病院、福井リハビリテーション病院、広瀬病院、光陽生協病院、今立中央病院、岩佐内科外科クリニック、福井市保健所、福井市医師会、	・感染の発生状況報告 ・抗菌薬の使用状況報告 ・新型コロナウイルス感染症について ・環境ラウンド改善報告について （つくし野病院、広瀬病院、光陽生協病院）

2）抗菌薬適正使用（AST）

・抗菌薬ラウンド・血培ラウンド

（新規）355 症例　　（新規＋継続）3,867 症例

・抗菌薬コンサルテーション　　232 件数

3）サーベイランス

・厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業参加：全入院部門、耐性菌部門、SSI 部門、集中治療室部門

・FICNet サーベイランス参加（検査部門、薬剤部門、看護部門）

・J-SIPHE

4）ICT ラウンド

・環境ラウンド　　年 12 回（46 部署）

・院内ラウンド　　月 4 回

5）研修

（1）院内感染防止対策研修会

①令和 4 年 6 月 24 日（金）～6 月 30 日（木）

院内感染防止対策研修会

「新型コロナウイルス感染症～第 6 波・院内で何が起こったか？～」

講師：ICT 委員・松永心祐 ICT 委員　　参加者：1,039 名

②令和 4 年 12 月 2 日（金）～令和 5 年 1 月 27 日（金）

院内感染防止対策研修会　*E-Learning

「予防接種と感染対策について」

講師：高田昌幸 ICT 委員　　参加者：1,068 名

※令和4年度中に2回以上院内研修を感染対策のための職員研修を受けた職員数1,009名(実人数)

（2）ICT 感染管理研修コースⅠ

①令和 4 年 5 月 25 日（水）

標準予防策と感染経路別対策について

講師：土居幸司　　参加者：27 名

②令和 4 年 6 月 23 日（木）

手指衛生と防護用具の着脱について

講師：寺島由美・大塚祥恵　　参加者：24 名

③令和 4 年 7 月 28 日（木）

標準予防策と感染経路別対策について（実践編）

講師：西郡知代・皿澤和美　　参加者：20 名

④令和 4 年 8 月 25 日（木）

院内で問題となる微生物について・正しい検体の採取方法

講師：平井舞　　参加者：17 名

⑤令和 4 年 9 月 22 日（木）

洗浄・消毒・滅菌

講師：米村里美　　参加者：19 名

⑥令和 4 年 10 月 27 日（木）

抗菌薬について

講師：寺本敏清　　参加者：16 名

⑦令和 4 年 11 月 24 日（木）

職業感染対策・針刺し切創事故防止

講師：大澤昌子　　参加者：14 名

⑧令和 4 年 12 月 22 日（木）

感染症の診断と治療について

講師：白塚秀之　　参加者：13 名

（3）ICT 感染管理研修コースⅡ

①令和 4 年 6 月 9 日（木）

尿道留置カテーテル関連尿路感染防止について

講師：田本聡子　　参加者：20 名

②令和 4 年 8 月 18 日（木）

血管内留置カテーテル関連血流感染防止について

講師：田本聡子　　参加者：13 名

③令和 4 年 10 月 13 日（木）

人工呼吸器関連肺炎防止について

講師：田本聡子　　参加者：13 名

④令和 4 年 12 月 8 日（木）

SSI（手術部位感染）防止について

講師：田本聡子　　参加者：8 名

⑤令和 5 年 3 月 16 日（木）

サーベイランスについて

講師：田本聡子　　参加者：9 名

※令和 4 年度にコースⅠ・Ⅱともに修了した者 6 名に修了証書渡し済み

（4）AST 研修コース

①令和 4 年 7 月 7 日（木）

忖度なき経口抗菌薬口座③

～「とりあえず」から「ここぞの時」への思考転換

講師：玉村宗一　　参加者：20 名

②令和 4 年 9 月 1 日（木）

忖度なき経口抗菌薬口座④
～黄金の処方箋（レシピ）を目指して～
講師：玉村宗一　　参加者：13 名
③令和 4 年 10 月 6 日（木）
2022 年度第 1 回 AST 勉強会（Basic）
-2021 年度のリメイク編 -
講師：白塚秀之　　参加者：7 名
④令和 4 月年 11 月 4 日（木）
絶対に抑えておきたい各論的抗菌薬講座①～総論を振り返る～
講師：玉村宗一　　参加者：11 名
⑤令和 4 年 12 月 1 日（木）
市中感染 VS 院内感染
－グラム陰性桿菌感染症（腸内細菌科細菌・耐性菌）－
カルバペネムを使うシチュエーションは多いのか？
講師：白塚秀之　　参加者：6 名
⑥令和 5 年 1 月 5 日（木）
絶対に抑えておきたい各論的抗菌薬講座②
～使う「覚悟」と使わぬ「勇気」～フルオロキノロン系編～
講師：玉村宗一　　参加者：6 名
⑦令和 5 年 2 月 2 日（木）
グラム陽性球菌
黄色ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、腸球菌
講師：白塚秀之　　参加者：10 名
⑧令和 5 年 3 月 2 日（木）
絶対に抑えておきたい各論的抗菌薬講座③
～使いやすさに潜む「罠」～マクロライド系編～
講師：玉村宗一　　参加者：17 名

6）その他の業務
・感染症診療コンサルティング業務
・感染症対策コンサルティング業務（院内・院外）
・職業感染の対応
・感染管理システムの導入
・針刺し切創・粘膜曝露事故の対応
・新型コロナウイルス感染症対策
・手指衛生の促進活動
・工事のリスクアセスメント評価
・一般病棟結核曝露対応
・抗菌薬適正使用に係るデータの収集と解析
・注射用広域抗菌薬のサーベイランス
・内服抗菌薬サーベイランス（フルオロチノロン、マクロライド、第 3 世代セファロスポリン）

・SSI 予防抗菌薬の投与日数短縮
・院内採用抗菌薬の整理（カルバペネム系等）
・アウトブレイク対応

7）看護部 ICT リンクナース委員会活動
・ワードオーディット、手指消毒薬使用量調査、部署サーベイランスの実施、部署勉強会の推進
手指衛生直接観察、ワンポイントレクチャーによる教育、手洗いチェッカーによる手指衛生の評価

8）感染管理室だよりの発行
感染管理室だより　No.121 ～ No.132　発行・電子カルテ掲載

44. 災害救護支援室

１．スタッフ

災害救護支援室長兼麻酔科部長	白塚　秀之
災害救護支援副室長兼救急部長	嶋田　喜充
災害救護支援室員兼看護副部長	松田　ゆう子
災害救護支援室員兼中央手術室・滅菌室看護師長	川端　和代
災害救護支援室員兼Ｘ線技術課長	西郡　克寛
災害救護支援室員兼集中治療室看護係長	朝田　和枝
災害救護支援室員兼医療社会事業係長	伊藤　心平
災害救護支援室員兼医療社会事業課主事	鈴木　敏弘

２．業 務

災害時における医療援護の計画及び実施に関すること
原子力災害時における医療救護の実施に関すること
災害時診療事業継続計画（ＢＣＰ）の運用、改定に関すること

１）救護班、ＤＭＡＴ隊員について

（１）日本赤十字社救護規則に基づく災害時等に医療救護活動を行う常備救護班については、日本赤十字社福井県支部管下において当院に８個班が編成されている。令和４年度の班編成は次のとおり。

班	医　師	看護師長	看護師／助産師	主　事	放射線技師	薬剤師
1	川上　義行	寺島　由美	西尾　瑞穂 ○井上めぐみ	山崎　悠平 竹内　凌	西郡　克寛	安藤　和也
2	田中　大暉	石田　克子	真柄　昌代 上田　悠平	田中　健 柳澤　彰吾	秋田　直昭	山本　康太
3	山本　優	広田　法子	○長谷川奈津子 山田　智美	吉岡　見悟 中山　泰博	水野　恵里香	谷山　幸信
4	中野　雅子	福田　清美	北野　貴之 松宮　栞	土田　勇樹 松宮　翔太	中尾　秀昭	金森　紀幸
5	森谷　哲士	西郡　知代	臼谷　志草 ○大久保　瞳	西本　哲也 髙島　尚生	村上　冬樹	細谷　拓史
6	黒川　紘輔	常見　いずみ	嶋田　佳恵 中村　麻衣	中谷　真悟 三嶋　隆介	吉岡　千絵	草冨　翔太
7	薗　隆	高島　恵	五十嵐　有紀 ○森国　真奈美	五十嵐　直樹 黒田　圭太	野﨑　貫太	前田　太一
8	三原　美香	妹尾　真理子	高田　瑛美 ○斉藤　みか	小川　貴司 枡谷　朋和	河邉　大和	佐々木　千嘉

※名前の後の「○」表記は助産師有資格者

（２）日本ＤＭＡＴ隊員養成研修を修了した職員については下記のとおり（令和５年３月３１日時点）

医師	看護師	業務調整員
○嶋田　喜充	木水　麻里	木戸　俊介
○田邉　毅	川端　和代	鈴木　敏弘
○白塚　秀之	秋山　奈津江	坪田　泰典
平﨑　憲範	相模　朋恵	大森　丈
榊原　圭一	原田　幸枝	山崎　悠平
成山　美々	朝田　和枝	
	清水　洋輔	
	城野　佑歌	
	高山　あゆ	

※名前の後の「○」表記は統括ＤＭＡＴ研修修了者

３．実　績

（１）南越前町への救護班の派遣

・概要

８月４日（木）からの大雨により南越前町において、土砂災害、床上、床下浸水の被害が多数発生した。福井赤十字病院では、日本赤十字社福井県支部を通じて、福井県から医療支援の要請があり、８月７日（日）から医療救護班を派遣することになった。

・救護班派遣期間

令和４年８月７日（日）～８月 13 日（土）

※救護班は午前７時に日本赤十字社福井県支部を出発し、同日中に同支部に帰還する形で派遣した。

・派遣職種および人数

職種	延べ人数	実人数
医師（研修医含む）	８名	８名
看護師長	７名	３名
看護師（助産師）	１４名	７名
薬剤師	７名	２名
主事（コメディカル含む）	１４名	９名
合　　計	５０名	２９名

※この他に日本赤十字社福井県支部から連絡調整員が毎日同行した。

・活動場所

南越前町今庄診療所、訪問診療（南越前町にて実施）

旧今庄中学校（ボランティアセンター、避難所が設置）

・引継ぎについて

８月 14 日（日）以降は、今庄診療所での救護活動は福井県医師会（ＪＭＡＴ）に引き継ぎ

・活動内容

今庄診療所での診察、処置および発熱外来（コロナ検査）への対応

今庄診療所のスタッフと訪問診療への同行
ボランティアセンター、避難所（旧今庄中学校）での体調不良者への対応
関係機関（県、南越前町等）との連絡調整

取り扱い患者数

日	8月7日（日）	8月8日（月）	8月9日（火）	8月10日（水）	8月11日（木・祝）	8月12日（金）	8月13日（土）
患者数	5名	50名	33名	37名	6名	35名	7名

※8月7日（日）、11日（木・祝）、13日（土）は休診のため急患のみ対応

（2）新型コロナウイルス感染症福井県入院コーディネートセンターへの派遣

活動内容：令和3年度から引き続き、福井県が設置した福井県入院コーディネートセンターにＤＭＡＴ隊員（医師、事務職員）を派遣し、感染患者の医療機関の入院・転院調整、入院患者の状態等の聞き取り業務を行った。令和4年10月19日（水）をもって同センターの運用を終了し、一部ＤＭＡＴ医師によるオンコール体制に移行した。

活動期間：第4期　令和4年1月7日（金）～令和4年10月19日（水）

4．訓練の開催（その他の訓練参加については、令和４年度「救護訓練･研修等参加者一覧」を参照）

（1）令和4年度福井赤十字病院総合災害対応訓練

開催日：令和4年10月22日（土）

院内参加者数：214名

(院外組織参加者)

日本赤十字社福井県支部：1名

※令和4年度も令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、日本赤十字社福井県支部以外の院外組織からの参加はなしとした。

訓練内容

災害対策本部設営運営訓練、災害対策本部会議運営訓練、診療統括運営訓練
トリアージエリアでのコロナ疑い患者へのスクリーニング対応
全エリアを屋内で実施、場所、人員配置の確認
連絡エクスチェンジを用いた安否確認の実施
原子力災害時における傷病者のサーベイ実施

（2）令和４年度福井県原子力総合防災訓練

開催日：令和4年11月6（日）

参加者：災害救護支援副室長　嶋田　喜充
災害救護支援室看護師長　川端　和代
災害救護支援室員　伊藤　心平
災害救護支援室員　鈴木　敏弘

訓練内容：福井県内での地震発生にともない、原子力発電所内で傷病者が発生し、傷病者を福井県立病院に搬送し除染を行った。当院はオンラインでの参加となった。
福井県立病院、福井大学医学部附属病院、広島大学、当院をテレビ会議システムでの中継を行い、関係者でテレビ会議を行った。

（3）研修会の実施（その他の研修については、令和４年度「救護訓練･研修等参加者一覧」を参照）

①災害時能力育成研修（全５回）および日本赤十字社福井県支部が主催した救護班研修の内容を企画し、講師として参加した。

日時	研修内容	講師	参加数
第１回 5月26日(木) 17:15～18:3	１．災害時の備えについて（概論） 1）常備救護班の役割と体制について 2）当院における災害時の役割 3）これまでの当院における活動について	白塚秀之 (日本 DMAT 隊員) 平﨑憲範 (日本 DMAT 隊員)	42
第2回 6月25日(土) 1日間(予定)	日本赤十字社　福井県支部　救護班研修 ＜研修１＞「赤十字の使命と救護活動」 ＜研修２＞「救護班活動の実際、医療情報」 ＜研修３＞「J-SPEED アプリのインストール」 ＜実習１＞「災害診療記録から J-SPEED への入力」 ＜実習２＞「感染防護具の脱着について」 ＜実習３＞「避難所アセスメント」	日本赤十字社 福井県支部 災害救護支援室 (コーディネート班)	47
第3回 7月27日(水) 17:15～18:30	1）災害時のトリアージⅠ（演習） ・一次トリアージの方法 （START 法） ・トリアージタグの記載方法 ・二次トリアージの方法（PAT 法）	清水洋輔 (日本 DMAT 隊員) 秋山奈津江 (日本 DMAT 隊員)	26
第4回 8月31日(水) 17:15～18:30	1）災害時における記録と情報の取り扱い、情報共有の方法について（演習を含む） ・クロノロジー ・組織図作成 ・TO　Do リスト ・コンタクトリスト ・クロノロジーの書き方 ・トランシーバーの使い方	城野佑歌 (日本 DMAT 隊員) 坪田泰典 (日本 DMAT 隊員) 山崎悠平	36
第5回 9月30日(金) 医局会後 18:00～18:30 (医師対象)	1）災害時のトリアージⅡ（演習） ・二次トリアージの方法（PAT 法）	平﨑憲範 (日本 DMAT 隊員) 城野佑歌 (日本 DMAT 隊員)	12
第６回 10 月 12 日(水) 17:15 ～ 18:30	1）災害診療記録 2018 の書き方について 2）当院の災害時に使用する伝票類の書き方と使用方法について ・レントゲン箋、 ・検査箋 ・輸血箋　等	寺島由美 (常備救護班第１班) 石田克子 (常備救護班第２班) 鈴木敏弘 (日本 DMAT 隊員)	24

②全職員向け災害研修（オンライン形式で開催）

研修内容：安否確認システム　～連絡エクスチェンジとは～

講　　師：医療社会事業課係長　伊藤心平

参加者数：915 名

開催期間：令和５年２月６日（月）～３月 10 日（金）

５．各種会議、外部研修会および外部研修会講師

（１）令和４年度地域原子力災害医療連携推進協議会（北陸・中部・近畿地区）

日時：令和４年 11 月 14 日（月）

参加者：災害救護支援副室長　嶋田　喜充

災害救護支援室員　伊藤　心平

議題：①原子力災害医療に関する研修体系について

②原子力災害医療研修の認定制度について

③被ばく医療研修管理システムについて

④参加都道府県、医療機関からの報告

（２）令和４年度第１回原子力災害医療アドバイザー会議

日時：令和４年 12 月 14 日（木）

会場：日本赤十字社ＰＭＯビル２階大会議室

参加者：災害救護支援室員　西郡　克寛

議題：①原子力災害対応基礎研修会の振り返り

②総合課程・専門課程に関する方向性の協議・決定（※）

③本社からの連絡事項（原子力に関する最新情報）

（※）全体で協議後に分科会を設け、方向性を協議すること。

（３）令和４年度日本赤十字社原子力災害基礎研修

日時：令和４年 12 月８日（木）～ 12 月９日（金）

参加者：災害救護支援室員　西郡　克寛

内容：京都で開催された日本赤十字社原子力災害基礎研修に講師として参加

（４）全国原子力災害医療連携推進協議会（Web 開催）

日時：令和５年２月 10 日（金）

参加者：災害救護支援室副室長　嶋田　喜充

医療社会事業課係長　伊藤　心平

議題：①原子力災害医療研修について

②その他

45. 危機管理センター

１．スタッフ

危機管理センター長　小松　和人

２．業　務

医療安全推進室、感染管理室、災害救護支援室の３室の業務を統括
医療安全、感染管理、災害時等における危機管理

３．概　要

危機管理センターの実働部隊として、医療安全推進室、感染管理室、災害救護支援室の３室の室員が充てられている。
令和４年度においては､令和３年度に引き続き､新型コロナウイルス感染症対応を中心に業務を行った。

４．実　績

新型コロナウイルス感染症における対応

（１）木曜日に新型コロナウイルス感染症に関するブリーフィングを開催
令和４年度はブリーフィングを 35 回開催した

（２）新型コロナウイルス感染症に関する災害対策本部の開催運営
令和４年１月 17 日（月）～令和５年３月 31 日（金）
・県内の入院患者数、新規感染者数の状況などを踏まえ、令和５年３月 31 日付をもって新型コロナウイルス対策本部を解散した。
・新型コロナウイルス感染症が令和５年５月８日（月）をもって、感染症法上の分類を５類に移行するため、当院で実施している感染防止に関する様々な対策について、どのように取り扱っていくか、感染管理室等を中心に検討することになった。

（３）新型コロナウイルスに対する院内体制の検討
①新型コロナウイルス感染症のＢＣＰ（事業継続計画）の検討および策定
・新型コロナウイルス感染症に関するＢＣＰは令和４年 12 月に策定した。
②県のフェーズ変更にともなう、院内フェーズレベルの内容の検討

（４）発熱スクリーニング体制の検討
①毎月の発熱スクリーニング当番表の作成
②令和５年３月 31 日時点の発熱スクリーニングの各曜日、時間帯の当番表は下記のとおり

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午　前	外科 研修医	研修医	腎臓・泌尿器科	整形外科 呼吸器外科	耳鼻咽喉科 皮膚科 形成外科
午　後	総合診療科				
時間外	当直医				

③年末年始の対応について検討し、令和４年 12 月 29 日（木）～令和５年１月３日（月）の期間については、時間外においてもコンテナでの発熱患者の対応を行った。

（５）新型コロナウイルス入院体制の検討

①毎月の時間外における新型コロナウイルス入院担当表の作成

令和３年度に引き続き、令和４年度においても時間外に新型コロナウイルス入院事例が有った場合は、各診療科の当番の医師が主治医として、入院を受け持つことになった。

担当医としてＩＣＴ、副院長が主治医をサポートする体制となっている。

②令和５年３月 31 日時点の時間外における担当診療科は下記のとおり

内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓・泌尿器科、外科、整形外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科

③令和５年５月８日（月）の５類移行後の入院体制について検討した。

④新型コロナウイルス感染症で、入院している患者が急変した際の緊急コール体制について、検討し運用を開始した。

（６）抗原定量検査、抗原定性検査の導入について

①新型コロナウイルス感染症の抗原定量検査の導入、運用方法について検討し、運用を開始した。

②新型コロナウイルス感染症の抗原定性検査の導入について検討した。

（７）面会等の制限および行動制限について

①県外からの来院の場合、２週間前に福井入りしていたのを１週間前に変更した（令和４年７月から）

②職員の学会参加について、発表者や座長以外の参加についても体調管理を徹底したうえで参加を認めることとした（令和４年７月から）

③分娩の際の立ち会い制限について一律不可としていたのを夫、分娩者の実母に限り許可することとした（令和４年８月）

④各制限については、令和５年５月８日（月）の５類移行に合わせて内容を検討することになった。

1．医療社会事業課

1．保健・衛生・医療事業

（1）血液センター、地方自治体等が実施する保健・衛生・医療関係事業への協力状況は次のとおり。

依頼元	血液センター	福井市医師会			合　計
業務	献血業務	基本健診	幼児健診		
派遣者	医師	医師	医師	看護師	
令和２年度	２４	5	8	8	４５
令和３年度	２４	4	5	5	３８
令和４年度	２３	4	6	6	３９

2．病院ボランティア活動

福井赤十字病院ボランティアの会が発足した平成１２年５月以降、院内の様々な場面で病院ボランティアが活動しており、その活動状況については下表のとおり。

令和４年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を継続し、ボランティア活動の中止期間は無かった。

ボランティア活動内訳	延活動回数	登録者数
令和２年度	１，６７０	５２
令和３年度	２，４０３	５２
令和４年度	２，２８７	３４

3．スポーツ大会等救護活動

令和４年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、緩和に向け動き出した。「１年前プレ大会ふくい桜マラソン TRIAL RUN 2023」に看護師２名を派遣した。

スポーツ救護内訳	医師	看護師
令和２年度	4	１４
令和３年度	0	0
令和４年度	0	2

4．市民公開講座の開催

令和４年度は脳卒中と子宮頚がんについてオンライン形式で開催した。

テーマ	講師
意外と知らない脳卒中 人生１００年時代！知っておきたい、脳の健康について	西村　真樹、取越　貞治、大嶋　美華、大森　丈、吉田　珠奈
がんになる前にできること、 がんになってもできること	山本　真、椿原　捺実、リハビリテーション科

2．居宅介護支援事業所

1．スタッフ

山崎　奈満（管理者、主任介護支援専門員）　岩佐　孝枝（主任介護支援専門員）
杉本　和恵（訪問看護事務兼務）

2．目　標

1）安定的な経営基盤の確保
①相談件数の安定的な確保と維持　②地域からの相談対応の強化
2）地域医療・介護との連携を強化
①母体の入退院支援体制の連携、協力　②地域関係機関との連携

3．業　務

1）介護保険、その他介護福祉制度についての相談対応、要介護認定者のケアマネジメント業務
2）院内ディスチャージプランニングと連携した地域支援（在宅医・地域関係機関との連携）

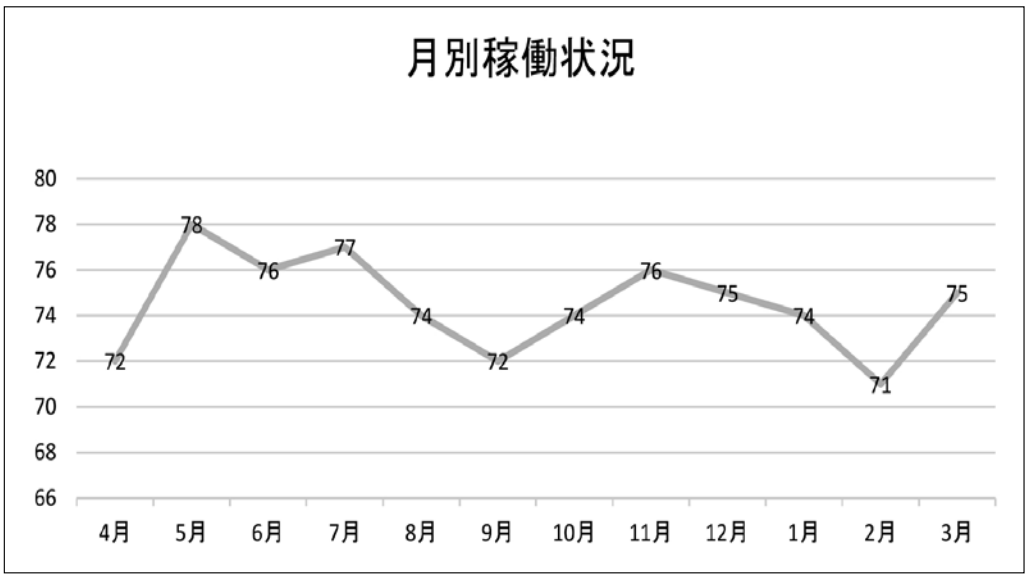
4．実　績

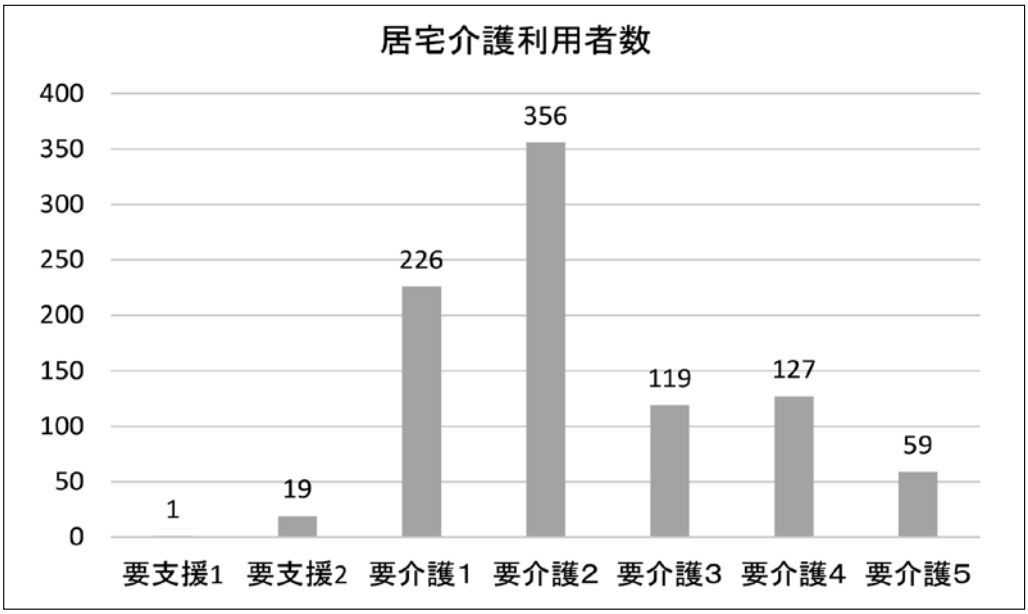
1）稼働状況（最大 79 件 / 月）

管理者を含む主任介護支援専門員 2 名、介護支援専門員（訪問看護事務兼務）の 3 名で対応している。令和 4 年 8 月より要支援受託業務を開始し受託している。事業所への相談件数は年間 49 件 / あり、平均的に相談は入っている。令和 4 年 8 月から令和 5 年 3 月までの予防受託件数は、月平均 3 件であった。令和 4 年度の月間平均稼働数は、79 件（図 1）であった。また、地域包括支援センター等からの新規利用者をお断りしている状況は、（7 件 / 年）があった。新規相談先の分類（7 件 / 年）別では当院が 13 件、他機関や地域からの相談が 36 件であり他機関、地域からの相談が増加している。また当院の退院患者や終末期の利用者は積極的に受け入れ、併設の訪問看護と常に連携しながら対応を行っている。

2）新規相談件数　51 件　内　訳：癌疾患 20 件
非癌 31 件（認知症 12 件、呼吸器系 3 件、内科系 16 件等）

3）相談依頼元：当院 MSW18 件、他の医療機関 2 件、包括支援センター 27 件
その他（家族）4 件





居宅介護支援事業にかかる加算の延べ件数

加算項目	令和４年度
初回加算	32
退院退所加算Ⅰ～Ⅲ	15
入院時情報連携加算Ⅰ～Ⅱ	35
通院時情報連携加算	7
緊急時カンファレンス加算	0
ターミナルケアマネジメント加算	0

3．訪問看護ステーション

1．スタッフ

看護師長：1名　看護師：7名　看護補助者：1名（パート）　事務：1名（兼務）

2．目　標

1）在宅療養に必要な社会資源を理解し、利用者・家族の望む療養支援ができる。
2）経営の維持を目指す。

3．業　務

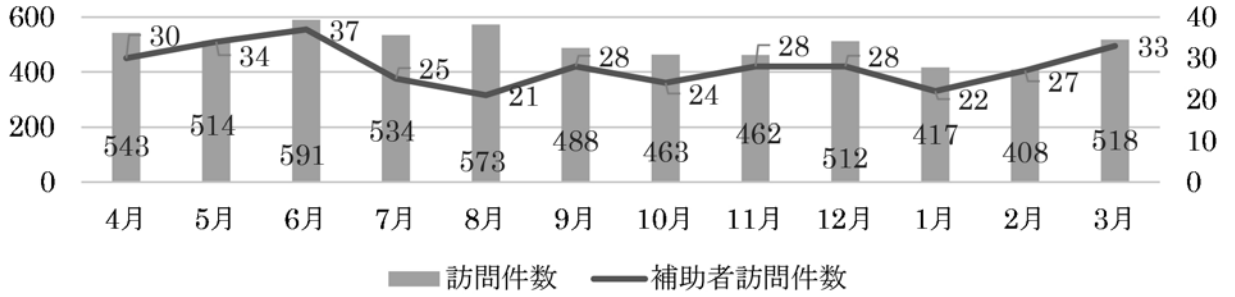
1）主治医の指示に基づく、在宅における療養上の世話と医療処置管理等、診療の補助業務。
2）家族への療養上の指導、相談等、家族支援に関すること。
3）利用者の入退院支援に関すること。

4．実　績

1）訪問実績

2名の産前産後休暇､8月から1名の長期療養のため､利用者の実人数は126人/年(前年度151人)訪問件数は6,023件/年（前年比－1,042件）と減少したが、実人員一人当たりの1日の訪問件数は3.7件（前年比±0件）と維持できた。看護補助者は、難病や癌末期、介護保険利用者で加算対象者への同行訪問を337件/年（前年度比－54件）行った。(図1)。

図1　令和4年度月別訪問実績



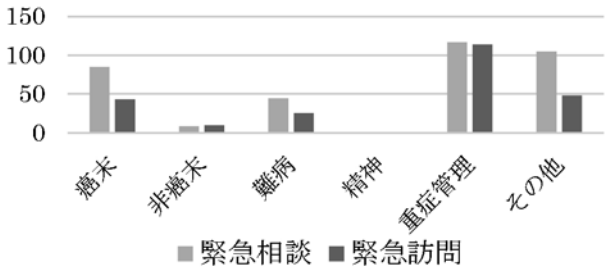
2）新規利用者数、修了者数、看取り件数

新規利用者数＝41件（前年度52件）終了者数＝46件（前年度64件）
看取り件数：病院18件（うちターミナルケア加算対象者4名）　在宅12件

3）電話相談・緊急訪問実績

終末期や重症管理の対応の他に、老老介護や認認介護、独居などのため昨年より電話相談1.2倍、訪問件数も昨年の1.1倍増えている(図2)。

図2令和4年度緊急相談緊急訪問実績



4）カンファレンス実績:138件(前年度127件)

退院前カンファレンス81件　サービス担当者会議42件　その他15件

5）訪問看護指示医の内訳

赤十字医師：60 名（47.6%）　赤十字以外の医師：66 名（52.4%）

6）院内の連携

院内の委員会への参加、院内退院支援係等関係部署との連携

4．地域医療連携課

●地域医療連携係

1．スタッフ

地域医療連携担当副院長	髙野　誠一郎
課　長	青柳　芳重
係　長	堀江　玖美
主　事	6名
派遣職員	1名

2．目　標

誠実な対応により信頼関係を向上させる。

3．業　務

1）地域における病診・病病連携に関すること。
2）地域医療支援病院の運営に関すること。
3）紹介および退院支援の情報支援に関すること。
4）高度医療機器の共同利用に関すること。
5）開放型病床の運営に関すること。
6）地域保険医療機関への広報および渉外活動並びに情報交換等に関すること。
7）その他地域医療連携の推進に関すること。

4．実　績

1）登録医数の推移（基準日：年度末）（人）

	令和4年度
医　科	348
歯　科	59
合　計	407

2）開放型病床 平均利用率（%）

	令和4年度
平均利用率	26.7

3）紹介率（%）

令和4年度
71.1

4）逆紹介率　　（%）

令和４年度
95.7

5）診療予約件数の推移　　（件）

	令和４年度
合　計	10,447
月平均	870.5
稼動日１日平均	42.8

6）研修会開催の実績および参加人数

令和４年度研修会実績

	研修会名	開催日時	内容	院外	院内	計
1	病診連携医会	令和4年11月16日(水) 19：30 ～ 21：15 集合型形式	「膠原病内科外来への紹介基準案と専門診療について」 腎臓泌尿器科副部長　鈴木　康倫 「福井県初！嗅覚専門外来の近況報告」 耳鼻咽喉科部長　大澤　陽子	53	34	87
2	炎症性腸疾患 Web イブニングセミナー	令和５年２月９日（木） 19：00 ～ 20：00 WEB 形式	座長　福田胃腸科外科 院長　福田　和則　先生 「クローン病の基礎知識」 消化器内科部長　道上　学	17	16	33
3	片頭痛 Web イブニングセミナー	令和5年3月15日(水) 19:00～20:00 WEB形式	座長　細川内科クリニック 院長　岡田　映子　先生 「あきらめない頭痛診療～ライフスタイルに合わせた予防治療～」 神経内科　副部長　早瀬　史子	21	11	32
4	歯科 Web イブニングセミナー	令和5年3月22日(水) 19:00～20:00 WEB形式	歯科・歯科口腔外科 山田　和人　先生 「病院における歯科の役割」	14	3	17
5	慢性便秘症 WEB セミナー	令和5年3月27日(月) 19:00～20:00 WEB形式	座長：消化器センター長 山崎　幸直　先生 聖マリアンナ医科大学大学院　バイオインフォマティクス学教授 聖マリアンナ医科大学病院　消化器内科 顧問医　山本博幸　先生 「シン・慢性便秘症診療 2023」	19	14	33
6	腎臓・泌尿器疾患学術講演会	令和4年7月14日(木) 19:00～20:45 ハイブリッド形式	「腎性貧血治療の新潮流」 腎臓・泌尿器科　部長　伊藤　正典 「ループス腎炎の最新治療について」 大同病院　膠原病・リウマチ科 主任部長　だいどうクリニック副院長 土師　陽一郎　先生	29	32	61

	研修会名	開催日時	内容	院外	院内	計
7	第8回消化器カンファレンス	令和4年7月16日(土) 16：00～18：00 WEB形式	座長　消化器センター長　山崎　幸直 「腸管感染症」 大坂鉄道病院　総括副院長 　清水　誠治　先生 座長　外科部長　青竹　利治 「直腸癌に対する集学的治療」 京都大学医学部附属病院　消化管外科 　病院講師　板谷　喜朗　先生	6	35	41
8	泌尿器疾患医療連携セミナー	令和4年9月2日（金） 19：20～21：00 ハイブリッド形式	座長　福井大学医学部泌尿器科学講座 　教授　寺田　直樹　先生 「泌尿器科開業医の役割と悩み～前立腺肥大症、前立腺癌について～」 　吉田医院　院長　吉田　浩士　先生 座長　副院長　小松　和人 「前立腺がん地域医療連携～”PSA検診の混乱”からPSAパスまで～」 　宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座泌尿器科学分野　教授 　賀本　敏行　先生	26	14	40
9	IBD医療連携WEBセミナー	令和4年9月7日（水） 19：00～20：10 WEB形式	1. 情報提供「ペンタサ顆粒」　杏林製薬株式会社 2. 特別講演 　座長　消化器センター長　山崎　幸直 　「潰瘍性大腸炎診療における適切なアプローチを考える～基本治療と病診連携の重要性～」 　　岡山大学病院　炎症性腸疾患センター　センター長 　　平岡　佐規子　先生	20	11	31
10	連携担当者情報交換会	令和4年9月15日(木) 18：30～20：00 集合形式	「福井赤十字病院における新型コロナウイルス感染症の対応の実際と課題」 看護部長　感染管理認定看護師 　真鍋　照美 「福井赤十字病院のコロナ禍における入退院支援の実態と課題」 地域連携室　専任社会福祉士 　横山　友美 「アフターコロナ受け入れ病院の入退院支援の実態と課題」 木村病院　入退院支援・地域連携部長 　竹内　繁美	34	26	60
11	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	令和4年9月19日(月) 9：00～17：05 集合形式	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した内容の研修 講師：「緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会」を受講した医師(県内のファシリテーター）7人	5	24	29

	研修会名	開催日時	内容	院外	院内	計
12	地域がん診療研修会 (放射線治療)	令和４年７月26日(火) 18：30 ～ 19：30 ハイブリッド形式	座長　放射線科副部長　楢林　正流 近年の放射線治療の進歩～限局癌から転移癌～前立腺癌の話題を中心に 京都大学医学部附属病院 　特定助教　相澤理人先生	2	9	11
13	地域がん診療研修会（緩和）	令和4年11月18日(金) 18：30 ～ 19：30 WEB 形式	座長　外科部長　吉羽　秀麿 アドバンス・ケア・プランニング患者の意向を尊重した医療を実践するために 筑波大学医療系　緩和医療学 　教授　木澤　義之先生	5	24	29
14	地域がん診療研修会（早期診断）	令和５年３月３日（金） 18：30 ～ 19：30 WEB 形式	座長　消化器センター長　山崎　幸直 「膵癌の早期診断・術前治療ＵＰ-TO-ＤＡＴＥ～膵癌診療ガイドラインの改定を踏まえて～」 JA 尾道総合病院　副院長 　内視鏡センター長　花田　敬士先生	5	27	32
15	福井赤十字病院　在宅症例検討会	令和４年12月６日(火) 19：00 ～ 20：00 ハイブリッド形式	事例を通して地域とつなぐ ACP について自由に語り合う ～がんと共に生きる患者さんとその患者さんを支えるご家族に出来ることを 参加者で一緒に考えます～	10	28	38
16	がん看護セミナー 　シリーズ①②	令和４年６月17日(金) 17：30 ～ 18：35 WEB 形式	①高齢者に対する緩和ケアの提供 　緩和ケア認定看護師　田坂　和代 ②認知症のあるがん患者の痛みの評価 　がん性疼痛看護認定看護師 　寺井　智子	6	11	17
17	がん看護セミナー 　シリーズ③④	令和４年８月19日(金) 17：30 ～ 18：35 WEB 形式	③嚥下障害患者さんへのサポート 　～当院での取り組み～ 　摂食・嚥下障害看護認定看護師 　板岡　利恵 ④ HBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）診療における看護師の役割 　乳がん看護認定看護師　吉川　朋子	0	8	8
18	がん看護セミナー 　シリーズ⑤⑥	令和4年10月21日(金) 17：30 ～ 18：35 WEB 形式	⑤癌患者さんの褥瘡予防 　皮膚・排泄ケア認定看護師　上口　美恵 ⑥「がん化学療法」 　～世代で考え　るケア～ 　がん薬物療法看護認定看護師 　広田　法子	1	9	10
19	がん看護セミナー 　シリーズ⑧	令和4年12月16日(金) 17：30 ～ 18：00 WEB 形式	⑧医療者が行う！　化学療法に伴うアピアランスケア 　乳がん看護認定看護師　吉川　朋子	1	9	10
20	褥瘡研修会	令和４年12月１日(木) 17：30 ～ 18：30 WEB 形式	DESIGN-R2020 と多職種連携 皮膚科医師　宗石　依子 薬剤師　　谷山　幸信 管理栄養士　椿原　捺美	19	27	46
	計			293	372	665

4－(1). 地域医療連携課

●入院前支援係・退院支援係

1．スタッフ数

入院前支援係

専従看護師１名　他看護師４名　事務職２名

退院支援係

専従看護師１名

病棟専任 MSW ８名（うち３名　退院支援係専任者）

がん相談員（専任）認知症サポートチーム（専任） MSW １名

2．目　標

1）入退院支援センターを中心に、多職種協働の切れ目のない入退院支援を実施する。

2）地域との連携を強化し、在宅療養と地域包括ケアシステムに貢献する。

3．業　務

1）患者・家族に対する社会福祉士などのソーシャルワーク業務に関すること。

2）公的扶助等社会福祉関係法の利用の援助に関すること。

3）入院手続きおよび入院前支援に関すること。

4）入院患者の退院に係る調整および支援に関すること。

4．実　績

1）入院時支援件数

令和４年度
7,920 人

2）退院支援実施件数・実施率

令和４年度

退院患者数	退院支援実施件数	退院支援実施率
12,528 人	5,619 件	46,4%

3）退院前カンファレンス開催件数

令和４年度

退院時共同指導	保険医共同指導	（多機関）共同指導３者以上
83 件	8 件	29 件

4）外来相談

令和４年度

外来相談件数	756 件
外来相談総時間	19,470 時間

4－(2). 地域医療連携課

●相談支援係（医療ソーシャルワーカー）

１．スタッフ

社会福祉士 10 名

２．業　務

入退院支援を含む、医療福祉相談業務。

３．実　績

令和 4 年度　医療ソーシャルワーカーが取り扱った相談実件数は、5, 825 件。新規の相談実件数のうち、入院 5, 342 件、外来 346 件。新規ケースの紹介経路は、院内の看護師（退院支援依頼含む）が全体の 94. 2%で昨年と同様だった。（表 1）

表 1　新規ケースの紹介経路

紹介経路／年	令和 4 年度
本人	12
家族・親戚縁者	13
医師	22
看護師（退院支援依頼含む）	5, 488
リハビリ職	0
他院内職員	23
院外関係機関	91
近隣者・知人	0
医療チーム	0
ソーシャルワーカー	1
合　　計	5, 825

相談援助調整内容は、退院支援が最も多く、次に在宅療養・介護に関することが多かった。（表 2）

表 2　相談援助調整内容 (のべ件数)

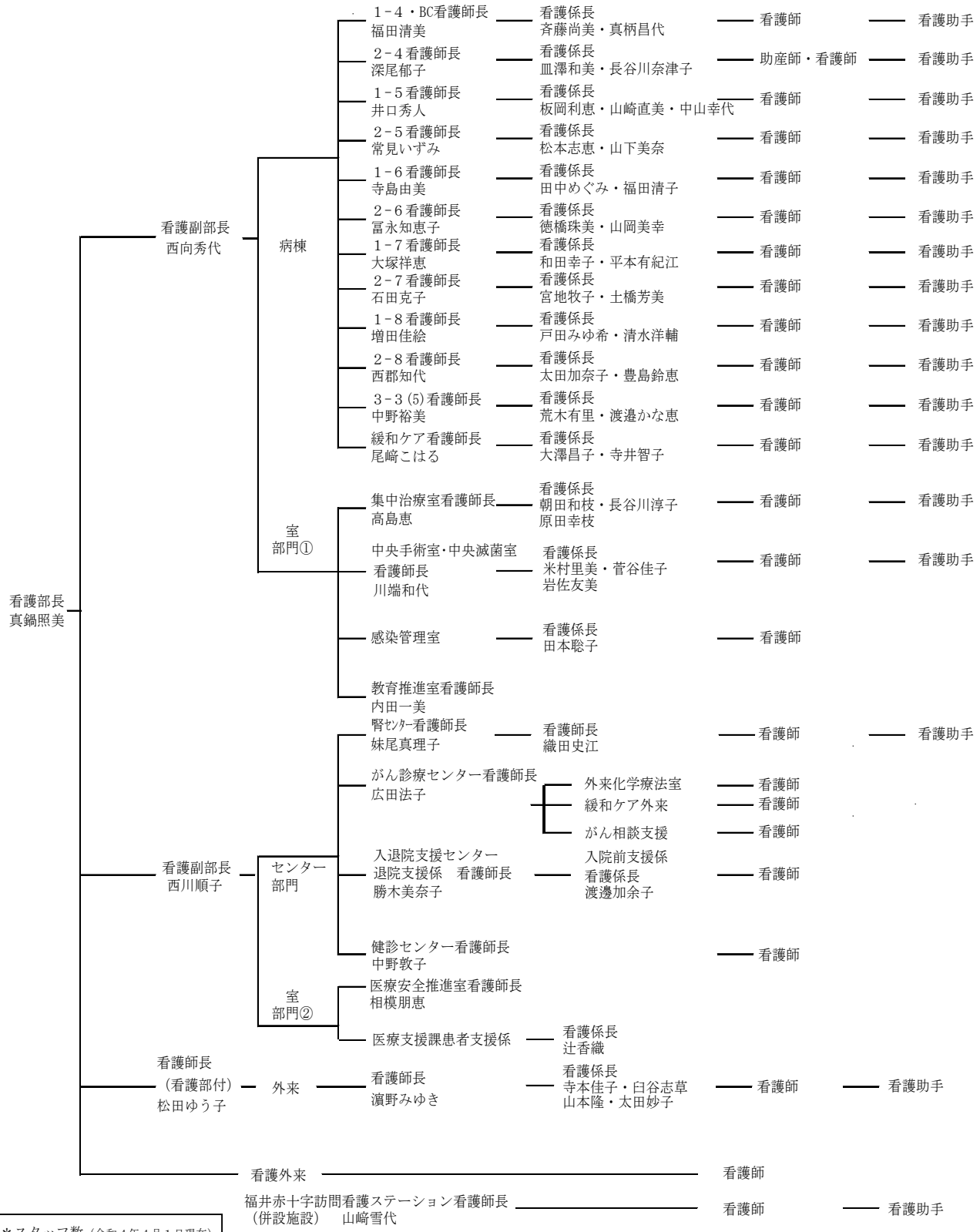
援助内容	令和年 4 年度
受診・受療	2, 199
経済的問題	154
制度活用	718
入院療養生活	385
退院支援	15, 851
在宅療養・介護	3, 737
医療者との関係	16

援助内容	令和年 4 年度
家族関係	60
日常生活	29
就労・就学	3
身元保証・権利擁護	42
死後対応	12
その他	16
合　　計	23, 212

1．スタッフ

看護部機能図

福井赤十字病院看護部
2022年4月1日



＊スタッフ数（令和４年４月１日現在）
看護師　558名
助産師　　26名
看護助手　56名

＊管理者数
看護部長　　1名
看護副部長　2名
看護師長　　21名
看護係長　　39名

令和４年度実習指導者

（看護部内任命）　　令和４年４月１日

部　署	実習指導者	実習指導者
１の４	田中梨恵	真柄昌代
１の５	野村啓太	板岡利恵
１の６	木本佳芳里	田中めぐみ
１の７	和田幸子	出雲真由美
１の８	山田智美	戸田みゆ希
２の４	井上めぐみ	森国真奈美
２の５	渡辺えり子	山下美奈
２の６	小林三佳	徳橋珠美
２の７	宮本久美子	土橋芳美
２の８	牧田珠穂	太田加奈子
３の３（5）	渡邉かな恵	荒木有里
緩和ケア	野坂仁美	大澤昌子
手術室	菅谷佳子	出村小百合
集中治療室	羽生夏樹	小玉理恵
腎センター	塚本ひとみ	市地香理
訪問看護ステーション	伊東志子	白崎江利子

令和４年度看護部リスクマネジャー

部署	リスクマネジャー
１の４	真柄昌代
１の５	山崎直美
１の６	田中めぐみ
１の７	和田幸子
１の８	戸田みゆ希
２の４	皿澤和美
２の５	松本志恵
２の６	山岡美幸
２の７	宮地牧子
２の８	太田加奈子
３の３（5）	渡邉かな恵
手術室	岩佐友美
集中治療室	朝田和枝
緩和ケア	大澤昌子
がん診療センター	広田法子

部署	リスクマネジャー
外来	太田妙子
腎センター	織田史江
訪問看護ステーション	山﨑雪代

２．方針及び目標

令和４年４月１日

≪看護部の理念≫

赤十字の基本理念である人道に基づき、一人ひとりを大切にし、
その人らしい生活ができるよう支援します。

多様化する社会の変化に応じ、人々の生活やニーズも変化していきます。
疾病や障害からくる苦痛を軽減し、一人ひとりの健康レベルに合わせたライフスタイルを創造できるよう支援します。
そして、その人とのかかわりは個人の尊厳と権利を尊重し、一人ひとりを大切にします。
また、実践に当たっては、赤十字の７原則（人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性）を行動の指針とします。

≪基本方針≫

１．私たちは、一人ひとりの人権を守り、意思を尊重します。
２．私たちは、安全で安楽な、やさしい看護を提供します。
３．私たちは、専門職業人としての自覚を持ち、自己研鑽に努めます。
４．私たちは、地域の保健・医療・福祉と連携し、継続した看護を行います。
(※平成 24 年１月１日より病院理念が見直されたことを受け、看護部理念・基本方針を変更した)

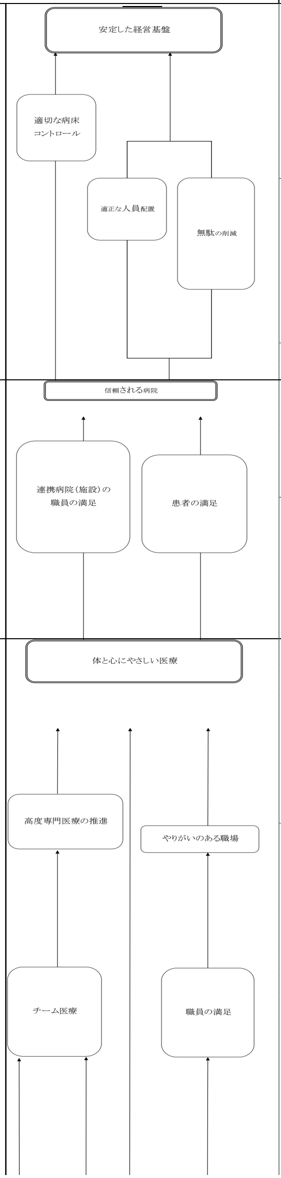
≪令和４年度年度看護部目標≫

１．体と心にやさしい看護を提供する
　DPNS を基盤に
　①安全な看護の実践
　②考える看護の実践
　③接遇推進
２．職員満足度を上げる
　① WLB 推進
　②看護職員の負担感軽減
　③やりがいが実感できる職場風土
３．健全経営に貢献する
　①適切な病床コントロール
　②適正な人員配置と活用
４．With コロナ時代に適切に対応する
５．病院機能評価受審の準備をする
６．診療報酬改定に迅速に対応する

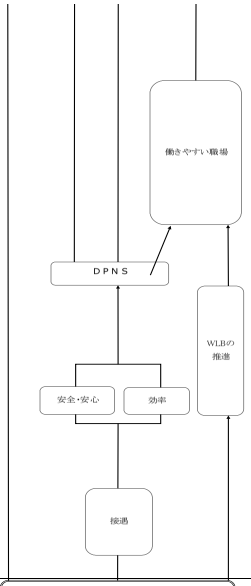
令和４年度　看護部目標（最終評価）

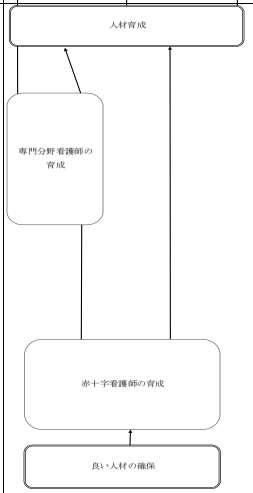
目標
1　体と心にやさしい看護を提供する　DPNSを基盤に、①安全な看護の実践②考える看護の実践 ③接遇推進
2　職務満足度を上げる　①WLB推進　②看護職員の負担感軽減 ③やりがいが実感できる職場風土
3　健全経営に貢献する　①適切な病床コントロール ②適正な人員配置と活用
4　Withコロナ時代に適切に対応する
5　病院機能評価受審の準備をする
6　診療報酬改定に迅速に対応する

戦略マップ



視点	戦略目標	重要成功要因	評価指標	昨年度値	担当者	部署目標	部署評価指標・目標値	現状値	アクションプラン	達成度	評価
財務の視点	適切な病床コントロール	地域医療構想対応チームに参加	病床稼働率	79.60%	看護部	病床稼働率	83.1%	74.1%	・コロナ対応を視野にいれた適切な病床コントロール ・院長、副院長、各科代表部長等との意見交換会に参加する	3	意見交換会に参加し、各診療科の現状や希望を病床再編成の参考にすることができた。院内で複数回発生したクラスターやコロナによる診療縮小の影響により、病床稼働率は目標値より低迷した
		各診療科との意見交換会に参加	ICU利用率 ICU稼働率	53.2% 71.8%		ICU利用率 ICU稼働率	60% 75%	50.8% 51.8%		3	ICU病床使用も、コロナの定床確保の影響か、低い。空室がある場合の活用の検討が必要。
			SCU稼働率	108.0%		SCU稼働率	100%以上維持	104.9%		5	SCU稼働は100%を維持できた。
			PCU稼働率	67.90%		PCU稼働率	80%	65.8%		3	PCU稼働は、65%前後と低迷した。PCU利用にむけた対策が必要。
			DPCⅡ期間以内	67.4%	看護部　パス委員会	DPCⅡ期間以内	70%	67.4%	・パス期間の見直しの継続	4	必要なパスについては、クリニカルパス推進部会が見直しを行い、パス適応日数とⅡ期間が合致するように活動出来た。
			在院（棟）日数	11.74日		在院（棟）日数	11.7日	11.5日		5	在院日数は11日台で推移し、問題なし。
			新規入院患者数	13514人／年		新規入院患者数	13,822人／年	12,501人	・病床稼働の目標値をボードに掲示し意識付けを行う	3	新規入院患者年間目標人数より約1,300人少なく低迷した。コロナによる診療縮小が大きく影響した。
	適正な人員配置	看護配置7：1の維持	重症度、医療・看護必要度Ⅱ 一般28%以上 ICU　60%以上	一般33.3% ICU 93.2 %	看護部	重症度、医療・看護必要度Ⅱ 一般 ICU	28%以上 60%以上	29.6% 76.3%	・医事課と連携し、毎月の必要度データを各部署に提示する ・医事課と連携し、2週間に1回患者毎のA,B項目を提示する	4	医事課と連携し、重症度、医療・看護必要度の指標はクリア出来たが、低い月もあり、今後も2週間毎の監査と対策・検討・実施を継続。
		看護職員夜間配置加算12：1維持 急性期看護補助体制加算25：1維持	臨時看護師の採用 急性期看護補助体制加算25：1取得維持	2名	看護部	臨時看護師採用 キャリア看護師採用	10名 数名	0名 1名	・夜勤が可能な臨時看護師の採用を促進する	2	キャリア看護師1名のみ採用したが、臨時採用は臨時採用数の増は困難である。
		夜間急性期看護補助体制加算100：1維持	夜間急性期看護補助体制加算100：1取得維持		看護部			25対1維持 夜間100対1維持	・看護助手対象の研修会の充実を図る ・看護助手の業務内容を再検討し、周知する ・定期的な意見交換会の開催(特に、準夜帯看護助手の意見を聴き、対応を検討する	5	準夜帯の看護助手は、6名退職となったが、補充は出来ている。看護助手の業務内容を再検討し、業務マニュアルを改訂した。全看護師の研修も実施し、看護補助体制充実加算取得が出来た。
		コロナフェーズに対応した人員配置	コロナ対応病棟への看護師の異動	3～6名／月	看護部	コロナ対応病棟への異動	3～6名／月	左記実施	・コロナ患者の入院数に応じ、各部署から看護師の応援体制を継続する	5	県内のフェーズに合わせて、各部署からの看護師の応援体制を継続して実施できた。
	無駄の削減	5S活動の徹底	達成不可回数	161件	看護部 各部署	達成不可回数	150件以下	151件	・毎月環境ラウンドを実施する。 ・ラウンド結果を各部署にフィードバックし必要時改善する	3	毎月環境ラウンドを実施しているが、不可件数が多い。シンク周りの水撥ね、洗浄室のドアの開放等があった。次年度も活動を継続する。
顧客の視点	連携病院（施設）の満足度向上	心の通う連携の推進 各種連携の会参加	紹介率 逆紹介率	71.9% 98.8%	地域連携	紹介率 逆紹介率	70% 100%	71.1% 95.7%	・各連携期間からの意見に対して、速やかに回答する ・退院後のお問合せの継続	4	今年度、連携関連のクレーム7件あり、その都度対応した。次年度も、退院後のお問合せ等、継続していく。
		退院翌日の問い合わせ継続	連携先からのクレーム数	4件	地域連携・病棟師長	クレーム数		7件			
		退院前・後の訪問の継続	訪問件数	26件	地域連携	訪問件数	26件以上	34件	・連携保険医療機関等へ訪問を行う	5	連携医療機関には、予定通り訪問できた。
		地域へ繋ぐ外来看護の継続	地域の他職種との連携率（ケアマネとの連携）	95%	外来	地域の他職種との連携率（ケアマネとの連携）	90%以上	91.8%	・外来各診療科毎に、連携調査票を用い連携出来ているかどうかを調査する	5	連携率は目標達成した。今後も調査を継続する予定。
	患者満足度の向上	入退院支援センターの業務拡大	入退院支援加算1 入院時支援加算1 総合機能評価加算	4,626件 1,235件 3,259件	地域連携	入退院支援加算1 入院時支援加算1 総合機能評価加算	4,600件／年 1,300件／年 3,200件／年	5,619件 1,316件 3,341件	・入退院支援センターでの業務を拡充する（外来との調整、話し合いを行う） ・病棟ラウンド時に退院困難患者について検討する	5	月1回外来とのカンファレンスで検討できている。現在のマンパワーでできるラウンドを実施し、加算件数の目標を達成した。
		入退院支援センターと外来・病棟・地域との連携強化	多職種カンファレンスの実施 外来、センター、病棟との連携システムの構築		師長係長審議5G	多職種とのカンファレンス	10件／年	4件	・カンファレンス対象患者リストアップのためのチェックシートを作成 ・外来、センター、病棟への「入院前患者カンファレンス」連携フロー図を作成し活用。薬剤師、栄養士、CN等、多職種でカンファレンスを実施する	3	カンファレンス対象患者のリストアップのためのチェックシートを完成した。外来、センター、病棟への「入院前カンファレンス」連携フロー図を作成・修正し、実施できた。目標値には届かなかったが、次年度はさらにシートを活用した多職種カンファレンスを開催する予定。
		倫理教育の推進	多職種倫理カンファレンス推進 ACP推進		師長係長審議2G	4分割シートの活用	2例以上／部署	実施済	・各部署が、4分割シートを活用し、倫理的課題のある患者に対して、多職種でカンファレンスを実施	5	全16部署すべてで、4分割を用いたカンファレンスを実施できた。
内部プロセス	専門性を活かしたチーム医療の推進	院内デイケア活動定着	部署内でディケアが開催できる	今年度より開始	認知症リンクナース委員会	部署での実施	4部署	13件	・部署単位でディケアが行える方法を検討する ・モデル病棟を4つ選び、ディケアを実施する	2	コロナ禍であり、ディケア開催が困難であった。次年度、部署でのディケアを実施予定。
			せん妄ハイリスク加算件数 せん妄予防パンフレットの改正と活用	7057件	認知症ケア部会 認知症リンクナース委員会	せん妄ハイリスク加算件数 せん妄パンフレットの活用	7,000件以上	8659件	・DST評価表の見直しを行う ・DST評価にあった看護計画、対策を看護指示に反映するように教育する ・せん妄予防のパンフレットの見直し、作成、活用を行う	5	DST評価表の見直しを行った。DST評価の計画反映98%、看護指示反映88.2%となった。せん妄予防パンフレットの見直しが済み、今後各部署での活用をすすめていく予定。加算件数としては目標達成した。
		包括的脳卒中センターの準備	脳卒中相談窓口の件数	今年度より開始	1の5、看護部	相談件数	100件以上	57件／5カ月	・脳卒中相談窓口の運用方法を検討し、実施する	4	相談件数の運用方法や相談件数の取り方を検討しR4.11月から運用5カ月で左記件数実施できた。
		特定行為看護師の活用の検討			看護部	手順書の見直し 新規特定行為の実施	 1特定行為	済み 0件	・特定行為業務管理部会を年3回開催する ・「抗精神病薬臨時の投与」の手順書を改正する ・新規特定行為の手順書を検討し、実施する	3	「抗精神病薬臨時の投与」手順書の見直しが承認された。新規の特定行為に関しては、手順書作成中。次年度から特定行為を実施予定。
	安全でやさしい看護の提供	看護外来の充実	総件数	906件 （がんカウンセリング除く）	専門・認定看護師委員会	看護外来の総件数の内の算定率（R4～改正）	50%以上	70%	・毎月の算定件数を確認し、少ない外来については対策を検討	5	今年度より算定方法を変更して目標達成した。
		DPNSの評価（安全・効率・教育） 形式・成果の監査と評価			師長係長審議	DPNS基準の見直し DPNS形式監査の実施		実施済 実施済	・DPNS基準の「日々の役割と業務」「評価体制」を見直し、改正する。 ・改正した評価表で形式監査を実施し、その結果を各部署にフィードバックする。	4	DPNSの基準を見直し、全部署に形式監査を実施し、集計結果を各部署にフィードバックできた。形式監査については、次年度も係長会で継続予定。
		看護記録の再教育 看護診断研修	教育委員の研修参加率	50%	師長係長審議 教育委員	教育委員の研修参加率	100%	100%	・看護診断の研修で復習を実施する	5	教育委員、主委員・副委員全員が研修を受講できた。
		個別性のある看護実践がわかる記録			教育委員 業務委員	看護過程Ⅲ（選択）の受講 4年目以上看護師へ記録指導	20名以上	15名	・教育委員会主催で看護過程Ⅲの研修を開催する ・4年目以上のスタッフを対象に、個別性のある記録に関するポイントについて業務委員が指導する	4	最終的に目標人数に届かなかった。次年度は、教育計画の中で提示し、4年目以上の看護師が多く受講できるよう計画していく。
		身体抑制削減の推進	身体抑制率	4.4%	師長係長審議3G 認知症リンクナース会	身体抑制率 身体抑制の看護計画反映率	4.4%以下 80%	3.8% 50.6%	・身体抑制カンファレンスの形式監査を行う ・カンファレンスの対策を看護計画、看護指示に反映するよう指導する	3	経年的に身体抑制率は減少し改善がみられているが、計画反映率は低い。看護計画反映については、能率的な記録方法も合わせてリンクナース会を中心に検討する。
		安全な看護の実践	看護関連の医療事故		医療安全、師長係長審議1G	医療安全マニュアルの改正（必要箇所）	マニュアル改正 マニュアルの実施状況の確認	実施済	・医療安全マニュアルの改正（必要箇所）を行う ・医療安全マニュアルが手順通りに実施されているか、各部署のチェックを行う	5	マニュアルの改正を実施した。マニュアル通りに実施できているかのチェックを行い、各部署にフィードバックできた。
		ブリーフィング・デブリーフィング定着	チームSTEPPSにおけるブリーフィング・デブリーフィング		各部署	ブリーフィング・デブリーフィングの定着（実施率）	100%（20部署）	100%	・部署の目標に沿って、ブリーフィング・デブリーフィングを実施する	4	20部署すべてが実施できていたが、ブリーフィングが不十分である部署もあった。次年度は、チームステップスにおけるブリーフィング・デブリーフィングの実施をを計画予定。
		転倒・転落予防	3b以上事案件数	10件	看護部	3b以上事案件数	10件以下	15件	・毎月、危険度Ⅰ,Ⅱの計画立案、看護指示、評価が行われているかを調査し、各部署へフィードバックする	3	3b事案件数は多く、前年より増加した。次年度はQC活動にて、業務改善に取り組む予定。
					MSMリンクナース会	危険度に応じた計画立案⇒指示反映率	100% 90%	87% 78%		4	毎月、適切な対策実施がなされているかリンクナースが調査を実施したが、目標達成出来なかった。今後も対策を委員会で検討する。





内部プロセス			医療安全強化月間の継続（１１月）	医療安全月間の活動	実施率 100%	各部署	医療安全月間の活動	100%	100%	・11月の医療安全月間に、各部署が医療安全活動を実施する	5	11月に全部署で実施できた。
			誤認予防	患者誤認防止・患者確認の徹底	看護職の誤認件数68件	MSMリンクナース会	看護職の誤認件数 分析シート	50件以下 2例/各部署使用	55件 全部署実施済	・患者誤認が発生した場合、毎朝のラインナップで報告し、看護部内で情報共有を行う ・誤認・誤薬発生時の分析シートの活用を行う	4	看護職の誤認件数は前年より減少したが、依然高い 次年度もMSMリンクナース会で活動継続予定。 全部署が分析シートを用いて、活用できた。
			RRT活動推進			ICU、1の5、医療安全	RRSシート活用（事例検討）	呼吸異常時SOAP記録 100% RRSシート活用80%	100% 85.4%	・リンクナース会で、呼吸数観察・アセスメントし必要時看護師経過記録＋RRSシートの活用を促進する。	5	リンクナース会で調査の結果、呼吸数に異常がある場合のSOAP記録及びRRSシートの活用率は目標に達した。
			感染対策の強化			師長係長審議6G	看護職が正しくPPEを着脱できる 看護職が感染性廃棄物処理方法を遵守できる	100% 100%	100% 100%	・標準予防策の各項目の教育ツールの作成と活用 ・看護職のPPEの着脱方法と感染性廃棄物の処理方法等について、毎月ラウンドを行う	5	リンスナース会が中心となり、各部署スタッフがPPE着脱方法と感染廃棄物処理方法について指導できた。
			接遇の推進 挨拶、身だしなみ	患者満足度結果（看護師関連） 患者・家族からのご意見（クレーム数）	外来：79.33% 入院：83.53% 21件	患者満足度点数 接遇推進委員	患者満足度点数 クレーム件数	外来：79.33%以上 入院：83.53%以上 15件以下	78.17% 82.81% 17件	・毎年調査を実施し、患者満足度部会で対策を検討する	3	10月に実施し、入院・外来ともに前年度より低下した。入院時の説明については、次年度の目標管理で部署内で検討していく予定。外来部門は待ち時間について次年度、部会の中で検討予定。 クレーム数は減少していない。内容については、該当部署に返して改善策を検討している。内容によっては全部署で情報共有している。
			看護師行動規範の徹底	行動規範の評価	98.20%	看護部	行動規範の評価	98%以上維持	98.9%	・毎月調査を実施し、低い項目については定期的にフィードバックし、対策を検討する	5	結果を師長会議で提示して、低い項目に関してフィードバック済み。次年度も継続していく。
		職員満足度の向上	部署の強み（売り）をPRする やりがいのある職場風土の醸成	ブログ紹介数	26件	全部署 看護部	ブログ紹介数	25件以上	35件	・毎月の担当者を決めて、ブログに掲載する ・トピックスがあれば、看護部として掲載する	5	毎月、順調にアップ出来た。
			組織活性化ワークショップを活かした 目標管理	職員満足度調査結果（活性型組織）	活性型組織 意欲67.9% 満足65.8%	全部署 看護部	職員満足度調査結果	活性型組織 意欲67.9%以上 満足65.8%以上	68.2% 64.4%	・前年のデータと比較し、各部署での対策を実施する	4	前年と比較し、意欲度はやや増加したが、満足度は低下した。低下した原因は時間外労働が影響していると考えられた。次年度もこれらの結果をもとに、各部署の目標管理で対策を実施予定。
			リフレクション定着			係長審議9G	係長がファシリテーターとして部署でのリフレクションを実施	1回/月 各部署 100%	部署実施率 平均80%	・係長をファシリテーターとして、毎月リフレクションを実施する	4	リフレクションが全部署が実施していたが、毎月出来ていた部署は4部署であった。リフレクションを継続していう上で、今後も活動を継続していく。
			GRACE継続	GRACEの継続	実施率100%	PCU	GRACEの継続	100%	継続	・GRACEの勉強会を実施し、知識の習得を図る	5	PCUでは、毎朝定例としてほぼ全員のスタッフがGRACEを実施できている。
			師長支援体制 トークミーティング継続 プリセプター制実施 WLBの推進、適切な労務管理	トークミーティングの開催数	3回	看護部	トークミーティングの実施 プリセプター制の継続	3回/年 新任看護師長4名	実施済	・予定通り年3回、計画を立てて実施した。 ・プリセプティとプリセプターが年間3回面接を実施した。	5	予定通りトークミーティングを実施した。又、新任看護師長に対して、プリセプター看護師長が面接を実施出来た。トークミーディングの学びは、看護実践に繋がるという効果があった。
			計画的な勤務表作成	有給休暇取得率	100%	各師長	全職員5日以上	100%	実施中	・各部署でスタッフが有給休暇が取得できるよう、年間計画を立てる	5	全看護師が5日以上有給取得できた。
			2時間越え時間外の削減	2時間越え時間外の件数	3273件	看護部、各部署	2時間越え時間外の件数	3,000件以下	5277件/年	・毎月部署毎の時間外を調査し、師長会で提示する ・必要時、看護部が入り対策案を検討する	2	月毎に部署の時間外の確認をしている。2時間越えが多い部署の師長に対し、対応を検討するよう指導したが時間外の件数は前年より増加した。次年度も対策等の継続が必要。
			一ヶ月72時間ルール実施の検討	夜勤免除看護師の減少、夜勤看護師の増員 時短看護師の夜勤免除率	看護師の臨時採用2名 11.7%	看護部	看護師の臨時採用（割愛含） 時短看護師の夜勤免除率	10名 11.7%以下を維持	2名 11.2%	・看護師の臨時採用を推進する（HPに掲載） ・復帰前及び復帰後面談と定期面談を実施する	3	コロナ禍の中で、コロナ対応病棟の応援の継続等も絡り、7名を充足することは難しい。次年度も、看護師の臨時採用を継続予定。時短看護師の夜勤免除は、面談の効果あり、約1割に抑えることが出来た。
			夜間看護師の業務負担軽減 準夜帯看護補助者（イブニングエイド）の定着	準夜帯看護補助者の退職者	12名	看護部	準夜帯看護補助者の退職者	12名以下	6名	準夜帯看護補助者の業務内容を確立させる 準夜帯看護補助者の研修内容の充実を図る	4	昨年度1年では、13名の退職があったが、今年度は退職者が減少している。準夜帯看護補助者の定着にむけて、今後、研修内容の企画をさらに進めていく。
成長と学習のプロセス		人材育成	新人育成（ローテーション研修）	研修終了後の満足度	94%	教育推進室、教育委員	研修終了後の満足度	90%以上	95%	・ローテーション研修を実施・評価し、次年度の計画を検討する	5	研修修了時の新採用者の満足度は高い。結果をもとに、次年度の計画を検討する。
			赤十字看護師（救護員）の育成 ラダー取得の推進	実践者ラダー取得率 管理者ラダー取得率	実践者Ⅰ：88.7% 実践者Ⅱ：72.8% 実践者Ⅲ：22.6% 管理者Ⅰ：Ⅱ63.0%	教育委員 教育委員	実践者Ⅰ 実践者Ⅱ 実践者Ⅲ 管理者Ⅰ．Ⅱ63.0%	90%以上 75%以上 30%以上 70%以上	80.2% 67.8% 22.3% 65.6%	・各部署事に年間計画を立て、ラダー取得を推進する	3	いずれのラダーレベル割合も目標値に届かなかった。 レベル教育の計画表に沿って、各スタッフが計画的に ラダー取得にのぞめるよう、次年度も計画する。
			赤十字講習の受講の推進	救急法、生活支援受講者数	基礎：96名 養成：34名	教育推進室	基礎 養成	90名以上 90名以上	98名 82名	・3回に分けて、基礎講習・養成講習を計画、実施する	4	予定通り研修を実施したが、要請講習は目標未達成であった。今年度も講習会を実施予定。
			院内実践リーダー看護師育成	院内実践リーダー看護師数		教育委員	院内トリアージ（新規） 院内トリアージ（更新） 入退院支援（更新） 認知症看護（新規）	3名以上 10名以上 4名以上 3名以上	6名 8名 4名 4名	・コースの受講を募り、参加を推進する ・更新年度のスタッフには、更新を推進する	4	新規で、院内トリアージ、認知症看護のコースを計10名が受講できた。次年度も継続して、院内実践リーダー看護師育成を進めていく。
			次世代管理者の育成 主任導入準備	実習指導者、ファースト、セカンド受講者数	実習指導者：0名 ファースト：2名 セカンド：3名	看護部 看護部 師長審議8G	実習指導者 ファースト セカンド 主任の職務内容の作成 コンピテンシーモデル：主任用の活用	5名 3名 2名	実施済 実施済 実施済 実施済	・受講希望者を募り、参加を推進する ・看護部は、主任の役割及び業務内容を作成し、師長会で周知する ・次年度、主任への昇任候補者に対して、コンピテンシー評価表を活用する	5	予定通り研修参加し、修了した。 主任制度について、看護師長会で周知した。R5年度の主任の昇任について、コンピテンシー評価表を活用した。
			専門・認定看護師育成	認定看護管理者数 専門看護師数、認定看護師数	認定看護管理者：1名 クリティカルケア：1名 専門看護師：1名 感染管理：1名 認定教育 慢性呼吸器：1名 認定教育	看護部	認定看護管理者認定試験 クリティカルケア認定試験 専門看護師（老年看護） 感染管理 呼吸器看護	2名合格 1名合格 1名大学院卒業 1名研修修了（A課程） 1名研修修了（B課	実施済	・2名が認定試験合格（認定看護管理者） ・1名大学院卒業（CNS老年看護認定試験への準備 ・1名がクリティカルケア認定看護師合格 ・2名が認定教育機関修了	5	予定通り左記の者が、大学院卒業予定、認定試験3名合格した。2名が研修機関で研修し、R5年度認定試験を受験予定である。
			特定行為看護師の育成 SCU看護師育成	特定行為研修修了者数 アンギオ介助看護師 脳卒中教室担当看護師	栄養及び水分管理：1名 呼吸器関連：1名 循環動態：1名 6名 3名	看護部、訪問看護 1の5	栄養及び水分管理 呼吸器関連 循環動態 創傷管理関連 アンギオ介助看護師 脳卒中教室担当看護師	3名 2名 1名 1名 2名 1名	1名 1名 0名 1名 2名 1名	・特定行為研修への受講を支援する ・今年度、部署でアンギオ介助看護師及び脳卒中教室担当看護師を育成する	4 5	呼吸器看護の認定看護師研修者（B課程）1名修了済。本社研修で、創傷管理関連の受講中が1名特定行為研修を研修中である。今後、特定行為研修を修了した看護師の院内活動について、特定行為業務管理部会で検討していく予定。 上半期で左記看護師を育成できた。
			RRT看護師育成	RRT看護師育成数	2名	ICU	RRT看護師育成数	3名	3名	・教育スケジュールに沿ってRRT看護師を育成する	5	計7名となった。次年度も継続して育成予定。
		人材確保	看護師確保	新規採用者数	44名（既卒者含む）	看護部	新規採用者	56名	34名	・病院見学会の実施（WEBでの見学会を推進） ・インターンシップの実施	3	病院見学会や就職説明会を開催して活動を進め、90名の参加があった。次年度の入職者が増加するよう、次年度も活動を進めていく。
			看護助手確保、定着推進	日勤看護助手 準夜帯看護助手	27名 17名	看護部	日勤看護助手（7対１病棟） 準夜帯看護助手（7対１病棟	27名維持 17名維持	27名 17名	・看護助手の数について、定期的に人事課と話し合い必要の人数を維持するように努める	5	退職者が出た場合、人事課と相談し補充をすすめているため、人数の維持は出来ている。

３．実　績

令和４年度　看護師長・係長会審議事項

テーマ	メンバー	目的・方法等	結果及び考察
安全な医療・看護の提供のための医療安全マニュアルの周知と実施の徹底	【看護師長】 相模・深尾 【看護係長】 辻　・朝田 原田・山下 岩佐	目的: 看護部門に掛かる「安全な医療・看護を提供する」ために、医療安全マニュアル・看護基準に則った看護実践ができるようマニュアル・看護基準を確認し、全部署共通の理解を得られるように整備し周知する。 方法： ①マニュアル・基準の整合性確認、必要時作成・修正・改訂する。 ②遵守すべき看護実践項目について全部署、共通理解できるチェック表を作成し、結果をフィードバックする。	病院機能評価受審の準備として方法①②③を実施した。 マニュアルや基準を統一し、医療安全マニュアル・看護基準に則った看護実践ができるよう、全部署共通の理解に向け各種整備し周知する活動ができた。しかし、マニュアルは作成後も評価・修正が必要であるため、必要時定期的な見直しを行っていく。
ＡＣＰ・倫理カンファレンスの推進	【看護師長】 井口･山﨑雪 冨永 【看護係長】 寺井･太田妙 板岡･平本	目的：人生の最終段階の威容・ケアが適切に実施できるようにＡＣＰや倫理カンファレンスを充実する。 方法： ①ＡＣＰに関わる介入や記録を一覧表で明文化できる。 ②倫理的課題のある症例について４分割シートを用いた多職種カンファレンスが実施できる。	①について、対象を終末期の患者とし、ＡＣＰに関わる介入時期と関連職種、その記録シートを洗い出し、一覧表を作成した。作成した記録について監査を実施し、ＡＣＰ記録について不足点などポイントを記載して各部署にフィードバックした。 ②について、４分割シートを用い、全部署２件以上の実施は出来た。 今回の活動を通して、倫理的課題を察知できる感受性、タイムリーにカンファレンスができる風土など今後スタッフの育成に繋げることができるための活動が必要である。次年度も活動を継続予定。
身体抑制削減の推進 身体抑制カンファレンスの充実	【看護師長】 石田・妹尾 中野敦 【看護係長】 和田・宮地 山崎直･山本	目的： 身体抑制カンファレンスにおいて倫理的側面から検討を行うことができる。 方法： ①身体抑制に関する家族の思いや意向を聴取し記録に残す。 ②家族および多職種の意見を反映した身体抑制カンファレンスを実施し、記録に残す。	①について、家族の思いの記載率は、初回 44.7%、継続 39.6%と低い結果であった。 ②については、病院機能評価に提示するカルテの質的監査を実施したが、結果は 10 点満点中、最高６点、最低 4.5 点という結果であり、家族の意向を踏まえたカンファレンスが十分できていないことが分かった。今後の課題として、身体抑制実施日数の短縮や看護師に対する倫理教育の継続等が挙がった。次年度も活動を継続予定。

個別性のある看護記録の充実	【看護師長】 内田･福田清 増田・川端 【看護係長】 太田加･田中 長谷川淳・徳橋 長谷川奈・清水	目的：看護記録の問題・課題を抽出し、個別性のある看護記録が充実する。 方法： ①選定されたカルテの形式監査・質的監査、サマリ監査を行い看護記録のフィードバックが出来る。 ② IC6 を見直し、個別性のある IC6 を考案・作成する。 ③発生した課題に対して、内容を検討し対策を挙げることが出来る。	①について実施した。 ②については、IC6 内のテンプレートを修正し、患者に分かりやすい言葉でかつ個別性のある計画内容を作成することが出来た。 ③については、病院機能評価にともなう記録の修正、内服薬投与の確認、看護部応援体制の見直し、DVT 予防・弾性ストッキングに関する指示などの記録の見直しを行った。次年度は電子カルテ更新予定であり、効率的な看護記録の記載を目指して、活動を継続予定。
入退院センターと外来・病棟・地域との連携の強化　第３報 ～入院前多職種カンファレンスの開催と看護の継続～	【看護師長】 勝木・濵野 【看護係長】 真柄・渡邊 寺本・臼谷 菅谷	目的： 多職種協働でセンター・外来・病棟・地域と継続した看護を実践する。 方法： ①入院前多職種カンファレンス対象者のチェックリストと運用マニュアルを作成し活用する。 ②病棟看護師が外来サマリを活用し看護計画に反映出来ているかどうかを 2019 年に実施した同じアンケートを使用して前後の比較・分析を行う。	①について、チェックリストと運用マニュアルを作成し、11 月より全部署で運用を開始した。実際、多職種カンファレンスで活用したが、4 件と目標の 10 件には届かなかった。今後も活用を継続する。 ②について、6 月と 12 月にアンケートを実施し、2019 年と比較した。 「外来サマリに目を通している」は 前 89%､6 月 77.7%､12 月 77.9% であり「外来サマリを看護計画に活用」は、前 59%､6 月 46.5%、12 月 53.0% であった。外来サマリの活用について今後病棟看護師に働きかける必要がある。次年度も活動を継続予定。
全看護職員が感染防止対策を遵守するための取り組み	【看護師長】 大塚・高島 寺島 【看護係長】 大澤・皿澤 田本・戸田 渡邉か	目的：感染防止対策を遵守し、院内感染を予防できる。 方法： ①感染経路別予防策を理解し実践できているかチェック表を用いて調査する。 ②手指衛生が遵守できているか、ICT リンクナースを通して調査する。 ③ PPE を正しく着脱できているか調査する。 ④感染性廃棄容器を適性利用できているか調査する。 ⑤リネン・寝具類取り扱いができているか調査する。	①②③に関しては、感染管理室の耐性菌週ラウンドの結果をもとに遵守できていない項目を抽出し教育ツールを作成、係長会・リンクナース会で周知し、各部署への教育を実施した。①の理解度調査では、改善率が最終 69.2％となった。③については遵守率が 82.6 ⇒ 91.6％になった。 ④⑤については、院内周知のための掲示物を作成して掲示し、作成したチェック表に沿ってラウンドを実施し、各部署にフィードバックした。④の遵守率 73.8 ⇒ 89.6%、⑤ 98.2 ⇒ 97.5%となった。全体を通して、目標値の 100％には届かなかったが、ラウンド結果を直接フィードバックすることで、改善活動が活発に行われたと考える。

ＤＰＮＳの形式監査と成果の評価を継続するための体制を整備	【看護師長】西郡・常見 【看護師長】山岡・荒木 福田清・松本 豊島	目的：ＤＰＮＳの形式監査、成果の評価が継続できるように評価体制を整備する。 方法： ①ＤＰＮＳ基準の「Ⅴ．日々の役割と業務」「Ⅵ．評価体制」と評価表の見直しを行う。 ②形式監査を実施し、その結果を各部署にフィードバックし各部署で課題を抽出し改善に繋げる。	①について、予定通り見直しを行った。さらに、今回「ＤＰＮＳ形式監査に関するマニュアル」を作成し、係長業務として取り組む内容とした。 ②について、評価表を用いて係長が形式監査を実施した。各カテゴリーの中で、「デイリーダーとチームリーダーが互いに相談してプライマリー看護師を決定する」という項目が36%、ペア看護師の「患者の状態に合わせて、必要時計画及び看護指示の修正を行い」が27%とそれぞれ低い結果であった。 役割別項目については、チームリーダーが30.6%と低い結果となった。今後、チームリーダーの育成に目を向ける必要がある。次年度は、ＤＰＮＳの評価と問題点を明確にし、ＤＰＮＳを基盤とした新しい看護方式の検討を行う予定。
次世代看護管理者育成への取り組み ～コンピテンシー・モデルを用いた次世代看護係長・看護師長評価表の作成～	【看護師長】尾崎・中野裕 広田	目的：次世代看護管理者（看護係長・看護師長）を計画的に育成する。 方法： ①次世代看護管理者の「コンピテンシー・モデル・看護係長候補レベル・看護師長候補レベル」評価表を作成する。 ②次世代看護管理者の「コンピテンシー・モデル・看護係長候補レベル・看護師長候補レベル」を用いて看護係長・看護師長として望ましいとされる特性について評価する。 ③看護係長候補者に対して、実際に評価する。	①②③について、今回、主任候補レベル評価表をもとに「コンピテンシー・モデル：看護係長候補レベル・看護師長候補レベル」を作成し、実際の候補者を評価した。今後の課題として、赤十字施設の看護師キャリア開発ラダーとコンピテンシー・モデルとの相互の関係性を検討し、看護管理者らが共有した上で、次世代看護管理者の育成に繋げていくことが必要である。次年度も活動を継続予定。
リフレクション定着とファシリテータースキル向上のための持続した取り組み	【看護係長】米村・齋藤 中山・土橋 織田	目的：各部署でリフレクションが定着し、同僚支援と上司支援を継続することでリフレクションの質が向上する。 方法： ①係長は部署でのリフレクションでファシリテーターを務め、リフレクションの効果の確認ができる。 ②ファシリテータースキル向上のため係長会で同僚支援を継続できる。 ③リフレクション後に上司支援が受けられる。	①について、係長の部署でのリフレクションでの実施率は平均80%であった。100%実施できたのは18部署中4部署であった。 ②について、係長会での演習の評価を自己評価したところ、目標値の3.8以上であった。 ③について、上司支援を受けた者は88%であった。全体的にリフレクションの定着しつつあると考える。赤十字施設の看護管理者として、省察的実践者として活動を継続することが必要である。今後は、係長中心だけでなく、実践者ラダーⅢ以上の看護師にもファシリテーションスキルを身に着けることが出来るよう、次年度も活動を継続予定。

令和４年度　専門・認定看護師活動実績

【専門看護師】

災害看護：朝田　和枝

実践 相談 調整 倫理調整	防災リンクナース委員会による火災を想定した机上訓練の実施と推進 災害時対応能力育成研修会（6 回 / 年）開催（災害ワーキンググループ教育班） 災害救護支援室コーディネーター班での活動、災害対応訓練(10月22日土曜日)実施 福井県看護協会　災害看護委員会活動（6 期目） 2022 年 9 月（14 日間）防災の日「災害時の避難所生活（TKB48）を考えよう！！」福井赤十字病院エントランスホールにてパネル展示　看護部　専門認定看護師会主催
教育	医師会看護専門学校　講義　1 件、福井大学医学部看護学科　講義　1 件、福井県内研修会　3 件、県外研修会　2 件、
研究	日本災害看護学会第 24 回年次大会（示説）発表「A 町個別避難計画作成の関りから見えてきた看護」、他共同演者 2 件

がん看護：冨永　知恵子

相談･調整等	がん患者指導管理料イ・ロ算定に係る IC 同席、面談：0 件 調整・倫理調整：5 件　　相談・コンサルテーション：21 件
教育･研究等	院内レベル教育講師（新人） 福井県立大学看護学科 非常勤講師 福井大学大学院医学系研究科 非常勤講師 【学会発表】 ・第 27 回日本緩和医療学会学術集会（発表）（07.01 ～ 02 神戸国際会議場） ・第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（共同研究） （11.11 ～ 12 幕張メッセ）

【認定看護師】

救急看護：朝田和枝・竹島静

実践	院内ﾄﾘｱｰｼﾞ件数　6,605 件（加算取得率　113.4％：コロナ患者含む）、ドクターヘリ受け入れ 15 件、防災ヘリ受入れ 3 件
指導	基礎教育Ⅰ・Ⅱ（救急看護Ⅰ 44 人・Ⅱ 31 人），院内認定看護師（院内ﾄﾘｱｰｼﾞﾅｰｽ）養成コース（6 人）開催， AHA　BLS コース（7 人 ）開催 , ICLS コースインストラクターとして参加（年 2 回開催）
相談	相談件数 2 件，救急搬送受け入れ困難事例（310 件）検討、救急外来で起こった問題事例の検討、院内調整困難事例の検討、帰宅患者の救急外来滞在時間の検討、ドクタークロス事例検証（52 件）、ドクターヘリ受け入れ事例検証（15 件））、防災ヘリ受入れ事例検証（3 件）

認知症看護：山本　隆

実践	もの忘れサポート看護外来件数：延 30 件、認知症ケアチーム介入患者総数：305 件、院内デイケア参加者総数：延 13 件、病棟勉強会：1 件
指導	院内実践リーダー看護師「認知症看護コース」育成 認知症ケアリンクナース委員会のミニ勉強会 5 件
相談	電話相談 20 件
院外活動	福井県委託認知症対応力向上研修会講師：2 件 第 2 回多職種連携カンファレンス～チームでの不眠症について考える～ in 福井 福井県看護連盟（急性期病院におけるせん妄ケア講義：1 件） 福井県看護協会（認知症リーダー研修講師） 福井県認知症看護認定看護師会　世話人
研究発表	第 58 回日本赤十字社医学総会　当院におけるせん妄発症の実態調査発表

認知症看護：戸田　由恵

実践	病棟勉強会：2 件、認知症ケアに関する研修会：1 件 特定行為実践：1 件
指導	院内実践リーダー看護師「認知症看護コース」育成　（講義Ⅰ回） 認知症ケアリンクナース委員会のミニ勉強会 4 件
相談	特定行為関連相談（抗精神病薬について、せん妄ハイリスク薬について、特定行為可能かどうか）：66 件（特定行為実施 1 件）

糖尿病看護：清水　雅代

実践	糖尿病療養支援外来（療養指導 55 件） 糖尿病リンクナース委員会開催（毎月第 2 月曜日） 糖尿病サポート部会チーム会活動 1 回 /2 か月（偶数月第 2 火曜日） 福井糖尿病療養指導士・日本糖尿病療養指導士資格更新の支援活動
指導	院内レベル教育 2 回（レベルⅠ、Ⅱ）講義担当者交代のためのサポート
相談	治療や生活調整等に関する相談 100 件
院外活動	福井糖尿病療養指導研究会世話人、福井県糖尿病懇話会世話人、福井県糖尿病協会理事

がん性疼痛看護：寺井　智子

実践	麻酔科ペインクリニック・緩和ケア外来 診療補助業務 看護外来（がんサポート外来）がん相談支援業務
指導	院内研修講師 1 件
相談	86 件
院外活動	福井県がん診療連携協議会研修部会幹事 福井県緩和医療研究会幹事

訪問看護：山﨑　雪代

実践	がん 34 例（うちがん末期 28 例）、難病 14 例、呼吸器疾患 14 例、心疾患 19 例、認知症 8 例等、計 126 例 / 年自部署で担当し、訪問やカンファレンス参加。
指導	新規 ST・看護大学等の実習指導。緩和ケア・入退院支援リンクナース・認知症院内認定看護師指導。入退院カンファレンス等での退院支援の指導 48 件
相談	事業運営（加算等制度について）、コロナ感染対策、訪問看護ケア方法、多職種連携、退院支援指導に関する相談 13 件（うち院外からの相談 7 件）、その他 CM からのケアマネジメントに関する相談、MSW からの退院調整に関する相談
院外活動	福井県緩和医療研究会座長、福井市在宅医療介護検討協議会委員、院外講師等（福井大学看護学科在宅看護論、認知症看護認定看護師教育課程、看護協会認定看護師派遣事業、看護協会チャレンジ雇用フォローアップ研修等）

慢性呼吸器疾患看護：秋山　奈津江

実践	看護外来（水曜日）:45 名　禁煙外来（月・水曜日）7 名（カウンセリング 28 件） 退院後訪問 :2 件 呼吸ケアサポートチームラウンド（毎水曜日）
指導	院内外講師　7 件 （人工呼吸器・NPPV 管理、吸引、たばこの害についてなど） 慢性呼吸器疾患看護認定看護師研修生実習指導
相談	83、件（酸素療法・在宅酸素療法・ネーザルハイフロー・NPPV・人工呼吸器管理・吸引・気管切開管理、体位ドレナージ・カフ圧管理・ウイニングなど
院外活動	呼吸器疾患看護認定看護師教育課程教員会委員、武生看護専門学校 非常勤講師 福井県呼吸ケア研究会役員 福井県呼吸ケアネットワーク（呼吸器分野に関する研修の企画・運営） 福井県在宅酸素療法患者会（運営協力）
研究発表	呼吸ケア・リハビリテーション学会（共同演者）

皮膚・排泄ケア：上口 美恵、水島 典子

実践	褥瘡ハイリスク患者ケア加算 1734 件 褥瘡ラウンド（毎週）、褥瘡予防ラウンド（毎週）、排尿チームラウンド件 328 件、予防フットケア外来　480 件、創傷・ストーマ外来 250 件、 病棟：褥瘡 747 件、ストーマ 118 件、創傷 300 件
指導	院内講師 6 件
相談	褥瘡 75 件、ストーマ 95 件、創傷 85 件、がんカウンセリング 420 件
院外活動	講師 7 件
研究発表	なし

乳がん看護：吉川　朋子

実践	がん相談 332 件、がんサポート外来 565 件、乳がん看護介入 87 件、リンパ浮腫外来 122 件、マンマカンファレンス（火曜日）、がん診療センターカンファレンス（月 1 回）、HBOC カンファレンス 4 件、がんゲノム外来同席 47 件
指導	院内講師 4 件
相談	33 件（副作用対策、リンパ浮腫ケア、患者対応等）
院外活動	福井県がん相談員ワーキング委員
研究発表	なし

緩和ケア：田坂　和代

実践	がんサポート外来 42 件、外来化学療法室業務
指導	院内研修講師 2 件
相談	エンゼルケア、治療方針の相談、認知症患者の疼痛評価
院外活動	ELNEC-J 看護師教育プログラム指導者
研究発表	なし

がん化学療法看護：広田　法子　大塚　祥恵　冨永　知恵子

実践	がん患者指導管理料イ・ロ算定に係る IC 同席、面談　22 件 がん診療センター実務・応援（外来化学療法室、ペイン外来、緩和ケアチーム）
指導	がん診療センターがん看護セミナー勉強会、病棟勉強会、
相談	院内相談 66 件（がん看護 CNS での介入件数 再掲）
院外活動	福井県がん化学療法認定看護師会活動、福井県看護協会出前講座、ELNEC-J 看護師教育プログラムファシリテーター、福井県緩和ケアチーム検討会、福井県がん情報・連携部会委員
研究発表	なし

手術看護：常見　いずみ　岩佐　友美

実践	術前診察補助、術前訪問、
指導	病棟勉強会（腹腔鏡手術看護、術中体位確保方法と留意点、ダビンチ手術看護） 術中体位、褥瘡予防に関する相談
院外活動	第 36 回　日本手術看護学会年次大会　参加 日本手術看護学会　福井地区ブロック地区役員会 WEB 参加 日本手術看護学会　福井地区ブロック認定看護師会 WEB 参加 日本手術看護学会　福井地区ブロック研修会参加、ファシリテーター

がん放射線療法看護：太田　妙子

実践	放射線治療室専従看護師の補助、放射線治療カンファレンス（水）
指導	院内研修講師２件
相談	なし
院外活動	なし
研究発表	なし

感染管理：真鍋　照美、田本　聡子

実践	新型コロナウイルス対応、その他感染管理業務
指導	全職員対象感染対策研修会、看護部レベル教育、委託業者対象研修、 エキスパート i.v ナース養成研修 院内実践リーダー看護師 感染対策実践看護師 11 名フォローアップ研修 石川県立看護大学感染管理認定看護師教育過程実習生２名受入れ　等
相談	新型コロナウイルス関連多数
院外活動	認定看護師等派遣事業 福井県看護協会出前講座（施設ラウンド）：9/12(月）今立中央病院 介護医療院 新型コロナウイルス関連会議、意見交換会等出席 福井感染制御ネットワーク会議 石川県立看護大学感染管理認定看護師教育過程入試委員

集中ケア：原田　幸枝・小川　佳代

実践	ICU 早期リハビリ算定数:1286 件、SCU 早期リハビリ算定数:390 件、RRS 起動件数:46 件、RST チームラウンド件数：38 件、RST 看護師ラウンド件数：182 件
指導	院内レベル教育フィジカルアセスメント講師、AHA BLS・ACLS インストラクター、ICLS インストラクター、院内各病棟での急変時シミュレーション研修アドバイザー
相談	人工呼吸器装着中及び気管切開中の呼吸管理、酸素吸入管理、呼吸管理全般、全身状態が不安定な患者の対応に対する相談
院外活動	福井県看護協会出前講座：２件、福井県社会福祉協議会主催研修１件、福井県看護協会救急看護委員会、雑誌原稿投稿２件（病院安全教育・日総研レスピカ） 日本集中治療医学会学術集会 WEB 参加、日本クリティカルケア看護学会 WEB 参加 日本看護協会特定行為研修（栄養水分・呼吸・循環）修了
研究発表	なし

摂食・嚥下障害看護：板岡　利恵

実践	嚥下カンファレンス毎週水曜日実施 摂食・嚥下看護外来 37 件 がんサポート外来 36 件
指導	がん診療センター勉強会　レベル研修Ⅰ・Ⅱ -2・Ⅱ -3 認知症院内認定講師　病棟勉強会
相談	口腔ケア相談
院外活動	専門・認定看護師出前講座　2 件
研究発表	なし

慢性心不全看護：田中　めぐみ

実践	心不全看護外来 135 件 / 年
指導	院内研修講師 2 件
相談	他病棟での ASV 装着患者の看護についての相談　1 件
院外活動	福井県心臓リハビリテーション研究会世話人 福井県心不全治療研究会世話人 福井冠疾患治療を考える会　連携パス改訂 WG メンバー 武生看護専門学校　非常勤講師
研究発表	なし

脳卒中リハビリテーション看護：井口　秀人

実践	排尿ケアチームラウンド 328 件
指導	院内研修講師 2 件
相談	なし
院外活動	福井県脳卒中連携協議会実務担当者
研究発表	なし

クリティカルケア：菅原　愛子

実践	RRS 起動件数：46 件（R4.5 月から RRT 配属 ）
指導	院内レベル教育講師：酸素療法、ICLS インストラクター
相談	人工呼吸器装着中及び気管切開中の呼吸管理、酸素吸入管理、呼吸管理全般、全身状態が不安定な患者の対応に対する相談
院外活動	第 18 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 WEB 参加 第 50 回日本集中治療医学会学術集会参加
研究発表	第 57 回福井赤十字病院看護研究学会

令和４年度　長期研修受講者

研修名	受講者
福井県看護協会ファーストレベル研修	清水洋輔　長谷川奈津子　福田清子
福井県看護協会セカンドレベル研修	高島恵　常見いずみ

令和４年度　専門看護師数

	分野	人数		分野	人数	
①	災害看護	1	②	がん看護	1	２分野　計２名

令和４年度　認定看護師数

	分　野	人数		分　野	人数		分　野	人数
①	感染管理	2	⑧	救急看護	2	⑮	嚥下・摂食障害	1
②	皮膚・排泄ケア	2	⑨	糖尿病看護	1	⑯	認知症看護	2
③	がん化学療法	3	⑩	透析療法看護	1	⑰	訪問看護	1
④	がん性疼痛	1	⑪	慢性心不全看護	1	⑱	がん放射線療法看護	1
⑤	乳がん看護	1	⑫	慢性呼吸器疾患看護	1	18 分野　計 26 名		
⑥	緩和ケア	1	⑬	手術看護	2	認定看護管理者４名		
⑦	重症集中ケア	2	⑭	脳卒中リハビリ	1			

2022 年度　看護部教育委員会主催　継続教育　予定一覧

対象：Ⅰ＝新人看護師必修　Ⅱ-２＝卒後２年目必修　Ⅲ-３＝卒後３年目必修

Ａ・Ｂ＝２グループに分けて実施

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	時間	講師	出席数	院外
4	6	水	Ⅰ	看護倫理Ⅰ（倫理綱領）	12:30	13:30	1.0	西川順子看護副部長	46	
	8	金	Ⅰ	入院時の看護 配膳車の操作法（10:00 ～ 10：20）	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	43	
				医療安全Ⅰ①医療安全の基本	13:00	14:30	1.5	相模朋恵師長	41	4
				血糖測定とインスリン注射	14:40	17:00	2.5	戸田みゆ希 糖尿病療養指導士	41	
	11	月	Ⅰ	看護過程Ⅰ	8:30	17:00	7.5	太田加奈子係長	43	
	15	金	ⅠＡ	導尿・膀胱留置カテーテル法	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	43	
			ⅠＢ	導尿・膀胱留置カテーテル法	13:30	17:00	3.5	内田一美師長	43	
	21	木	ⅠＡ	採血・皮下・筋肉・点滴注射	8:30	17:00	7.5	内田一美師長	42	
	22	金	ⅠＢ	採血・皮下・筋肉・点滴注射	8:30	17:00	7.5	内田一美師長		
	26	火	Ⅰ	重症度、医療・看護必要度	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	43	
				褥瘡予防	13:00	14:10	1.0	水島典子認定看護師	43	4
			ⅠＡ	移乗・移動の介助	14:25	15:35	1.0	水口理学療法士 樋田晶作業療法士	42	
			ⅠＢ	移乗・移動の介助	15:50	17:00	1.0	水口理学療法士 樋田晶作業療法士		

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	時間	講師	出席数	院外
4	26	火	ＩＡ	嚥下障害のある人への食事介助	14:25	15:35	1.0	板岡利恵認定看護師	42	4
			ＩＢ	嚥下障害のある人への食事介助	15:50	17:00	1.0	板岡利恵認定看護師		
	28	木	ＩＢ	技術試験:採血・皮下・筋肉・点滴	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	42	
			ＩＡ	技術試験:採血・皮下・筋肉・点滴	13:30	17:00	3.5	内田一美師長		
5	13	金	Ⅰ	輸血と看護	8:30	9:30	1.0	野村有里 臨床輸血看護師	40	
				与薬と看護	9:40	10:40	1.0	中野裕美師長	40	4
				吸引	10:50	12:10	1.5	秋山奈津江 認定看護師	40	4
				エンゼルケア	13:00	14:30	1.5	田坂和代認定看護師	40	
				グローバルヘルスⅠ	14:40	15:50	1.0	内田一美師長	48	
	24	火	Ⅰ	輸液ポンプ・シリンジポンプ	13:00	17:00	4.0	テルモ・ 臨床工学技術課他	43	
	27	金	選択	救護員フォローアップ研修①	17:15	18:45	1.5	内田一美師長	17	
6	4	土	Ⅱ－３	災害看護論Ⅱ	8:30	17:00	7.5	福井県支部／ 松田ゆう子師長他	23	
	9	木	ＩＡ	救急看護Ⅰ（一次救命処置）	8:30	12:00	3.5	竹島静認定看護師	43	
			ＩＢ	救急看護Ⅰ（一次救命処置）	13:30	17:00	3.5	竹島静認定看護師		
	14	火	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修①	16:00	17:00	1.0	内田一美師長	26	
	16	木	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修①	16:00	17:00	1.0	内田一美師長	14	
	17	金	Ⅰ	パスシステム	14:30	16:20	2.0	戸田みゆ希看護係長	43	
	22	水	Ⅰ	標準予防策	13:00	14:55	2.0	田本聡子認定看護師	43	4
				抗がん剤の安全な取扱い	15:05	17:00	2.0	冨永知恵子 認定看護師	43	2
	30	木	Ⅰ	薬剤使用上の注意点	13:30	14:30	1.0	渋谷貞一薬剤師	41	
				心電図モニターアラーム対応	15:30	15:50	0.5	田中めぐみ 認定看護師	42	
7	5	火	Ⅱ－３	感染管理Ⅱ：職業感染予防	8:30	10:20	2.0	田本聡子認定看護師	19	
				プリセプター入門・救急看護研修について	10:30	12:20	2.0	内田一美師長	19	
				フィジカルアセスメント（基礎編）	13:10	17:00	4.0	小川佳代 認定看護師	19	
	8	金	Ⅰ	修了書授与式・３ヶ月振り返り研修	11:00	17:00	4.0	看護部・ 教育研修推進室	43	
	15	金	選択	静脈注射①	17:15	18:15	1.0	各科目担当講師	25	
	21	木	Ⅱ-2Ａ	看護過程Ⅱ-2	8:30	12:00	3.5	真柄昌代係長	32	
			Ⅱ-2Ｂ	看護過程Ⅱ-2	13:30	17:00	3.5	真柄昌代係長		
	22	金	選択	救護員フォローアップ研修②	17:15	18:45	1.5	川端和代師長	16	
	26	火	ＩＡ	留置針の挿入留置／アナフィラキシー対応	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	42	
			ＩＢ	留置針の挿入留置／アナフィラキシー対応	13:30	17:00	3.5	内田一美師長		
	29	金	選択	看護のための薬の知識①血糖降下薬	17:15	18:15	1.0	笠川益夫薬剤師	25	

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	時間	講師	出席数	院外
8	2	火	ＩＡ	試験：留置針	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	41	
				メンタルヘルス	13:30	17:00	3.5	寺井公認心理師		
			ＩＢ	メンタルヘルス	8:30	12:00	3.5	寺井公認心理師		
				試験：留置針	13:30	17:00	3.5	内田一美師長		
	5	金	管理者	救護活動時の看護管理	17:00	19:00	2.0	川端和代師長他	52	
	18	木	Ⅱ-2Ａ	看護倫理Ⅱ	8:30	10:30	2.0	内田一美師長	13	
				事例検討	10:40	12:00	1.5	内田一美師長	13	
				救急看護Ⅱ	13:30	17:00	3.5	竹島静認定看護師	13	
			Ⅱ-2Ｂ	救急看護Ⅱ	8:30	12:00	3.5	竹島静認定看護師	13	
				看護倫理Ⅱ	13:30	15:30	2.0	内田一美師長	13	
				事例検討	15:40	17:00	1.5	内田一美師長	13	
	19	金	選択	静脈注射②	17:15	18:15	1.0	各科目担当講師	20	
	23	火	選択	グローバルヘルスⅢ	17:15	18:15	1.0	勝木美奈子師長	17	
	26	金	Ⅰ	赤十字概論	8:30	17:00	7.5	福井県支部 内田一美師長	52	
	30	火	Ⅱ－３	輸液ポンプ・シリンジポンプ	13:00	17:00	4.0	テルモ・ 臨床工学技術課他	17	
9	9	金	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修②	16:00	17:00	1.0	内田一美師長	26	
	12	月	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修②	16:00	17:00	1.0	内田一美師長	14	
	13	火	Ⅱ－３	看護過程Ⅱ -3	8:30	12:20	3.5	内田一美師長	18	
				リーダーの役割	13:10	17:00	4.0	尾﨑こはる師長	16	
	16	金	選択	救護員フォローアップ研修③	17:15	18:45	1.5	勝木美奈子師長	12	
	21	水	選択	フィジカルアセスメント（応用編：呼吸）	17:15	18:15	1.5	秋山奈津江 認定看護師	19	
	29	木	選択	静脈注射③	17:15	18:45	1.5	各科目担当講師	19	
10	4	火	Ⅰ	看護師としての私～辛さを乗り越える～	15:30	17:00	1.5	内田一美師長	42	
	7	金	Ⅱ－２	感染管理Ⅰ：病原体と感染経路別対策	8:30	10:10	1.5	田本聡子認定看護師	31	
				褥瘡ケア	10:20	12:40	2.0	水島典子認定看護師	31	
				医療安全Ⅱヒューマンエラー	13:40	17:00	3.5	相模朋恵師長	31	
	14	金	選択	看護過程Ⅲ	8:30	12:00	3.5	内田一美師長	15	
	21	金	選択	フィジカルアセスメント（応用編：循環）	17:15	18:15	1.0	田中めぐみ 認定看護師	12	
11	8	火	Ⅱ－２	災害看護論Ⅰ	8:30	17:00	7.5	福井県支部 川端和代師長	40	
	18	金	ＩＡ	医療安全Ⅰ②多重課題への対応	8:30	12:00	3.5	内田一美師長 相模朋恵師長	41	
			ＩＢ	医療安全Ⅰ②多重課題への対応	13:30	17:00	3.5	内田一美師長 相模朋恵師長		
	22	火	選択	看護のための薬の知識②抗血栓薬	17:15	18:30	1.5	大森丈薬剤師	20	
	25	金	選択	救護員フォローアップ研修④	17:15	18:45	1.5	松田ゆう子師長	12	

月	日	曜日	対象	研修名	開始	終了	時間	講師	出席数	院外
12	9	金	Ⅰ	認知症の人とのコミュニケーション	13:30	14:20	1.0	山本隆認定看護師	39	3
				チームメンバーの役割	14:30	17:00	2.5	真柄昌代係長	39	3
	15	木	選択	フィジカルアセスメント（応用編：脳神経系）	17:15	18:15	1.0	井口秀人 認定看護師	15	
	16	金	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修③	16:00	17:00	1.0	内田一美師長	26	
	19	月	ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ	プリセプター研修③	16:00	17:00	1.0	内田一美師長	14	
1	5	木	選択	院内看護学会発表の進め方	17:15	18:30	1.0	中野裕美師長 渡邊加余子係長	14	
	14	土	全員	院内看護研究学会	8:30	12:00	3.5	教育委員会	95	
	20	金	Ⅰ	キャリアを考える①（ラダーⅠ）	15:30	17:00	1.5	内田一美師長	41	
	21	土	Ⅰ	1年間の振り返り（全職種新採用者）	17:15	18:00	0.5	内田一美師長	55	
	27	金	選択	救護員フォローアップ研修⑤	17:15	18:45	1.5	寺島由美師長	19	
2	21	火	Ⅱ－2	キャリアを考える②	13:00	13:50	1.0	内田一美師長	28	
				1年間の振り返り（全職種新採用者）	17:15	18:00	1.0	内田一美師長	43	
				糖尿病看護	14:00	15:50	2.0	山崎直美 糖尿病療養指導士	28	
				嚥下スクリーニング	16:00	17:00	1.0	板岡利恵 認定看護師	28	
	24	金	選択	救護員フォローアップ研修⑥	17:15	18:45	1.5	川端和代師長	19	
3	9	木	Ⅱ－3	キャリアを考える③（ラダーⅡ）	13:30	14:30	1.0	内田一美師長	16	
				1年間の振り返り（全職種新採用者）	17:15	18:00	1.0	内田一美師長	16	
				グローバルヘルスⅡ	14:50	15:50	1.0	勝木美奈子師長	19	
				食事場面での関わり	16:00	17:00	1.0	板岡利恵 認定看護師	16	

令和４年度　赤十字講習講師実績

【救急法講習】

月　日	依頼先（会場）	講　　師			
6月15日	社南小学校	山田　智美			
6月18日	福井赤十字病院	秋山奈津江	米村　里美		
6月19日	大島町内公民館	嶋田　佳恵			
7月 2日	福井赤十字病院	山田　智美	増田　佳絵	米村　里美	
7月 3日	福井赤十字病院	山田　智美	宮地　牧子		
7月24日	福井県支部	嶋田　佳恵			
10月29日	のうねの郷コミニティーセンター	秋山奈津江			
11月11日	東安居小学校	藤田　由美	嶋田　佳恵		
11月19日	福井赤十字病院	原田　幸枝	土橋　芳美	横山　和恵	
11月27日	福井県支部	嶋田　佳恵			
12月17日	福井赤十字病院	中山　幸代	内田　一美	土橋　芳美	増田　佳絵
12月18日	福井赤十字病院	中山　幸代	内田　一美	西川　順子	増田　佳絵
2月19日	上志比文化会館サンサンホール	朝田　和枝			
3月18日	福井赤十字病院	朝田　和枝	野坂　仁美		
3月25日	福井赤十字病院	宮地　牧子	横山　和恵	朝田　和枝	
3月26日	福井赤十字病院	宮地　牧子	井上　和子	内田　一美	

【健康生活支援講習】

月　日	依頼先（会場）	講　　師	
7月22日	武生南公民館	山田　智美	
11月18日	啓新高校	山田　智美	
12月 2日	立待公民館	嶋田　佳恵	
1月13日	啓新高校	福田　清子	
3月19日	ふれあいセンター多目的ホール	山田　智美	

【幼児安全講習】

月　日	依頼先（会場）	講　　師	
8月18日	ハーツきっず学園	嶋田　佳恵	
9月 7日	子育て支援室　たんぽぽ広場	嶋田　佳恵	
9月16日	啓新高校	宮地　牧子	土橋　芳美
9月28日	県立鯖江青年の家	嶋田　佳恵	
9月30日	啓新高校	嶋田　佳恵	
10月7日	啓新高校	藤田　由美	嶋田　佳恵

1．総　　務　　課

1．スタッフ

課長	川瀬　公一郎
係長	近藤　ひろみ
主事	２名
嘱託業務員	１名
パート事務作業補助	１名
パート警備員	１名

2．目　標

院内各部門と調整し、まとめる力を高める。

3．業　務

１）公印に関すること
２）文書の管理に関すること
３）規則、規程等の制定および改廃に関すること
４）宿直および日直に関すること
５）霊安室の管理および屍体の取り扱いに関すること
６）病院管理会議に関すること
７）部長会議に関すること
８）車両の運行に関すること
９）儀式及び弔慰に関すること
１０）病院の危機管理に関すること
１１）情報の総括的管理に関すること
１２）その他、他課に属しないこと

4．実　績

【会　議】	代表部長会議	１１回
	定例医局会	１１回
【委員会】	救急医療検討委員会	１回
	救急作業部会	１１回
	集中治療室運営委員会	１回
	集中治療室作業部会	１１回
	中央手術室・滅菌室運営委員会	２回
	中央手術室・滅菌室作業部会	１０回
	倫理委員会	２回
	倫理コンサルテーションチーム	３６回
	臓器移植委員会	１回

【行　事】２０２２年８月　剖検者追悼式
　　２０２３年１月　仕事始め式

【施設基準】（令和５年３月３１日現在）（医科・歯科含む）
　　基本診療科　　４５件
　　特掲診療科　　１５８件
【施設見学】　受入件数　　１件
【選挙不在者投票】　　４件

2．人　　事　　課

1．スタッフ

課長　　川島　勇一

係長　　人事・給与係長　上野　陽子　　労務係長　山﨑　久美子　　教育研修係長　森岡　恵代

主事　　5名

2．目　標

職員力を高める人事・労務管理を行う

3．業　務

1）臨床研修に関すること

2）職員の教育、研修に関すること

3）職員の労務管理および福利厚生に関すること

4）職員の人事および給与に関すること

4．実　績

1）学会出張取扱い件数

職種別＼年度	令和４年度
医師	88
薬剤師	0
臨床検査技師	7
診療放射線技師	3
理学療法士	2
作業療法士	1
言語聴覚士	0
心理判定員	1
管理栄養士	11
視能訓練士	1
臨床工学技師	2
歯科衛生士	0
看護師・助産師	47
事務	2
社会福祉士	3
業務員	0
計	168

2）研修出張取扱い件数

職種別＼年度	令和４年度
医師	18
薬剤師	5
臨床検査技師	8
診療放射線技師	63
理学療法士	6
作業療法士	4
言語聴覚士	4
心理判定員	1
管理栄養士	3
視能訓練士	1
臨床工学技師	11
歯科衛生士	0
看護師・助産師	35
事務	18
社会福祉士	5
業務員	4
計	186

令和４年度上半期は、コロナ禍の影響により中止・延期となり取扱い件数が減少したが、下半期には件数が徐々に増加した。

３）臨床研修およびその他教育研修について　　教育研修推進室を参照

４）職員会議の開催

開催日　：　令和４年 12 月５日（月）

議　長　：　副院長　髙野　誠一郎

出席者　：　代議員 19 名、職員 27 名、委任状提出 800 名　合計 846 名

（1/2 以上の出席となり、職員会議要綱第５条１項の定めに従い会議成立）

議　題　：　コロナ患者対応時の危険手当について

５）第 14 回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止

６）第 22 回全国赤十字病（産）院スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止

3．病 院 経 営 課

1．スタッフ

課　　長	木戸　俊介
経理係長	吉田　喜彦
出納係長（兼）	木戸　俊介
企画・広報係長（兼）	島野　佳永
主　　事	4名
企 画 幹	1名
嘱託主事	1名

2．目　標

病院経営課・地域医療構想に向けた健全経営、的確な意思決定の支援を行う

3．業　務

(1) 財務管理に関すること
(2) 収入及び支出に関すること
(3) 債権管理に関すること
(4) 現金及び有価証券の出納及び保管に関すること
(5) 出納用公印の管理に関すること
(6) 租税に関すること
(7) 病院運営の総合企画及び調整に関すること
(8) 病院の広報に関すること
(9) 経営分析・改善計画の立案及びその実施に関すること
(10) 病院の各種統計の収集、作成及び照会事項の回答報告に関すること

4．実　績

(1) メディア露出状況

テレビ出演（11件）

日　　付	内　　容	メディア名
4月 5日	健康いちばん「RAPID」	ＦＢＣテレビ
5月 2日	健康のタネ 「様々な病気に潜む嗅覚障害」	福井テレビ
6月 1日	Life　必要とされる医療通訳見えてきた課題とは	福井テレビ
6月13日	健康のタネ 「様々な病気に潜む嗅覚障害」	福井テレビ
7月 5日	健康いちばん「子供の熱中症対策」	ＦＢＣテレビ
8月 9日	健康いちばん「被災地の健康管理」	ＦＢＣテレビ
9月19日	健康のタネ 「ダニアレルギー」	福井テレビ
11月28日	健康のタネ 「しもやけ」	福井テレビ
12月 2日	大麻の検挙増加と、医療用大麻の必要性について	ＦＢＣテレビ
1月24日	健康いちばん「ノロウイルス対策・手洗いの指導」	ＦＢＣテレビ
3月23日	健康のタネ 「口内炎について」	福井テレビ

新聞・広報誌掲載（35 件）

日　　付	内　　容	メディア名
4月14日	健康診断の読み方　腹囲測定	日刊県民福井
5月12日	健康診断の読み方　血圧㊤	日刊県民福井
5月13日	日々の看護思いを共有　福井赤十字病院同僚前に９人スピーチ	福井新聞
6月 9日	健康診断の読み方　血圧㊦	日刊県民福井
6月23日	「クローズアップＥＮＴ」耳鼻咽喉科の紹介	美蕾
6月28日	医学的監修「腸もみおなかスッキリ」	福井新聞
7月	月経前症候群について	はっぴーママふくい
7月 7日	健康診断の読み方　「貧血」	日刊県民福井
7月22日	嗅覚障害について	m 3. com
7月29日	嗅覚障害について	m 3. com
7月28日	ＲＲＳについて	福井新聞
8月 4日	ふくいのドクター相談「パソコン業務で手指の第一関節が変形」	福井新聞
8月 4日	健康診断の読み方　「血液の異常」	日刊県民福井
9月 1日	健康診断の読み方　糖尿病	日刊県民福井
9月29日	認知症予防　家族の理解を	福井新聞
9月29日	健康診断の読み方　「脂質異常症」	日刊県民福井
10月 1日	福井赤十字病院　オンライン市民公開講座「がん社会をいきるために」載録	福井新聞
10月23日	福井赤十字病院でコロナ禍災害訓練	福井新聞
10月25日	Interviews with Outstanding Authors(2022)	AME SURGICAL JOURNAL
10月27日	健康診断の読み方　「高尿酸血症」	日刊県民福井
11月24日	健康診断の読み方　「尿検査」	日刊県民福井
12月13日	臨床工学技士インタビュー	forista biz
12月22日	健康診断の読み方　「慢性腎臓病（ＣＫＤ）」	日刊県民福井
12月22日	回復願う　ろうそくの灯	日刊県民福井
12月23日	患者の回復願い　キャンドル巡回	福井新聞
12月25日	患者の回復願い　キャンドル巡回	読売新聞
1月13日	だから、健診！［第３回］糖尿病　突然、幕がおりた	ファミール福井
1月19日	健康診断の読み方　「肝機能障害」	日刊県民福井
1月19日	脳卒中相談窓口の開設について	福井新聞
2月 2日	卒業式の小中学生のマスク着用について	教育新聞社(電子)
2月 6日	卒業式の小中学生のマスク着用について	教育新聞社(紙面)
2月16日	ふくいのドクター相談「からだのかゆみ」	福井新聞
2月16日	健康診断の読み方　「アルコール性脂肪性肝疾患」	日刊県民福井
2月22日	3-4 月号子育てママさん世代の頭痛との付き合い方について	はっぴーママふくい
3月16日	健康診断の読み方　「胃がん」	日刊県民福井

(2) 広報誌発行実績

病院広報誌「ほやほや」年４回　各 4,400 部発行

病院連携通信「Partner」年２回　各 700 部発行

院内「よもっさ」　　年４回　各 200 部発行

4．管　　財　　課

1．スタッフ

課長　　荒井　満
用度係長　　五十嵐　直樹
施設・管理係長　　松原　毅
保安係長　　宮下　重昭
ボイラー係長　　齋藤　太嗣
電気係長　　若竹　章弘
主事　４名、警備員　２名、ボイラー技士　３名、電話交換手　２名、パート業務員　２名

2．目　標

予算の適正な執行と現有資産の有効活用

3．業　務

1）財産の取得、管理及び処分に関すること
2）物品の取得管理及び処分に関すること
3）物品の使用及び供給管理に関すること
4）基準寝具に関すること
5）構内の取締り及び防火、防災に関すること
6）構内の清掃、衛生に関すること
7）工事及び営繕に関すること
8）不動産及び施設設備に係る売買、賃貸、請負その他の契約に関すること
9）院内の空調、電話等を含む施設管理に関すること
10）その他、施設、物品、保安管理に関すること

4．実　績

1）建物付属設備

空調中央監視用リモートユニット　　３病棟・管理棟高架水槽
本館５階空気調和機（ＡＨＵ）

2）医療用機械備品

患者用ベッド　310 台　　自動液状化細胞診標本作成装置　1 台
低温プラズマ滅菌器　2 台　　超音波画像診断装置　1 台
呼吸機能測定装置　1 台　　他 39 品目

3）その他機械備品

受付番号発券機　1 台　　他 1 品目

5．医事サービス課

1．スタッフ

課長　　杉田　博之

係長　　第１医事係長　山本瑞恵　第２医事係長　坪田泰典　入院係長　宮下　隆男
　　外来係長　大澤和代

医事係	主事　　１名	嘱託主事　１名	派遣　１名
入院係	主事　　10名	嘱託主事　１名	派遣　１名
外来係	主事　　２名	嘱託主事　１名	

2．目　標

①請求内容を分析し診療単価を向上させ、収入増の検討と対策を行う。

②診療報酬請求業務（査定・返戻・未収金等）を適切に行う。

③令和４年度診療報酬改正の適正な対応を行う。

3．業　務

・患者の受付　案内及び接遇に関すること

・患者の入院および退院の手続きに関すること

・患者の料金算定及び支払請求、収入調定並びに医業未収金管理に関すること

・診療報酬請求事務に関すること

・医事統計に関すること

・医事業務電算システムの運用に関すること

・その他、医事サービスに関すること

4．実　績

令和４年度地域医療支援病院紹介率　　71.1%　　逆紹介率　　95.7%

年度目標に対する取り組み

・接遇向上対策…　患者満足度向上部会、接遇推進ＷＧ等の院内の活動との協働、および課内勉強会の接遇向上班で、身だしなみチェックを行い接遇改善に努めた。

・業務適正…『入力の統一化　～外来・入院の連携強化～』を目標とし、診療報酬改定・外来と入院の連携が求められる事項等について適正な業務を行うための対策を講じた。

・査定減対策…　毎月の査定率0.3%以下を目標に、毎月の査定結果を確認・分析し査定されないための対策を講じた。

・返戻減対策…　事務的返戻減を主な目的とし、毎月対策班で返戻レセプトと返戻理由から分析・検討を行い対策を講じた。

6．医 療 情 報 課

1．スタッフ

課長	櫻井　慎二	
係長	情報処理係長	小川　貴司
	画像処理係長（兼）	安藤　剛一
	病歴係長	中野　里加
	図書係長（兼）	櫻井　慎二
主事	６名	
嘱託職員等	５名	
派遣・委託職員	６名	

2．目　標

（1）蓄積された診療情報の精度向上を図り、医療の質向上と経営改善に貢献する
（2）病院情報システム更新に向けたプロジェクトを円滑に進める

3．主な業務内容

（1）病院コンピューターシステムの構築・導入及び管理運営に関すること
（2）病歴の分類と管理業務に関すること
（3）診療録その他診療に関する諸記録の管理に関すること
（4）診療情報の検索、統計、提供の業務に関すること
（5）図書室の管理に関すること
（6）健康・医療情報室（スマイル）の管理運営に関すること
（7）個人情報の管理に関すること（紛失・漏洩、不正アクセスの禁止等）

4．実　績

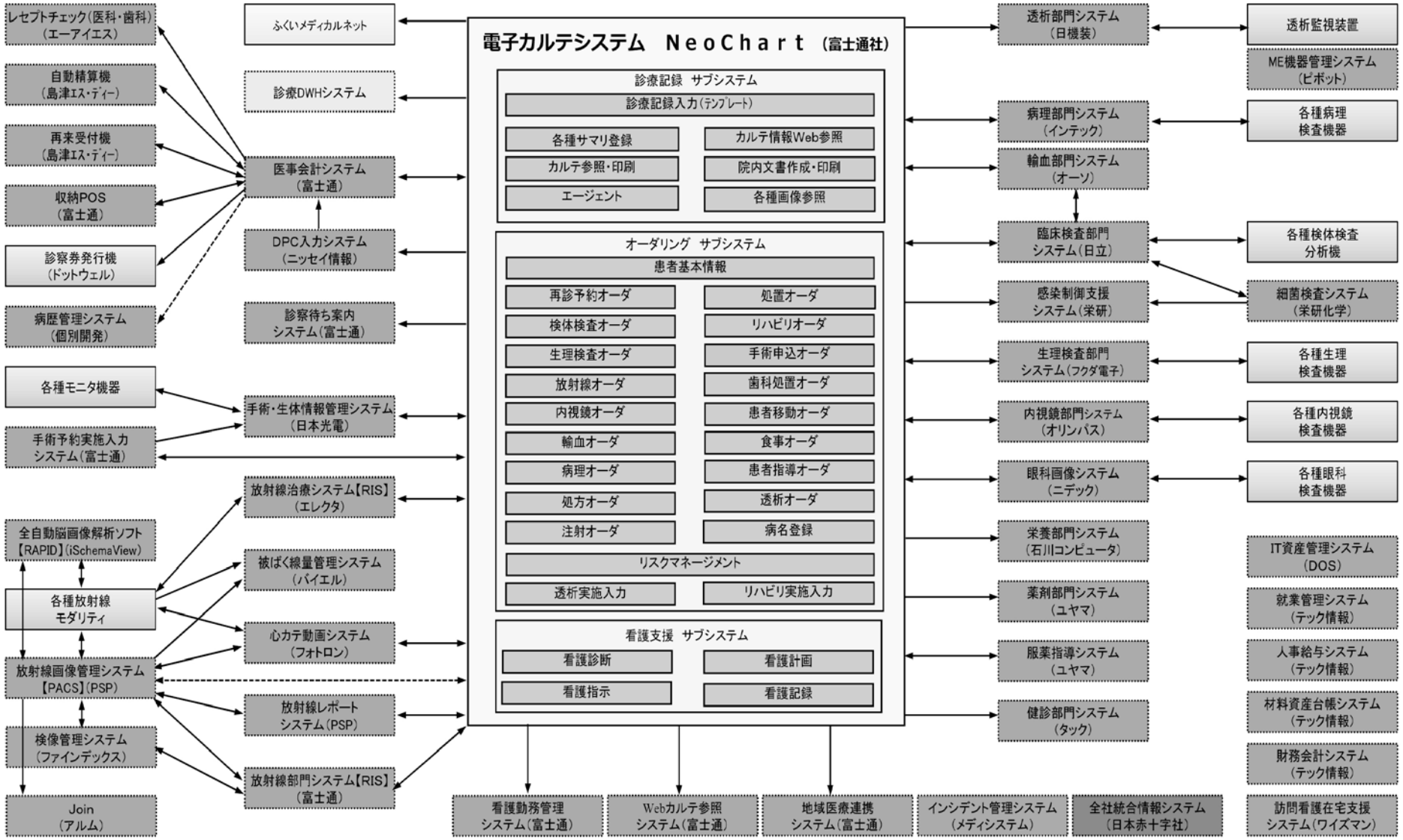
（1）主な情報システムの整備

放射線画像管理システム	ハードウェア更新、ソフトウェア更新
オンライン資格確認	新規導入
歯科レセプトチェックシステム	新規導入

（2）病院情報システム全体図
別図１のとおり
（3）クリニカルパスの適用状況
パス適用件数（別表１のとおり）
（4）電子カルテ情報の２次利用（DWH）の活用状況
依頼抽出件数（別表２のとおり）
（5）健康・医療情報室「スマイル」の利用状況
利用状況（別表３のとおり）

福井赤十字病院　病院情報システム構成図

2023.3.31現在　別図1



別表１

クリニカルパスの適用状況

区　　分	パス作成数	令和４年度
脳・神経系	24	937
内分泌系	3	35
眼	14	1,236
耳	6	113
上気道・口腔	28	499
呼吸器系	41	1,423
循環器系	34	680
血液・リンパ	15	310
消化器系	62	2,386
泌尿器系	41	1,048
女性生殖器	23	592
産褥・新生児	13	496
筋骨格系	35	610
乳房・皮膚	20	308
小児科領域	32	425
形成外科領域	7	165
経過観察入院	4	222
がん性疼痛	1	51
その他（身体抑制･NST 等）	22	3,065
総計	425	14,601

別表２

電子カルテ情報の２次利用（ＤＷＨ）の活用状況

	令和４年度
抽出依頼件数	469

別表３

健康・医療情報室「スマイル」利用者数

	令和４年度
利用者数	8,118
図書貸出数	4,268
図書返却数	4,322
コピー利用枚数	245
インターネット利用者数	178
ＤＶＤ視聴者数	1

１日平均利用者数

	令和４年度
利用者数	33
図書貸出数	18
図書返却数	18
コピー利用枚数	1
インターネット利用者数	1
ＤＶＤ視聴者数	0

図書貸出数

種　　類	令和４年度
医学図書	216
医学雑誌	32
一般図書	4,662
図書貸出数合計	4,910

7．医 療 支 援 課

１．スタッフ

課長　　木戸　俊介　　（令和４年５月１日から　酒井　雅枝）
係長　　医療秘書係長　　田中　延枝
　　患者支援係長　　辻　　香織（看護係長　看護部より）
主事　　２名
嘱託職員　　21 名
派遣職員　　13 名

２．目　標

医師事務作業補助者として必要な能力を身につけ、医師の業務負担軽減に貢献する

３．業　務

（１）医師の診療業務支援に関すること
（２）患者・医療の総合相談と調整に関すること
（３）その他医療支援に関すること

４．実　績

（１）外来診療における医療事務作業補助業務

外来診療科に医師事務作業補助者（メディカル・セクレタリー（ＭＳ））を配置し、外来診療における診療支援業務や診断書等書類の作成支援業務を行っている。外来はＭＳを 36 名配置し医師事務作業補所体制加算１の 15 対１補助体制加算の施設基準の届出を行っている。

（２）患者相談業務

患者またはその家族からの診療や療養生活上の不安等の相談に対応するために、患者相談窓口を設置し、患者支援のための専任看護師等を配置し、相談業務を実施している。

患者相談業務件数　別表１のとおり

別表１

患者相談業務件数

		令和４年度件数
医療相談	受診科相談	2,960
	検査（内容・結果）	170
	治療について	100
	お薬について	78
	症状・副作用の対応	330
	医療者との関係対応	39
	療養生活について	39
	セカンドオピニオン	13
	がん相談	10
	なやみ相談	46
	医療機関の紹介	117
	その他	201
苦情・要望	診察に関して	38
	治療に関して	36
	職員の対応に関して	62
	待ち時間に関して	14
	施設設備に関して	28
	その他	64
他の相談	書類等相談	801
	医療費・支払い相談	329
関連部署との連絡調整		6,261
受診手続き	手続き案内	9,493
	診察申込書代筆	10
	問診票代筆	4
案内	入院	1,268
	外来	1,514
	人間ドック	165
	その他	3,296

8．医療安全推進課

1．スタッフ

課長　齋藤　裕一

係長　1名

主事　1名

2．目　標

1）インシデントレポートシステムにより収集した情報を分析・フィードバックし医療安全の質向上につなげる。

2）医療安全推進室新体制構築に向けて、事務局としての役割を果たす。

3）新型コロナウイルス感染対策について、感染管理の事務局としての役割を果たす。

3．業　務

1）医療事故等の調査・指導に関すること

2）医療事故発生時の対応に関すること

3）医療紛争に関すること

4）医療安全推進室の事務取扱に関すること

5）感染管理室の事務取扱に関すること

6）その他医療安全対策の推進に関すること

4．実　績

1）医療紛争解決件数　　2件（示談）

2）コードホワイト要請件数　　14件

内　　科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院におけるインスリンインシデント防止の取り組みについて	中野　雅子	第65回日本糖尿病学会年次集会	5.12 兵庫

神 経 内 科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Top of basilar症候群と鑑別を要したメタノール中毒の一例	田中　大暉	第163回日本神経学会東海北陸地方会	7.9　WEB開催
エルトロンボパグ内服中に生じた静脈洞血栓症の一例	田中　大暉	第165回日本神経学会東海北陸地方会	3.11　名古屋国際会議場

呼吸器内科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題）：当院における気管支サーモプラスティー（BT）の短期および長期の有効性と安全性の検討.	出村　芳樹 武田　俊宏 黒川　紘輔 軸屋　紀宏 赤井　雅也 他	第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	5. 27-28 岐阜
報告（一般演題）：進行非小細胞肺癌に対するICI投与後のnab-PTX単剤治療に関する第Ⅱ相臨床試験.	多田　利彦 出村　芳樹 園田　智明 梅田　幸寛 中嶋　康貴 他	第62回日本呼吸器学会学術講演会	4.22-24 京都
報告（一般演題）：レムデシビル/ステロイド療法の本邦の新型コロナ肺炎に対する有効性の検討.	大井　一成 伊藤　功朗 富田　啓介 赤井　雅也 遠藤　和夫 他	第62回日本呼吸器学会学術講演会	4.22-24 京都
報告（一般演題）：NTRK融合遺伝子陽性進行非小細胞肺癌にEntrectinibで効果があった1例.	多田　利彦 出村　芳樹 黒川　紘輔 武田　俊宏 大井　昌寛 他	第62回日本呼吸器学会学術講演会	4.22-24 京都

報告（一般演題）：当院における気管支サーモプラスティーの短期および長期の有効性と安全性の検討 .	出村　芳樹 武田　俊宏 黒川　紘輔 軸屋　紀宏 大井　昌寛 他	第 71 回日本アレルギー学会学術大会	10. 7-9 東京

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題）：認知機能低下を機に診断された抗 SOX1 抗体陽性肺扁平上皮癌の 1 例 .	黒川　紘輔 佐々木　圭 武田　俊宏 軸屋　紀宏 大井　昌寛 多田　利彦 出村　芳樹 赤井　雅也	第 88 回日本呼吸器学会北陸地方会	5. 29 オンライン開催 石川
報告（一般演題）：リウマトレックス中止にて自然軽快した関節リウマチ合併リンパ増殖性疾患の 2 例 .	武田　俊宏 出村　芳樹 佐々木　圭 黒川　紘輔 軸屋　紀宏 大井　昌寛 多田　利彦 赤井　雅也	第 89 回日本肺癌学会北陸支部学術集会	10. 30 オンライン開催 福井
報告（一般演題）：肺 Nocardia farcinica 症の 1 例 .	佐々木　圭 黒川　紘輔 武田　俊宏 軸屋　紀宏 大井　昌寛 多田　利彦 出村　芳樹 赤井　雅也	第 89 回日本呼吸器学会北陸地方会	10. 30 オンライン開催 福井

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Xanthomatous Pleuritis Associated With Pancreaticopleural Fistula.	Nakashima K Demura Y Tada T Akai M Ishizuka T	J Bronchology interv Pulmonol. 2022;29(2):155-157	2022 Apr

Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Limbic Encephalitis during Treatment with Atezolizumab in a Patient with Small-Cell Lung Cancer: A Case Report and Review of the Literature.	Nakashima K Demura Y Kurokawa K Takeda T Jikuya N Oi M Tada T Akai M Ishizuka T	Case Reports Immunol. 2022:9290922	2022 Jan
Palliative surgery for malignant superior vena cava obstruction resistant to immunotherapy: a case report.	Nakashima K Demura Y Tada T Akai M Ishizuka T	Ann Palliat Med. 2023;12(1):188-192.	2022 Jan

消化器内科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題） 遺伝性高 AFP 血症と診断され遺伝子解析を行った 1 家系の報告	里見　聡子	第 108 回日本消化器病学会総会（Web 参加）	4. 21 東京
報告（一般演題） 胃 ESD 時の処置具による処置時間の検討	西山　悟	第 103 回日本消化器内視鏡学会総会(Web 参加)	5. 13 京都
報告（一般演題） 当院における胆管内乳頭状腫瘍（IPMB）に対する術前・術後診断の検討	三原　美香	第 103 回日本消化器内視鏡学会総会(Web 参加)	5. 13 京都
報告（一般演題） 癌浸潤による大腸閉塞と非切除目的の原発大腸癌に対する大腸ステント留置の比較検討	松永　心祐	第 103 回日本消化器内視鏡学会総会(Web 参加)	5. 13 京都
報告（一般演題） 治療抵抗性重症および無症候性 Cronkhite-Canada 症候群の 2 例	山崎　幸直	第 103 回日本消化器内視鏡学会総会	5. 13 京都
自己免疫性膵炎は悪性腫瘍の発生のリスクとなるか	河合　信佳	第 64 回日本消化器病学会大会	10. 27 福岡
当院における分枝型膵管内乳頭粘液産生性腫瘍に対する EUS での経年変化の検討	三原　美香	第 64 回日本消化器病学会大会	10. 27 福岡
大腸ステント留置での偶発症についての検討	松永　心祐	第 64 回日本消化器病学会大会	10. 27 福岡
レボドパ / カルビドパ配合経腸用液療法における腸石形成による十二指腸チューブ伸展合併症	山崎　幸直	第 64 回日本消化器病学会大会	10. 27 福岡

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
NEC に対して化学療法を施行した１例	鳥居　志充	第 133 回日本消化器病学会北陸支部例会	6.5 福井
自然消退傾向を呈した食道海綿状血管腫の一例	河合　信佳	第 118 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	7.3 福井
パネルディスカッション“大腸 ESD” 腸 ESD の実際　大腸 ESD の際の牽引併用についての検討	松永　心祐	第 118 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	7.3 福井
増大傾向と高度貧血を来した十二指腸 Inflammatory myofibroblastic tumor の一例	佐竹　裕暁	第 134 回日本消化器病学会北陸支部例会	10.16 金沢
シンポジウム“がん検診の普及にむけた新たな取り組み” 福井県の全県下統一対策型胃内視鏡検診システムの現状と問題点	山崎　幸直	第 51 回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会	11.26 福井
内視鏡的に摘出しえた歯ブラシ誤飲の一例	藤井　省吾（研修医）、三原　美香	第 119 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	11.27 福井

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
令和４年度　胃がん内視鏡検診研修会	山崎　幸直	令和４年度　胃がん内視鏡検診研修会	9.14 福井
令和４年度　胃がん内視鏡検診研修会	山崎　幸直	令和４年度　胃がん内視鏡検診研修会	9.28 敦賀
令和４年度 胃がん内視鏡検診ダブルチェック説明会	山崎　幸直	令和４年度 胃がん内視鏡検診ダブルチェック説明会	11.24 福井
胃がん内視鏡個別検診における画像評価の新判断基準について	山崎　幸直	令和４年度　胃がん内視鏡検診講習会	2.19 福井

循環器内科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
スコアリングバルーンによる後拡張にて stent invagination を生じ、bail out に難渋した症例	榊原　圭一	日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会	5.28 アクションシティ浜松

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
ディスカッサント 新しい心不全治療薬について	皿澤　克彦	次世代循環器内科医の集い	3.5 AOSSA

ディスカッサント 使用症例から考える ARNI の投与患者像	榊原　圭一	Cardiovascular Web Forum	4. 21 福井商工会議所
演者 心不全治療について	皿澤　克彦	循環器ネットワーク懇話会	6. 15 ZOOM
演者 深部静脈血栓症を診断・治療しよう！エコー診断のコツを含めて	皿澤　克彦	深部静脈血栓症を診断・治療しよう！	8. 23 ZOOM
演者 症例提示	榊原　圭一	SFA EVT UODATE	8/31 ZOOM
コメンテーター OnyxOneClear の意義・添付文書掲載お意義	榊原　圭一	HBR リスク患者さんに対する PCI 戦略についてどう考えるか？	9. 14 ZOOM
コメンテーター LAD 入口部より連続するびまん性病変を有する症例	皿澤　克彦	PCI Conference@ 越前	10. 11 クランヒルズ武生
コメンテーター ビデオ教育 Workshop2	榊原　圭一	Fukui Workshop-2022	11. 26 福井県医師会館
ディスカッサント 心不全症例から学ぶ電解質管理	榊原　圭一	第 2 回今さら聞けない心不全の電解質管理	11. 29 福井商工会議所
ディスカッサント 心筋梗塞狭心用地域連携パスの円滑な運用について	榊原　圭一	福井冠疾患治療を考える会 2022	12. 9 ZOOM
演者 心腎貧血症候群（CRAS）をどう管理する？	皿澤　克彦	今、注目する心腎貧血症候群	12. 13 福井商工会議所
演者 高 LDL 血症を合併した若年発症の急性前壁心筋梗塞に対して PCSK9 阻害薬を導入した経験について	宮原　孝輔	CVDManagement Consensus Meeting in Fukui	12. 14 福井市

小　児　科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
学校検尿異常から診断に至った尿細管間質性腎炎ぶどう膜炎（TINU）症候群の男児例	玉村　宗一	第 57 回日本小児腎臓病学会学術集会	2022. 5 沖縄

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
再発予防にサトラリズマブを導入した視神経脊髄炎障害の小児例	渡辺　康宏	第 26 回日本小児科学会福井地方会	2022. 11. 26 福井、web
自己免疫性膵炎が疑われた一男児例	玉村　宗一	第 26 回日本小児科学会福井地方会	2022. 6 福井、web

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
子育て相談会	渡辺　康宏	令和４年度こどもとそだちの相談会	2022. 福井市
こどもの急病時対処法講習会	渡辺　康宏	令和４年度こどもの急病時の対応についての講習会	2022 坂井市

外　　科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院におけるトラスツズマブデルクステカンでの治療経験－治療経過と副作用マネジメントを中心に－	田中　文恵	第 30 回日本乳癌学会学術総会	6. 30-7. 2 横浜
当院ドック：任意型乳がん検診における超音波検診の方法と成績	田中　文恵	第 32 回日本乳癌検診学会学術総会	11. 11-11. 12 浜松
General pancreatectomy for solid pseudopapillary neoplasm of pancreas: A case report	土居　幸司	第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会	6. 10-6. 11 愛媛
術後 13 年目に肝転移をきたした小腸 GIST の１例	土居　幸司	第 84 回日本臨床外科学会	11. 14-11. 26 福岡
ロボット支援下胃切除術における術中合併症の経験	吉羽　秀麿	第 94 回日本胃癌学会総会	3. 2-3. 4 横浜
Neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine and S-1 for technically resectable pancreatic cancer in our department	加藤　成	第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会	6. 10-6. 11 愛媛
大腸癌肝転移切除後の至適治療の検討	加藤　成	第 76 回日本消化器外科学会総会	7. 20-7. 22 横浜
直腸癌に対するロボット支援下手術の導入の工夫と短期成績	平崎　憲範	第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会	10. 15 千葉
右側結腸癌に対し FJ マリオネット法を利用した単孔式手術の検討	平崎　憲範	第 35 回日本内視鏡外科学会総会	12. 8 名古屋
当院における浸潤性小葉癌の診断について	樋上　明音	第 30 回日本乳癌学会学術総会	6. 30-7. 2 横浜

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
根部郭清から間膜授動まで	小林　純也	FUKUI CRC RISING STAR Meeting 2022	10. 1 福井
脾弯曲授動をともなう腹腔鏡下結腸切除	伊藤　聖顕	第 3 回 Surgical Forum in Fukui	5. 2 福井

整形外科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Video-Assisted Thoracic Surgery を併用し低侵襲に摘出した胸椎ダンベル型神経症種の一例	仲谷　健次 薗　隆 高塚　和孝	第 139 回中部整形外科災害外科学会	10. 28 大阪

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Massive lumbar disc herniation treated with a transdural approach and posterior fusion. A case report	Takashi Sono Kenji Nakatani Kazutaka Takatsuka	Interdisciplinary Neurosurgery	2023

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
座長 大腿骨近位部骨折の多職種連携診療 －早期手術から二次骨折予防の実践－	高塚　和孝	骨粗鬆症フォーラム	12. 8

形成外科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Serratia marcescens 感染による壊死性軟部組織感染症の１例	松下　学	第 98 回北陸形成外科学会地方会	10. 1 金沢市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
本態性血小板血症に合併したリベド血管症の１例	藤土　光	創傷 14(3)；115-119,	2023

脳神経外科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
来院時 NIHSS が 5 点以下の虚血性脳卒中に対する治療と転帰に関する検討	早瀬　睦	日本脳神経外科学会第 81 回学術集会	9. 28 横浜市
初回の出血源検索で出血源が同定出来なかったくも膜下出血患者の検討	早瀬　睦	STROKE 2023	3. 16 横浜市

急性期脳梗塞の閉塞血管の同定における MRI/FLAIR intra-arterial sign の意義	取越　貞治	日本脳神経外科学会第 81 回学術集会	9. 28 横浜市
急性期脳梗塞の閉塞血管の同定における MRI/FLAIR intra-arterial sign の有用性	取越　貞治	第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	11. 10 大阪市
急性期脳梗塞の閉塞血管同定における FLAIR vascular hyperintensity の意義	取越　貞治	STROKE 2023	3. 16 横浜市
急性頭蓋内主幹動脈閉塞の灌流評価における RAPID と ASL の比較	北原　孝宏	日本脳神経外科学会第 81 回学術集会	9. 28 横浜市
くも膜下出血後の脳血管攣縮における RAPID を用いた灌流評価	北原　孝宏	第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	11. 10 大阪市
妊娠中の脳動脈瘤破裂に対するコイル塞栓術を経橈骨動脈アプローチで行い胎児被曝を低減できたと考えられた一例	北原　孝宏	第 4 回経橈骨動脈脳血管内治療研究会	3. 4 横須賀市（Web）
急性頭蓋内主幹動脈閉塞の灌流評価における RAPID と ASL の比較	北原　孝宏	STROKE 2023	3. 16 横浜市
頭頸部癌に対する放射線照射後の頸動脈硬化症に関する前向き観察研究	山本　優	Stroke2023	2023. 3. 17
当院における塞栓源不明脳梗塞症例についての検討	中島　悠介	日本脳神経外科学会第 81 回学術集会	9. 28 横浜市
一般演題 急性頭蓋内主幹動脈閉塞の血栓回収術における術前 RAPID 虚血コアと術後出血性梗塞の関係	青山　慎平	第 48 回日本脳卒中学術総会	3. 16 横浜
一過性脳虚血発作後の虚血イベントの発生率と予測因子の検証	笠島　一洋	日本脳神経外科学会第 81 回学術総会	9. 28　神奈川

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
急性期脳梗塞の閉塞血管同定における FLAIR vascular hyperintensity の意義	取越　貞治	第 248 回脳・神経疾患談話会 基調講演	11. 24 福井市
うっ血乳頭による視覚障害のみで発症した横 -S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻の一例	北原　孝宏	第 56 回日本脳神経血管内治療学会中部地方会	8. 6 愛知県長久手市（Web）
当院における脳灌流解析ソフトウェア RAPID の初期使用経験	北原　孝宏	第 29 回北陸 IVNR 研究会	1. 21 金沢市
妊娠中期に発症したくも膜下出血に対して橈骨動脈アプローチでコイル塞栓術を施行した一例	笠島　一洋	第 101 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会	4. 9　web 開催

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Continuous and Early Progression of Carotid Intima-Media Thickness after Radiotherapy for Head and Neck Cancer: 5-Year Prospective Observational Study	Yu Yamamoto	Cerebrovascular Diseases	2023. 1. 30 （published online）

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
脳血管障害と栄養	西村　真樹	福井県栄養士会医療職域研修会	12. 12 福井商工会議所
特別講演 脳卒中 UPDATE　脳梗塞治療の変遷	西村　真樹	福井県診療放射線技師学術大会	2023．2. 19 福井赤十字病院
当院における機械的血栓回収療法	取越　貞治	GOLD in 中部	4. 19 WEB
SAH due to rupture of aneurysm of BA fenestration	取越　貞治	第 1 回 FIT-NET NXT	7. 15 金沢市
当院における 脳卒中・卒中後てんかん治療について	取越　貞治	てんかん診療連携セミナー in 福井	12. 16 福井市
当院の脳卒中治療について	取越　貞治	Stroke Hot Topics @Web Seminar　in Fukui	3. 10 福井市
当院の脳卒中診療における脳灌流解析ソフトウェア RAPID の使用経験	北原　孝宏	福井血栓塞栓症連携セミナー 2022	6. 24 福井市
当院における脳灌流解析ソフトウェア RAPID の使用経験	北原　孝宏	第13回Kanazawa Kyoto Friendship Conference	7. 9 福井市
当院における脳血管攣縮治療について	山本　優	福井 SAH ネットワーク Expert Meeting	2023. 3. 9
妊娠中期に発症した破裂右内頚動脈後交通動脈分岐部動脈瘤の一例	中島　悠介	第 12 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー , IVR 道場	12. 10 京都市

呼吸器外科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
右肺下葉切除後の残存肺移動に対する定量的 CT 解析	山岸 弘哉 森谷 哲士 南 紀久子 松倉 規	第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会	10 月 5 日 横浜
難治性続発性気胸に対する非挿管胸腔鏡手術 術中管理における工夫	山岸 弘哉 森谷 哲士 松倉 規	第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会	5 月 20 日 東京、WEB

左上縦隔リンパ節郭清時に生じた心静止の1例 イベント発生前後の詳細な経過	山岸 弘哉 森谷 哲士 松倉 規	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	5月20日 東京、WEB
難治性続発性自然気胸に対する非挿管胸腔鏡手術の成績	山岸 弘哉 森谷 哲士 松倉 規	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	5月20日 東京、WEB
画像上脂肪肉腫が疑われたが，稀有な良性脂肪腫であった一例	森谷 哲士 南 紀久子 山岸 弘哉 松倉 規	第63回日本肺癌学会学術集会	12月1日 福岡

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Infected lung bulla caused by Neisseria elongata: A case report.	Moriya T, Date H	Respir Med Case Rep.	Oct 31

皮　膚　科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
IgG4関連疾患に伴った蕁麻疹様血管炎の1例	辻　慶明	第476回日本皮膚科学会北陸地方会	2022. 12. 11　福井

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
パネリスト	宗石　依子	Round table meeting in Hokuriku	2022. 10. 07 福井市
寛解維持を目標としたアトピー性皮膚炎の治療経験	加畑　雄大	Atopic Dermatitis Expert Meeting in 福井	2022. 07. 08 福井市
2021年ガイドラインにのっとったアトピー性皮膚炎の治療	加畑　雄大	福井県薬剤師会学術講演会	2022. 10. 06 福井市
皮膚のかたち～ミクロからマクロまで～	加畑　雄大	福井県いいひふの日市民公開講座	2022. 11. 13 福井市
2021年ガイドラインにのっとったアトピー性皮膚炎の治療	加畑　雄大	福井県薬剤師会学術講演会	2022. 10. 06 福井市
2021年ガイドラインにのっとったアトピー性皮膚炎の治療	加畑　雄大	福井県薬剤師会学術講演会	2022. 10. 06 福井市

腎臓・泌尿器科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
難治性の結晶性関節炎を契機に骨髄異形成症候群の診断に至った一例	吉田　美咲	第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会	4. 25 横浜
心膜開窓術を必要とした尿毒症性心膜炎の 1 例	伊藤　正典	第 67 回日本透析医学会学術集会・総会	7. 2 横浜
INFLUENCE OF EPIDEMIOLOGY AND ETHNICITY ON SYSTEMIC EXPRESSION OF PRIMARY SJÖGREN SYNDROME AT DIAGNOSIS: WORLDWIDE PATTERNS IN 14,836 PATIENTS (2022 SJÖGREN BIG DATA PROJECT).	鈴木　康倫 （共同演者）	第 15 回国際シェーグレン症候群シンポジウム	9. 7 Rome, Italy
KEY FEATURES AT DIAGNOSIS OF PRIMARY SJÖGREN SYNDROME IN 15,652 PATIENTS: 2022 SJÖGREN BIG DATA PROJECT.	鈴木　康倫 （共同演者）	第 15 回国際シェーグレン症候群シンポジウム	9. 7 Rome, Italy
（シンポジウム）二次性シェーグレン症候群　二次性シェーグレン症候群の臨床的特徴－全身性強皮症合併例・セントロメアシェーグレンの診断と全身性エリテマトーデス合併例を中心に―	鈴木　康倫	第 30 回日本シェーグレン症候群学会	9. 16 金沢
COVID-19 ワクチン接種後に抗糸球体基底膜抗体陽性の ANCA 関連腎炎を発症した一例	吉田　美咲	第 52 回日本腎臓学会西部学術大会	11. 18 熊本
血液透析導入となった Bartter 症候群の 1 例	伊藤　正典	第 52 回日本腎臓学会西部学術大会	11. 19 熊本
当院における透視下 VAIVT とエコー下 VAIVT の治療間隔の検討	吉田　美咲	第 28 回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会学術集会・総会	3. 4 横浜
19 歳で発症した非典型像を含む IgG4 関連疾患の一例	吉田　美咲	第 14 回 IgG4 関連疾患学会学術集会	3. 4 金沢

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
（シンポジウム）膠原病・リウマチ内科医からみた脊椎関節炎の診断と治療	鈴木　康倫	第 33 回中部リウマチ学会	9. 2 岐阜市
免疫チェックポイント阻害薬の投与中に RS3PE 症候群を発症した一例	吉田　美咲	第 33 回中部リウマチ学会	9. 3 岐阜市
COVID-19 ワクチン接種後に抗糸球体基底膜抗体陽性の ANCA 関連腎炎を発症した一例	吉田　美咲	第 30 回北陸腎疾患・血液浄化療法研究会	10. 29 金沢

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
PSA から proPSA へと連なる基礎知識	小松　和人	Prostate Journal 9(2), 2022, 149~152	2022. 10
副腎癌	小松　和人	泌尿器科のくすり　こう選び、こう使う（影山慎二編、日本医事新報社）2022、180～183	2022. 12
シェーグレン症候群の臨床試験におけるエンドポイント	鈴木　康倫	リウマチ科 67(1); 97-105, 2022	2022
膠原病・リウマチ内科という専門性を考える	鈴木　康倫	福井市医師会会報 83; 59-77, 2022	2022
特集：シェーグレン症候群　Ⅳ．症状　全身の臓器症状	鈴木　康倫	日本臨牀 80(10); 1607-1615, 2022	2022
Urinary abnormality in mixed connective tissue disease predicts development of other connective tissue diseases and decrease in renal function.	鈴木　康倫（共著）	ModRheumatol 2022 ;32(1):155-162.	2022
Characterization and outcomes of 414 patients with primary SS who developed hematological malignancies.	鈴木　康倫（共著）	Rheumatology (Oxford). 2022 Dec 23;62(1):243-255.	2022
第 15 回国際シェーグレン症候群シンポジウム速報：シェーグレン症候群からシェーグレン病へ？	鈴木　康倫	リウマチ科 69(1); 128, 2023	2023
Abatacept Ameliorates Both Glandular and Extraglandular Involvements in Patients With Sjögren's Syndrome Associated with Rheumatoid Arthritis: Findings from an Open-Label, Multicenter, 1-Year, Prospective Study: the ROSE (Rheumatoid Arthritis with Orencia Trial Toward Sjögren's Syndrome Endocrinopathy) and ROSE II trials.	鈴木　康倫（共著）	Mod Rheumatol. 2023 Jan 3;33(1):160-168.	2023
Casereport: Rosai-Dorfman disease with rare extranodal lesions in the pelvis, heart, liver and skin.	吉田　美咲 1st	Front Oncol. 2023 Jan 4;12:1083500.	2023.1
Development of IgG4-related pancreatitis and kidney disease 7 years after the onset of undiagnosed lymphadenopathy: A case report.	吉田　美咲 1st	Mod Rheumatol Case Rep.2023Jan 3;7(1):192-196.	2023.1

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
関節エコーでわかること・できること	吉田　美咲	南加賀 RA カンファランス	5. 25 小松
膠原病・リウマチ内科という専門性－シェーグレン症候群の診療を含めて－	鈴木　康倫	金沢大学医学部十全同窓会　福井市支部総会	6. 29 福井
腎性貧血治療の新潮流	伊藤　正典	福井赤十字病院　腎臓・泌尿器疾患学術講演会	7. 14 福井
内科・膠原病診療での超音波検査の活用法	吉田　美咲	北陸女性リウマチ医の会	7. 30 金沢
最近の DKD 治療のトレンド	伊藤　正典	丹南地区薬剤師勉強会	9. 22 福井
去勢抵抗性前立腺癌で経験した 1 例	糸賀　明子	福井県泌尿器科医会講演会	9. 29 福井
高齢者 CKD 患者における HIF-PH 阻害薬の投与経験	伊藤　正典	第 9 回福井県腎透析フォーラム	10. 13 福井
高齢の尿路上皮癌患者における化学療法マネジメント	山内　寛喜	福井県泌尿器科医会講演会	10. 27 福井
膠原病・リウマチ内科という専門性を考える―専門外来への紹介基準案を含めて－	鈴木　康倫	坂井地区医師会講演会	11. 9 福井
膠原病・リウマチ内科という専門性を考える―専門外来への紹介基準案、シェーグレン症候群の診療を含めて－	鈴木　康倫	鯖江市医師会 11 月十日会	11. 11 福井
膠原病内科外来への紹介基準案と専門診療について	鈴木　康倫	令和 4 年度 福井赤十字病院 病診連携医会懇談会	11. 16 福井
内科医が診る乾く病気・シェーグレン症候群：一般の方も知っておくべき学会の最新情報も含めて	鈴木　康倫	SERLA (Support, Education, Research of immuno-rheumatology with Linked Alliance) 市民公開ウェビナー 第 6 回「シェーグレン症候群」	11. 20 オンライン
戦略としての医療連携を意識した泌尿器科経営の経過報告	小松　和人	石川県泌尿器科医会	2. 16 金沢
非結核性抗酸菌症合併関節リウマチに生物学的製剤を投与し疾患活動性低下を認めた一例	吉田　美咲	腎臓リウマチセミナー	3. 3 福井

産婦人科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
トラスツズマブが著効したHER2陽性再発子宮頸癌の一例	山田　しず佳	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	8.6 福岡

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
産褥1か月に胎盤ポリープ分娩の状態になり外科的治療を要した一例	山田　しず佳	第95回福井県産婦人科医師連合冬期臨床研修会	1.22 福井市
腹腔鏡下仙骨腟固定術後再発症例の再手術の経験	辻　隆博	第94回福井県産婦人科医師連合冬期臨床研修会	9.5 福井市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Papuloerythroderma-like eruptions after leuprolide acetate injections in a middle-aged woman	Kosuke Katsuo, Yosuke Yagi, Takumi Kuwai, Yasuyuki Yoshida, Tadakazu Okoshi, Kimihisa Tajima	Int J Dermatol 61(11);e431-e433	2022
Factors affecting the recruitment of new obstetrician-gynecologists in Japan: A report of the MIRAI Committee of the Japanese Society of Obstetrics and Gynecology	Factors affecting the recruitment of new obstetrician-gynecologists in Japan: A report of the MIRAI Committee of the Japanese Society of Obstetrics and Gynecology	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research Jul;48(7):1961-1967	2022

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
専門医共通講習　医療安全・救急処置に関するもの	田嶋　公久	令和元年度母体保護指定医師研修会	10.23 福井市

眼　　科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
白内障手術の 14 年後に生じた悪性緑内障の 1 例	竹内　正興 吉村　昭人 小堀　朗	第 45 回日本眼科手術学会	1. 28
ランチョンセミナー：結果にコミットする。CTR の挿入	小堀　朗	第 126 回　日本眼科学会総会	4. 16 大阪

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
網膜色素上皮病的領域の自動評価	許沢　尚弘	第 75 回福井県眼科集談会	9. 3 福井

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Unilateral transient high myopization after pediatric strabismus surgery: Observation by anterior segment optical coherence tomography	Akihito Yoshimura Manabu Miyata Yuki Muraoka Kentaro Kawai Akitaka Tsujikawa	American Journal of Ophthalmology Case Reports Volume 25	March 2022

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
CTR の有用性	小堀　朗	第 11 回 iseminar x 教育 webinar	1.27
眼科救急	額田　和之	消防学校講義	2 月 福井
ARGOS&ACTIVE SENTRY の使用経験	小堀　朗	第 1 回眼科手術 Update Seminar	2.10 web
増殖性糖尿病網膜症の硝子体手術	小堀　朗	第 3 回首都圏硝子体手術の会	3.9 Web
症例検討「CTR」	小堀　朗	水晶体嚢拡張リン（CTR）講習会	3.19 3.27
緑内障を伴う高度近視性黄斑症	小堀　朗	第 15 回加越硝子体手術研究会	8.20 web
当施設における糖尿病黄斑浮腫の治療を踏まえて	許沢　尚弘	北陸アイリーア 10 周年記念講演会	8.25 Web

耳鼻咽喉科

【学会発表（全国)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
低分子量物質による職業性鼻炎の発症機序	扇　和弘	第52回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会	6 19 福井市
複数回硬化療法および長期越婢加朮湯内服治療に対して再燃した下顎嚢胞性病変の手術治療経験	大澤　陽子	第32回日本頭頸部外科学会学術講演会	01. 20. 金沢市
PFAS～シラカンバ非生息地のBet v1~	大澤　陽子	第71回日本アレルギー学会学術講演会	10. 07. 東京市
県内初！新規嗅覚専門外来開設における受診患者の検討	大澤　陽子	第61回日本鼻科学会学術大会	10. 15. 金沢市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
The anatomy of the foramina and efferent nerve fibers from the pterygopalatine ganglion in posterolateral nasal wall	K. Ogi	Laryngoscope Investigative Otolaryngology 7(3); 679-683	2022
PFAS～シラカンバ非生息地のBet v1~	大澤　陽子	アレルギー　72(1); 18-21	2023
シラカンバ非生息地の口腔アレルギー症候群	大澤　陽子	鼻アレルギーフロンティア 23(1); 24-32	2023
アレルギー性口腔・咽頭疾患（口腔アレルギー症候群）	大澤　陽子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 95(2); 121-127	2023

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
花粉・食物アレルギー症候群を解説！ ー病態・診断・治療までー	大澤　陽子	兵庫県耳鼻咽喉科医会第230回臨床懇話会	2. 26. 神戸市
花粉・食物アレルギーを解説します！ ー病態・診断・治療までー	大澤　陽子	第58回埼玉喘息・アレルギー研究会	8. 27. さいたま市（web）
花粉・食物アレルギー症候群を解説！ ー病態・診断・治療までー	大澤　陽子	富山県呉西地区耳鼻咽喉科症例研究会	11. 10. 高岡市
花粉症診療アップデート　感染症？食物アレルギー？特異的IgE検査の活用法	大澤　陽子	診療に役立つアレルギー検査　Web Seminar Vol.5	3. 02. web開催のみ（全国放送）

放射線科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Progression-free survival and recurrence patterns after CCRT with consolidation durvalumab for NSCLC	楢林　正流	第 81 回日本医学放射線学会総会	4. 14 ～ 4. 17 横浜
PFS and recurrence patterns after CCRT with durvalumab for stage III and recurrent NSCLC	楢林　正流	ESTRO 2022	5. 6 ～ 5. 10 コペンハーゲン、デンマーク
乳癌術後放射線療法における 上肢挙上の負担に関する前向き研究	楢林　正流	第30回　日本乳癌学会学術総会	6. 30 ～ 7. 2 横浜

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
CT で所見が乏しい虫垂炎と骨盤腹膜炎の 2 例	都司　和伸	令和 5 年 2 月 11 日	2. 11 三重県桑名市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Sister Mary Joseph's Nodule From Renal Cell Carcinoma: A Case Report	楢林　正流	Cureus 14(10): e30344	Oct 16, 2022
Recurrence patterns and progression-free survival after chemoradiotherapy with or without consolidation durvalumab for stage III non-small cell lung cancer	楢林　正流	Journal of Radiation Research 64(1); 142-153	January, 2023

麻　酔　科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
診断前に様々な症状を呈した先天性腎性尿崩症の 1 例	田中　弓子	第 10 回集中治療ミーティング	10. 14 福井市

リハビリテーション科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
大腿骨近位部骨折術後に生じた排尿障害により間欠的導尿を施行した患者の特徴	中山　泰博	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6、7 北海道　旭川
当院消化器内科疾患患者の在院日数が長期化する因子	向嶋　啓介	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6、7 北海道　旭川

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
大腿骨近位部骨折術後早期の離床状況が間欠的導尿を必要とする排尿障害の発症に及ぼす影響	中山　泰博	第38回東海北陸理学療法学術大会	10.29、30 Web開催
当院消化器内科疾患患者の在院日数が長期化する因子	向嶋　啓介	第38回東海北陸理学療法学術大会	10.29、30 Web開催
非結核性抗酸菌症の一症例への介入経験　～食事を、苦痛な時間から楽しみの時間に～	齋門　聡子	第21回東海北陸作業療法学会	11.12 Web開催
パーキンソン病、膵臓がんの加療中、右上腕骨骨折を受傷し退院支援に難渋した症例	山本　和雅	第9回福井県作業療法学会	3.19 Web開催
右肘頭骨折・亜脱臼を伴った橈骨頭粉砕骨折を呈した一例　～生活満足度向上に向けた目標設定と自助具の検討～	髙橋　彩華	第9回福井県作業療法学会	3.19 Web開催

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
研修会講師　現職者共通研修「生涯教育制度概論」	山田　英二	日本作業療法士協会基礎研修会	10.2 Web開催
研修会講師　現職者共通研修「作業療法における協業、後輩育成」	山本　和雅	日本作業療法士協会基礎研修会	10.2 Web開催
研修会講師　現職者共通研修「事例報告と事例検討」	樋田　貴紀	日本作業療法士協会基礎研修会	10.2 Web開催
研修会講師　「A-ONEの概要と認定評価者取得について」	山本　和雅	第61回信州臨床作業療法研究会	12.3 Web開催

薬　剤　部

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
ピッキングサポートシステムを用いた調剤過誤防止への取り組み	細谷　拓史	令和4年度第32回日本病院薬剤師会北陸ブロック学術大会	2022.11 WEB開催

栄　養　課

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
食物アレルギー除去食の対応	小川　初実	第58回日本赤十字社医学会総会	10.6 旭川

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
食物アレルギー対応食の増加とインシデント防止策	小川　初実	第10回栄養管理・食育研究会	11.23 福井市

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
教室講師 「糖尿病の基礎知識と予防するための食事について」	小川　初実	福井市健康管理センター 血糖値改善教室	8.5 福井市
相談会講師 「消化器系難病の栄養・食事相談会」	林　敬之	坂井福祉健康センター 難病相談事業	10.20 あわら市

検　査　部

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
福井市休日急患センターにおける福井県臨床検査技師会の対応	米倉　久剛	第69回日本臨床検査医学会　学術総会	11.17 栃木県宇都宮市

放 射 線 部

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
会員発表 各休日急患センターの画質評価の結果報告と不適切画像の紹介	河邉　大知	福井県放射線技師会 令和4年度スキルアップセミナー	11.17 Web
会員研究発表 関節リウマチ患者における医師の診断に有益な手の単純X腺画像の提供	東　奈穂	令和4年度福井県学術研修会	2.19 福井市
特別講演座長 脳卒中治療　Update ~ 脳梗塞治療の変遷 ~	上坂　大輔	令和4年度福井県学術研修会	2.19 福井市
会員研究発表 関節リウマチ患者における医師の診断に有益な手の単純X腺画像の提供	東　奈穂	第15回北陸3県診療放射線技師学術研修会	3.5 石川県
会員発表 RAPIDの使用経験	勝木　宏輝	第97回福井CT・MR研究会	3.23 Web

看　護　部

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Rapid　Response　System 導入への取り組みと課題	相模　朋恵	第 8 回日本医療安全学会　学術総会	6. 10-11 アクトシティ浜松
痛みをもちながらがん治療を続ける患者の治療中断の選択を導くー核心がつかめない患者とのやわらかな対話からー	冨永知恵子	第 27 回日本緩和医療学会学術集会	7. 1-2 神戸国際会議場
新型コロナウイルス感染症患者に対応した看護師の心情と勤務を継続出来た要因	金子　悦子	第 53 回日本看護学会学術集会	9. 1-2 北海道札幌市
報告（一般演題）「A 町個別避難計画作成の関わりから見えてきた看護」	朝田　和枝	日本災害看護学会第 24 回年次大会	9. 3 高知県立大学 WEB
ファシリテーター育成と院内ルール作成によりリフレクション定着を図る	深尾　郁子	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6-7 北海道旭川市
入退院支援センター業務拡大に伴う病棟看護師の入院支援業務の効率化	渡邊加余子	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6-7 北海道旭川市
身体抑制低減に向けた取り組みの効果 ～ DiNQL データを活用して～	石田　克子	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6-7 北海道旭川市
身体抑制を解除するための取り組み ～カンファレンス内容を看護実践に反映させる～	宮地　牧子	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6-7 北海道旭川市
医師の負担軽減と適切な救急入院対応を目的とした当直体制の改善	内田　一美	第 58 回日本赤十字社医学会総会	10. 6 ～ 7 北海道旭川市
コロナ病棟と監視カメラ （第 4 回臨床医療フォーラム）	吉川　久子	第 58 回日本赤十字医学会総会	10. 6-7 北海道旭川市
術後の申し送りを病棟で実施した効果の検討ーインタビューを行ってー	松島絵里香	第 36 回日本手術看護学会	11. 4-5
化学療法を受ける患者の副作用に対する日常のセルフケアと看護師の役割	野坂　里緒	第 53 回日本看護学術集会	11. 8-9
急性増悪を経験した非がん性呼吸器疾患患者へのアドバンス・ケア・プランニングに関わる看護師が抱える困難	辰宮理紗子	第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	11. 11-12 千葉県幕張メッセ

【学会発表（地方）】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
コロナ罹患母体患児を看る看護師の不安や思いの調査	藤田　由美	第70回福井県小児保健協会学術集会	2. 11 Web 開催

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
さまざまな場所での看取り	山﨑　雪代（座長）	福井県緩和医療研究会	4.24 福井大学附属病院臨床教育研修センター
「災害看護」講義１単位　対象：看護学科３年生　62 名（3 限 32 名・4 限 30 名）	朝田　和枝	福井大学医学部看護学科	5.24 福井大学医学部看護学科
クリティカルケア認定看護師教育課程 クリティカルにおけるチーム医療講義対象：クリティカルケア認定看護師教育課程研修生 40 名	朝田　和枝	公益社団法人大阪府看護協会	7.14. 大阪府看護協会
入退院時における医療との連携に関する事例	山﨑　雪代	福井県介護支援専門員研修課程Ⅰ	7.14・10.13 福井県社会福祉協議会
コロナ禍における 新人教育の現状と工夫点	内田　一美	令和４年度　看護基礎教育検討委員会　研修会	7.23 福井県看護協会
「災害看護」講義４単位　対象：看護学生３学年（46 名）	朝田　和枝	福井市医師会看護専門学校	8.9-10 福井市医師会看護専門学校
介護支援専門員のケアマネジメント	山﨑　雪代	福井大学認定看護師教育課程　認知症看護	9.6 福井大学医学部看護学科
テーマ：「訪問看護における災害対策と看護支援」対象：訪問看護ステーション　職員　約 15 名	朝田　和枝	公益社団法人　福井県看護協会令和４年度　専門・認定看護師出前講座派遣事業「災害看護」	10.7 光陽訪問看護ステーション
災害支援ナース研修会（実践編）テーマ:「災害支援ナースとしての避難所における多職種連携 2022」対象者：災害看護研修（基礎編）を受講修了している方、災害支援ナースの登録をしている方 36 名	朝田　和枝	公益社団法人福井県看護協会　災害看護委員会	10.29 福井県看護協会会館
テーマ：災害への備え～地域との繋がりを考える～ 対象：医療従事者約 26 名	朝田　和枝	公益社団法人　福井県看護協会　福井第一地区委員会	11.5 公益社団法人 福井県看護協会
訪問看護の運営の基本と看護に必要なこと	山﨑　雪代	福井県看護協会 専門・認定看護師出前講座	11.8 訪問看護ステーションさばえ
リフレクション ～訪問看護の実践を振り返る～	山﨑　雪代	福井県看護協会 訪問看護チャレンジ雇用フォローアップ研修	11.26 福井県看護協会

在宅療養者への看護 ～在宅での看取り～	山﨑　雪代	福井大学医学部看護学科在宅看護論	12. 5 福井大学医学部看護学科
テーマ：「災害が発生したらどう対応しますか？」対象：看護職　約 82 名	朝田　和枝	公益社団法人兵庫県看護協会　災害看護研修会	12. 13 兵庫県看護協会会館
テーマ：「病院防災」対象：看護管理者約 15 名	朝田　和枝	公益社団法人　福井県看護協会令和 4 年度専門・認定看護師出前講座派遣事業	12. 15. 福井厚生病院

【改善活動】

コロナ対応病棟としての使命を果たす～感染周期ごとに PDCA サイクルを廻し、院内感染対策を遵守しながら患者に寄り添う～	渡辺　貴子	第 23 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 東京	11. 18-19 東京都千代田区
看護師と清掃業者の連携による環境整備の質の向上 ～ゴミゼロ・汚れゼロ・補充漏れゼロを目指して～	上田　誠	第 23 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 東京	11/18-19
内服インシデントを減らす	中内日花里	第 23 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 東京	11/18-19

編集：広報委員会（年報班）

年報編集責任者：髙野誠一郎
広報委員長：坪川　明義
オブザーバー：吉田　啓介
委　　員：今村　久司
山岸　弘哉
松田ゆう子
大森　　丈
川瀬公一郎
川島　勇一
事　務　局：病院経営課
発　　行：令和６年３月